

年 度	11年度入学		担 当 者	山口政之 Masayuki Yamaguchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	口頭表現		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	口語表現					

■授業のねらいと到達目標

大学生生活（学問および実生活）及び教育実習で求められる口語表現能力を高めるために、聞く話すの各技能を伸ばしていきます。また、ライセンス取得を支援するために、問題集等を適宜活用しますので、進んで挑戦してください。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、次のように進めます。①出席確認（簡単なスピーチを含む）、②小テスト・課題発表、③本時の課題。電子辞書は必要ですが、原則として携帯電話の使用は認めません。

■成績評価方法・基準

出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえて総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。

■授業の予習・復習

予習：その都度指示します。
復習：授業で出た課題は、次の時間に各自が発表するので必ず取り組んでください。

■教科書

適宜、印刷物を配布する。

■参考文献

『大学生のための日本語表現トレーニング 実践編』
阿部朋世ら、三省堂
『伝える力』池上彰、PHPビジネス新書（この著者の児童向けの本もよい）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	教職を目指す学生として求められる口頭表現力とは
2	口頭表現の基礎	表現内容への理解と思い
3	自己紹介①	相手に応じて自分を売り込む（資料集め）
4	子供にニュースを伝える	教育実習で子供に話すことを想定して
5	プレゼンテーション①	自分の住んでいる町（市、県）のよいところ
6	プレゼンテーション②	実技試験
7	意見	自分が何を学んだのかを明らかにする意見
8	質問	よりよく理解するための質問
9	ディベート①	論題の設定から立論の仕方
10	ディベート②	論点を絞り込むための質問
11	自己紹介②	実技試験
12	対談	友達の自己紹介を受けて対談をする
13	インタビュー	目的と事前準備
14	面接	「なぜ教職を目指すのか」
15	まとめ	自分の文章表現を今後いかにして伸ばしていくか
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	櫻木紀子 Noriko Sakuragi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	口頭表現		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	口語表現					

■授業のねらいと到達目標

発表力、即ち、まとまった内容を伝える能力を身につける。また会話力、例えば、発表時の質問に答える力を養う。

■授業の進め方（履修条件等）

- 発表のための原稿作成。
- イントネーション等、発音練習。
- 発表練習。（小人数で又は2人一組で）
- 全体への発表。

■成績評価方法・基準

原稿提出と授業中の作業課題の提出および発表で評価する。従って期末試験はしない。但し、いずれも60%以上であることが必須。

■授業の予習・復習

予習：原稿を準備持参する。
復習：各自、授業中与えられた注意点などを復習する。

■教科書

ない

■参考文献

ない。但し、授業で紹介されることがある。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション。作文①	・この授業への期待、決意等について考え書く
2	課題（1）小人数に話す	・添削された作文①の内容を話し、聞く練習
3	作文②面接を想定する	・面接での問答集作成。小グループで。
4	課題（2）作文②発表	・2人一組で演じる。答える側は原稿なし
5	課題（3）発表にコメントする	・課題（2）の内容についてコメントを書く
6	課題（4）コメントを言う	・課題（3）を正確にしかも相手に配慮しながら言う
7	作文③問題提起練習	・日常の事柄から問題提起をし、意見を述べる文を書く
8	課題（5）発表（半数）	・作文④を全体に話す。コメントを書き提出。
9	課題（5）発表（半数）	・作文④を全体に話す。コメントを書き提出。
10	作文④最終発表の原稿作成	・発表原稿作成。
11	課題（6）発表原稿推敲	・添削された作文④を再度推敲する
12	課題（7）発表（半数）	・発表。コメントを書く。口頭でコメントする。
13	課題（7）発表（半数）	・発表。コメントを書く。口頭でコメントする。
14	課題（8）発表を評価する	・発表について自分で評価する。
15	課題（9）率直・婉曲に言う	・教師に対する批判など言いにくい内容の言い方練習
16	定期試験	

☆授業項目及び授業内容は、受講者の能力に応じて上のレベルに修正されることがある。

年度	11年度入学		担当者	坂東美子 <i>Jitsuko Bando</i>		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	口頭表現		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	口語表現					

■授業のねらいと到達目標

大学での学びに必要な、プレゼンテーションの力をつける。アンケート調査結果を分析して簡単なレポートを書く。パワーポイントで資料を例示しながら簡単な発表をする。

■授業の進め方（履修条件等）

①発表に必要なことを作文にまとめたり、それをスピーチスクリプトに書きかえたりする。②添削された文章はPCで清書してメールで提出。③パワーポイント資料も含めた文集を完成させる。④パワーポイント資料を用いてプレゼンテーションをする。

■成績評価方法・基準

テストなし。授業で作文を提出（再提出が必要な場合もある）。作文に加え、パワーポイント資料・表紙・目次・あとがきも入れて作文集を完成させる。評価は、出席が十分に作文集を完成させており、スピーチ、敬語劇、レポートプレゼンテーションの3つの口頭表現をやっていたら良以上。

■授業の予習・復習

予習：本を読む。考える。持ち帰って書くような宿題はない。復習：添削された作文をPCで清書してメールで提出する。

■教科書

特になし。毎回プリントが出るので順番にファイルしてください。

■参考文献

特になし。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 口頭表現導入。課題作文①設計	紹介文「私のおすすめの本」の設計図を書く。
2 課題①	紹介文「私のおすすめの本」作文
3 課題②	スピーチスクリプト「私のおすすめの本」
4 課題②口頭発表	スピーチ「私のおすすめの本」・評価用紙記入
5 課題③敬語劇台本作成	グループに分かれ、敬語が必要な場面の劇を作る。
6	
7 課題③敬語劇発表	劇の発表・評価用紙記入
8	
9	調査に必要なアンケート項目作成
10 課題④レポート	アンケート結果の予想を立てる
11	アンケート結果と予想を比べて考察する
12 文集作成	PCのある教室で、課題④の発表のためのパワーポイント資料も作成。文集にまとめ、印刷・提出する。
13	
14 レポート発表会	パワーポイントを使って口頭発表・評価用紙記入
15	
16 定期試験（文集返却とまとめの授業）	

年度	11年度入学		担当者	本多久美子 <i>Kumiko Honda</i>		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	口頭表現		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	口語表現					

■授業のねらいと到達目標

この授業では、身近なテーマについて書いたり話したりする練習をしながら、大学生活に必要なレジュメやレポートを書いたり、発表用のスライドを作ったりすることができる日本語力を身につけることを目標としている。授業でパソコンを使うことがあるので、USBメモリーをいつも持ち歩くこと。

■授業の進め方（履修条件等）

①授業では、グループを作り、身近なテーマについて共同で調べて発表する。②発表した内容をレポートにまとめる。③他の人の発表について、自分の意見を述べる。

■成績評価方法・基準

①毎回、発音クイズと聞き取りクイズがある。②学期中に3回発表する。③発表評価用紙を提出する。④学期末にレポート集を完成させる。①②③④を満たせば、良以上。

■授業の予習・復習

予習：3回の発表内容について調査をし、発表の準備をしておく。復習：発表した内容をワープロで清書して、メールで提出する。

■教科書

毎回、プリントを配るので、なくさないようにファイルしておくこと。

■参考文献

特になし。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 口頭表現導入 発表準備①	発表に関する説明。留学についてのアンケートの作成
2 発表準備②	留学についてのアンケートの実施と分析
3 発表準備③	発表用スライド作成
4 第1回発表①	「留学の目的」
5 第1回発表②	「留学の長所と短所」
6 発表準備①	敬語についてのアンケート作成
7 発表準備②	敬語についてのアンケート実施と分析
8 発表準備③	発表用スライド作成
9 第2回発表①	「日本人と敬語」
10 第2回発表②	「外国人留学生と敬語」
11 第2回発表③	「敬語の難しさ」
12 発表準備①	大学生活についてのアンケート作成
13 発表準備②	大学生活についてのアンケート実施と分析
14 発表準備③	発表用スライド作成
15 第3回発表①	「社会に出る前に大学でやっておきたいこと」
16 第3回発表②	「大学を卒業したら」

年 度	11年度入学		担 当 者	山口政之 Masayuki Yamaguchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	文章表現		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	文章表現					

■授業のねらいと到達目標

大学生生活（学問および実生活）及び教育実習で求められる文章表現能力を高めるために、書く技能を伸ばしていきます。また、ライセンス取得を支援するために、問題集等を適宜活用しますので、進んで挑戦してください。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、次のように進めます。①出席確認（簡単なスピーチを含む）、②小テスト・課題発表、③本時の課題。電子辞書は必要ですが、原則として携帯電話の使用は認めません。

■成績評価方法・基準

出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえて総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。

■授業の予習・復習

予習：その都度指示します

復習：授業で出した課題は、次の時間に各自が発表するので必ず取り組んでください。

■教科書

適宜印刷物を配布します。

■参考文献

木下是雄『理科系の作文技術』中公新書
本多勝一『日本語の作文技術』朝日文庫
斎藤美奈子『文章読本さん江』ちくま文庫

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	教職における文章表現力とは
2 ノート	動的聴解力を鍛えるために
3 手帳	提出や発表、試験の準備を忘れないために
4 読解と要約①	新聞記事を読み、要約する
5 読解を要約②	書籍の一部を読み、要約する
6 図書館の利用	大学と公立図書館の目的意識を明確にした利用
7 レポート①	引用の仕方
8 レポート②	授業内容との関連
9 メール	端的に文章表現をする長所と短所を理解する
10 手紙	手紙の形式を理解し、大学生生活を知人に伝える
11 小論文①	4年生になってあわてないために
12 小論文②	課題の把握と構成、段落意識
13 小論文③	模範論文の読解
14 エントリーシート①	相手の求める自分のよさを伝えるために
15 エントリーシート②	今後の学生生活において文章表現を向上させるために
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	櫻木紀子 Noriko Sakuragi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	文章表現		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	文章表現					

■授業のねらいと到達目標

レポート作成能力を身につける。自分で書いた文章を添削・推敲する力を養う。

■授業の進め方（履修条件等）

- (1) 既習文法や語彙の使用条件等の復習。
- (2) 伝達内容の文章化、自ら添削。
- (3) 段落にまとめる練習。
- (4) 課題について作文。

■成績評価方法・基準

宿題提出と授業中の作業課題の提出。従って期末試験はしない。但し、いずれも60%以上であることが評価の必須条件。

■授業の予習・復習

予習：課題について考え、メモあるいは文章化したものを持参する。

復習：添削課題に注意する。課題の清書。各自自分の添削帳を作る。

■教科書

特になし

■参考文献

授業で紹介されることがある

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション。作文①	・情報収集と整理の練習。「自己紹介」を書く。
2 作文②の1：事実の整理	・普通体で書く事に慣れる。
3 作文②の2：復習練習	・教師の添削を参考に新しい課題について書きあげる。
4 作文③：履歴書	・自分を振り返る。自分を1点アピールする。
5 作文④の1：2段落構成	・段落を意識し書く練習。活用形のチェック
6 作文④の2：2段落構成復習	・教師の添削を参考に新しい課題について書きあげる。
7 作文⑤の1：表作成	・表の分析をする。1文中の助詞のチェック
8 作文⑤の2：表作成復習	・教師の添削を参考に新しい課題について書きあげる。
9 作文⑥の1：意見陳述練習	・他者の意見に、理由をつけて賛否を述べる。
10 作文⑥の2：意見陳述復習	・教師の添削を参考に新しい課題について書きあげる。
11 作文⑦の1：引用	・「引用」の仕方の練習。
12 作文⑦の2：引用復習	・作文⑦の1までを復習し、課題について書きあげる
13 個人文集作成	・これまでの原稿の最終見直し。
14 個人文集作成	・印刷・提出
15 各自の文集について	・反省などを発表する。級友及び教師からのコメント
16 定期試験	

☆授業項目及び授業内容は、受講者の能力に応じて上のレベルに修正されることがある。

年 度	11年度入学		担 当 者	坂東実子 <i>Jitsuko Bando</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	文章表現		対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	文章表現					

■授業のねらいと到達目標

大学に必要なレポートを書く力をつける。文章の基本的な構成の立て方を身につけ、短い時間で的確な作文ができる力をつける。

■授業の進め方（履修条件等）

①作文の構成を学び、作文設計図を作成。②添削された設計図に基づいて作文を書く。③添削された作文をPCで清書しメールで提出。④学期末に作文集を完成させ、提出。

■成績評価方法・基準

テストなし。作文を全部で8種類提出（再提出が必要な場合もある）。作文に加え、表紙・目次・あとがきも入れて作文集を完成させる。評価は出席が十分に作文集を完成させていれば良以上。

■授業の予習・復習

予習：与えられたテーマについて考え作文の構想を練る、など。作文設計図や作文は授業時間内で作成するので、持ち帰って書くような宿題はない。

復習：作文の清書をPCで作成し、メールで提出。

■教科書

特になし。毎回プリントが出るので順番にファイルしてください。

■参考文献

特になし。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 文章表現導入。作文①	3段構成で、主観・客観の簡単な作文①を書く。
2 作文②	3段構成で、賛成・反対の簡単な作文②を書く。
3 作文③設計図	記事を読み、賛成・反対の意見文の設計図を作成。
4 作文③	添削された設計図に従って作文を書く。
5 作文④	敬語表現。お世話になった方への手紙を書く。
6 作文⑤	履歴書を書く。志望動機の書き方など。
7 作文⑥設計図	Before/Afterの作文設計（自分に起きた変化を軸に）
8 作文⑥	添削された設計図に従ってBefore/Afterの作文を書く。
9 作文⑦設計図	Before/Afterの作文設計（社会の変化を軸に）
10 作文⑦	添削された設計図に従ってBefore/Afterの作文を書く
11 作文⑧グラフを読む	統計資料を分析して比較する。
12 作文⑧設計図	統計資料の分析・比較し、考察するレポート設計図作成。
13 作文⑧	添削された設計図に従ってレポートを作成。
14 文集作成	PCのある教室で作成・印刷
15 文集作成	PCのある教室で作成・印刷
16 定期試験	（文集返却とまとめの授業）

年 度	11年度入学		担 当 者	本多久美子 <i>Kumiko Honda</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	文章表現		対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	文章表現					

■授業のねらいと到達目標

この授業では、身近なテーマについて文章を書く練習をしながら、大学生活で必要なレジュメやレポートを書いたり、発表用のスライドを作ったりすることができる日本語力を身につけることを目標にしている。授業でパソコンを使うことがあるので、USBメモリーをいつも持ってくること。

■授業の進め方（履修条件等）

①授業では、グループやペアを作り、身近なテーマについて自分の意見を述べたり、相手の意見を聞いたりする。②話し合った内容に基づいて作文を書く。③作文に書いた内容を発表する。④他の人の発表について意見を述べる。

■成績評価方法・基準

テストはなし。①毎回、いろいろな作文課題を提出する。②学期中に3回発表する。③学期末に作文集を完成させる。①②③を満たせば、良以上。

■授業の予習・復習

予習：3回の発表内容について考えておく。

復習：授業中に書いた作文を、パソコンのワープロで清書する。

■教科書

毎回、プリントを配るので、なくさないようにファイルしておくこと。

■参考文献

特になし。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 説明する①	自己紹介と他者紹介
2 説明する②	「私の大切なもの」
3 説明する③	意味を説明する
4 説明する④	理由を説明する
5 第1回発表会の準備	レジュメとスライド作成
6 第1回発表会	「私の大切なもの」
7 説明する⑤	順序を説明する
8 説明する⑥	使い方を説明する
9 説明する⑦	「忘れられない旅行」
10 第2回発表会の準備	レジュメとスライド作成
11 第2回発表会	「忘れられない旅行」
12 意見を述べる①	自分の意見を書く
13 意見を述べる②	自分の希望を書く
14 意見を述べる③	将来の自分の夢を書く
15 第3回発表会の準備	レジュメとスライド作成
16 第3回発表会	「5年後の私へ」

年 度	11年度入学		担 当 者	越川浩明 <i>Hiroaki Koshikawa</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	基礎数学	基礎数学	対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	基礎数学	基礎数学				

■授業のねらいと到達目標

現代は数学的素養の必要性が目には見えないところで人間生活のあらゆる分野に要求されてきています。社会に出て数学を使う場面に出会ったときにたじろがないような数学力をつけることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

この授業では数学の基礎知識を身につけるために、中学校の数学の復習のあと、高校の数学の要点を文系の大学生にも分かる教科書にしたがって授業を進めます。

■成績評価方法・基準

毎回練習問題を解いてもらいます（40%）、定期試験（60%）。

■授業の予習・復習

予習：教科書やプリント教材をよく読み自力で解く練習をしておいて下さい。

復習：必ず習った範囲の練習問題を解いて下さい。

■教科書

『大学新入生の数学』、田沢義彦著、東京電機大学出版会

■参考文献

別途紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 実数について	自然数、整数、有理数、実数
2 2次関数（1）	2次関数、2次方程式
3 2次関数（2）	2次不等式、複素数
4 整式について（1）	整式とその加法・減法
5 整式について（2）	因数分解、整式の除法
6 三角関数（1）	ピタゴラスの定理、弧度法
7 三角関数（2）	三角関数のグラフ、加法定理
8 指数関数	指数の拡張、指数法則、指数関数とグラフ
9 対数関数	対数の定義と性質、対数関数とグラフ
10 微分	微分係数、導関数
11 微分の応用	関数の増減、極大極小値、最大最小値
12 積分	不定積分と定積分
13 積分の応用	面積の求め方
14 数列	等差数列、等比数列、階差数列、漸化式、数学的帰納法
15 集合と理論	集合、命題と論理
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	豊原明 <i>Akira Toyohara</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	基礎数学	基礎数学	対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	基礎数学	基礎数学				

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは基礎数学における一般知識である「数」、「確率」、「三角関数」などを学ぶことです。到達目標基礎数学の一般知識を理解し、実際に応用できることです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。基本的にプリントを配って授業を行います。また、理解を深めるために、毎回授業の途中で小テストを行います。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（毎回）：50%

定期試験：50%

■授業の予習・復習

予習：毎回、次の授業の内容を予告し、次の授業のプリントを配ります。読んでおいてください。

復習：授業時間内で理解するよう努めてください。

■教科書

ありません。

■参考文献

プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業のねらい、到達目標、評価方法
2	整数、約数
3	合同
4 数	有理数と無理数
5	数のまとめ
6	確率の考え方
7	順列と組み合わせ
8 確率	確率と期待値
9	分散
10	確率のまとめ
11	三角比と三角関数
12 三角関数	正弦の定理と余弦の定理
13	三角形と円
14	三角関数のまとめ
15 まとめ	まとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	高田洋子 Takada Yoko		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	国際関係入門	国際関係入門	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際関係入門	国際関係入門	国際関係論		国際関係論	

■授業のねらいと到達目標

現代世界の仕組みを理解する上で、もっとも大切な基礎単位である「国民国家」について学びます。近代国民国家システムの起源は西欧にあります。その概念の定義、歴史的展開、メリットとデメリット、現代的課題などの基礎的知識を学びましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

世界地図を広げましょう。世界中が国境線で区切られています。大切な境界線はどのように決まってきたのでしょうか？授業では知識の集積と同時に問題発見的アプローチを重視します。

■成績評価方法・基準

授業の取り組みへの真剣さ（授業参加の態度、課題提出）、期末試験の結果などを通して、成績を評価します。

■授業の予習・復習

予習：国内外のさまざまな問題や紛争などに興味をもち、新聞を読みましょう。

復習：授業内容を確認する課題を提出します。

■教科書

指定しません。

■参考文献

百瀬宏『国際関係学』東大出版会ほか。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 序：現代はどんな時代か	今、世界では何が起きているのだろうか？
2 現代世界の課題	19世紀、20世紀そして21世紀へ
3 近代の幕開け	近代国民国家の起源：フランス型（西欧型）
4 (フランス革命の国)	(ベルサージュ宮殿の一日から)
5 ヨーロッパ世界の国際関係	さまざまな国民国家：東欧型
6 国民国家の安全保障	基本ルール、勢力均衡から共通の安全保障へ
7 ヨーロッパ近代の拡大	植民地・移民国家アメリカ、移動する人びと
8 国民国家と民主主義	民主主義の起源、発展、そして逸脱
9 国民国家と帝国主義	多様な非ヨーロッパ世界との対峙、侵略
10 帝国主義と民族主義(1)	植民地ナショナリズムと独立
11 帝国主義と民族主義(2)	多民族国家のなかの諸「民族」、難民問題
12 20世紀のふたつの世界大戦	近代国民国家システムと戦争
13 冷戦とは何か	<核>をもった人類
14 国民国家の内部構造	21世紀のグローバルとローカルの交錯
15 まとめ：自由と平和への希求	国民国家を超えて
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	櫛田久代 Hisayo Kushida		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	国際関係入門	国際関係入門	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際関係入門	国際関係入門	国際関係論		国際関係論	

■授業のねらいと到達目標

授業では、第2次世界大戦後の国際関係を政治学、経済学、歴史学、社会学の観点から扱います。様々な意味でグローバル化が進行する今日の世界が抱える問題について多角的に理解するだけでなく、みなさんがこれから4年間本学部で国際学を学ぶ意味を考えることを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布したプリントを中心に授業を進めます。国際関係論は、国際学部の中でも数少ない必修科目です。そのため、履修条件を厳しくします。3分の2以上出席していない場合は、期末試験受験資格はありません。

■成績評価方法・基準

期末試験80%と授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。

復習：授業中わからなかったことは、授業後解決しておくようにして下さい。

■教科書

毎回プリントを配布します。

■参考文献

中西 寛『国際政治とは何か』（中公新書、2003年）他。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 国際関係のトピック	ビデオ鑑賞
3 国際関係理解の基礎(1)	国際関係のアクター
4 —————(2)	国際政治からみた国際関係
5 —————(3)	国際経済からみた国際関係
6 —————(4)	南北問題
7 —————(5)	国際法からみた国際関係
8 —————(6)	国際機構
9 —————(7)	人の移動からみた国際関係
10 国際関係のトピック	ビデオ鑑賞
11 冷戦(1)	冷戦について
12 —————(2)	冷戦後
13 現代の国際関係(1)	環境・資源問題
14 —————(2)	テロとの戦い
15 —————(3)	超大国アメリカの衰退
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	教務部委員会		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	敬天愛人講座	敬天愛人講座	対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	敬天愛人講座	敬天愛人講座	総合講座 I			

■授業のねらいと到達目標

本講座は、本学の建学の精神である「敬天愛人」の具現化を図るために設けられたものである。「天を敬い、人を愛する」という言葉の持つ意味は極めて広く深い。人間関係のみならず、人間と社会、人間と自然との関係にも関わってくる。従って、この理念の具体化もさまざまな形で行われることになる。この講座をきっかけとして、「敬天愛人」の精神が、学内はもとより、学外にも広く浸透していくことを期待している。

■授業の進め方（履修条件等）

「敬天愛人」に関する12のテーマを掲げ、各専門の先生方に講義していただく。

■成績評価方法・基準

メディアセンターにある「敬天愛人文庫」の中の関連書物を読んでおくことが望ましい（本学ホームページからのアクセスが可能）。

■授業の予習・復習

12のテーマのうち2つを選び、それぞれの問題について解答する（論文形式）。出席：40%、筆記試験：60%。

■教科書

教科書は用いず、毎回レジュメを配布する。

■参考文献

長戸路信行『野の花』

■授業内容

週	日程	授業内容	講師	備考
1	4月8日(金)	オリエンテーション	高田洋子	敬愛大学教授、教務部長
2	4月15日(金)	建学の理念	角田敏	横芝敬愛高校校長
3	4月22日(金)	品性と知性	籠野受男	敬愛大学名誉教授
4	5月6日(金)	青年期の心・愛	松丸明子	敬愛学園高校カウンセラー
5	5月13日(金)	命の尊厳性(いじめ、自殺、死刑など)Ⅰ	長戸路政行	敬愛大学名誉教授、学部長
6	5月20日(金)	命の尊厳性(いじめ、自殺、死刑など)Ⅱ	長戸路政行	敬愛大学名誉教授、学部長
7	5月27日(金)	ボランティア(社会貢献・国際貢献)	山本 健	敬愛大学教授
8	6月3日(金)	異文化理解	村川庸子	敬愛大学教授
9	6月10日(金)	環境問題	中村圭三	敬愛大学教授
10	6月17日(金)	格差社会	星 真実	敬愛大学准教授
11	6月24日(金)	循環型社会に向けて	金子林太郎	敬愛大学准教授
12	7月1日(金)	道德教育の可能性	池谷美佐子	敬愛大学准教授
13	7月8日(金)	個性を伸ばす	平野智美	上智大学名誉教授
14	7月15日(金)	敬天愛人の具現化をめざして	土井 修	敬愛大学学長
15	7月22日(金)	総 括		
16	9月30日(金)	オリエンテーション	高田洋子	敬愛大学教授、教務部長
17	10月7日(金)	建学の理念	角田敏	前・敬愛大学八日市場高校校長
18	10月14日(金)	品性と知性	籠野受男	敬愛大学名誉教授
19	10月21日(金)	青年期の心・愛	松丸明子	敬愛学園高校カウンセラー
20	10月28日(金)	命の尊厳性(いじめ、自殺、死刑など)Ⅰ	長戸路政行	敬愛大学名誉教授、学部長
21	11月4日(金)	命の尊厳性(いじめ、自殺、死刑など)Ⅱ	長戸路政行	敬愛大学名誉教授、学部長
22	11月11日(金)	ボランティア(社会貢献・国際貢献)	山本 健	敬愛大学教授
休講	11月18日(金)			*大学祭準備による休講措置
23	11月25日(金)	異文化理解	村川庸子	敬愛大学教授
24	12月2日(金)	環境問題	中村圭三	敬愛大学教授
25	12月9日(金)	格差社会	星 真実	敬愛大学准教授
26	12月16日(金)	循環型社会に向けて	金子林太郎	敬愛大学准教授
27	1月12日(木)	個性を伸ばす	平野智美	上智大学名誉教授
28	1月20日(金)	道德教育の可能性	池谷美佐子	敬愛大学准教授
29	1月27日(金)	敬天愛人の具現化をめざして	土井 修	敬愛大学学長

年度	11年度入学		担当者	中嶋 励子 Reiko Nakajima		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	心理学	心理学	対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	心理学	人と社会のコミュニケーション	心理学		人と社会のコミュニケーション	

■授業のねらいと到達目標

この授業では、人と人、人と社会のコミュニケーション現象について、社会心理学の主な理論を、研究例や事例から学んでいきます。授業で学んだことをふまえて、私たちの身近に起こっているコミュニケーション現象への理解を考察し、それらへの理解を深めることを、到達目標としています。

■授業の進め方（履修条件等）

特にありませんが、授業内で事例について小グループごとにディスカッションを行う場合、積極的に参加することを望みます。

■成績評価方法・基準

平常点（出席状況、小課題の提出） 30%
定期試験 70%

■授業の予習・復習

予習：特にありません。
復習：授業内で行う小課題については、日常生活にあてはめ、考察することを望みます。

■教科書

特にありません。

■参考文献

『ステレオタイプの社会心理学』 上瀬由美子 サイエンス社 2002年
『うわさが走る』 川上善郎 サイエンス社 1997年
『異文化と関わる心理学』 渡辺文夫 サイエンス社 2002年

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業のねらいと到達目標、評価方法
2	言語コミュニケーション	言語によるコミュニケーションとは何か
3	非言語コミュニケーション	非言語によるコミュニケーションとは何か
4	他者の認知	人は他者をどのように認知するのか
5	対人魅力	どのような人に魅力を感じるのか
6	対人的影響	他者がいるとどのように影響されるのか
7	説得コミュニケーション	送り手の信頼性・専門性
8	説得のための提示	一面提示、両面提示、恐怖アピール
9	うわさのメカニズム	うわさはどのように広がるか
10	ステレオタイプとは	ステレオタイプとは何か
11	ステレオタイプの問題点	どのような問題点があるか、事例の研究
12	ストレスとは何か	
13	ストレス対処	ストレス対処のタイプ
14	異文化コミュニケーション	異文化に出会う場合の問題点
15	授業のまとめ	授業についてのまとめ
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	中嶋 励子 Reiko Nakajima		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	心理学	心理学	対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	心理学	人と社会のコミュニケーション	心理学	人と社会のコミュニケーション		

■授業のねらいと到達目標

この授業では、人と人、人と社会のコミュニケーション現象について、社会心理学の主な理論を、研究例や事例から学んでいきます。授業で学んだことをふまえて、私たちの身近に起こっているコミュニケーション現象への理解を考察し、それらへの理解を深めることを、到達目標としています。

■授業の進め方（履修条件等）

特にありませんが、授業内で事例について小グループごとにディスカッションを行う場合、積極的に参加することを望みます。

■成績評価方法・基準

平常点（出席状況、小課題の提出） 30%
定期試験 70%

■授業の予習・復習

予習：特にありません。
復習：授業内で行う小課題については、日常生活にあてはめ、考察することを望みます。

■教科書

特にありません。

■参考文献

『ステレオタイプの社会心理学』 上瀬由美子 サイエンス社 2002年
『うわさが走る』 川上善郎 サイエンス社 1997年
『異文化と関わる心理学』 渡辺文夫 サイエンス社 2002年

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業のねらいと到達目標、評価方法
2 言語コミュニケーション	言語によるコミュニケーションとは何か
3 非言語コミュニケーション	非言語によるコミュニケーションとは何か
4 他者の認知	人は他者をどのように認知するのか
5 対人魅力	どのような人に魅力を感じるのか
6 対人的影響	他者がいるとどのように影響されるのか
7 説得コミュニケーション	送り手の信頼性・専門性
8 説得のための提示	一面提示、両面提示、恐怖アピール
9 うわさのメカニズム	うわさはどのように広がるか
10 ステレオタイプとは	ステレオタイプとは何か
11 ステレオタイプの問題点	どのような問題点があるか、事例の研究
12 ストレスとは何か	
13 ストレス対処	ストレス対処のタイプ
14 異文化コミュニケーション	異文化に出会う場合の問題点
15 授業のまとめ	授業についてのまとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山本 健 Takeshi Yamamoto		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	歴史学入門	歴史学入門	対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	歴史学入門					

■授業のねらいと到達目標

日本は、明治の開国期と大戦敗北後の2回、近代化（欧米化）を受け入れ、物質的に豊かになったが、精神的にはどうであろうか。この原因を、明治（1868年）以降から現代に至る長いスパンの中で探り、精神的な「自立」の処方箋を考えてみたい。そして歴史を批判的に見る目を見につけさせることが、本講義の目的である。

■授業の進め方（履修条件等）

日本の近代化の受容を基本的に学び、日本以外のアジア諸国の受容との比較にも言及しながら、その時代背景などを説明しながら「協調」と「追従」の功罪などを解説する。

■成績評価方法・基準

試験、レポート（感想文や課題文）、出席状況などで評価する。

■授業の予習・復習

予習：前もって配布した「古典」の抜粋プリントを読んで、問題点などを整理しておくこと。
復習：課題文の作成のため、新聞やTVのニュースを見る習慣をつけること。

■教科書

加藤哲郎『戦後意識の変貌』（岩波ブックレット、シリーズ昭和史 No14、1989年）

■参考文献

①奥井知之『日本問題』（中公新書、1994年）
②富永健一『近代化の理論—近代化における東洋と西洋』（講談社学術文庫、1996年）
③野口悠紀夫『バブルの経済学—日本経済に何が起こったのか』（日本経済新聞社、1993年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明
2 問題点の提示	大江健三郎『あいまいな日本と私』を音読させ、解説。
3 明治時代の近代化の受容①	日本の支配的価値観と近代化受容をめぐる問題点
4 同上②	「外圧」としての近代化—帝国主義時代の背景
5 同上③	「脱亜入欧」と第二次世界大戦
6 戦後の「アメリカ」受容	「脱亜入米」と変更されるアメリカの占領政策
7 「政治」から「経済」へ	戦争特需と所得倍増計画の意味
8 模倣国アメリカの変化	ベトナム戦争とアメリカ経済の衰退、相対主義の台頭
9 石油危機と不確実性の時代	エゴイズムとモデル不在の時代の到来
10 日米経済摩擦	経済大国ジャパンの出現と日本異質論の台頭
11 バブル景気と躁状態の日本	平成バブルの発生メカニズムの分析
12 湾岸戦争と日本の対応	湾岸戦争の背景と「一國繁栄主義」の日本
13 小泉内閣の登場と民営化問題	市場経済の導入と食い荒らされる金融資産
14 中国経済の発展と日本の対応	日本の「工場」の移転と産業の空洞化・若者の失業問題
15 サブプライム問題と金融危機	恒常化したバブル経済とその背景
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	壁谷彰慶 <i>Akiyoshi Kabeya</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	哲学入門		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	哲学入門					

■授業のねらいと到達目標

哲学・倫理学において扱われてきた問題と議論を学びながら、他人の意見を批判的に吟味し、論理的に思考する練習をする。そのうえで、自分の意見を客観的に述べる技能の習得を目指す。講義は「知識と世界」「自分と心」「善悪と社会」の三つの主題にわけて進める。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式だが、毎回小レポートを課す。講義で紹介した議論を自分で再構成し、それについて意見を述べてもらう。いずれも各人に関係のある話題であると思うので、積極的な参加が望ましい。

■成績評価方法・基準

小レポートと学期末レポート（定期試験として実施予定）の総合点。

■授業の予習・復習

予習：シラバスの授業項目と前回の講義内容から、当日の講義に漠然と思いを馳せてみる。
復習：授業の内容を思い出ししながら、疑問や意見を書き出す（各レポートで報告）。

■教科書

なし（資料を授業内で配布）

■参考文献

- ・野矢茂樹『哲学の謎』
- ・G.バークリ『ハイラスとフィロナスの三つの対話』
- ・永井均『倫理とは何か』

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	講義の概要、受講方法、成績評価など
2	知識と世界（1）	夢の懐疑
3	知識と世界（2）	相対主義と真理
4	知識と世界（3）	経験論と合理論
5	知識と世界（4）	知識と情報
6	自分と心（1）	デカルト的描像
7	自分と心（2）	自己知と他我問題
8	自分と心（3）	人格の同一性
9	自分と心（4）	行為と自由
10	善悪と社会（1）	義務論と功利主義
11	善悪と社会（2）	カントと定言命法
12	善悪と社会（3）	功利と動物
13	善悪と社会（4）	技術をめぐる倫理
14	まとめ（1）	認識論と形而上学
15	まとめ（2）	倫理学と哲学
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	原山浩介 <i>Kosuke Harayama</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	社会学入門	社会学入門	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	社会学入門		社会学概論			

■授業のねらいと到達目標

この講義では、社会で、あるいは自分の身の回りで起こる様々な出来事を。社会の問題として分析し、考える能力を養う。これは、本を読んでなにかを覚えるというだけで達成できるものではない。安易な結論にすぐに飛びつきたい気持ちを抑えながら、じっくりと考えるための方法を学び取ることがこの講義の目的である。

■授業の進め方（履修条件等）

この講義は、2回の講義でひとまとまりとする。1回目は、あるテーマに関する話題提供を受けて、講義時間内に所感を書いて提出してもらう。2回目は、所感の講評と、テーマに関する分析枠組みの講義を行う。

■成績評価方法・基準

講義の提出物と、最終レポートによって評価を行う。特に最終レポートの内容を重視する。尚、事前にレポート計画、レポート概要を提出すること。

■授業の予習・復習

予習：特になし。
復習：各回の講義内容に関する新聞記事や書籍を探し、情報収集に努め、最終レポートの準備をすること。

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

講義内で提示する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	講義の方針と、進め方に関する説明。
2	環境問題を考える1	環境社会学の視点を取り入れて考える。
3	環境問題を考える2	同上
4	村・共同体とは何か1	農村社会学の蓄積から学ぶ。
5	村・共同体とは何か	同上
6	ジェンダーについて考える1	マリアローザ・ダラ・コスタの議論を起点に考える。
7	ジェンダーについて考える2	同上
8	差別とは何か1	とりわけ人種・国籍に関わって考える。
9	差別とは何か2	同上
10	レポート執筆の方法	最終レポートを意識してレポートの書き方を学ぶ
11	労働問題を考える1	今日的な労働問題を題材に、労働をとらえる。
12	労働問題を考える2	同上
13	格差を考える1	特に階層・貧困を重点に、今日的な格差を考える。
14	格差を考える2	同上
15	レポート相談日	レポート概要の提出と内容の個別相談
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	櫛田久代 Hisayo Kushida		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	政治学入門		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	政治学入門					

■授業のねらいと到達目標

国際学を学ぶための一つの方法論である政治学を学びます。なお、授業では、政治学の基礎概念や理論に重点を置いています。が、国家内部においてだけでなく国民国家を超える国際政治の領域において、政治がどのように作用しているのかを理解することを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布したプリントを中心に進めていきます。時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で授業を進めます。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。
復習：わからなかったことを自分で調べ、ノートに整理して下さい。

■教科書

毎回プリントを配布します。

■参考文献

久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection)』(有斐閣、2003年) 他。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	
2	政治を見る目	最近の日本の政治の動向
3	国家(1)	権力
4	——(2)	国家
5	ナショナリズム(1)	国民国家とナショナリズム
6	——(2)	民族のナショナリズム
7	民主政治(1)	民主政治の起源
8	——(2)	民主政治の実態
9	——(3)	民主政治への模索
10	——(4)	民主政治制度の多様性
11	選挙(1)	選挙制度
12	——(2)	選挙制度に関する考察
13	政治組織(1)	政党
14	——(2)	利益集団
15	——(3)	日本の政治と政党
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	覚正豊和 Toyokazu Kakusho		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	法学入門	法学入門	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	法学入門	法学概論	法学概論		法学概論	

■授業のねらいと到達目標

「社会あるところに法あり」の法格言に示されるがごとく、社会には無数の法が存在します。本講義は、社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論をとおして法律学への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方 (legal mind) を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします。それは、今日、とくとく流れる国際化のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習に他なりません。

■授業の進め方（履修条件等）

分かりやすい授業を展開するので、特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において、指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において、指示します。

■教科書

斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版

■参考文献

『コンサイス六法』三省堂

■授業内容

回数	授業内容
1	受講のガイダンス
2	法とはなにか
3	法と法則、法と道徳（法と道徳の相異、法と道徳の関係）
4	法の構造（規範構造からみた法と道徳の相異）
5	法の目的1（正義、法的安定性）
6	法の目的2（具体的事例の検討、比較法的考察）
7	法源論
8	成文法
9	不文法（慣習法、判例法）
10	法の分類（法二分説、法三分説など）
11	法の適用と解釈
12	法の実質的効力（規範的妥当性、実効性）
13	法の形式的効力（時間、場所、人）
14	権利と義務
15	まとめおよび質疑
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	覚正豊和 <i>Toyokazu Kakusho</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	憲法	憲法	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	憲法	憲法	憲法	憲法		

■授業のねらいと到達目標

憲法の概要は、すでに中学の「公民」や高等学校の「現代社会」「政治・経済」などで理解してきているように、国家の根本原則、すなわち国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方について定めた基本となる法律です。したがって、憲法をさらに把握理解し、よりよい社会の創造にむけていくことは、国民としての必須の事柄です。

本講義は、憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

分かりやすい授業をこころがけていくつもりですが、法学概論を併せて履修することが望ましいです。

■成績評価方法・基準

初回の授業において、指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において、指示します。

■教科書

斉藤静敬・覚正豊和 共著「法学・憲法」八千代出版

■参考文献

『コンサイス六法』三省堂、その他については、授業において指示します。

■授業内容

回数	授業内容
1	憲法を学ぶ意義
2	憲法の内容
3	日本国憲法の成立過程（日本国憲法の内容の概観）
4	憲法の制定・改正および変遷
5	日本国憲法の基本原理
6	民主主義
7	基本的人権（1）
8	基本的人権（2）
9	基本的人権（3）
10	基本的人権（4）
11	平和主義
12	統治機構
13	地方自治
14	まとめおよび質疑
15	
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	谷地隆 <i>Takashi Yachi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	世界の地理	世界の地理	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	世界の地理					

■授業のねらいと到達目標

地理は古くて新しい学問です。「風土記」や「東方見聞録」にみられるように、諸国の名物物産を知り、まだ見ぬ土地への憧れをかきたてるのが地理の役目であった。時は経て21世紀の現代、日常的に世界と接し、様々な地理情報を得ています。21世紀の世界観を知るために、現代こそ地理を新たに学ぶ意義があります。

■授業の進め方（履修条件等）

最初に世界の諸地域（地誌）に関する基礎的な知識を習得します。毎回ごとに世界の地域（国）を取り上げ、ビジュアル等の映像を用いて、世界の地域（国）の特徴を取得できるようにします。海外旅行において不可欠な知識・教養が身につくような講義を行います。

■成績評価方法・基準

出席状況・レポートにより評価します。

■授業の予習・復習

平素から「世界の地理」に関心を持ち、対象となる地域に関して、新聞・テレビなどのマスメディアなどから情報を得ておいて下さい。

■教科書

特に指定しませんが、授業毎にプリントを配布します。地図帳を持参して下さい。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	ガイダンス
2	世界の国あれこれ
3	世界の諸地域
4	東アジア
5	東南アジア
6	南アジア
7	中近東
8	アフリカ
9	西ヨーロッパ
10	東ヨーロッパ
11	北アメリカ
12	南アメリカ
13	オセアニア
14	グローバル化
15	まとめ（総整理をしながら、個々の疑問点を解明する）
16	定期試験

■参考文献

授業中に資料を配布します。

年 度	11年度入学		担 当 者	田中和彦 Kazuhiko Tanaka		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	世界の民族と宗教	世界の民族と宗教	対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	世界の民族と宗教	世界の民族	世界の民族	世界の民族		

■授業のねらいと到達目標

本講義は、前半に民族文化を見る視点をいくつかの単元に分けて扱い、その上で、生業に基づいて具体的に民族を見ることによって世界の民族とその文化についての理解を深めることを目的とする。また、主に東南アジアの事例を中心に4大宗教とその文化遺産についても取り上げる。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めるが、適宜、リアクションペーパーを求める。

■成績評価方法・基準

出席状況及び学期末に課題本を読んだレポートによる。レポートは、原稿用紙10枚ほどのものを求める。また、学期中に短いレポートないし課題を複数回課し、その提出も評価に加味する。

■授業の予習・復習

予習：該当する地域の地図を見ておくこと。
復習：ノートをまとめ、見直しておくこと。

■教科書

特に指定しない

■参考文献

授業の中で、適宜支持する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	本講義に関する参考文献の紹介
2 民族調査方法	フィールドワーク
3 親族と家族	定義、親族名称、親族関係記号、家族の類型分類
4 婚姻	定義、形式、規制、居住、要件
5 誕生に関わる習俗	禁忌、凝疑、胎盤の処理
6 死に関わる習俗	葬制、複葬、屈葬、甕棺葬
7 採集狩猟民	フィリピンのネグリートの特徴、分布、環境 フィリピンのネグリートの生業、生活、一生
9 漁撈民	フィリピンの漂海民、サマ族の環境と生活 フィリピンの漂海民、サマ族の生業と一生
11 アニミズム	東南アジアの精霊崇拜
12 仏教とその文化遺産	タイの仏教寺院
13 キリスト教とその文化遺産	フィリピンのカトリック教会
14 ヒンズー教とその文化遺産	カンボジアのアンコール遺跡群
15 イスラム教とその文化遺産	フィリピンのモスク
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	教務部委員会		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	ユニバーサルコミュニケーション(手話)	ユニバーサルコミュニケーション(手話)	対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名						

■授業のねらいと到達目標

共生社会を実現するために、障害を持つ人々への偏見や差別意識をなくし、共に手を携えて同じ場所に生活する深い意味や、全ての人が参加し、平等に情報を得ることの意味について考える。その上で、実際に聴覚障害を持つ人との日常的な接し方、バリアフリー・コミュニケーションの手段として、初歩的な手話・要約筆記の実技を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。授業はテキスト・配布プリントを中心に、適宜映像も使用する。

■成績評価方法・基準

平常点（出席）を参考とし、学期末試験によって総合的に成績を評価します。

■授業の予習・復習

予習：ニュースや新聞等で障害者福祉に関心を持つこと。聴覚障害者の特性を理解し、聴覚障害者のバリア解消の実践を行なう。
復習：手話表現を正しく習得するため、繰り返し練習をする。

■教科書

「友だちをつくる手話」発行：千葉聴覚障害者センター、配布プリント

■参考文献

- ・「新・手話教室（入門）」（財団法人全日本ろうあ連盟）
- ・「50年のあゆみ」（財団法人全日本ろうあ連盟）
- ・「聴覚・言語障害者とコミュニケーション」（全国手話通訳問題研究会編纂）一ツ橋出版
- ・「要約筆記奉仕員養成講座 基礎課程」テキスト、「要約筆記奉仕員養成講座 応用課程」テキスト、

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義	手話を学ぶにあたり（手話とは・聴覚障害とは・聴覚障害者の生活）
2 実技	音声言語以外のコミュニケーション
3 実技	自己紹介をしましょう①
4 実技	自己紹介をしましょう②
5 実技	自己紹介をしましょう③
6 実技	自己紹介をしましょう④
7 実技	自己紹介をしましょう⑤
8 講義	聴覚障害者の歴史と社会福祉の変遷
9 実技	日常生活を話してみよう
10 実技	気持ちを伝えてみよう
11 実技	会話してみよう①
12 実技	会話してみよう②
13 講義	要約筆記とは
14 実技	要約筆記をしてみよう①
15 実技	要約筆記をしてみよう②
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	畑中千晶 <i>Hatanaka Chiaki</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	日本の文学	日本の文学	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	日本の文学	日本の文学	文学		日本の文学	

■授業のねらいと到達目標

人の「心の闇」を浮き彫りにしていく西鶴の短編小説を読みます。自分なりの視点で作品の謎に迫ることができるようになること、これが到達目標です。文学を学ぶということは、文学史を暗記することでも、有名な学説を覚えて唱えることでもありません。自分の力で作品に向き合い、「読む」力を鍛えることなのです。

■授業の進め方（履修条件等）

300年以上も前に書かれた日本語を読みます。つまり「古文」。しかし、恐れる必要はありません。やさしい現代語訳付きのテキストを用います。留学生は、日本語能力試験N1（1級）程度の日本語力を持つほうが望ましいでしょう。

■成績評価方法・基準

クラスで指示した課題への取り組み（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：テキストに目を通して流れを理解しておく。特に留学生の場合は予習が必須です。
復習：クラスで出題されたタスクに取り組み、次回のクラスで提出する。

■教科書

西鶴研究会編（2004）『西鶴が語る江戸のミステリー』
ぺりかん社

■参考文献

江本裕/谷協理史編（1996）『西鶴事典』おうふう
乾克己/小池正胤/志村有弘/高橋寛/鳥越文蔵編（1986）
『日本伝奇伝説大事典』角川書店

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	講義の進め方、「読む」ということ
2	江戸時代について
3 読み始める前に	西鶴について（映像資料を含む）
4 「殺されたふたりの女商人」	内容読解
5	ファンタジーの構造、本当は怖い後日譚
6 「一生にただ一人の男」	内容読解
7	空白（抜けている情報）を読む
8 「少女と異人殺し」	内容読解
9	悪の魅力、親子の物語
10 「瓜ふたつの謀略」	内容読解
11	心の謎を読む
12 「口は禍の門」	内容読解
13	謎絵が語っているものは
14 「逃げても追いつく怨霊」	内容読解
15	容姿の美醜という裏テーマ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	土田宏 <i>Hirishi Tsuchida</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	日本理解Ⅰ（日本の伝統文化と社会）		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名						

■授業のねらいと到達目標

日本文化の基盤とされる「茶道」について考察することで、日本および日本人の底流にある精神を探り出すことを本科目の目標とする。よりよく日本を知り、日本人としての自信を取り戻すことができれば幸甚である。

■授業の進め方（履修条件等）

講義中心だが、限られた人にしか馴染みのない「茶道用語」などが使われることになるとおもふ。遠慮無く質問してほしい。また、OHPを利用して映像などで理解を深めたいとおもっている。

■成績評価方法・基準

定期試験が8割、出席状況が2割で評価する。

■授業の予習・復習

予習：毎回の予習は特に求めないが、教科書を注意して読むことを強く望む。
復習：毎回、必ず復習しておくこと。不明な点を残さないように。

■教科書

田中仙翁 『茶道の美学 茶の心とかたち』 講談社学術文庫

■参考文献

桑田忠親 『茶道の歴史』 講談社学術文庫
『茶器と懐石』 講談社学術文庫
土田隆宏 『利休 最後の半年』 彩流社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	茶道：日本文化の基礎としての総合芸術
2 茶道の歴史 1	武家に広まるまで
3 茶道の歴史 2	戦国時代から今日まで
4 千利休の茶 1	町人の茶として 暗さと狭さ
5 千利休の茶 2	道具に見る質素儉約
6 千利休の茶 3	喫茶を茶道に：その精神性と今日的意味
7 茶庭	日本庭園としての茶庭
8 茶室	建築における茶室の意義
9 茶道具と茶懐石	茶会と料理
10 所作と日本のエチケット	日本間（畳の間）での動きと食事マナー
11 茶の湯（茶事）について	すべての集約としての茶の湯
12 和服の歴史	「呉服」と「和服」と
13 禅を考ふる	禅とは何か：禅語を知る
14 奈良と京都と	文化から見た相違
15 まとめ： 鹿苑寺と慈照寺	「金閣」と「銀閣」：何を考ふるか
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	土田環 Tamaki Tsuchida		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	日本理解Ⅱ(日本の現代カルチャー)		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名						

■授業のねらいと到達目標

現在から1950年代へさかのぼりながら、日本映画史を学ぶ。講義は、基礎的な知識を学ぶための【歴史】と作品の見方について考えるための【テーマ】に分け、隔週ずつ、両者を交互に論じながら進めていく。映像を通して日本社会について学ぶだけでなく、映画や映像の表現としての特殊性について考えることを目指す。

■授業の進め方(履修条件等)

履修条件は特になし。授業は講義形式で進める。様々な映像を見せるつもりだが、作品を全編にわたって上映するわけではないので、各自、映画を多く見ること(シネコンからミニ・シアターまで作品を問わない)。

■成績評価方法・基準

期末試験と出席によって評価する。

■授業の予習・復習

予習：授業で取り扱う予定の映画作品をなるべく多く見ること。映画館に行くこと。

復習：授業で指示した映画、DVDをなるべく多く見ること。

■教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

■参考文献

高峰秀子『わたしの渡世日記 上・下』(文春文庫、1998)
四方田犬彦『日本映画史100年』(集英社新書、2000)

■授業内容

授業項目	授業内容
1 【ガイダンス】	イメージを見ること／読むこと
2 【歴史1】映画の「新しさ」	現在の日本映画の経済的概況—映画館の機能
3 【歴史2】逆輸入という発想	1995年の日本映画—映画にとつての「外部」
4 【テーマ1】自己と「他者」	日本映画における「外国人」の表象
5 【歴史3】スタジオの外へ	低予算映画とは何か—1980年代
6 【テーマ2】映画と「風景」	日本映画における「地方」あるいは「郊外」の表象
7 【歴史4】撮影所の崩壊①	ヌーヴェル・ヴァーグからATGへ—1960～70年代
8 【テーマ3】映画と「政治」	日本映画における「個人」の表象
9 【歴史5】撮影所の崩壊②	岩波映画製作所と「青の会」
10 【テーマ4】映画と「記憶」	日本映画における「現実」と「虚構」の境界
11 【歴史6】翳りと輝きの間で	プログラム・ピクチャーという概念—1960年代
12 【テーマ5】映画のジャンル	日本映画における「亡霊」の変遷
13 【歴史7】戦後の黄金期	スタジオの伝統と古典的な主題—1950年代
14 【テーマ6】「共同体」	日本映画における「擬似家族」の普遍性
15 【まとめ】	
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	藤田明男 Akio Fujita		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	健康運動科学	健康運動科学	対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	健康運動科学	健康運動科学	健康運動科学	健康運動科学		

■授業のねらいと到達目標

スポーツを通して体力づくり、仲間づくり、健康づくりをめざす。

■授業の進め方(履修条件等)

学内(敬愛アリーナ)で行う各種スポーツ実技を通して上記の狙いの達成を図る。運動着および運動靴(赤い靴紐を右靴につけたもの)を必ず着用する。

■成績評価方法・基準

出席状況(50%)、実技テスト(50%)

■授業の予習・復習

予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで予備知識を得ておくことが大切。

復習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで学習内容を確認することが大切。

■教科書

なし

■参考文献

藤田明男『バドミントン教室』大修館書店

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業に関する詳細説明等
2 バトボン—(1)	ハーフコートシングルス—(1)
3 バトボン—(2)	ハーフコートシングルス—(2)
4 バトボン—(3)	ハーフコートシングルス—(3)
5 バトボン—(4)	ハーフコートシングルス—(4)
6 バトボン—(5)	オールコートダブルス—(1)
7 バトボン—(6)	オールコートダブルス—(2)
8 バトボン—(7)	オールコートダブルス—(3)
9 ミニバレーボール—(1)	四人制バレーボール—(1)
10 ミニバレーボール—(2) #	四人制バレーボール—(2)
11 ミニバレーボール—(3) #	四人制バレーボール—(3)
12 ミニバレーボール—(4) #	四人制バレーボール—(4)
13 運動が人体に及ぼす影響—(1)	運動が筋肉に及ぼす影響
14 運動が人体に及ぼす影響—(2)	運動が骨に及ぼす影響
15 運動が人体に及ぼす影響—(3)	運動が体脂肪に及ぼす影響
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	宿城高興 Takaoki Yadoshiro		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	千葉学Ⅰ	千葉学Ⅰ	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	房総の自然と文化	房総の自然と文化	房総の自然と環境 / 房総の歴史と文化		房総の自然と環境 / 房総の歴史と文化	

■授業のねらいと到達目標

房総という身近な地域について学ぶことは、変化が激しい現在社会の中で政治、経済、産業文化など広い視野から物事を判断し、進むべき方向や生活していく心構えをつくりあげる一つの契機になると考えます。この授業は、房総半島の自然の特色を概観し、房総各地域の主な産業と自然・社会との関わりや主な歴史や文化等について理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

遅刻や欠席は、他人に迷惑をかけるので、特に厳しく対処します。また、3分の2以上出席していない場合は、期末受験資格はありません。

■成績評価方法・基準

出席状況・授業態度等を50%、試験を50%としますが、この配分は変更することもあります。

■授業の予習・復習

予習：事前に本時のプリント資料を配布しますので必ず読み、疑問や問題を持って授業に臨んでください。
復習：本時の授業内容について「分かったこと、考えたこと、疑問等」についてまとめ、提出してください。

■教科書

プリント資料を配布して授業を進めますので、必ずファイルしてください。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	房総半島の概要	房総半島の成立や地域区分等
2	房総の自然と産業①	房総の地形の特色
3	房総の自然と産業②	房総の気候の特色
4	房総の自然と産業③	房総の農業の特色
5	房総の自然と産業④	房総の漁業の特色
6	房総の自然と産業⑤	房総の工業の特色
7	房総の自然と産業⑥	房総の観光業等の特色
8	房総の歴史や文化①	先土器・縄文・弥生時代の房総
9	房総の歴史や文化②	古墳・大和時代の房総
10	房総の歴史や文化③	奈良・平安時代の房総
11	房総の歴史や文化④	鎌倉時代の房総
12	房総の歴史や文化⑤	室町時代の房総
13	房総の歴史や文化⑥	江戸時代（前期）の房総
14	房総の歴史や文化⑦	江戸時代（後期）の房総
15	房総の歴史や文化⑧	明治・大正・昭和時代の房総
16	定期試験	

■参考文献

年 度	11年度入学		担 当 者	国際学科専任教員		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	1年基礎演習		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	1年基礎演習		1年基礎演習			

■授業のねらいと到達目標

大学生活を円滑に送るための基本項目（行動規範・知識・スキル）を体得することが第一のねらいです。演習は本学の重要な教育体系に位置づけられており、必ず参加しなければなりません。学生一人一人が、大学生活の中に具体的な目標を見出し、それに向けて行動できるようになること、これを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

クラス担任制を取っています。担当教員の指導の下、クラスの仲間と協力しながら学習を進めてください。なお、学習指針（6つの柱）は全クラス共通ですが、毎週の具体的な学習項目はクラスによって異なります。

■成績評価方法・基準

提出物（50%）、クラス内諸活動の達成度（50%）を基本とし、出席状況、授業態度等を勘案して、総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：教員の提示した課題に取り組む。
復習：辞書等を用いて、理解不足を補う活動に取り組む。

■教科書

配布資料のほか、各担当教員が指定したものを用います。

■参考文献

随時紹介。

■授業内容

学習指針として、次の6つの柱があり、全クラスがこの指針を共有します。

1. スタートアップ
一つのクラスとして、互いに協力し合いながら学ぶ場をつくる。
2. キャンパス・スキル
「これを知らない」と困る」大学生の基本を段階的に身につけていく（単位の取り方、掲示板の見方、諸手続きの時期と方法、困った時の対処法など）。
3. アカデミック・スキル
講義の聴き方やノートの取り方など、勉強方法の基礎を学ぶ。
4. コミュニケーション力
日本語を用いて自分を表現する力を高める。また、クラスの仲間と協力して、一つの目標に向かって行動できるようになる。
5. 基礎知識
国際学部への学びに必要な基礎知識・学習態度を身につけていく（時事的な話題に関心を持つ、地理の知識を増やす、文化の多様性を意識するなど）。
6. 2年次へのブリッジ
2年次以降の専門研究に備えるため、コースや科目の概要を知り、学習計画を整えていく。

年 度	11年度入学		担 当 者	こども学科専任教員		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	1年基礎演習		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	1年基礎演習		1年基礎演習			

■授業のねらいと到達目標

大学生生活を円滑に送るための基本（行動規範・知識・スキル）を体得することが第一のねらいです。学生一人一人が、大学生活の中に具体的な目標を見出し、それに向けて行動できるようにすることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

クラス担任制を取っています。担当教員の指導のもと、クラスの仲間と協力しながら学習を進めてください。学習の指針（6つの柱）は全クラス共通ですが、毎週の具体的な学習項目はクラスによって異なります。

■成績評価方法・基準

提出物（50%）、クラス内諸活動の達成度（50%）を基本とし、出席状況、授業態度等を勘案して、総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：教員の指示した課題に取り組む
 復習：辞書、地図帳、年表等を用いて、理解不足を補う活動に取り組む

■教科書

配付資料のほか、各担当教員が指定したものを用います。

■参考文献

授業時随時紹介します。

■授業内容

学習指針として、次の6つの柱があり、全クラスがこの指針を共有します。

1. スタートアップ
一つのクラスとして、互いに協力し合いながら学ぶ場をつくる。
2. キャンパス・スキル
「これを知らない」と困る」大学生生活の基本を段階的に身につけていく。（単位の取り方、掲示板の見方、諸手続の時間と方法、困ったときの対処法など）
3. アカデミック・スキル
講義の聴き方やノートの取り方など、学習方法の基礎を学ぶ。
4. コミュニケーション力
自分の考えを表現する力を伸ばすとともに、相手の立場に立って考え相互理解を図るこのとのできる力を高めていく。
5. 基礎知識
こども学科の学びに必要な基礎知識・学習態度を身につけていく。
6. 2年次へのブリッジ
2年次以降の学習計画を整え、目標を意識した履修科目等の学習計画を立てる。教職履修カードを記入し、自己の学習状況を把握する。
 * 9月半ば（夏季休業中）を目安に、クラス単位で「半日参観実習」を実施します。実際に地域の小学校を参観し、校長先生からお話を伺ったり児童の学習や遊びなどの活動の様子を見せていただいたりして、学校現場に直接触れます。

年 度	11年度入学		担 当 者	国際学部英語教員		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	College English I	College English I	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	College English I	英語 I				

■授業のねらいと到達目標

1年の必修科目として基本にかえり、英語の4技能（読む、聞く、話す、書く）を伸ばすための基礎となる知識を固めることが目的です。クラスは4レベル（入門、初級、中級、上級）6クラスに分けられ、受講者はそれぞれの英語運用能力に適った環境で学びますが、特に文法の知識の修得と読解力の向上に力を入れて指導します。定期試験は（年2回）TOEIC IPテストを受けることとなりますが、TOEICで高得点を目指すにはまずはこういった基本的な知識が不可欠です。コンピュータソフトによる演習を導入し、これまで敬遠されがちだった文法問題にも取り組み易くなっています。

■授業の進め方（履修条件等）

レベルにより異なります。初回の授業で担当教員から授業の内容、進め方の説明がされます。受講者は、それぞれの先生の指示に従ってください。

■成績評価方法・基準

平常点（小テストなど）（40%）、中間試験（30%）、TOEIC IPテストのスコア（30%）

■授業の予習・復習

配布されるCD-ROMを使用し、指示に従って問題演習を終わらせ、小テストに備える。演習の量、範囲はレベルにより異なるため、担当教員の指示に従ってください。

■教科書

中級・上級 *Grammar in Use: Intermediate*. Raymond Murphy et al. Cambridge University Press, 2009.
 初級 *Grammar in Use: Basic*. Raymond Murphy et al. Cambridge University Press, 2010.
 入門 担当者によるテキスト

■参考文献

Oxford Wordpower Dictionary for Learners of English. Oxford University Press; 3rd Revised edition版

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	授業の進め方について	
2	Grammar①	Present Continuous and Simple Present
3	Reading Comprehension①	*テキストは各レベルにより異なります。受講者の上達の度合いに応じて随時適切な教材を配布。
4	Grammar②	Present Perfect and Past
5	Reading Comprehension②	*参照
6	Grammar③	Will
7	Reading Comprehension③	*参照
8	Grammar④	I will and I'm going to, Will be doing and will have done
9	Reading Comprehension④	*参照
10	中間試験（50分）	要点について解説
11	Grammar⑤	Could (do) and could have (done), Must
12	Reading Comprehension⑤	*参照
13	Grammar⑥	May and might
14	Reading Comprehension⑥	*参照
15	Grammar⑦	Should, Would
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	国際学部英語教員		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	College English II	College English II	対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	College English II	英語 II				

■授業のねらいと到達目標

1年の必修科目として基本にかえり、英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)を伸ばすための基礎となる知識を固めることが目的です。クラスは4レベル(入門、初級、中級、上級)6クラスに分けられ、受講者はそれぞれの英語運用能力に適った環境で学びますが、特に文法の知識の修得と読解力の向上に力を入れて指導します。定期試験は(年2回)TOEIC IPテストを受けることとなりますが、TOEICで高得点を目指すにはまずはこういった基本的な知識が不可欠です。コンピュータソフトによる演習を導入し、これまで敬遠されがらだった文法問題にも取り組み易くなっています。

■授業の進め方(履修条件等)

レベルにより異なります。初回の授業で担当教員から授業の内容、進め方の説明がされます。受講者は、それぞれの先生の指示に従ってください。

■成績評価方法・基準

平常点(小テスト)(40%)、中間試験(30%)、TOEIC IPテストのスコア(30%)

■授業の予習・復習

配布されるCD-ROMを使用し、指示に従って問題演習を終わらせ、小テストに備える。演習の量、範囲はレベルにより異なるため、担当教員の指示に従ってください。

■教科書

中級・上級 *Grammar in Use: Intermediate*, Raymond Murphy et al. Cambridge University Press, 2009.
初級 *Grammar in Use: Basic*, Raymond Murphy et al. Cambridge University Press, 2010.
入 門 担当者によるテキスト

■参考文献

Oxford Wordpower Dictionary for Learners of English. Oxford University Press; 3rd Revised edition版

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	TOEIC IPテスト結果について	
2	Grammar①	If and Wish
3	Reading Comprehension①	※テキストは各レベルにより異なります。受講者の上達の度合いに応じて随時適切な教材を配布。
4	Grammar②	Passive
5	Reading Comprehension②	※参照
6	Grammar③	Reported Speech
7	Reading Comprehension③	※参照
8	Grammar④	Articles and Nouns, -ing and the Infinitive
9	Reading Comprehension④	※参照
10	中間試験(50分)	要点について解説
11	Grammar⑤	Relative Clauses
12	Reading Comprehension⑤	※参照
13	Grammar⑥	Adjectives and Adverbs
14	Reading Comprehension⑥	※参照
15	Grammar⑦	Conjunctions and Prepositions
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	柳原由美子 Yumiko Yanagihara		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Writing I		対象学年	1 年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	Writing I		Writing I / Writing II			

■授業のねらいと到達目標

英語のライティングの基礎的なスキルを身につけることを目的とします。様々なテーマで英文を書くことを通して、センテンス・プラクティス、パラグラフ・ライティングを身につけていきます。

■授業の進め方(履修条件等)

テキストに沿って授業を進めていきます。したがって履修者は必ずテキストを購入してください。

■成績評価方法・基準

- 1) 平常点(小テストや提出物) 60%
- 2) 筆記試験(期末) 40%

■授業の予習・復習

予習: 予告された箇所を予め読んでおくこと
復習: 毎回の提出物

■教科書

『Get Your Message Across』 NAN'UN-Do

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価、プレゼンテーションなど
2	Introducing Yourself 1	Writing a sentence, capitalization
3	Introducing Yourself 2	Writing a paragraph about yourself
4	Writing about Family 1	Sentences with pronouns, conjunctions
5	Writing about Family 2	Writing a paragraph about your family
6	Writing about Activities 1	Sentences in the third person form
7	Writing about Activities 2	Writing about activities
8	Writing about Your Day 1	Using prepositions of time & frequency adverbs
9	Writing about Your Day 2	Writing about your day
10	Writing Descriptions 1	Using adjectives
11	Writing Descriptions 2	Writing descriptions
12	Writing about Places 1	Using prepositions of location
13	Writing about Places 2	Writing about places and objects
14	Writing Instructions 1	Using plural and singular nouns
15	Writing Instructions 2	Writing instructions
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山本陽子 Yoko Yamamoto		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Writing I		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	Writing I		Writing I / Writing II			

■授業のねらいと到達目標

This course is for the beginner or elementary learner of English. It aims to acquire the ability of writing E-mail in variety of situations. Through this course it is hoped that students will make good use of writing E-mail or sending messages using the Internet, not only in class, but also in their daily life.

■授業の進め方（履修条件等）

- (1) Check your placement test score.
- (2) Students should attend the first class to take this class.
- (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson.

■成績評価方法・基準

- (1) attendance (2) class exercises (3) homework
- (4) E-mail Composition (5) Final Test

■授業の予習・復習

予習：Prepare for the composition on every unit.
 復習：Practice what they learned in class by themselves as homework.

■教科書

An Introductory Course in Writing College English E-Mail

■授業内容

授業項目		授業内容
1	Guidance	Introduction of the course, E-mail and the Internet
2	Unit 1	SELF-INTRODUCTION
3	Unit 2	EXPRESSING THANKS
4	Unit 3	GIVING ENCOURAGEMENT
5	Unit 4	CONGRATULATIONS!
6	Unit 5	EXPRESSING CONCERN
7	Unit 6	AN INVITATION
8	Unit 7	APOLOGIZING
9	Unit 8	TALKING ABOUT A MOVIE
10	Unit 9	ASKING FOR ADVICE
11	Unit 10	GIVING AWAY A PET
12	Unit 11	MAKING A SUGGESTION
13	Unit 12	ASKING A FAVOR
14	Unit 13	MAKING AN APPOINTMENT
15	Unit 14	SENDING A GIFT
16	定期試験	

■参考文献

Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.

年 度	11年度入学		担 当 者	Scot Hill		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Writing I		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	Writing I		Writing I / Writing II			

■授業のねらいと到達目標

This is a beginning course in English writing. We will study both grammar and writing techniques. We will work toward increasing student's writing fluency as we study different types of writing.

■授業の進め方（履修条件等）

■成績評価方法・基準

Evaluation will be based on attendance, classroom work / attitude, homework and tests.

■授業の予習・復習

■教科書

Get Ready to Write-Second Edition (Pearson / Longman) By Blanchard / Root

■参考文献

■授業内容

回数	授業内容
1	Class introduction
2	Punctuation / writing introductions
3	Writing about a classmate
4	Writing about your family
5	And, so and but; paragraphs
6	Letters and postcards
7	Using 'when'; review
8	Test
9	Writing about activities
10	Writing in time sequence
11	Writing about your day
12	Writing descriptions about people
13	Writing descriptions about things
14	Review
15	Test

年 度	11年度入学		担 当 者	山下美樹 Miki Yamashita		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Writing II	英語Writing	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	Writing II		WritingⅢ / WritingⅣ			

■授業のねらいと到達目標

基本的な英文法を復習しながら、アカデミックライティングスキルの修得を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

基本文法の確認をしながら、分かりやすく、正確でまとまりのあるセンテンス、パラグラフを書くためのスキルを、様々なエクササイズを通して学びます。また、授業外では、毎日のジャーナルライティングを課題とします。

■成績評価方法・基準

授業参加度、期末試験、出席日数より評価。

- A : 100 ~ 90点 (欠席 0 ~ 1回)
- B : 89 ~ 80点 (欠席 2回以下)
- C : 79 ~ 70点 (欠席 3回以下)
- D : 69 ~ 60点 (欠席 4回以下)
- F : 59点以下 (欠席 5回以下)

■授業の予習・復習

予習：授業の初日に指示いたします。
復習：授業の初日に指示いたします。

■教科書

授業内で配付

■参考文献

なし

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	
2	パラグラフとは
3	基礎文法について
4 ライティングの導入	構文の構成について
5	フリーライティング
6	フリーライティングの添削
7	マインドマップの作成
8	
9 Time-order	Time-orderパラグラフとは
10 パラグラフ	Time-orderパラグラフの作成
11	Time-orderパラグラフの添削
12	
13 Descriptive	Descriptiveパラグラフとは
14 パラグラフ	Descriptiveパラグラフの作成
15	Descriptiveパラグラフの添削
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	Thomas O'Leary		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Writing II	英語Writing	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	Writing II		WritingⅢ / WritingⅣ			

■授業のねらいと到達目標

We will review simple writing strategies and practice composing in stages

■授業の進め方（履修条件等）

Students must have good attendance, participate actively, and complete coursework

■成績評価方法・基準

Final Scores will be based on composition work and quiz scores

■授業の予習・復習

No prior course needed

■教科書

The teacher will supply the study materials.

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 Course Explanation	Introduction
2 Principles	How To Select A Topic
3 Preparation	To Choose A Point of View
4 Organization	To Sketch A Full Draft
5 Quiz	Review of Key Points
6 Topic Assignments	To Combine Several Skills
7 Self-Assessment	To Analyze For Weaknesses
8 Editing	To Delete And Re-Write
9 Quiz	Practice Short Topics
10 Critique One	To Improve with Detail
11 Critique Two	To Expand A Context
12 Pacing Writing	To Write For Your Reader
13 Objectivity One	To Add Marks of Reference
14 Objectivity two	To Question Chain of Logic
15 Evaluation	Highlighting Course Goals
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	George Whalley		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Writing II	英語Writing	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	Writing II		WritingⅢ / WritingⅣ			

■授業のねらいと到達目標

This class is designed to build on the writing skills developed in Writing I. Emphasis will be placed on paragraph writing and composition skills.

■授業の進め方（履修条件等）

Students should have completed Writing I.

■成績評価方法・基準

Grading will be based in the quality and completion of weekly assignments, attendance and a final written assignment.

■授業の予習・復習

The instructor will provide materials however students should bring a dictionary to class.

■教科書

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Introductions	Information card
2	Understanding paragraphs	Topic sentence, body, conclusion
3	Organizing information by time	Explaining events in time order
4	Organizing information by importance	Explaining events based on importance
5	Organizing information by space	Explaining events based on position
6	The writing Process	Pre-writing, writing, correcting
7	Supporting the main idea	Facts and opinions
8	Describing	Using adjectives and adverbs
9	Letter writing	How to write a business letter
10	E-mail	How to write an e-mail
11	Comparing and contrasting	Using comparative and superlative forms
12	Reporting	Factual reporting
13	Reporting	Factual reporting (continued)
14	Creative writing	Story writing
15	Creative writing	Story writing (continued)
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	池嶋保幸 Yasuyuki Ikeshima		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Listening I		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	Listening I		Listening I / Listening II			

■授業のねらいと到達目標

Improve Listening ability by listening to various English. To get better understanding of the English sound system.

■授業の進め方（履修条件等）

Placement test の点数を確認して下さい。

■成績評価方法・基準

The grades will be based on the following : quizzes, attendance and class performance.

■授業の予習・復習

■教科書

プリント使用します (Printed material)

■参考文献

■授業内容

	授業内容
1	Introduction
2	
3	Listen to a song and study vocabulay
4	
5	Test
6	
7	Listen to a news and study vocabulay
8	
9	
10	Test
11	
12	Listen to segments of a movie and study vocabulary
13	
14	Review
15	Test
16	定期試験

年 度	11年度入学		担当 者	柳原由美子 Yumiko Yanagihara		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Listening II	英語Listening	対象学年	1 年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	Listening II		ListeningⅢ / ListeningⅣ			

■授業のねらいと到達目標

中級レベルの英語（基本英単語4500語以内、発話速度130～150WPM）を聞き取れるようにすることを目的とします。テキストの内容理解のみならず、フレーズリーディング、シャドウイングなどのタスクを通してリスニングに慣れていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストに沿って授業を進め、また、復習や予習ではテキスト添付のCD-ROMを使用することになるため、履修者は必ずテキストを購入してください。

■成績評価方法・基準

- 1) 平常点（小テストやシャドウイング）60%
- 2) 筆記試験（期末）40%

■授業の予習・復習

予習：テキストに付いているCD-ROMを使用しての個別学習
復習：パラレルリーディングとシャドウイング

■教科書

Setsuko Miyamoto *et al.* 『Inside Stories U.S.A. with Multimedia』 SEIBIDO

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業に必ず出席するようにしてください。

■授業内容

授業項目		授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価、プレゼンテーションなど
2	Chapter 1	The Birthplace of Jazz
3	Chapter 2	Lawsuit Society
4	Chapter 3	Is Gun Control Possible?
5	Chapter 4	Thanksgiving Day
6	Chapter 5	The Cowboy Tradition
7	Chapter 6	The Amish Way of Life
8	Chapter 7	Shopping for a Christmas Tree
9	Chapter 8	Seeking a Better Life
10	Chapter 9	Cocaine Babies
11	Chapter 10	Your Cigarettes or Your Job
12	Chapter 11	The Era of Designer Vegetables
13	Chapter 12	Volunteer Activity
14	Chapter 13	On the Road
15	Chapter 14	Jeans Are Forever
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担当 者	山本陽子 Yoko Yamamoto		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Listening II	英語Listening	対象学年	1 年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	Listening II		ListeningⅢ / ListeningⅣ			

■授業のねらいと到達目標

This course is for the students at pre-intermediate to intermediate levels. The purpose is to acquire four skills of English, focusing on mainly listening. Through the variety of exercises students will learn and practice many types of listening and speaking situations to communicate in English.

■授業の進め方（履修条件等）

- (1) Check your placement test score.
- (2) Students should attend the first class to take this class.
- (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson.

■成績評価方法・基準

- (1) attendance (2) class exercises (3) homework
- (4) quiz (5) final test

■授業の予習・復習

予習：Prepare for the review quiz before every class.
復習：Practice what they learned in class by themselves as homework.

■教科書

NEW AIRWAVES -Developing Better Listening Skills- (Second Edition)

■授業内容

授業項目		授業内容
1	Guidance	Introduction of the course
2	Unit 1	You're an Interesting Person!
3	Unit 2	What an Unusual Family!
4	Unit 3	TGIF (Thank God It's Friday)
5	Unit 4	Wow! Everything's on Sale
6	Unit 5	Listen to That Engine!
7	Unit 6	Got Any Travel Plans?
8	Unit 7	That's not Pizza!
9	Unit 8	Welcome to Las Vegas
10	Unit 9	Hey, Look at Her!
11	Unit 10	Meet Your Lucky Date!
12	Unit 11	Traveling Around Japan
13	Unit 12	Highlights in Sports
14	Unit 13	Shake, Rattle and Roll
15	Unit 14	I need a Job!
16	定期試験	

■参考文献

Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.

年 度	11年度入学		担 当 者	Jayne Ikeshima		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Speaking I		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	Speaking I		Speaking I / Speaking II			

■授業のねらいと到達目標

This class will emphasize accuracy and fluency of spoken American English for beginning level students. Vocabulary and grammatical structures will be introduced through everyday dialogs. Ample opportunities will be provided for speaking and listening practice. At the end of the course, students will be able to discuss all the topics listed in the weekly syllabus.

■授業の進め方（履修条件等）

Note : Students are required to have textbooks to attend class. Pre-reading of lessons is highly recommended. Freshmen should check their scores of the placement test.

■成績評価方法・基準

Grades will be based on participation and test scores.

■授業の予習・復習

予習 : Students should try to use as much English as possible in their daily lives.

復習 : Students should review the class material after each class, and do any homework that was assigned.

■教科書

Printed Material

■授業内容

回数	授業内容
1	Introductions
2	Telling about yourself
3	You and your family
4	Ordering at a restaurant
5	Talking about your job
6	Time
7	Mid-term exam
8	Weekends and week days
9	Seasons
10	Where do you live?
11	Directions
12	Things you can do
13	Things in the past
14	Review
15	Review
16	Final exam

■参考文献

Students should bring a dictionary to class.

年 度	11年度入学		担 当 者	Thomas O'Leary		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Speaking I		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	Speaking I		Speaking I / Speaking II			

■授業のねらいと到達目標

We will introduce a method to use conversation patterns for skill expansion

■授業の進め方（履修条件等）

Students must have good attendance, participate actively, and complete coursework.

■成績評価方法・基準

Scores will be based on class work, homework, and quizzes.

■授業の予習・復習

No prior course needed

■教科書

The teacher will supply the study materials.

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Course Explanation	Introduction
2	Principles	How To Prepare A Remark
3	Phrase work	To Select Connecting Points
4	Simple Combinations	To Practice Changing Parts
5	Quiz	Review of Basics
6	Sketching Dialogs	To Outline A simple Point
7	Selecting Words	To Class Similar Vocabulary
8	Word Groups	To Memorize Categories
9	Quiz	Review Word Selection
10	Memory Skills	To Introduce A Method
11	Reference Points	To List A Simple Planned Dialog
12	More Phrase work	To Strengthen Vocabulary
13	Quiz	Review of Key Concepts
14	Speaking Naturally	To Practice New Skills
15	Thinking In English	To Continue Making Progress
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	Scot Hill		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Speaking I		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	Speaking I		Speaking I / Speaking II			

■授業のねらいと到達目標

This is a course for high beginners. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive and students will be expected to work together in pairs as well as individually.

■授業の進め方（履修条件等）

■成績評価方法・基準

Evaluation will be based on attendance, class participation and tests.

■授業の予習・復習

■教科書

American HEADWAY 1-Second Edition (Oxford) By Liz and John Soars

■参考文献

■授業内容

回数	授業内容
1	Introductions / greetings
2	Question and answer practice
3	Meeting people / family
4	Verb-to be: negatives; possessives
5	Work / occupations
6	Leisure activities / hobbies
7	Questions and negatives; review
8	Test
9	Leisure activities / hobbies
10	Present simple tense
11	Locations; prepositions
12	Household items / places; some and any
13	Abilities / can / can't
14	Talking about the past; review
15	Test

年 度	11年度入学		担 当 者	J.IKESHIMA		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Speaking II	英語Speaking	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	Speaking II		Speaking III / Speaking IV			

■授業のねらいと到達目標

This class is a continuation of Speaking I. Students should be fairly confident with the basics of English conversation and be willing to speak up in class frequently. The course will be topic oriented and students will practice conversing on a variety of topics. At the end of the course, students will be able to discuss all the topics listed in the weekly syllabus.

■授業の進め方（履修条件等）

Students should attend the class on the first day for further explanation.

■成績評価方法・基準

Classroom participation will count heavily towards the final grade. Grading will be based on attendance / classroom work, homework, and tests.

■授業の予習・復習

予習：Students should try to use as much English as possible in their daily lives.

復習：Students should review the class material after each class, and do any homework that was assigned.

■教科書

Printed Material

■授業内容

回数	授業内容
1	Introductions : course overview
2	Talking about work
3	Talking about different countries
4	Talking about experiences
5	Talking about food
6	Suggesting and Inviting
7	Speaking Test
8	Talking about the future
9	Feelings and Emotions
10	Requesting
11	Giving advice and making suggestions
12	Talking about movies and television
13	Giving Directions
14	Making predictions
15	Review
16	Final test

■参考文献

Students should bring a dictionary to class.

年 度	11年度入学		担 当 者	Scot Hill		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Speaking II	英語Speaking	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	Speaking II		Speaking III / Speaking IV			

■授業のねらいと到達目標

This is a course for high beginners. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive and students will be expected to work together in pairs as well as individually.

■授業の進め方（履修条件等）

■成績評価方法・基準

Evaluation will be based on attendance, classroom work and tests.

■授業の予習・復習

■教科書

American HEADWAY 1-Second Edition (Oxford) By Liz and John Soars

■参考文献

■授業内容

回数	授業内容
1	Introductions / greetings
2	Question and answer practice
3	Past simple tense 1 ; irregular verbs
4	Past simple tense 2 ; times and dates
5	Time expressions / negatives
6	Count / non-count nouns; a and some
7	Much and many; review
8	Test
9	Present continuous; clothes
10	Describing people and feelings
11	Weather / the future
12	Comparatives and superlatives
13	Talking about things you have done
14	Ever and never; review
15	Test

年 度	11年度入学		担 当 者	J.IKESHIMA		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	World English I		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	World English I		World English I			

■授業のねらいと到達目標

People all over the world have learned English from American songs. Students will learn and sing English songs in class every week, and then will practice using words and expressions from the songs. Students will also learn something about the singers and artists whose songs are studied. At the end of the course students will be able to sing a variety of songs, and talk about the singers and artists who sang/wrote them.

■授業の進め方（履修条件等）

Students should attend the class on the first day for further explanation.

■成績評価方法・基準

Grades will be calculated on the basis of attendance and classwork, weekly quizzes, homework, and tests.

■授業の予習・復習

(Preparations): Students should try to use as much English as possible in their daily lives.
(Review): Students should review the class material after each class, and do any homework that was assigned.

■教科書

Printed Material

■参考文献

Students should bring a dictionary to class.

■授業内容

回数	授業内容
1	Introductions
2	Song # 1
3	Song # 2
4	Song # 3
5	Song # 4
6	Song # 5
7	Review
8	Test
9	Song # 6
10	Song # 7
11	
12	Song # 8
13	Song # 9
14	Song # 10
15	Review
16	Final Test

年 度	11年度入学		担 当 者	J.IKESHIMA		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	World English II		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	World English II		World English II			

■授業のねらいと到達目標

People all over the world enjoy American movies. Students will study a scene from a movie every week. At the end of the course students will be able to understand and use the expressions they have learned from the movie scenes, and they will better understand the English in movies that they watch on their own.

■授業の進め方（履修条件等）

Class space is limited, so students should attend the class on the first day if they want to be in the class.

■成績評価方法・基準

Grades will be calculated on the basis of attendance and classwork, weekly quizzes, homework, and tests.

■授業の予習・復習

(Preparations): Students should try to use as much English as possible in their daily lives.

(Review): Students should review the class material after each class, and do any homework that was assigned.

■教科書

Printed Material

■参考文献

Students should bring a dictionary to class.

■授業内容

回数	授業内容
1	Introductions
2	Movie Scene # 1
3	Movie Scene # 2
4	Movie Scene # 3
5	Movie Scene # 4
6	Movie Scene # 5
7	Review
8	Test
9	Movie Scene # 6
10	Movie Scene # 7
11	
12	Movie Scene # 8
13	Movie Scene # 9
14	Review
15	Review
16	Final Test

年 度	11年度入学		担 当 者	Thomas O'Leary		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Debate I		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	Debate I (教職)		Debate I			

■授業のねらいと到達目標

We will outline the main concepts to plan and engage in a debate about a variety of topics.

■授業の進め方（履修条件等）

Students must have good attendance, participate actively, and complete coursework

■成績評価方法・基準

Scores will be based on class participation, Quiz results and homework preparation

■授業の予習・復習

No prior course needed

■教科書

The teacher will supply the study materials.

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Course Explanation	Introduction
2	Definitions	What Debate Can Achieve
3	Comparisons	How To Prepare
4	Structuring	To Defend A Position
5	Analyzing	Removing Inessential Points
6	Quiz	Debate Theory Reviewed
7	Teamwork	To Organize A Strategy
8	Role Assignments	To Research A Strategy
9	Appraisal	To Edit Collected Material
10	Development	Presenting A Full Argument
11	Quiz	To Study Examples of Problems
12	Interacting	Practical Examples of Points
13	Measuring Success	To Judge Effectiveness
14	Re-Examining	To Identify Strong Closings
15	Evaluation	To Review Our Objectives
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	Thomas O'Leary		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Debate II		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	Debate II (教職)		Debate II			

■授業のねらいと到達目標

We will examine how a debate topic is structured and developed well

■授業の進め方（履修条件等）

Students must have good attendance, participate actively, and complete coursework

■成績評価方法・基準

Scores will be based on regular participation, prepping be fore class and long quizzes

■授業の予習・復習

No prior course needed

■教科書

The teacher will supply the study materials.

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Course Explanation	Introduction
2	Context	How To Judge A Topic
3	Viewpoint	To Maximize Research Skills
4	Practice	To Pre-Plan A Debate
5	Character	To Refine A Presentation
6	Quiz	Outline of Main Points
7	Situation	To Edit For Practice
8	Events	To Cite Everyday Examples
9	Expansion	To Make Generalizations
10	Accuracy	To Use Statistics Well
11	Quiz	Review of Key Guidelines
12	Structure	Start to Finish your Case
13	SELECTIVENESS	To Order Point Sequences
14	STYLE	To Delegate Debate Sections
15	Evaluation	To Add Final Comments
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	J.IKESHIMA		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	English for Children I	English for Children I	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	English for Children I					

■授業のねらいと到達目標

This is a course to introduce students to the traditional rhymes, games, and songs played and sung by American children. At the end of the course, students will know, understand, and be able to sing or recite all of the items listed in the weekly syllabus.

■授業の進め方（履修条件等）

Class space is limited, so students who want to be in the class should attend the class on the first day.

■成績評価方法・基準

Grading will be based on attendance and classwork, homework, quizzes, and tests.

■授業の予習・復習

予習：Students should try to use as much English as possible in their daily lives.

復習：Students should review the class material after each class, and do any homework that was assigned.

■教科書

Printed Material

■参考文献

Students should bring a dictionary to class.

■授業内容

回数	授業内容
1	Introductions
2	Eensy Weensy Spider
3	Peanut Butter
4	Head and Shoulders
5	Rain Rain Go Away
6	Bingo
7	Review
8	Test
9	The Ants Go Marching
10	Skinamarink
11	Word Puzzles and Jokes
12	There Was an Old Woman Who Lived in a Shoe
13	U.S. Animated Cartoons
14	Review
15	Review
16	Final exam

年 度	11年度入学		担 当 者	J.IKESHIMA		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	English for Children II	English for Children II	対象学年	1 年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	English for Children II					

■授業のねらいと到達目標

This course is a continuation of English for Children I. It will introduce students to more of the traditional rhymes, games, and songs played and sung by American children. At the end of the course, students will understand and be able to play/sing/recite a variety of games and songs.

■授業の進め方（履修条件等）

Class space is limited, so students who want to be in the class should attend the class on the first day.

■成績評価方法・基準

Grading will be based on attendance and classwork, homework, quizzes, and tests.

■授業の予習・復習

予習：Students should try to use as much English as possible in their daily lives.

復習：Students should review the class material after each class, and do any homework that was assigned.

■教科書

Printed Material

■参考文献

Students should bring a dictionary to class.

■授業内容

回数	授業内容
1	Introductions
2	Counting Games
3	Alphabet Games
4	Songs
5	Rhymes and Rhythms
6	Poetry
7	Reading and Stories
8	Test
9	Jazz Chants
10	Jokes and Riddles
11	Word Puzzles
12	Vocabulary and Hidden Pictures
13	Television and Cartoons
14	Review
15	Review
16	Final Test

年 度	11年度入学		担 当 者	佐藤佳子 Keiko Sato		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Mother Goose I	Mother Goose I	対象学年	1 年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	Mother Goose I	Mother Goose I	Mother Goose I	Mother Goose I		

■授業のねらいと到達目標

イギリスに古くから伝わる伝承童謡であるマザー・グースの唄について学びます。イギリスの家庭教育の教科書とも言われている『マザー・グース』を暗唱しましょう。声に出して歌うことで、英語学習にも大いに役立ちます。この授業ではマザー・グースの英語のリズムを身に付けることを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

楽しく歌って、踊って、英語のリズムを身につけましょう。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加、課題、試験などを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：事前にテキストを読むこと。

復習：暗唱できるように繰り返し声に出して歌う。

■教科書

『マザー・グースの世界』南雲堂

■参考文献

平野敬一『マザー・グースの唄－イギリスの伝承童謡』

中公新書

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	『マザー・グースの唄』とは
2	Hush-A-Bye, Baby	子守歌
3	This Little Pig	赤ちゃんの歌
4	Ride A Cock-Horse	遊び歌①
5	Pease Porridge Hot	手叩き歌
6	Ring-A-Ring O' Roses	『マザー・グース』と時代背景
7	Oranges and Lemons	遊び歌②
8	London Bridge	遊び歌③
9	Baa, Baa, Black Sheep	遊び歌④
10	Ladybird	遊び歌⑤
11	Hickory Dickory Dock	かくれんぼ遊び
12	Little Miss Muffet	歴史上人物①
13	Little Boy Blue	歴史上人物②
14	Mary Mary	歴史上人物③
15	まとめ	イギリスにおける『マザー・グースの唄』
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	佐藤佳子 Keiko Sato		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	Mother Goose II	Mother Goose II	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	Mother Goose II	Mother Goose II	Mother Goose II		Mother Goose II	

■授業のねらいと到達目標

イギリスに古くから伝わる伝承童謡であるマザー・グースの唄について学びます。イギリスの家庭教育の教科書とも言われている『マザー・グース』を暗唱しましょう。声に出して歌うことで、英語学習にも大いに役立ちます。この授業ではマザー・グースの英語のリズムを身に付けることを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

楽しく歌って、踊って、英語のリズムを身につけましょう。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加、課題、試験などを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：事前にテキストを読むこと。

復習：暗唱できるように繰り返し声に出して歌う。

■教科書

『マザー・グースの世界』南雲堂

■参考文献

平野敬一『マザー・グースの唄－イギリスの伝承童謡』

中公新書

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	『マザー・グースの唄』由来について
2 Three Blind Mice	輪唱
3 Pussy Cat, Pussy Cat	ネコの歌
4 Georgie Porgie	歴史上人物について
5 Little Bo-Peep	物語歌
6 One, Two, Buckle My Shoe	数え歌
7 Peter Piper	早口ことば
8 Sing A Song Of Sixpence	物語歌
9 The Old Woman In A Shoe	Old Womanについて
10 To The Rain	イギリスの天気
11 Hot Cross Buns	復活祭
12 Humpty Dumpty	なぞなぞ
13 Hey Diddle Diddle	ナンセンス詩
14 Jack and Jill	古くから受け継がれてきた歌
15 まとめ	日本における『マザー・グースの唄』
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山影統 Subaru Yamakage		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	中国語 I	中国語 I	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	中国語 I		中国語 I			

■授業のねらいと到達目標

中国語 I では、中国語の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、発音の学習を重点的に行い、併せて最も基本的な文法を同時に学んでいく。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には指定された教科書に沿って行う。

履修条件：中国に興味があること。母語が中国語でない者。

■成績評価方法・基準

テスト60%、平常点（含、小テスト）40%

■授業の予習・復習

予習：付属のCDを聞きながら教科書の本文を読んでおくこと。

復習：教科書に付録されている問題集をやること。

■教科書

竹島金吾 監修、尹 景春・竹島 毅 著

『<最新版> 中国はじめの一步』（白水社、2005年）

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 中国と中国語	オリエンテーション。
2 発音①四声と母音	「四声」と母音の練習。
3 発音②子音の発音	子音の練習。
4 発音③鼻母音の発音	鼻母音の練習。
5 発音④複合母音	複合母音の練習。
6 発音学習の総復習	これまで学んできた発音の総復習。
7 中間テスト	発音のテスト。
8 教科書第一課「你贵姓？」	新出単語、文法（人称代名詞、「是」の文）。
9 教科書第一課②	本文精読。
10 教科書第二課「这是什么？」	新出単語、文法（指示代名詞、疑問詞疑問文）。
11 教科書第二課②	文法の続き（「的」の用法、副詞）、本文精読。
12 教科書第三課「你去哪儿？」	新出単語、文法（動詞の文、所有の「有」）。
13 教科書第三課②	文法の続き（省略疑問文）、本文精読。
14 教科書第四課「这个戒指多少？」	新出単語、文法（助数詞、指示代名詞②）、形容詞。
15 教科書第四課②	文法の続き（数を問う疑問詞）、本文精読。
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山影統 Subaru Yamakage		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	中国語Ⅱ	中国語Ⅱ	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	中国語Ⅱ		中国語Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

中国語Ⅱでは、中国語Ⅰで身に付けた基本的な発音と文法の知識の底上げと共に、使用頻度の高い語彙と文法を習得することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には指定された教科書に沿って行う。
履修条件：中国語Ⅰを履修済みであること。

■成績評価方法・基準

テスト60%、平常点（含、小テスト）40%

■授業の予習・復習

予習：付属のCDを聞きながら教科書の本文を読んでおくこと。
復習：教科書に付録されている問題集をやること。

■教科書

竹島金吾 監修、尹 景春・竹島 毅 著
「<最新版> 中国はじめの一步」(白水社、2005年)

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	中国語Ⅰの復習①	
2	中国語Ⅰの復習②	
3	教科書第五課「你吃饭了吗？」	新出単語、文法（完了の「了」、所在の「在」）
4	教科書第五課②	文法の続き（助動詞「想」、本文精読）
5	教科書第六課「你晚上有事吗？」	新出単語、文法（数字、日付・時刻）
6	教科書第六課②	文法の続き（動作の時点の使い方）、本文精読
7	教科書第七課「你在哪儿住？」	新出単語、文法（介詞の「在」「离」、所在の「有」）
8	教科書第七課②	文法の続き（反復疑問文）、本文精読
9	中間テスト	
10	中間テスト②	中間テストの答え合わせ。
11	教科書第八課「你一个星期干几天？」	新出単語、文法（時間量、助動詞「得」）
12	教科書第八課②	文法の続き（介詞「从」）、本文精読
13	教科書第九課「你去过美国吗？」	新出単語、文法（経験の「过」、「是…的」の文）
14	教科書第九課②	文法の続き（介詞の「跟」「给」）、本文精読
15	総復習	
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山影統 Subaru Yamakage		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	中国語Ⅲ		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	中国語Ⅲ		中国語Ⅲ			

■授業のねらいと到達目標

中国語Ⅲでは、中国語Ⅰ・Ⅱで身に付けた発音と文法を基に、より実用的な中国語の習得を目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には指定された教科書に沿って行う。
履修条件：中国語Ⅰ・Ⅱを履修済みであること。

■成績評価方法・基準

テスト60%、平常点40%

■授業の予習・復習

予習：付属のCDを聞きながら教科書の本文を読んでおくこと。
復習：教科書に付録されている問題集をやること。

■教科書

竹島金吾 監修、尹 景春・竹島 毅 著
「<最新版> 中国はじめの一步」(白水社、2005年)

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	中国語Ⅰ・Ⅱの復習①	
2	中国語Ⅰ・Ⅱの復習②	
3	教科書第十課「你酒量怎么样？」	新出単語、文法（助動詞「能」「会」）
4	教科書第十課②	文法の続き（様態補語、動詞の重ね型）、本文精読
5	教科書第十一課「你在干什么呢？」	新出単語、文法（動作の進行の「在…呢」、連動文「～しに来る、～しに行く」）
6	教科書第十一課②	文法の続き（選択疑問文、目的語の倒置）
7	教科書第十二課「北京的人口比上海多吗？」	新出単語、文法（比較の表現、類似の表現）
8	教科書第十二課②	本文精読
9	中間テスト①	
10	中間テスト②	中間テストの答え合わせ。
11	教科書第十三課「祝你旅途愉快！」	新出単語、文法（二つの目的語をとる動詞、的の用法②）
12	教科書第十三課②	文法の続き（目的語が主述句の時）、本文精読
13	プリント教材	
14		
15	総復習	
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山影統 Subaru Yamakage		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	中国語Ⅳ		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	中国語Ⅳ		中国語Ⅳ			

■授業のねらいと到達目標

中国語Ⅳでは、中国語Ⅰ～Ⅲで身に付けた発音と文法を基に、より本格的な応用可能な中国語の習得を目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には指定された教科書に沿って行う。また、中国語Ⅳは基礎をできていないものとみなし、授業の進行速度を速める。
履修条件：中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修済みであること。

■成績評価方法・基準

テスト60%、平常点40%

■授業の予習・復習

予習：付属のCDを聞きながら教科書の本文を読んでおくこと。
復習：教科書に付録されている問題集をやること。

■教科書

竹島金吾 監修、尹 景春・竹島 毅 著
『中国つぎへの一歩』（白水社、2010年）

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 中国語Ⅰ～Ⅲの復習	
2 中国語Ⅰ～Ⅲの復習②	
3 教科書第1課中国にこう！	本文精読と文法（助動詞、主述述語文、他）
4 教科書第2課ジャスミン茶を飲もう！	本文精読と文法（的の用法、助詞、他）
5 教科書第3課友達をつくろう！	本文精読と文法（連動文、他）
6 教科書第4課長城に登ろう！	本文精読と文法（了の用法、副詞）
7 教科書第5課卓球を楽しもう！	本文精読と文法（様態補語、他）
8 教科書第6課漢字を覚えよう！	本文精読と文法（結果補語、他）
9 中間テスト	
10 教科書第7課街を歩こう！	本文精読と文法（存現文、～了～了、他）
11 教科書第8課中国語を見よう！	本文精読と文法（状態の持続、疑問詞の不定用法）
12 教科書第9課チャイナドレスを買おう！	本文精読と文法（方向補語、使役動詞）
13 教科書第10課中華を食べよう！	本文精読と文法（可能補語、強調表現）
14 教科書第11課西遊記を読もう！	本文精読と文法（結果補語②、受身の表現）
15 教科書第12課春節を祝おう！	本文精読と文法（快～了、他）
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	白川理恵 Rie Shirakawa		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	フランス語Ⅰ	フランス語Ⅰ	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	フランス語Ⅰ		フランス語Ⅰ			

■授業のねらいと到達目標

はじめてフランス語を学ぶ人が、初歩のフランス語文法を学び、基本会話に必要な語彙と基礎知識を習得することを旨とする。日常よく使う簡単な会話表現を中心に、「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

AV機器を活用し、「聞き」「話す」練習を行う。同時に教科書と付属CDの練習問題で、繰り返し基礎文法と語彙力をつけていく。授業は毎回の積み重ねを前提に進めていくので、できるだけ欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、受講姿勢（30%）、出席状況（20%）
上記を総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書付属のCDをよく聞いておくこと。
復習：授業のはじめに、前回学んだ内容について簡単な書き取りを行うので、指定された文章をCDでよく聞き復習しておくこと。

■教科書

『バスカル・オ・ジャポン』藤田裕二著、白水社、2006年（1年次で前半を使用）

■参考文献

仏和辞典（書名は指定しない。電子辞書も可）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	あいさつをする
2 Leçon 0	いろいろなものの名前を発音する
3 Leçon 1	国籍を言う（動詞être）
4 Leçon 1	国籍を言う（国籍を表す名詞）
5 Leçon 2	名前を言う（Je m'appelle...）
6 Leçon 2	職業を言う（職業を表す名詞）
7 Leçon 2	職業を言う（形容詞の性・数）
8 発音と綴り字のまとめ	フランス語の発音と綴り字の読み方
9 Leçon 3	これは～です（指示代名詞）
10 Leçon 3	これは～です（不定冠詞）
11 Leçon 3	～を持っています（動詞avoir）
12 Leçon 4	趣味を語る（定冠詞）
13 Leçon 4	趣味を語る（疑問文）
14 Leçon 4	趣味を語る（疑問形容詞）
15 Exercices 1	Leçon 1～4のまとめ、Civilisation フランスの文化
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	白川 理恵 Rie Shirakawa		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅱ	対象学年	1年	単位	1
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	フランス語Ⅱ		フランス語Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

はじめてフランス語を学ぶ人が、初歩のフランス語文法を学び、基本会話に必要な語彙と基礎知識を習得することを旨とする。日常よく使う簡単な会話表現を中心に、「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

AV機器を活用し、「聞き」「話す」練習を行う。同時に教科書と付属CDの練習問題で、繰り返し基礎文法と語彙力をつけていく。授業は毎回の積み重ねを前提に進めていくので、できるだけ欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、受講姿勢（30%）、出席状況（20%）
上記を総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書付属のCDをよく聞いておくこと。
復習：授業のはじめに、前回学んだ内容について簡単な書き取りを行うので、指定された文章をCDでよく聞き復習しておくこと。

■教科書

『バスカル・オ・ジャポン』藤田裕二著、白水社、2006年（1年次で前半を使用）

■参考文献

仏和辞典（書名は指定しない。電子辞書も可）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の説明と前期の復習
2 Leçon 5	誰か尋ねる（否定文）
3 Leçon 5	誰か尋ねる（疑問代名詞qui）
4 Leçon 5	～がある（非人称構文il y a...）
5 Leçon 6	したいことを尋ねる（前置詞と定冠詞の縮約）
6 Leçon 6	したいことを尋ねる（指示形容詞）
7 Leçon 6	したいことを尋ねる（否定疑問文と応答）
8 動詞の活用まとめ	動詞の活用表の見方（動詞-er, -ir, vouloir, pouvoir）
9 Leçon 7	住んでいる所を言う（人称代名詞の強勢形）
10 Leçon 7	住んでいる所を言う（所有形容詞）
11 Leçon 7	住んでいる所を言う（動詞connaître）
12 Leçon 8	何をしているか尋ねる（疑問代名詞que）
13 Leçon 8	何をしているか尋ねる（場所を表す前置詞）
14 Leçon 8	何をしているか尋ねる（動詞faire）
15 Exercices 2	Leçon 5～8のまとめ、Civilisation フランスの文化
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	矢澤達宏 Tatsuhiro Yazawa		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	ポルトガル語Ⅰ	ポルトガル語Ⅰ	対象学年	1年	単位	1
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	ポルトガル語Ⅰ					

■授業のねらいと到達目標

初学者を対象にブラジル・ポルトガル語の基礎を学びます。ブラジルが世界に誇るサンバやボサノヴァといった音楽も、そしてサッカーも、ポルトガル語が少しかれば、きっと何倍にも楽しめます。それに日本で暮らす外国人のなかでブラジル人は第3位の多さ。教員志望の人も、ブラジル人児童・生徒の指導にきっと役立ちます。

■授業の進め方（履修条件等）

基礎から学び始めるので、これまで勉強したことのない人でも問題ありません。授業では、皆さんに発音をしてもらったり、練習問題を解いてもらったりするので、出席が非常に大事になります。映画や音楽も使う予定です。

■成績評価方法・基準

平常点（出席と授業中の回答など）と学期末のテストの総合評価とする予定です。

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で指示されたテキストの範囲に目を通し、意味のわからない単語は辞書で調べておいて下さい。
復習：宿題以外では、授業中に扱うことの出来なかった練習問題などに自主的に取り組みれば効果的でしょう。

■教科書

兼安シルビア典子『生きたブラジルポルトガル語【初級】』（同学社、2006年）を使用します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方や成績評価についての説明
2 基本的な挨拶・表現	日常会話でよく使うフレーズ
3	発音（母音）
4 テキスト第1課	発音（子音）とアクセント
5	動詞serの活用と用法
6 テキスト第2課	ポルトガル語における性と数
7	疑問文・否定文
8	指示詞
9 テキスト第3課	所有詞
10	練習問題
11	数詞・曜日・月
12 テキスト第4課	複数形の作り方
13	形容詞
14 テキスト第5課	練習問題
15 学習内容の復習	既習範囲の要点の復習
16 定期試験	

■参考文献

辞書は、池上孝夫ほか編『現代ポルトガル語辞典（改訂版）』（白水社、2005年）を薦めます。

年 度	11年度入学		担 当 者	矢澤達宏 Tatsuhiro Yazawa		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	ポルトガル語Ⅱ	ポルトガル語Ⅱ	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	ポルトガル語Ⅱ					

■授業のねらいと到達目標

「ポルトガル語Ⅰ」につづき、ブラジル・ポルトガル語の基礎を学びます。簡単なコミュニケーションがとれる程度が目標です。したがって読解だけでなく、「話す」、「聴く」の練習にもできる限り時間をさきたいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

原則として「ポルトガル語Ⅰ」を履修した後にこの授業をとって下さい。映画や音楽を使って「生きた」ポルトガル語を学ぶ機会も、少しずつ増やしていきたいと思います。

■成績評価方法・基準

平常点（出席と授業中の回答など）と学期末のテストの総合評価とする予定です。

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で指示されたテキストの範囲に目を通し、意味のわからない単語は辞書で調べておいて下さい。
復習：宿題以外では、授業中に扱うことの出来なかった練習問題などに自主的に取り組みれば効果的でしょう。

■教科書

兼安シルビア典子『生きたブラジルポルトガル語 [初級]』（同社、2006年）を使用します。

■参考文献

辞書は、池上岑夫ほか編『現代ポルトガル語辞典〔改訂版〕』（白水社、2005年）を薦めます。

■授業内容

回数	授業内容
1	「ポルトガル語Ⅰ」の復習 既習の文法事項の要点を復習
2	規則動詞の現在形
3	前置詞・疑問詞
4	時刻の表現
5	時間の表現
6	動詞estar
7	現在進行形
8	不規則動詞（ter, querer, fazer）
9	練習問題
10	不規則動詞（ir, vir）
11	練習問題
12	不規則動詞（poder, conseguir）
13	練習問題
14	不規則動詞（saber, conhecer）
15	練習問題
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	金三順 Samsoon Kim		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	朝鮮語Ⅰ	朝鮮語Ⅰ	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	朝鮮語Ⅰ		朝鮮語Ⅰ			

■授業のねらいと到達目標

はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象にし、朝鮮語を表記する文字であるハングルの書き方・読み方を学んだ上、初歩的な会話と簡単な作文ができるようになることを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

指定したテキストに基づいて進めていきます。テキストの索引を利用するので、辞書は必要ではありません。

■成績評価方法・基準

出席（30%）と小テストおよびレポート（40%）、期末テスト（30%）などによる総合的な評価となります。

■授業の予習・復習

予習：初出の単語はテキストについているCDで聞いてみます。
復習：課題を出した内容を繰り返して書き読みします。

■教科書

『やさしく学べる韓国語 初級』 金三順・北村唯司著 白帝社 2009.12.1

■参考文献

『韓国語の初歩 改訂版』 嚴基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友文 著 白水社 2010. 3

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	ハングルの仕組み	ハングルの仕組みを説明する。
2	第1課	単母音の8個の発音と書き方を学習する。
3	第2課	重母音6個の発音と書き方を学習する。
4	簡単な挨拶の表現	簡単な挨拶で学習した母音を復習する。
5	第3課	子音9個の発音と書き方を学習する。
6	第4課	子音10個の発音と書き方を学習する。
7	簡単な日常会話	簡単な日常会話を学習する。
8	第5課	重母音7個の発音と書き方を学習する。
9	第6課 終声	終声の発音を学習する。
10	第7課 発音変化(1)	「連音化」と「h音弱化」を学習する。
11	第7課 発音変化(2)	「激音化」と「鼻音化」を学習する。
12	第8課 ハングル表記	日本語の仮名をハングルでの表記を学習する。
13	第9課	体言の丁寧な表現を学習する。
14	第10課	体言の否定表現を学習する。
15	総復習	単語の読み書き、文章の解釈と作文等を総復習する。
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	金三順 Samsoon Kim		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	朝鮮語Ⅱ	朝鮮語Ⅱ	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	朝鮮語Ⅱ		朝鮮語Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

朝鮮語を表記する文字であるハングルの読み、書きができる人を対象にします。朝鮮語Ⅰよりやや複雑な文章を学び、日常的な会話と作文ができるようになることを目指します。また、言葉の背景にある文化の映像も視聴することになります。

■授業の進め方（履修条件等）

指定したテキストに基づいて進めていきます。テキストの索引を利用するので、辞書は必要ではありません。

■成績評価方法・基準

出席（30%）と小テストおよびレポート（40%）、期末テスト（30%）などによる総合的な評価となります。

■授業の予習・復習

予習：初出の単語や文章をテキストについているCDで聞いてみます。

復習：学習した単語や本文の読みと解釈などを復習します。

■教科書

『やさしく学べる韓国語 初級』 金三順・北村唯司著 白帝社 2009.12.1

■参考文献

『韓国語の初歩 改訂版』 厳基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈 著 白水社 2010. 3

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	文字および簡単な文章の読み書きを復習する。
2 第11課	用言の丁寧な表現と好き嫌いの表現を学習する。
3 第12課	用言の否定表現を学習する。
4 第13課	体言の打ち解けた丁寧な表現を学習する。
5 小テスト	小テストおよび映像を視聴する。
6 第14課	用言の丁寧な表現を学習する。
7 第15課	数詞（漢字語・固有語）と単位を学習する。
8 第16課	指定詞の尊敬形を学習する。
9 小テスト	小テストおよび映像を視聴する。
10 第17課	用言の尊敬形（畏まった表現）を学習する。
11 第18課	用言の尊敬形（打ち解けた表現）を学習する。
12 映画視聴1	映画の紹介と視聴。
13 映画視聴2	映画の感想文を書く。
14 第19課	依頼の表現を学習する。
15 第20課	過去の表現を学習する。
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	Oudaimah Muhamad Abdalah		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	外国語特殊Ⅰ	外国語特殊Ⅰ	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	アラビア語Ⅰ		アラビア語Ⅰ			

■授業のねらいと到達目標

アラビア語に親しみをもち、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになることを目指す。自分の名前も書けるようにしましょう。アラビア語は世界の21ヶ国の公用語。決して複雑な難しい言語ではありません。

■授業の進め方（履修条件等）

アラビア語をきちんと身につけるために、発音や書き方を重視し、くり返し練習します。学生の習熟度に合わせて柔軟に確実に授業を進めます。必要に応じてカセットなども活用していきます。

■成績評価方法・基準

出席と積極的に授業に取り組む姿勢 約50%
試験 約50%

■授業の予習・復習

授業を重視します。予習・復習の宿題はごく簡単なものとしません。

■教科書

本田孝一『たのしいアラビア語』たまいらぼ（コピー配布）

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 アラビア語の文字 (1)	28字の独立形の形と発音、書き方
2 // (2)	つなぎ文字
3 // (3)	つなぎ文字、太陽文字、月文字
4 // (4)	母音記号
5 挨拶と自己紹介(1)	「お名前は?」「私の名前は○○です」
6 // (2)	1日の挨拶、アルファベットの書きとり
7 // (3)	// 、定冠詞
8 復習	アルファベットの書き方、聞きとり、書きとり
9 名詞文 (1)	主語・述語
10 // (2)	疑問詞「これは何ですか?」「この人は誰?」
11 人称代名詞 (1)	単数
12 // (2)	単数
13 名詞の男性形・女性形 (1)	
14 // (2)	
15 アラビア語Ⅰの復習と試験準備	
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	Oudaimah Muhamad Abdalah		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	外国語特殊Ⅱ	外国語特殊Ⅱ	対象学年	1年	単位	1
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	アラビア語Ⅱ		アラビア語Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

アラビア語圏のどの国に行っても、自分でコミュニケーションし行動できるようなアラビア語力を身につけます。

■授業の進め方（履修条件等）

アラビア語をきちんと身につけるために、発音や書き方を重視し、くり返し練習します。学生の習熟度を確かめながら授業を進めます。

■成績評価方法・基準

出席と積極的に授業に取り組む姿勢 約50%
試験 約50%

■授業の予習・復習

授業を重視します。予習、復習の宿題はごく簡単なものとしめます。

■教科書

本田孝一『たのしいアラビア語』たまらいぼ（コピー配布）

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 挨拶と自己紹介(1)	男性形・女性形に気をつけた会話練習
2 //	(2) 書き方、読み方
3 肯定文・否定文(1)	「～です」「～ではありません」「～ですか?」
4 //	(2) 書き方、読み方
5 指示代名詞(1)	「これは」「あれは」
6 //	(2) 「はい、これは○○です」「いいえ、あれは○○ではありません」
7 復習	
8 接尾代名詞	「彼女の名前は…」「私の家は…」
9 能動分詞(1)	「～する人」「～するところ」
10 //	(2) 書き方、読み方
11 数詞(1)	数のかぞえ方、「何才ですか?」「いくらですか?」
12 //	(2) 書き方、読み方
13 「空港で」	会話練習、書き方、読み方
14 「買物」	//
15 アラビア語Ⅱの復習と試験準備	
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	銅直信子 Nobuko Dobeta		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	総合日本語Ⅰ		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名						

■授業のねらいと到達目標

「聞く・話す・読む・書く」の4技能を総合的に向上させ、基礎的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書に沿って、歴史上に名を残した人物や現在活躍中の人物の生き方、考え方を中心に学んでいく。コンテキストの中での文法的、意味的関係の捉え方を学習することによって、読む力、書く力を養っていく。また、ビデオ・DVDを視聴し、内容や意見を発表することで聞く力、話す力を養っていく。加えて漢字力・語彙力・文法力の強化を図る。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語能力試験N2程度の日本語能力を有する学生を想定して授業を進める。各課の「表現技術」にある文型をモデルに短文を作り、授業後提出する。添削して返却するので、正しい表現を確認する。文法を中心とした授業では教科書に沿って各課の文法項目の理解を深め、上級文法へと繋げていく。クラス内テストを実施し既習項目の定着を図る。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、レポート・クラス内テスト30%、クラス活動点10%、出席点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙表の中の漢字の読み方・意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。文法の教科書の各課のポイントを読む。復習：返却された小レポートの正しい表現をよく復習する。本文の音読を繰り返す。文法問題では、正答と違った答えを出した場合なぜ間違えたかを理解する。

■教科書

『日本語の表現技術 読解と作文 上級』倉八順子 古今書院 2,500円
『中級日本語文法要点整理ポイント20』友松悦子 スリーエーネットワーク 2,000円+税

■参考文献

『大学で学ぶための日本語ライティング』佐々木瑞枝 The Japan Times
『読解・発表ワークブック』犬飼康弘 スリーエーネットワーク
『小論文への12のステップ』友松悦子 スリーエーネットワーク

■授業内容（月曜日）

授業項目	授業内容
1 ガイダンス・記述文作成	ガイダンス後、「記述文」を400字以内で書く。
2 第1課「松下幸之助素直な心」	定規の表現を使って短文づくり。本文を精読する。
3 第1課	疑問に答える。要約文を作成する。
4 第2課「瀧川秀樹 目に見えないもの」	分類の表現を使って短文づくり。本文を精読する。
5 第2課	新聞教材「見えないものを見つけろ」漢字小テスト
6 第3課「緒方貞子難民つらくらめ世界へ」	新聞教材「大きな政府と小さな政府」を読み、意見を述べる。本文を精読し、設問に答える。ビデオを見て、内容をまとめる。
7 第4課「森英恵ファッションから日本人を考える」	意見を発表する。文化の特徴について述べる。漢字小テスト
8 第5課「伊達公子 後悔ない」	本文を精読する。現在の活躍を見る。
9 第6課井深大「創造的技術力を備えた経営者」	引用の作法を学ぶ。漢字練習後、本文を精読する。漢字小テスト
10 第6課	新聞教材「リーダーの魅力」
11 第7課「本田宗一郎 仕事を楽しむ」	分類による説明に使われる表現を学ぶ。本文を精読する。漢字小テスト
12 第7課	「本田宗一郎」について学ぶ。
13 ブックレポート	各グループでテーマを決める。
14 ブックレポート	レジュメを作る。プレゼンの技術と作法を学ぶ。
15 ブックレポート	各グループ発表・質疑応答→ディスカッション ブックレポートの発表内容をまとめて提出する（各自宿題）。
16 定期試験	

■授業内容（水曜日）

1 ガイダンス・文法テスト	ガイダンスを行った後、文法テストを行う。
2 1課	助詞の問題
3 2課	話題の取り立て
4 3課	助詞の働きをする言葉1
5 4課	助詞の働きをする言葉2
6 5課	助詞の働きをする言葉3
7 まとめテスト	テスト・小論文の書き方①
8 6課	名詞化の方法「こと」と「が」
9 7課	複文構造・複文の中の「は」と「が」・時制
10 8課	名詞修飾 小論文の書き方②
11 9課	複文を作る言葉 1 時制
12 10課	複文を作る言葉 2 一仮定の言い方・逆説の言い方
13 まとめテスト	テスト・小論文の書き方③
14 総合問題	小論文の書き方④
15 総合問題	課題の書式を分析して、考察する。
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	中沢佐子 Sakiko Nakazawa 本多久美子 Kumiko Honda		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	1年	単位	2
科目名	総合日本語Ⅰ		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名						

■授業のねらいと到達目標

この授業では、社会的・文化的な問題について学ぶと同時に、論理的な文章を読んで理解し、さまざまな社会的・文化的な問題について話したり書いたりできるような日本語力を身につけることを目標としている。

■授業の進め方（履修条件等）

①本文で使用されている語彙や文型を学ぶ。②グループで、内容について話し合う。③ワークシートを書いて提出する。

■成績評価方法・基準

毎回、漢字クイズと語彙クイズを行う。1課ごとにワークシートを提出する。中間試験と期末試験を行う。

■授業の予習・復習

予習：グループ・リーダーは文章を読んで準備しておくこと。
復習：毎回、漢字クイズと語彙クイズをするので、授業のあとで復習しておくこと。

■教科書

毎回、プリントを配るので、なくさないようにファイルしておくこと。

■参考文献

特になし。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「学生生活Ⅰ」	月 「弁当男子とは ①」 語彙と文型 水 「弁当男子とは ②」 内容把握
2 「学生生活Ⅱ」	月 「大学生の弁当男子 ①」 語彙と文型 水 「大学生の弁当男子 ②」 内容把握
3 「学生生活Ⅲ」	月 「学食カードで健康管理 ①」 語彙と文型 水 「学食カードで健康管理 ②」 内容把握
4 「学生生活Ⅳ」	月 「先輩から後輩に伝えること ①」 語彙と文型 水 「先輩から後輩に伝えること ②」 内容把握
5 「家族Ⅰ」	月 「イクメンとは ①」 語彙と文型 水 「イクメンとは ②」 内容把握
6 「家族Ⅱ」	月 「少子化問題 ①」 語彙と文型 水 「少子化問題 ②」 内容把握
7 「家族Ⅲ」	月 「結婚したい？したくない？ ①」 語彙と文型 水 「結婚したい？したくない？ ②」 内容把握
8 中間試験	月 試験後に解答解説 水 「晩婚化」 語彙と内容把握
9 「家族Ⅳ」	月 「婚活とは ①」 語彙と文型 水 「婚活とは ②」 内容把握
10 「就活Ⅰ」	月 「就活とは ①」 語彙と文型 水 「就活とは ②」 内容把握
11 「就活Ⅱ」	月 「就職活動の悩み ①」 語彙と文型 水 「就職活動の悩み ②」 内容把握
12 「就活Ⅲ」	月 「インターンシップとは ①」 語彙と文型 水 「インターンシップとは ②」 内容把握
13 「就活Ⅳ」	月 「就職活動で大切なこと ①」 語彙と文型 水 「就職活動で大切なこと ②」 内容把握
14 「先端技術Ⅰ」	月 「紙の本か電子ブックか ①」 語彙と文型 水 「紙の本か電子ブックか ②」 内容把握
15 「先端技術Ⅱ」 期末試験	月 「携帯電話の機能」 語彙と文型 水 試験後に解答解説
16 「先端技術Ⅲ」	月 「ゲーム革命 ①」 語彙と文型 水 「ゲーム革命 ②」 内容把握

年度	11年度入学		担当者	銅直信子 Nobuko Dobeta		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	1年	単位	2
科目名	総合日本語Ⅱ		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名						

■授業のねらいと到達目標

「聞く・話す・読む・書く」の4技能を総合的に向上させ、応用的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。特に話すこと、書くことにおいて、説得力をもつにはどのような技法や作法が必要であるのか、グループ学習を通して学ぶ。また、文法力の向上を図り上級文法へと繋げていく。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って授業を進めていく。各課の「表現技術」にある文型をモデルに短文を作り、授業後提出する。添削して返却するので、正しい表現を確認する。ビデオやDVDを視聴し、内容をまとめたり、意見を述べたりする。2課ごとに漢字小テストを実施する。ディベートマッチ終了後、各自の意見文を提出する(800字)。文法の授業ではクラス内テストを実施し既習項目の定着を図る。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、レポート・クラス内テスト30%、クラス活動点10%、出席点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙表の漢字の読み方・意味を事前に調べておく。わからない語彙の意味は授業中に確認する。文法の教科書の各課のポイントを読んでくる。
復習：返却された小レポート類の正しい表現をよく復習する。本文を繰り返し音読する。文法問題では、正答と違った答えを出した場合、なぜ間違えたかを理解する。

■教科書

『日本語の表現技術 読解と作文 上級』 倉八順子 古今書院 2,500円
『中級日本語文法要点整理ポイント20』 友松悦子 スリーエーネットワーク 2,000円＋税

■参考文献

『ストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』
一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク
『小論文への12のステップ』 友松悦子 スリーエーネットワーク

■授業内容（月曜日）

授業項目	授業内容
1 第8課「信長・秀吉・家康」	共通語・相違点を述べる表現を学び、短文を作る。本文を精読する。漢字小テスト。
2 第8課	ビデオを見て、信長の改革を簡潔書きでまとめる。CDを聞いて、レジュメをまとめる。
3 第9課「坂本龍馬 見える場に立つ」	目的・理由を述べる表現を使って短文づくり。本文を精読する。
4 第9課 第10課「向井千秋」	DVDを見て、龍馬の生き方を考える。重要点の明示に使われる表現を使って、CDの学習到達度調査の結果を報告する。漢字小テスト。
5 第11課「夏目漱石 私の個人主義」	本文を精読する。要約文を書く。「こころ」のあらすじを読む。
6 第12課「福澤諭吉 文明人は高層に上る」	本文を精読する。「学問のすすめ」を読む。諭吉の生き方を考える。漢字小テスト。
7 死刑制度廃止論	対比を表す表現を学習する。本文を精読し、二項対立で使われる表現を調べる。新聞抜粋を読み、各自の意見を発表する。漢字小テスト。
8 外国人の参政権	語彙のストラテジーについて学ぶ。キーワードをマークする。
9 外国人の参政権	CDを聞いて、レジュメをまとめる。漢字小テスト。
10 環境税導入の是非	譲歩を示す言葉・逆接を示す言葉を使って、短文を書く。本文を精読する。
11 環境税導入の是非	環境税について調べたことを発表する。漢字小テスト。
12 夫婦別姓制度	筆者の意見、筆者と対立する意見をまとめる。
13 ディベート	テーマを決める。立論を考える。
14 ディベート	反論を予想し、答えをまとめる。
15 ディベートマッチ	ディベートマッチ＝質疑応答→ディスカッション 各自意見文をまとめて提出する（宿題）。
16 定期試験	

■授業内容（水曜日）

1 ガイダンス 読解・文法テスト	ガイダンス後、読解・文法テストを行う。
2 11課	決まった使い方の副詞 1
3 12課	決まった使い方の副詞 2
4 13課	接続の言葉 1
5 14課	接続の言葉 2
6 15課	接続を広げる 1
7 まとめテスト	論文を読む①
8 16課	語彙を広げる 2
9 17課	語彙を広げる 3 論文を読む②
10 18課	硬い文章 1
11 19課	硬い文章 2 論文を読む③
12 20課	丁寧な言い方 1
13 まとめテスト	テスト 論文を読む④
14 20課	丁寧な言い方 2
15 20課	丁寧な言い方 3
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	中沢佐子 Sakiko Nakazawa 本多久美子 Kumiko Honda		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	総合日本語Ⅱ		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名						

■授業のねらいと到達目標

この授業では、新聞やインターネットの記事を利用しながら、社会的・文化的な問題について読んだり聞いたりするだけでなく、自分の意見を書いたり話したりできるような日本語力を身につけることを目標にしている。

■授業の進め方（履修条件等）

①授業では、少人数のグループを作り、話し合う。②内容を自分のことばで話したり書いたりする。③プレゼンテーションで、自分の意見を発表する。

■成績評価方法・基準

毎回、漢字クイズ、語彙クイズを行う。1課ごとにワークシートを提出する。また、中間試験・期末試験と、最終発表会でプレゼンテーションを行う。

■授業の予習・復習

予習：グループ・リーダーは文章を読んで準備しておくこと。
復習：毎回、漢字クイズと語彙クイズをするので、授業のあとで復習しておくこと。

■教科書

毎回、プリントを配るので、なくさないようにファイルしておくこと。

■参考文献

特になし。

■授業内容

授業項目		授業内容	
1	「環境Ⅰ」	月	「環境にやさしい、わらの家 ①」 語彙と文型
		水	「環境にやさしい、わらの家 ②」 内容把握
2	「環境Ⅱ」	月	「環境にやさしい水 ①」 語彙と文型
		水	「環境にやさしい水 ②」 内容把握
3	「環境Ⅲ」	月	「環境にやさしい都市（ドイツ）①」 語彙と文型
		水	「環境にやさしい都市（ドイツ）②」 内容把握
4	「環境Ⅳ」	月	「環境にやさしい都市（マスター）①」 語彙と文型
		水	「環境にやさしい都市（マスター）②」 内容把握
5	「環境Ⅴ」	月	「環境にやさしい都市（天津）①」 語彙と文型
		水	「環境にやさしい都市（天津）②」 内容把握
6	「低炭素社会Ⅰ」	月	「カーボンオフセットとは ①」 語彙と文型
		水	「カーボンオフセットとは ②」 内容把握
7	「低炭素社会Ⅱ」	月	「フードマイレージとは ①」 語彙と文型
		水	「フードマイレージとは ②」 内容把握
8	中間試験 「低炭素社会Ⅲ」	月	試験後に解答解説
		水	「身の回りの低炭素商品を探す ①」 語彙と文型
9	「低炭素社会Ⅲ」	月	「身の回りの低炭素商品を探す ②」 内容把握
		水	「身の回りの低炭素商品を探す ③」 発表
10	「いまだきの若者Ⅰ」	月	「バングラデシュで教育支援 ①」 語彙と文型
		水	「バングラデシュで教育支援 ②」 内容把握
11	「いまだきの若者Ⅱ」	月	「高校生と語り合う ①」 語彙と文型
		水	「高校生と語り合う ②」 内容把握
12	「いまだきの若者Ⅲ」	月	「社会に貢献したい ①」 語彙と文型
		水	「社会に貢献したい ②」 内容把握
13	「未来の私を考えるⅠ」	月	「私の夢 ①」 語彙と文型
		水	「私の夢 ②」 内容把握
14	「未来の私を考えるⅡ」	月	「未来の私 ①」 語彙と文型
		水	「未来の私 ②」 内容把握
15	「未来の私を考えるⅢ」 期末試験	月	「未来の自分を実現するために ①」 語彙と文型
		水	試験後に解答解説
16	「未来の私を考えるⅢ」 最終発表会	月	「未来の自分を実現するために ②」 内容把握
		水	プレゼンテーションと講評

年度	11年度入学		担当者	田口功 Isao Taguchi		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	情報処理Ⅰ（情報基礎）	情報処理Ⅰ（情報基礎）	対象学年	1年	単位	1
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	情報処理Ⅰ（情報基礎）	情報処理Ⅰ（情報基礎）	情報処理Ⅰ（情報基礎）	情報処理Ⅰ（情報基礎）		

■授業のねらいと到達目標

情報社会では、コンピュータについて正しく理解し、上手に利用できる能力（コンピュータリテラシー）が必要である。本講義では、コンピュータリテラシーを身につける。また、パソコン使用で最も基本的な使い方として、Word2003を用いて文書作成の方法を学ぶ。MOUS検定を意識した演習問題を多く取り入れる。後半にtexを用いて、簡単な文書作成を行なう。

■授業の進め方（履修条件等）

前半、後半を通し演習課題を各自作成し授業を進めます。

■成績評価方法・基準

出席状況、提出物、小試験および定期試験の4点により総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：与えられた課題についてよく資料を見て研究をして下さい。
復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。

■教科書

情報リテラシー Office2007 実教出版 ¥1238円 平成21年

■参考文献

■授業内容

授業項目		授業内容	
1	ガイダンス	授業の進め方を説明、キータッチの説明、練習、テキスト内容紹介	
2	Windowsの基礎知識	起動、終了、画面の構成、保存の仕方	
3	Wordの基礎知識	Wordの画面の構成、ファイルを操作する	
4	文書の作成	範囲の選択、文書を編集、文字を修飾、インデント	
5	文書の作成と印刷－(1)	行間と段落、文書の作成と保存、やさしい文書の作成	
6	文書の作成と印刷－(2)	一般的なあいさつ文の作成	
7	文書の作成と印刷－(3)	文字の大きさ、種類、特殊記号を入れた文書の作成	
8	文書の作成と印刷－(4)	四角形、矢印、楕円を用いての流れ図の作成	
9	文書の作成と印刷－(5)	履歴書の作成	
10	文書の作成と印刷－(6)	矢印を用いてのベクトル図の作成、矢印の種類	
11	文書の作成と印刷－(7)	科学技術的な文書の作成	
12	文書の作成と印刷－(8)	罫線を含んだ文書の作成	
13	表現力をアップ	クリップアート、ワードアート、図形の挿入、ページ罫線	
14	Texを使ってみよう－(1)	Texの基本的な文書の作成	
15	Texを使ってみよう－(2)	数式を含んだ文書の作成	
16	定期試験		

年 度	11年度入学		担 当 者	佐竹勇子 Yuko Satake		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	情報処理 I (情報基礎)	情報処理 I (情報基礎)	対象学年	1 年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	情報処理 I (情報基礎)	情報処理 I (情報基礎)	情報処理 I (情報基礎)	情報処理 I (情報基礎)		

■授業のねらいと到達目標

大学生活や日常においてコンピュータを扱うために必要なリテラシー（活用能力）を身につけることを目標とする。文書作成（Word）および表計算（Excel）を実習し基礎力修得を目指す。資格取得を目指す学生のために、毎年ライセンス講座を開催している。この講義を基礎力としてMOS対策講座への参加および資格取得を期待する。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書および配布プリントをもとにインターネットやメール、Word2007、Excel2007を実習する。

■成績評価方法・基準

出席点（40%）・課題提出（10%）・定期試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：授業中に指示
復習：授業中に指示

■教科書

『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2007』実教出版 1,300円

■参考文献

特にありません。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	概要と評価・パスワード管理
2 OS	Windowsの基本操作とタイピング
3 インターネット	ブラウザとネチケット
4 電子メール	Grace Mailの使い方
5 Word- (1)	Word2007の画面構成・ファイル管理
6 Word- (2)	文書の作成
7 Word- (3)	表の作成
8 Word- (4)	文書の編集
9 Word- (5)	表現力をアップするツール
10 Excel- (1)	Excel2007の画面構成・データ入力
11 Excel- (2)	表の作成
12 Excel- (3)	計算式と関数の入力（1）
13 Excel- (4)	相対参照と絶対参照・関数の入力（2）
14 Excel- (5)	WordとExcelの活用
15 まとめ	復習と試験対策
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	田口功 Isao Taguchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	情報処理 II (プレゼンテーション演習)	情報処理 II (プレゼンテーション演習)	対象学年	1 年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	情報処理 II (プレゼンテーション演習)	情報処理 II (プレゼンテーション演習)	情報処理 II (プレゼンテーション演習)	情報処理 II (プレゼンテーション演習)		

■授業のねらいと到達目標

本講義では、情報処理 I に引き続き、コンピュータリテラシーとして必要なプレゼンテーション用ソフト、Power Pointおよび表計算ソフトExcelの使い方を学ぶ。Power Pointについては、自己紹介という題目で実際に作成し提出する。表計算ソフトは、Excel2003を使用し、MOUS検定に適した内容をおりこむ。MOUS検定を意識した演習問題を多く取り入れる。

■授業の進め方（履修条件等）

前半、後半を通し演習課題を各自作成し授業を進めます。

■成績評価方法・基準

出席状況、提出物、小試験および定期試験の4点により総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：与えられた課題についてよく資料を見て研究をして下さい。
復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。

■教科書

情報リテラシー Office2007 実教出版 ¥1238円（情報処理 I と同じ本）平成21年

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方を説明
2 Excelの基礎知識- (1)	起動、終了、画面の構成、保存の仕方
3 Excelの基礎知識- (2)	Excelの画面の構成、ファイルを操作する
4 文書の作成	Excelによる文書の作成、セルの分割
5 DATA作成とグラフの作成- (1)	種々のグラフ作成
6 DATA作成とグラフの作成- (2)	折れ線グラフの作成と関数データの作成
7 基本関数の使用と式の作成- (1)	SUM、AVERAGE、MAX、MIN関数の使用方法と比率
8 基本関数の使用と式の作成- (2)	絶対番地、相対番地、混合番地、式のコピー
9 基本関数の使用と式の作成- (3)	RANK関数、IF関数についての例文作成
10 データベース関数- (1)	DSUM関数、DAVERAGE関数、DCOUNT関数
11 データベース関数- (2)	DMAX関数、DMIN関数
12 データベース関数- (3)	LOOKUP関数の使い方
13 データベース関数- (4)	データベース関数のまとめ
14 Power point- (1)	基本的な自己紹介を通じて、プレゼンテーション作成
15 Power point- (2)	作成したプレゼンテーションの修正追加作業、印刷
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	佐竹勇子 Yuko Satake		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	情報処理Ⅱ (プレゼンテーション演習)	情報処理Ⅱ (プレゼンテーション演習)	対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	情報処理Ⅱ (プレゼンテーション演習)	情報処理Ⅱ (プレゼンテーション演習)	情報処理Ⅱ (プレゼンテーション演習)	情報処理Ⅱ (プレゼンテーション演習)		

■授業のねらいと到達目標

情報処理Ⅰに引き続き情報処理Ⅱにおいてもコンピュータリテラシーを身につけることを目標とする。プレゼンテーション (Power Point) 表計算 (Excel) を実習し基礎力修得を目指す。資格取得を目指す学生のために、毎年ライセンス講座を開催している。この講義を基礎力としてMOS対策講座への参加および資格取得を期待する。

■授業の進め方 (履修条件等)

教科書および配布プリントをもとにPower Point2007, Excel 2007を実習する。

■成績評価方法・基準

出席点 (40%)・課題提出 (10%)・定期試験 (50%)

■授業の予習・復習

予習：授業中に指示
復習：授業中に指示

■教科書

『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2007』実教出版 1,300円

■参考文献

特にありません。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	概要と評価方法
2	Power Point-(1)	画面構成とプレゼンテーション
3	Power Point-(2)	プレゼンテーションの作成
4	Power Point-(3)	図表・グラフ・表の挿入と編集
5	Power Point-(4)	特殊効果の設定
6	Power Point-(5)	配布資料の作成と印刷
7	Power Point-(6)	スライドショー
8	Power Point-(7)	プレゼンテーション実習
9	Excel-(1)	情報Ⅰの復習
10	Excel-(2)	いろいろな関数の利用
11	Excel-(3)	グラフ
12	Excel-(4)	グラフと図形
13	Excel-(5)	データベース機能
14	Excel-(6)	Power PointとExcelの活用
15	まとめ	復習と試験対策
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	佐竹勇子 Yuko Satake		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	情報処理Ⅲ (データベース)		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	情報処理Ⅲ (データベース)		情報処理Ⅲ (データベース)			

■授業のねらいと到達目標

コンピュータを利用した情報の管理、整理方法としてデータベースがある。この講義では、リレーショナル型データベース Accessを習得することを目的とする。資格取得を目指す学生のために、毎年ライセンス講座を開催している。この講義を基礎力としてMOS対策講座への参加および資格取得を期待する。

■授業の進め方 (履修条件等)

教科書および課題ファイルをもとにAccess 2007を実習する。

■成績評価方法・基準

出席点 (40%)・課題提出 (10%)・定期試験 (50%)

■授業の予習・復習

予習：授業中に指示
復習：授業中に指示

■教科書

『30時間でマスター Access2007』実教出版 1,200円

■参考文献

特にありません。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	概要と評価方法
2	Accessの基本操作	画面構成・Excelとの違い
3	テーブルⅠ	データの検索・選択フィルタ
4	テーブルⅡ	フォームフィルタ・レコードの並べ替え
5	テーブルⅢ	外部データ・データ型・画像
6	フォーム	作成とデータ入力
7	クエリⅠ	作成方法と集計
8	クエリⅡ	パラメータの利用・クロス集計
9	クエリⅢ	アクシオンクエリ
10	クエリⅣ	SQL
11	データベースの設計	テーブル作成・リレーションシップ
12	レポート	レポートでの計算・印刷
13	総合演習	新規データベースの構築
14	マクロ	メニュー画面の作成
15	まとめ	復習と試験対策
16	定期試験	

年度	11年度入学		担当者	家近亮子 Ryoko Ichika		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	アジアの歴史と社会	アジアの歴史と社会	対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	アジアの歴史と社会	アジアの歴史と社会	アジアの歴史と社会	アジアの歴史と社会		

■授業のねらいと到達目標

冷戦終結後、国際社会においてはグローバル化が進むと同時に地域統合の動きが活発化しました。EUはその典型的な例といえます。アジアにおいてもアジア統合について盛んに議論されるようになりましたが、現実にはむずかしい問題を抱えています。アジアには世界の人口の60%以上が生息し、また、中国を始めとして経済発展を続けている国も多く存在します。21世紀はアジアの時代であるということができそうです。本授業においては「東アジア共同体」の主要な構成メンバーである「ASEAN+3（日本・中国・韓国）」の歴史と政治、経済、社会、及びその相互関係について論じていきます。到達目標はこれらの国の名前と地理を知り、その国情を理解することにあります。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件はありません。授業は、授業用に作成した講義ノートと資料を授業の進行に合わせて配布し、進めていきます。必要に応じて、映像資料も使っていきます。

■成績評価方法・基準

平常点（出席）と3回の確認テスト（歴史、東南アジア、東アジアの単元ごと実施）と各再試験をおこない、平均点をもって成績を評価します。

■授業の予習・復習

予習：配布資料を事前に読んで来ること。アジアに関するニュースに関心を持つこと。
復習：配布資料とノートの整理。白地図の完成。疑問点をまとめて提出すること。

■教科書

本授業の内容は、他分野にわたるため、教科書は指定しません。授業用に作成した講義ノート及び資料を配布し、教科書の代わりとします。

■参考文献

それぞれの単元ごとに、専門の本を紹介していきます。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義の内容と進め方の説明—アジアとは？
2 アジアの近現代史—①	アジアにおける近代の共通点と相違点
3 アジアの近現代史—②	ヨーロッパ諸国のアジア進出の歴史
4 アジアの近現代史—③	イギリスのアジア進出と植民地支配—インド、マレー半島を中心として
5 アジアの近現代史—④	フランスのアジア進出と植民地支配—インドシナ半島
6 アジアの近現代史—⑤	日本の植民地支配—朝鮮、台湾を中心として
7 歴史単元の確認テスト	確認テスト+東南アジアとは？
8 東南アジア諸国の地理	白地図による国の確認と地理的特徴
9 東南アジア事情—①	東南アジアの政治・経済・社会—①
10 東南アジア事情—②	東南アジアの政治・経済・社会—②
11 東南アジア単元の確認テスト	確認テスト+東アジアとは？
12 東アジアの地理	中国、日本の白地図の完成
13 東アジア事情—①	東アジアの政治・経済・社会—①
14 東アジア事情—②	東アジアの政治・経済・社会—②
15 東アジア単元の確認テスト	確認テスト+授業のまとめ
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	土田宏 Hiroshi Tsuchida		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	アメリカの歴史と社会		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名						

■授業のねらいと到達目標

ジェファソン、リンカン、ケネディの三人の大統領とその時代に焦点を当てて、アメリカ合衆国の歴史を概観し、その在り方を考える。造られた国アメリカの本質を理解することを目標としたい。

■授業の進め方（履修条件等）

講義が中心になるが、クラスの中での積極的な質問や発言などを期待したい。三人の大統領に関しては演説などを読むことになるだろう。

■成績評価方法・基準

定期試験（筆記）を主な評価基準とするが、出席状況は評価の20パーセントの割で対象となる。

■授業の予習・復習

予習：教科書を読むこと。次回の必読範囲は毎回指示する。
復習：ノートを整理しておくこと。不明な点は次回の授業で質問すること。

■教科書

斎藤眞著『アメリカ政治外交史』東大出版会 1975年

■参考文献

明石紀雄『トマス・ジェファソンと「自由の帝国」』ミネルヴァ
土田宏『リンカン 神になった男の功罪』彩流社
『ケネディ その神話と実像』中公新書

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	アメリカ合衆国の意義 独立に至る道
2 独立宣言書 1	宣言書の目的と内容 自明の真理
3 独立宣言書 2	宣言書の意味：発表後にもたらしたもの
4 ジェファソン大統領 1	生涯と人間観
5 ジェファソン大統領 2	農業への強い思いと教育観
6 ジェファソン大統領 3	合衆国観と大統領としての業績
7 1830年代の風潮	新しい権利を求めて
8 リンカン大統領 1	生涯と黒人奴隷観
9 リンカン大統領 2	大統領前期：敗北の南北戦争
10 リンカン大統領 3	奴隷解放予備宣言と奴隷解放宣言
11 リンカン大統領 4	ゲティスバーグの演説 合衆国への愛と赦し
12 リンカン大統領 5	第2次就任演説 国家再統合への息吹
13 1950年代	冷戦時代の意味
14 ケネディ大統領	就任演説
15 ケネディ大統領	核戦争回避の試み
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	山本健 Takeshi Yamamoto		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	ヨーロッパの歴史と社会	ヨーロッパの歴史と文化	対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	ヨーロッパの歴史と文化	ヨーロッパの歴史と文化	ヨーロッパの歴史と文化	ヨーロッパの歴史と文化		

■授業のねらいと到達目標

現在、世界は経済成長に伴ない消費ブームを迎えています。このような経済現象は、歴史的に見ると、19世紀のイギリスに現れていました。そこで、19世紀の経済的な発展過程の分析から、私たちが直面している諸問題（経済格差の問題、国家観など）を検討し、現代社会の方向性を考える素材を提供したいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、要点を記したプリントを配布します。また2回のビデオ（「オリバー・ツイスト」と「チャップリン」）を鑑賞し、その感想文の提出を義務とします。また関連する本の音読をもちます。20分以上の遅刻は認めません。

■成績評価方法・基準

出席状況やレポートを点数化し、これらと試験の3点で評価します。なお、出席は厳格に取ります。

■授業の予習・復習

予習：政治経済・社会分野のニュースに目を通し、問題点を整理しておいて下さい。
復習：学習内容と現在の先進国の発展状況との比較を考えて、整理しておいて下さい。

■教科書

長島伸一「大英帝国」（講談社現代新書、1998年）

■参考文献

- ①Ch. テイクネス（小池滋訳）「オリバー・ツイスト」（上・下）（ちくま文庫、2002年）
- ②O. ベットマン（山越邦夫他訳）「目で見える金びか時代の民衆生活」（草風館、1999年）
- ③J. ロンドン「どん底のりびとーロンドン1902」（岩波文庫、1995年）
- ④平岡敏夫編「漱石日記」（岩波文庫、1992年）
- ⑤出口保夫/A. ヴット編著「漱石のロンドン風景」（中公文庫、1995年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明と問題点の提示
2 「19世紀の世界」の誕生	資本主義経済と国民主権を結合した新システムの登場
3 競争原理を正当化する進化論	資本主義の正当化とその欠陥を埋める社会主義の登場
4 19世紀前期の貧困問題	農村出身労働者の貧困状態の分析：中国の民工との比較
5 ビデオ鑑賞①	オリバー・ツイストに見る都市市内での社会的弱者の状態
6 19世紀中期の繁栄	「世界の工場」と労働者の生活向上策（穀物法の撤廃）
7 19世紀中期の大衆社会の出現	鉄道時代と消費者としての労働者の再評価
8 チャーティスト運動の行方	都市労働者への選挙権の付与と社会正義の目覚め
9 19世紀後期の不況問題	イギリスの経済衰退と植民地帝国への転換
10 第二次産業革命と帝国主義化	世界的な過剰生産に伴う各国の海外植民地争奪戦
11 豊かなイギリスの都市問題	出生率の低下と若者の身体的な水準低下
12 禁酒運動と健全な娯楽の提供	労働者を飲酒から遠ざけ、兵士の育成健全化
13 ミュージック・ホールの意義	大衆の大国意識（愛国主義）の高揚させる手段
14 ビデオ鑑賞②	Ch. チャップリンの生涯に見る大衆心理の表現
15 マトメ	
16 定期試験	

カリキュラム

年度	11年度入学		担当者	大月隆成 Takashige Otsuki		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	アフリカの歴史と社会	アフリカの歴史と社会	対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	アフリカの歴史と社会	アフリカの歴史と社会	アフリカの歴史と社会	アフリカの歴史と社会		

■授業のねらいと到達目標

アフリカは日本人やアジア各地からの留学生にとって、最もなじみの薄い地域である。現在はアフリカに関する情報も溢れているが、日常生活の中でそれらに接する機会は限られている。この授業では、アフリカをほとんど知らない者が、アフリカに関心を持ち、その歴史と社会、そして問題について理解できるようになることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、アフリカを舞台にした映画やドラマ作品を見て学んでいく、「アフリカ初心者」に配慮した授業を実施する予定である。

■成績評価方法・基準

平常点（出席、課題提出など）と期末試験の結果に基づいて評価を行う。

■授業の予習・復習

予習：日頃からアフリカに関心を持ち、積極的に情報収集を心がける。
復習：授業で出された課題や関連するテーマについて、調べてみる。

■教科書

特定の教科書は使用しない。

■参考文献

伊谷純一郎ほか『アフリカを知る事典』平凡社、大迫秀樹『アフリカのことがマンガで3時間でわかる本』アスカ

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「ようこそNo.1 レディース探偵社へ」(1)	アフリカの日常風景
2 「ようこそNo.1 レディース探偵社へ」(2)	アフリカの民族と言語
3 「ようこそNo.1 レディース探偵社へ」(3)	ボツワナってどんな国？
4 「ルーツ」(1)	アフリカの伝統社会
5 「ルーツ」(2)	奴隷貿易とは？
6 「ルーツ」(3)	奴隷貿易の残したものの
7 「ブラッド・ダイヤモンド」(1)	天然資源があるのはいいことか？
8 「ブラッド・ダイヤモンド」(2)	アフリカの内戦
9 「ブラッド・ダイヤモンド」(3)	少年兵を知っていますか？
10 「インビクタス」(1)	南アフリカのアパルトヘイト
11 「インビクタス」(2)	ネルソン・マンデラの人物と生涯
12 「インビクタス」(3)	アパルトヘイト後の南アフリカ
13 「ER緊急救命室Ⅹ」第22話キサンガニ	アフリカの医療事情
14 「ナイロビの蜂」(1)	製薬会社の陰謀
15 「ナイロビの蜂」(2)	背景にある貧困問題
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	舩方周一郎 <i>Shuichiro Masukata</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	ラテンアメリカの歴史と社会		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名						

■授業のねらいと到達目標

本授業は、地域研究の視点からラミ地域を概説するものである。ラミ地域の特徴と歴史的背景を概観した後、「社会問題」と「日本とラテンアメリカ」という項目に分けて、現状と課題を紹介する。受講生の中に、ラミ地域を巡り身近で起きている現象に問題意識を持ち、議論する能力が芽生えたのならば、授業の目標は達成される。

■授業の進め方（履修条件等）

授業内容をまとめたパワーポイントに基づき授業を進める。ラミ地域と日本の様子を想像できるように、現場の写真や映像資料を多用する。ラミという未知の地域に強い好奇心を抱く学生であれば、学年を問わず歓迎する。

■成績評価方法・基準

学期末に試験を実施する（50%）。但し出席重視のため、複数回のリアクション・ペーパーを求める（50%）。

■授業の予習・復習

予習：予習は義務付けないが、関心ある者は、まずは参考図書の間連個所を熟読されたい。それ以降は直接質問を受け付ける。
復習：まずは授業で配布されるプリントや資料を見返されたい。それ以降は直接質問を受け付ける。

■教科書

テキストは指定しない。講義内容をまとめたプリントを配布し、それに基づいて講義を進める。

■参考文献

国本伊代・中川文雄編著『ラテンアメリカ研究への招待』新評論、2005年。その他は随時、授業内で紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	授業の概要説明	ガイダンス：「私とラテンアメリカの出会い」
2	ラミ地域の概観（1）	世界の中のラテンアメリカの位置づけ
3	ラミ地域の概観（2）	ラテンアメリカの文化的多様性
4	歴史的背景（1）	先住民社会の発展とヨーロッパ人による征服
5	歴史的背景（2）	ラテンアメリカと宗教：「ミッション」（映像資料）
6	歴史的背景（3）	ラテンアメリカ政治経済の基礎知識
7	社会問題（1）	ラテンアメリカ地域の現状と課題
8	社会問題（2）	社会経済格差
9	社会問題（3）	都市化と治安の悪化
10	社会問題（4）	人権問題：平等VS.マイノリティー保護
11	社会問題（5）	環境問題：経済成長 VS. 環境保護
12	日本とラミ関係（1）	遠くて近いラテンアメリカとの関係
13	日本とラミ関係（2）	在日外国人問題：受け入れ 賛成VS.反対
14	日本とラミ関係（3）	ゲスト・スピーカー（予定）
15	まとめ	総括：さらにラテンアメリカ地域を知るために
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	外山健二 <i>Kenji Toyama</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	イスラムの歴史と社会		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名						

■授業のねらいと到達目標

「イスラム」をめぐって歴史と社会を考えることが本授業のねらいである。イスラムの教義、イスラム法、ムスリムの宗教生活、イスラム復興、イスラムと現代社会などの基礎的理解とイスラムの視点から異文化に取り組む基本的姿勢の養成が到達目標となるだろう。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを配布し、授業を進める。時間の許す限り、DVDなどの視聴覚教材を使用し、多角的にイスラムにアプローチしたい。課題レポートは必ず提出すること。なお、授業回数数の3分の2以上の出席が前提となる。

■成績評価方法・基準

出席状況20%、課題レポート30%、定期試験50%を基準として総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を購読すること。
復習：授業の要点を復習し、新しく学習した項目などを深く調べること。

■教科書

特になし。プリントを配布する。

■参考文献

佐藤次高編『イスラムの歴史（1）』山川出版社
小杉泰編『イスラムの歴史（2）』山川出版社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イスラムとは何か	イスラムとは何か
2	中東を考える	中東の歴史・自然について
3	ムハンマドの生涯	アラブ・メッカ・ムハンマドについて
4	「一神論」を考える	アッラー・イスラムの基本・教義について
5	イスラム社会の形成	イスラム化・ウママについて
6	イスラムの確立	アッバース朝・生活の指針となるシャリーアについて
7	スンナ派とシーア派	イスラムにおける分派・ウマイヤ朝について
8	イスラム世界の発展	多様化するイスラムについて
9	民衆のイスラム	ムスリムと聖者・スーフイズムについて
10	拡大するイスラム世界	ムスリム商人・ヨーロッパ勢力について
11	ムスリムの宗教生活	儀礼・祭礼について
12	国民国家とイスラム	国民国家・植民地化のイスラムについて
13	イスラム復興の時代	イスラム復興・イスラム諸国の独立について
14	現代世界とイスラム	脱イスラムと新しいイスラムについて
15	文学でみるイスラム	文学で読み取るイスラム社会について
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	水口章 Akira Mizuguchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	国際協力入門	国際協力入門	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	国際協力入門	国際協力入門	国際協力概論	国際協力概論		

■授業のねらいと到達目標

国際協力の基本認識を深める。また、その仕組みや動向について学ぶ。そのことで、国際協力が身近なものであるとの認識を深め、実践する。

■授業の進め方（履修条件等）

授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行う。その討論を踏まえての課題レポートは必ず提出すること。

■成績評価方法・基準

授業内評価（レポート、討論参加）40%、定期試験60%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおくこと。
復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めておく。

■教科書

特にないが適宜プリントを配布

■参考文献

高木保興編『国際協力学』、東京大学出版会、2004年6月
内海成治編『国際協力論を学ぶ人のために』世界思想社、2005年1月

■授業内容

授業項目	授業内容
1 今なぜ国際協力が必要か	国際社会に生きる者としての責任と分担について
2 国際政治・経済システムの潮流	「フラット化」「パワー・シフト」について
3 貧困問題	貧困と経済成長の関係について
4 環境問題	開発と環境の関係について
5 グループ討論「自分ができる国際協力」	「思いやり」という社会行動を考える
6 ジェンダーと開発	ジェンダー差別意識について
7 教育開発	人間開発の考え方について
8 保健医療	保健医療協力に関する動向について
9 人口問題	人口増加と貧困の関係について
10 グループ討論「国際機関の役割の限界」	NGO組織の現状と問題点を考える
11 政治協力	政府間援助の仕組みについて
12 文化協力	文化協力の考え方について
13 民間ベースの国際協力	民間の貿易、投資、援助での役割について
14 国際協力のマネジメント	異文化組織マネジメントのあり方について
15 グループ討論「国際協力の意義」	どんな国際協力が望ましいかを考える
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	小林聡明 Somei Kobayashi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	現代日本入門		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名						

■授業のねらいと到達目標

私たちが暮らす「日本」とは、どのような社会であり、いかなる構造をもっているのでしょうか。本授業では、これについて、外国との関係のなかで考えてみたいと思います。それは当たり前の「日常風景」を見つめ直すための社会科学的な発想と眼差しを身につけることとなります。

■授業の進め方（履修条件等）

授業では皆さんの理解を助けるために、できるだけ多くの視聴覚教材（映画やドキュメンタリー）を活用するつもりです。可能な限り、皆さんとの対話を重視したインタラクティブな授業を目指したいと思っています。

■成績評価方法・基準

出席状況（7割以上が必須）や各授業後に提出してもらうコメント内容、レポートで総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：毎日、必ず新聞に目を通して下さい。
復習：各授業でお知らせする関連文献を読むほか、知人や友人と関連トピックについて、たくさん議論してください。

■教科書

授業で詳細なレジュメ（プリント）を配付します。

■参考文献

各授業時に紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	講義の概要と進め方
2 「日本」を考える	日本の現状と直面する問題
3 政治（1）	敗戦と占領
4 政治（2）	日本国憲法制定の過程とその意味
5 政治（3）	戦後民主主義の日本的特徴
6 経済（1）	高度経済成長とバブル崩壊
7 経済（2）	日本経済の現状
8 外交（1）	日米同盟
9 外交（2）	日韓関係
10 外交（3）	日朝関係
11 社会（1）	日本メディアの歴史的展開
12 社会（2）	日本メディアの特徴
13 社会（3）	現代日本のメディア状況
14 アジアのなかの日本	「歴史」問題の現在と対アジア関係
15 おわりに	講義全体のまとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	榎田久代 <i>Hisayo Kushida</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	政治学概論Ⅱ (日本の政治)		対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	政治学概論Ⅱ / 日本の政治		政治学概論Ⅱ / 日本の政治			

■授業のねらいと到達目標

この授業では、日本の政治過程を扱います。政治学入門あるいは政治学概論Ⅰで学んだ政治の基礎概念や基礎理論が、日本の政治の中でどのように展開しているのかについて政治の実態を具体的に理解することを目的としています。

■授業の進め方 (履修条件等)

配布するプリントを中心に授業を進めます。時折、みなさんの理解を確認するために演習形式で行うときもあります。なお、社会科関係の教職課程の学生は必修です。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：日頃から時事ニュースに関心を持つようにして下さい。
復習：授業中わからなかったことは、授業後解決するようにして下さい。

■教科書

毎回プリントを配布します。

■参考文献

久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection)』(有斐閣、2003年) 他。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	国際社会の中における日本
2 政治を見る目 (1)	日本政治が直面している課題
3 — (2)	最近の日本政治の動向
4 行政部 (1)	内閣・行政部の役割
5 — (2)	行政部の現状と問題点
6 立法部 (1)	国会の役割
7 — (2)	立法過程
8 — (3)	立法の現状と問題点
9 司法部 (1)	司法部の役割
10 — (2)	市民の司法参加
11 日本政治の諸問題	行政、立法、司法を通してみた日本政治の問題点
12 世論について	世論とマスコミ
13 地方自治と分権 (1)	地方自治と分権をめぐる現状
14 — (2)	地方自治と分権の今後
15 日本政治の今後	変革の時代を生きる
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	小林啓祐 <i>Keisuke Kobayashi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	経済学入門		対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	経済学入門					

■授業のねらいと到達目標

本講義は経済学を勉強するにあたり、その入門となる内容を学ぶものである。具体的には基本的な経済学の歴史、日本経済の歴史・現状、ミクロ経済学、マクロ経済学の知識を学ぶ。講義では、その概念が必要となった背景についても学ぶことで、その理論がなぜ経済の分析に必要とされたのかについても考えていきたい。

■授業の進め方 (履修条件等)

全部で3回小テストを行う。すべて受けることが前提となるので注意すること。

■成績評価方法・基準

小テストの結果とコメントシートをあわせて評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書の該当箇所を読んでいることが望ましい。
復習：講義中に配るレジュメ、自筆ノートで復習すること。

■教科書

塩澤修平『経済学・入門 第2版』有斐閣アルマ 2003年

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	本講義のガイダンスを行う
2 経済学の歴史	およそ200年間の経済学の歴史を学ぶ
3 日本経済の現在と過去 1	高度経済成長期の日本経済の歴史を学ぶ
4 日本経済の現在と過去 2	バブル経済およびその崩壊後の日本経済の歴史を学ぶ
5 経済学と日本経済	まとめと小テスト
6 ミクロ経済学 1	消費者行動と生産者行動について学ぶ
7 ミクロ経済学 2	市場について学ぶ
8 ミクロ経済学 3	国債貿易について学ぶ
9 ミクロ経済学 4	不確実性について学ぶ
10 マクロ経済学 1	ミクロ経済学の小テストと国民所得について学ぶ
11 マクロ経済学 2	均衡所得について学ぶ
12 マクロ経済学 3	IS-LM分析について学ぶ
13 マクロ経済学 4	インフレと景気循環について学ぶ
14 経済学の新展開	最近の経済学の動向について学ぶ
15 まとめ	まとめと小テスト
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	三幣利夫 <i>Toshio Sampei</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	経営学入門		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	経営学入門		入門経営学			

■授業のねらいと到達目標

経営に関する基本的な用語・理論を理解し、2年次以降で国際ビジネスに関連する専門科目を学習するための基礎を作る。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回配布するレジュメに沿って講義形式で進めるが、初心者にも判りやすい内容で行う。

■成績評価方法・基準

出席 30%
中間テスト 25%
定期試験（期末テストまたはレポート） 45%

■授業の予習・復習

事前準備は特に必要ない。

■教科書

■参考文献

伊丹敬之著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版社
上林憲雄他『経営学入門』有斐閣

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義の進め方、経営学の概要
2 会社の経営	会社の形態
3 経営理念	会社はどのような方針で動いているか
4 経営戦略（1）	会社の戦略、事業戦略
5 （2）	競争戦略
6 （3）	差別化戦略
7 企業の組織	会社を動かす仕組み
8 モチベーション	社員はなぜ働くか
9 リーダーシップ	人を動かすリーダーの役割
10 雇用と報酬	雇用システムと仕事の報酬
11 マーケティング	どのようにモノを売るか
12 国際経営	海外でどのように経営するか
13 企業会計	財務諸表の読み方
14 企業の社会的責任	企業文化とCSR
15 まとめ	講義内容の総括
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	原山浩介 <i>Kosuke Harayama</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	世界の食と農	世界の食と農	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	世界の農業		現代産業論			

■授業のねらいと到達目標

本講義は、食と農業をめぐって、広い視野の下でその問題点と可能性を探っていく。日本および世界の農業の現状を、世界の政治・経済の動向との関連から読み解くとともに、「食の安全」や農村の過疎化、都市と農村の経済格差といった、今日的なトピックスにも目配りしつつ、それが世界の政治・経済の潮流とどう絡むかを見ていく。

■授業の進め方（履修条件等）

概論的な講義の中に、適宜、具体的な事例やニュース、あるいはマンガなどを織り込み、多角的に農業が見えるような講義にしたうえで考えている。受講生には、農業や食に興味を持ちながら講義に参加してほしい。

■成績評価方法・基準

講義の提出物と、定期試験によって評価を行う。

■授業の予習・復習

予習：特になし。
復習：各回の講義内容に関する新聞記事や書籍を探し、情報収集に努め、知識の定着を図ること。

■教科書

『食と農のいま』（仮題）2011年4月刊行予定

■参考文献

特になし

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	講義の方針と、進め方に関する説明。
2 日常生活から見る食と農	身近な食べ物から食と農の問題を考える
3 世界の食料市場	穀物メジャーやGMOを中心に考える
4 国民経済とグローバルイゼーション	日本をモデルに食と農の環境変化を考える
5 中国の農村・農民	社会主義体制・市場経済化と農民差別
6 移民と農業労働	日本・中国に焦点を当てる
7 農地と水の奪い合い	グローバルに展開する農地・土地の争奪
8 バイオ燃料	新たな農産物需要の現状と問題点
9 農業問題と有機農業	食の危険／安全
10 ファストフードとグローバルイゼーション	マクドナルドを中心に考える
11 食のローカライゼーション	地産地消・スローフードを中心に考える
12 食品偽装	食の安全性をめぐる現実
13 「元気な農村」論再考	「儲かる農業」批判と小農問題
14 貿易自由化と農業の未来	TPPを視野に入れて考える
15 まとめ	講義の総括をする
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	中村圭三 Keizo Nakamura		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	環境科学	環境科学	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学概論		

■授業のねらいと到達目標

今日、地球環境は急激に変化しつつある。我々の豊かな生活を育んできた美しい地球は、この先一体どうなるのだろうか。本講義では、実際の研究事例を通して、環境を科学するための基礎力を養成する。

■授業の進め方（履修条件等）

最初に各週の授業内容に関する基礎事項をテキストの「基礎技法」で学習する。その上で、調査事例を中心とした授業内容を展開する。

■成績評価方法・基準

出席30%、定期試験70% の比率で成績を評価する。

■授業の予習・復習

予習：テキストの「基礎技法」を学習しておくこと。
復習：学習した授業内容に関連する環境問題に関心を持って生活すること。

■教科書

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	環境科学概説
2 オゾン層の破壊	オゾン層の破壊と対策
3 地球温暖化（1）	地球温暖化の発生原因
4 地球温暖化（2）	地球温暖化の影響と対策
5 環境と気象・気候（1）	山の気象・気候
6 環境と気象・気候（2）	海岸の気象・気候
7 環境と気象・気候（3）	平地の気象・気候
8 環境と気象・気候（4）	都市の気候
9 気候と生物	生物季節
10 酸性雨（1）	酸性雨の発生原因
11 酸性雨（2）	酸性雨の現状
12 酸性雨（3）	酸性雨の影響と対策
13 生活と環境（1）	水質
14 生活と環境（2）	水の利用
15 まとめ	総括
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	中島興基 Koki Nakajima		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	生物と環境		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	生物と環境	生きものと私達のくらし	環境生態学	生きものと私達のくらし		

■授業のねらいと到達目標

人間活動の近代化による自然環境の急速な変化とそれに伴う生態系の有する環境保全機能の消滅や減少の現状を学習する。それらを通して、地球温暖化や熱帯雨林の破壊など地球規模の環境問題とその生態学的意義や重要性を考え、生物と環境の相互作用など生態系の概念並びに人間と自然との関係のあり方を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義スケジュールに沿って、レジメ、参考資料を配付する。パソコンと補助としてVTRを用いる。毎回出席状況を確認するとともに、2回のレポートを課する。初回のオリエンテーションには必ず出席すること。

■成績評価方法・基準

期末試験（50%）、レポート（2回）・出席状況（50%）により評価する。

■授業の予習・復習

予習：事前に配付する資料に目を通すこと。基礎的な中・高の生物・化学を学習しておくこと。
復習：毎回の講義をノートに整理すること。博物館などを見学して生物の生態や変遷などを理解すること。

■教科書

教科書は使用しない。
講義内容に沿って配付する資料等を用いる。

■参考文献

・「生物多様性キーワード事典」、生物多様性政策研究会編、中央法規 2002年
・「生態の事典」沼田真編、東京堂出版、1995年

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の進め方など
2 基礎的用語	エコロジー、エコシステムなど基礎的用語の説明
3 生物と環境の関わり	生物と無機的環境の間の相互作用
4 生物多様性①	種と種内の多様性
5 生物多様性②	熱帯雨林、海洋など生態系の多様性
6 環境破壊の歴史	工業化等による大気、水・土壌など環境破壊の歴史
7 健康被害	水俣病など重金属による健康被害
8 化学物質の挙動	Rカーソンの警告と生物濃縮など化学物質の挙動
9 環境汚染のメカニズム	富栄養化など人間活動に起因する汚染のメカニズム
10 水圏の生態	水圏の生態系と海洋汚染
11 干潟の重要性	干潟の浄化機能とラムサール条約による保全
12 森林の生態	森林の生態学的機能と破壊要因
13 土壌環境の現状	土壌汚染の現状とその影響並びに砂漠化問題
14 野生生物	絶滅に瀕している野生生物の現状と保全対策
15 まとめ	生物多様性の保全をめぐる国際的な動き
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	高橋和子 Kazuko Takahashi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	情報概論	情報概論	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	コンピュータ概論	コンピュータ概論	コンピューター概論	コンピューター概論		

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、現代社会で不可欠なコンピュータとコンピュータが扱う情報に関する基礎知識を開示することです。到達目標は、情報がコンピュータでどのように扱われ、処理されるのかということについて、コンピュータ単独だけでなくインターネットについても理解することで、情報社会に対応できる能力を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト（クイズ）を数回行います。

■成績評価方法・基準

平常点：授業内小テスト（毎回）40% 定期試験：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありませんが、日頃からIT関連のニュースに注意するようにしてください。
復習：専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。

■教科書

『コンピュータと情報システム』草薙信照著 サイエンス社 2007年

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業のねらいと到達目標、評価方法
2 コンピュータの基礎知識	コンピュータの歴史、種類、基本構成
3 情報とデータ	情報の単位、補助単位、論理演算
4 ハードウェア（1）	中央処理装置
5 ハードウェア（2）	周辺処理装置、インタフェース
6 ソフトウェア（1）	OS、アプリケーション
7 ソフトウェア（2）	プログラム言語
8 情報の表現（1）	数値情報、2進数と10進数の相互変換
9 情報の表現（2）	数値情報の演算、テキスト情報
10 情報の表現（3）	画像情報、音声情報、情報圧縮方法
11 コンピュータネットワークシステム	LAN、通信回線
12 インターネット	インターネットのしくみと利用方法
13 セキュリティ	インターネットにおけるセキュリティ
14 現在の動向	IT関連の現況
15 まとめ	コンピュータと情報処理についての総復習
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	伊藤礼子 Reiko Ito		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	英語学概論	英語学概論	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	英語学概論		英語学概論			

■授業のねらいと到達目標

「英語」を客観的に分析し、「英語」の知識を深めることを目的とします。最も小さい単位である「音」の分類、「語」の内部構造、「文」の構造と分析方法、そして実際の英語使用について具体例を通して学びます。また英語がどのように発達し、世界の中でどのように使用されているのかも理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には講義形式で進めますが、言語を科学的に分析することを学ぶため、出席と授業に対する積極的な参加を求めます。毎回課題の提出を求められます。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、課題の提出（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

新出事項は必ず復習してください。

■教科書

石黒昭博他 著『現代の英語学』（金星堂）

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 授業の展望	英語学を学ぶ意義
2 世界の英語	BBCのビデオによる英語の使用状況の考察
3 音声学	英語音の分類
4 音韻論1	音素と異音
5 音韻論2	音の強勢
6 形態論1	形態素と異形態
7 形態論2	語形成
8 統語論1	科学的伝統文法とアメリカ構造主義
9 統語論2	生成文法（句構造規則）
10 統語論3	生成文法（樹形図）
11 意味論	意味役割・成分分析
12 語用論	発話行為
13 英語の歴史1	インドヨーロッパ語・古英語
14 英語の歴史2	中英語・近代英語
15 現代英語	アメリカ英語と英国英語
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	増井由紀美 Yukimi Masui		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	アメリカの文化と社会	アメリカの文化と社会	対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	アメリカの文化と社会		アメリカの文化と社会			

■授業のねらいと到達目標

本講義では、植民地時代から今日までのアメリカを歴史、文化、社会、宗教、芸術から観察します。アメリカ関連の情報はテレビ、映画、インターネットを通じ溢れています。これを文化的に捉えられたら、アメリカ社会がより深く捉えられるようになります。講義を受ける前と受けた後で受講者の「アメリカ観」に変化がもたらされることを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

講義が中心ですが、テーマによっては受講者による発表の時間を設けます。また、ビデオや絵画など視覚的な情報も教材にします。

■成績評価方法・基準

出席、授業内提出物、期末試験

■授業の予習・復習

予習：前の週に指示された内容を本やネットで調べておきます。復習：疑問を明確にするために、ノートに記録します。

■教科書

授業内配布資料

■参考文献

授業内指示

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	授業の進め方の説明及びアンケート
2 意見交換	アメリカ及びアメリカ人のイメージについて（前の週のアンケート結果に基づく）
3 植民地時代	新世界のコミュニティとキリスト教
4 博物館	「アメリカ」をどのように見せてきたか
5 都市の誕生と発展Ⅰ	ニューヨークの19世紀末：新移民がもたらしたもの
6 都市の誕生と発展Ⅱ	シカゴの世紀転換期
7 時代の変化Ⅰ	世紀転換期の新しい価値観（ファッション／宗教／絵画／音楽）
8 時代の変化Ⅱ	文学作品にみる
9 人種で切る時代の特徴	「るつぼ」か「サラダボール」か
10 描かれた人種問題Ⅰ	映画にみる
11 描かれた人種問題Ⅱ	絵画にみる
12 女性史でみるアメリカ	アメリカ人女性の残した資料を中心に
13 留学生の伝えた「アメリカ」	留学100年を考える
14 討論会Ⅰ	アメリカの人種問題
15 討論会Ⅱ	受講前と後でアメリカ観が変わったか否か確認
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	新堀司 Tsukasa Niibori		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	イギリスの文化と社会		対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	イギリスの文化と社会		イギリスの文化と社会			

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは、イギリスの文化と社会の諸相を学習することを通じて、イギリスという異文化社会に対する理解を深めることである。到達目標としては、イギリスの文化と社会に関する基礎的な知識を身につけることである。

■授業の進め方（履修条件等）

第1週目から第4週目までは、教員による講義。第5週目から第14週目までは、受講生の発表を主体とした授業（発表のやり方は第1週目に説明。出席不可欠）。また第5週目から第14週目までにおいて、発表者以外の受講生は発表の要約および感想の提出が求められる（授業の最後に提出）。なお、座席は固定する。

■成績評価方法・基準

出席状況（10%）、提出物（30%）、発表（または試験）の結果（60%）による総合的評価。発表を行わない受講生は学期末の試験を受験。なお、学習態度不良の場合は、減点する。

■授業の予習・復習

予習：必要に応じて指示。
復習：必要に応じて指示。

■教科書

プリントを使用する。

■参考文献

授業中に指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の内容、進め方、発表のやり方などの説明
2 多様性	イギリスの各地域の概要
3 イギリスとヨーロッパ	イギリスとヨーロッパの関わり
4 ロンドン	ロンドンの形成など
5 王室	王室の概要など
6 政治	政治システムなど
7 教育	教育制度など
8 祭り	主だった祭りなど
9 スポーツ	サッカーなど
10 食生活	紅茶など
11 交通	鉄道など
12 神話・伝説	アーサー王など
13 芸術	絵画など
14 その他	その他の社会的、文化的事柄
15 まとめ	授業内容の総まとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	有馬容子 Yoko Arima		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	英米文学概論	英米文学概論	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	英米文学概論	英米文学概論	英米文学概論		英米文学概論	

■授業のねらいと到達目標

優れた文学作品には時代と国境を越えた普遍的なテーマが描かれています。この講義では特に現代的なテーマを扱ったアメリカの古典的作品とそれらから影響を受けて書かれた現代作品を読み、具体的に探って行きます。将来的には原文で読めるようになることを目標に、主な作品については適宜、原文の一部を配布し精読してもらいますので、受講者はある程度の英語力が重要です。

■授業の進め方（履修条件等）

授業中に配布するプリントは学期末試験の範囲となります。プリントの配布は各授業時間中に限られるので欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

毎回実施の小テスト（英文訳）（40%） 定期試験（60%）

■授業の予習・復習

予習：プリントの内容および作品の一部（英語）を熟読する。
復習：興味を持った作品は全体を読んでおく。

■教科書

プリントを配布

■参考文献

『北アメリカ文学講義』
J・L・ボルヘス著 柴田元幸訳 国書刊行会 2001
『サロン・ドット・コム——現代英語作家ガイド』
ローラ・ミラー著 柴田元幸訳 研究社 2003

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義概要	
2 ホーソン Nathaniel Hawthorne (1)	『ヤンググッドマン・ブラウン』
3 ホーソン (2)	『ウェイクフィールド』
4 キング Stephen King	『黒いスーツの男』
5 オースター Paul Auster	『幽霊たち』
6 メルヴィル Herman Melville	『代書人バートルビー』
7 トウェイン Mark Twain	『不思議な少年44号』
8 ヴォネガット Kurt Vonnegut (1)	『スローターハウス 5』(前半)
9 ヴォネガット (2)	『スローターハウス 5』(後半)
10 ヘンリー・ジェイムズ Henry James (1)	『友だちの友だち』
11 ジェイムズ (2)	『にぎやかな街角』
12 ロンドン Jack London (1)	『赤いもの』
13 ロンドン (2)	『古代のアルゴスのように』
14 カポーティ Truman Capote (1)	『ミアリアム』
15 カポーティ (2)	『夜の樹』
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	キャリアセンター		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	キャリアデザイン1	キャリアデザイン1	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名						

■授業のねらいと到達目標

日本文化、日本の常識、ビジネス社会の慣習等を熟知しなければ就職活動において厳しい局面を迎えることになります。日本社会を徹底して教えます。

■授業の進め方（履修条件等）

事例を取り入れながら、場面を想定して実践的に使えるように指導していきます。グループでのワークも併用します。

■成績評価方法・基準

定期試験・授業内小テスト・レポート及びその他の課題・出席をもとに採点致します。
出席率は80%以上が望ましい。

■授業の予習・復習

講師からの課題は事前に必ず準備しておいてください。また講義終了後配布したプリントに目を通しファイリングして下さい。

■教科書

プリント配布

■参考文献

その都度紹介します。

■授業内容

回数	授業内容
1	ガイダンス 日本の文化と伝統
2	日本の四季と行事① 正月・節分・雛祭り・花見・端午の節句等
3	日本の四季と行事② 中元・夏祭り・立冬・歳暮・事納め等
4	ビジネス冠婚葬祭① 冠・転勤・社屋落成・賀寿・叙勲
5	ビジネス冠婚葬祭② 婚・結婚式
6	ビジネス冠婚葬祭③ 葬・葬儀・告別式（社葬）
7	ビジネス冠婚葬祭④ 祭・四季のしきたり
8	日本の商習慣① 入社式・退職
9	日本の商習慣② 株主総会・役員会
10	日本の商習慣③ 祝賀式・記念式典・懇親会
11	日本の商習慣④ ビジネスマナー（社内マナー）
12	日本の商習慣⑤ ビジネスマナー（転勤に関するマナー）
13	日本の商習慣⑥ ビジネスマナー（他社訪問）
14	総集編 質疑応答
15	総括 まとめ 自己点検
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	キャリアセンター		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	キャリア特殊 1		対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名						

■授業のねらいと到達目標

入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのかを学びます。最終的には、卒業後に目標とする人物像（ロールモデル）を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

1年生は全員履修とします。20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。それぞれのグループ（ゼミ）で、ワイワイガヤガヤとディスカッションをします。

■成績評価方法・基準

出席および提出物の内容、併せて受講態度を加味して総合的に判断します。

■授業の予習・復習

講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。

■教科書

必要に応じて、プリント等を配付いたします。

■参考文献

その都度、紹介します。

■授業内容

回数	授業内容
1	キャリアとは《全体講義》
2	コミュニケーションの基礎① ～自分を語ろう・相手を知ろう～
3	コミュニケーションの基礎② ～姿勢・動作・表情の基礎を知ろう～
4	コミュニケーションの基礎③ ～話し方の基本・話し方の違いによる違いを知ろう～
5	ゲスト・スピーカー《全体講義》
6	ビジョンボードを創ろう 《少人数制クラスでのファシリテーション》
7	チバイチバンカ《チ》チームワーク①
8	チバイチバンカ《チ》チームワーク②
9	チバイチバンカ《バ》バイテリティ①
10	チバイチバンカ《バ》バイテリティ②
11	チバイチバンカ《イ》イノベーション
12	チバイチバンカ《チ》知識
13	チバイチバンカ《バ》バランス感覚
14	チバイチバンカ《ン》気づき notice
15	まとめ コンピテンシーモデルの作成

年 度	11年度入学		担 当 者	教務部委員会		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	海外語学研修Ⅰ・Ⅱ	海外語学研修Ⅰ・Ⅱ	対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	海外語学研修Ⅰ・Ⅱ	海外語学研修Ⅰ・Ⅱ	海外語学研修Ⅰ・Ⅱ	海外語学研修Ⅰ・Ⅱ	海外語学研修Ⅰ・Ⅱ	海外語学研修Ⅰ・Ⅱ

■授業のねらいと到達目標

- ①英語力または中国語力の向上
- ②研修先の国（アメリカ・イギリス・オーストラリア・中国）の社会に関する文化理解の増進

■授業の進め方（履修条件等）

- ①事前の勉強会に必ず出席すること
- ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること
- ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと

■成績評価方法・基準

出席70%、レポート30%で評価する。レポートは帰国後提出すること

■授業の予習・復習

研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること

■教科書

各研修実施大学が指定する教材を使用

■参考文献

■授業内容

- ①研修実施大学での語学研修
研修実施大学：ポートランド州立大学（アメリカ）、国立ウルバーハンプトン大学（イギリス）、国立ジェイムズ・クック大学（オーストラリア）、北京第二外国语学院（中国）
- ②本学での事前研修
帰国後にはレポートを提出
- ③ホームステイ先または寮（研修先により異なります）での英語による生活

年 度	11年度入学		担 当 者	教務部委員会		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	海外スクーリングⅠ・Ⅱ	海外スクーリングⅠ・Ⅱ	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	海外スクーリングⅠ・Ⅱ	海外スクーリングⅠ・Ⅱ	海外スクーリングⅠ・Ⅱ	海外スクーリングⅠ・Ⅱ		

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、各授業で学んだことを実際に自分の目で見て、体験することで、知識に深みをもたせることにある。この海外研修の体験を通して、国際教養の向上及び国際交流の重要性を実感することが到達目標となる。

■授業の進め方（履修条件等）

- ①敬愛大学の学生としての自覚をもった団体行動ができること。
- ②研修先の諸事情を積極的に学び、現地の人々との交流をおこなう姿勢をもっていること。

■成績評価方法・基準

出席（事前授業・研修）70%
レポート（帰国後提出）30%

■授業の予習・復習

予習：事前授業への参加。研修先に関する情報の収集。研修先の言語の勉強。
復習：研修期間に得た知識や資料の整理。レポートの充実。

■授業内容

- ①事前授業（90分×4回程度）
- ②研修（8日～14日程度）
- ③事後授業（90分×1回程度）
- ④研修先は、未定。5月中旬に学内に掲示する。
- ⑤実施期間は、夏休み・冬休み・春休みの長期休暇期間中とする。
- ⑥最低実施人数は原則として10名とする。
- ⑦引率は原則として専任教員1名。

■教科書

特にありません。

■参考文献

事前授業の中で紹介します。

年 度	11年度入学		担 当 者	山本健 Takeshi Yamamoto		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ	ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ	ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ	ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ	ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ		

■授業のねらいと到達目標

阪神淡路大震災が発生した1995年以降、ボランティア活動の重要性が認識されてきた。しかし依然として、①個人の意思と自発性に基づくボランティア活動と②上意下達（じょういがかたつ）に基づく奉仕活動の混同が認められる。そこで、この差異を手掛かりに、ボランティアの楽しさを知り、在学中に実践活動させることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

前期（活動Ⅰ）で、ボランティア活動の基礎的学習を行い、後期（活動Ⅱ）で具体的な実践活動を行う。注意：、後期の活動Ⅱは、前期の「基礎」を習得した学生のみが履修登録ができる。

■成績評価方法・基準

前期は基礎力の習得を確認するために、試験を行います。後期は自らの実践したボランティア活動の①レポートの提出、②実践した所の証明書、③自分が活動している写真の3点を添える義務がある。

■授業の予習・復習

既存のボランティア組織で実践する場合、予約を入れる必要があるため、各自治体（市町村）の関係窓口などに、早めに登録（申し込み）をしておくこと。

■教科書

金子郁容「ボランティア—もうひとつの情報社会」（岩波新書、1997年）

■参考文献

- ① 柏木宏「ボランティア活動を考える」（岩波ブックレットNo.403、1996年）
- ② 八木哲郎「ボランティアが世界を変えた」（法蔵館、1996年）
- ③ 八木哲郎「ボランティアに生きる。」（東洋経済新報社、1993年）
- ④ 山本 茂「緑のボランティア—蒙古沙漠を行く」（ビジネス社、1995年）
- ⑤ 山本 健「中国内モンゴルの3年間（1998～2000年）の植林ボランティア活動報告書」（『環境情報研究』（敬愛大学紀要）、第10号、2002年）
- ⑥ 同上「2002～06年の中国での植林ボランティア活動報告書」（『環境情報研究』（敬愛大学紀要）、第14号、2006年）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明
2	文献にみるボランティア論	ボランティア活動の基礎知識
3	① 柏木宏のボランティア論	アメリカでの活動の紹介
4	同上	ボランティアを支えるシステムを考える
5	② 八木哲郎のボランティア論	ネパール・バングラデッシュでの活動の紹介
6	同上	阪神淡路震災を教訓とした行政と活動の関係を考える
7	同上	21世紀はボランティア活動が組み込まれた「共生社会」
8	③ 金子郁容のボランティア論	ボランティアについての日本での問題点
9	同上	ボランティア活動の楽しさ
10	同上	ボランティア活動との係わり方
11	実践活動の紹介	緑の協力隊（日本沙漠緑化実践協会）の事例
12	私の実践活動の紹介	環境破壊問題の視点から見た日本と中国の関係
13	私の実践活動の紹介	中国内モンゴルの砂漠植林活動の報告
14	同上	ボランティア活動から見た私の「国際交流」活動
15	マトメ	
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	教務部委員会		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	国内スクーリングⅠ・Ⅱ	国内スクーリングⅠ・Ⅱ	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国内スクーリングⅠ・Ⅱ	国内スクーリングⅠ・Ⅱ				

■授業のねらいと到達目標

スクーリングの国内版です。講義や演習で学習した内容を実践を通して確認していただく試みです。現在は夏休み期間中に長野県の農業大学校での実習などを検討中で、その他の企画も計画されています。教員と一緒にこの実習に参加してみましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

毎週、定期的に授業を行うわけではありません。企画毎に集中的に事前講習への参加と実習（3泊程度）、日誌・報告書の作成を求めます。経費はできるだけ抑えたいと思いますが、交通費・宿泊費・実習費などが別途必要となります。

■成績評価方法・基準

企画毎に参加者を募集し、実習への関わりと事前の講習、事後の報告書等の提出を含めて総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習：事前研修には必ず参加してください。

復習：実習中は日誌をまとめ、これを元に報告書を作成していただきます。

■教科書

使用しません。適宜、資料を配布します。

■参考文献

使用しません。適宜、資料を配布します。

年 度	11年度入学		担 当 者	教務部委員会		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	敬愛プログラム		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	敬愛プログラム		総合講座Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

自分で定めた目標をやり遂げる能力を高めるとともに、共同作業を通して目標を達成する経験を積む。

■授業の進め方（履修条件等）

毎週定期的に授業を行うわけではない。2人以上のグループで具体的なテーマを決め、その達成目標や段取りを修学支援室に提出し、承認を受けてから一定期間内に成果を上げられるよう取り組み、成果は公表する。テーマについては、下記の例を参考にすること。

■成績評価方法・基準

公表された成果を教務部委員会が採点して評価する。

■授業の予習・復習

自分達のグループで文献や資料を調べ、調査に出かけたり、結果をまとめたりしなければならない。先輩や友人、先生方の助言も参考にしながら取り組んでほしい。

■教科書

使用しない。

■参考文献

テーマによって参考文献は異なる。メディアセンター等で適切な参考文献、資料を選定すること。

■授業内容

■敬愛プログラムのテーマ例

- ①千葉を知る（歴史、地理、経済、文化、環境など）
- ②大学を活性化する（教育環境、緑化、大学祭、食堂新メニュー、健康、ボランティアなど）
- ③敬愛人講座を実践する

年 度	11年度入学		担 当 者	長谷川頼子 <i>Yoriko Hasegawa</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	日本語学入門		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	日本語学入門		日本語学入門 (半期科目)			

■授業のねらいと到達目標

「やり・もらい」や「敬意表現」、「方言」など、日本語社会におけるコミュニケーションに特徴的に見られる項目をとりあげ、そこに関わる文化的背景についても理解を深めます。単なる知識の詰め込みではなく、練習問題にもとり組みつつ、自分が使うことばである日本語を客観的に観察し、そのありようを探っていきます。

■授業の進め方 (履修条件等)

外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生なら学年を問わず受講を歓迎します。ただし、全員の発言で進める講義形式に協力できることが履修条件です。第一回の授業を休まないこと。

■成績評価方法・基準

「授業」(出席・態度・提出物) 50%、「試験」50%。欠席4回で、履修放棄とみなします。また、遅刻2回=欠席1回です。

■授業の予習・復習

予習：自分の周りの日本人、留学生が話す日本語に関心を持ちましょう。

復習：ことばの多様性と、その背景にある規則性や使い分けについて整理しましょう。

■教科書

とくに使用しません。プリントを配布します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	自己紹介、講義の進め方や評価について解説
2	総論	「日本語学」の各領域
3	人称と視点①	「あげる・もらう・くれる」
4	人称と視点②	授受動詞の補助動詞的用法
5	人称と視点③	授受表現のバリエーション
6	敬語と敬意表現①	敬語・敬意表現とは
7	敬語と敬意表現②	敬語の五分類：尊敬語
8	敬語と敬意表現③	敬語の五分類：謙讓語Ⅰ
9	敬語と敬意表現④	敬語の五分類：謙讓語Ⅱ
10	敬語と敬意表現⑤	敬語の五分類：丁寧語・美化語
11	敬語と敬意表現⑥	敬意表現の役割と機能
12	日本人の言語行動①	言語行動を構成する要素
13	日本人の言語行動②	方言・共通語・標準語
14	日本人の言語行動③	話しことばの地域差
15	日本人の言語行動④	話しことばのダイナミズム
16	定期試験	

■参考文献

佐々木泰子 (編) (2007) 『ベーシック日本語教育』 ひつじ書房

年 度	11年度入学		担 当 者	黄 麗華 <i>Huang Lihua</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	言語学入門		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	言語学入門		言語学入門			

■授業のねらいと到達目標

日本語教育を視野に入れながら、言語全般に関する基本的な知識の理解・習得を目指す。

■授業の進め方 (履修条件等)

基本的には講義形式であるが、適宜さまざまな練習問題を解くことで理解を深めていく。留学生で受講を希望する者は、日本語能力試験2級相当の日本語力を必要とするので、注意すること。

■成績評価方法・基準

定期試験8割、平常点2割。

3回以上欠席した者、または受講態度の良くない者は評価から外す。遅刻も認めない。

■授業の予習・復習

予習：授業時に指示する。

復習：授業時に指示する。

■教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

■参考文献

授業時に適宜紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	概要
2	音声学1	人間の発する音声について
3	音声学2	同上
4	音韻論1	日本語で使われる音の概要
5	音韻論2	アクセントやイントネーション
6	形態論1	日本語の単語を中心に
7	形態論2	同上
8	統語論1	日本語の文法を中心に
9	統語論2	同上
10	意味論1	ことばや表現の意味について考える
11	意味論2	同上
12	意味論3	同上
13	文字論1	日本語の文字を中心に
14	文字論2	世界の文字
15	まとめ	
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	櫛田久代 Hisayo Kushida		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	政治学概論 I	政治学概論 I	対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	政治学概論 I		政治学概論 I			

■授業のねらいと到達目標

国際学を学ぶための一つの方法論である政治学を学びます。なお、授業では、政治学の基礎概念や理論に重点を置いています。が、国家内部においてだけでなく国民国家を超える国際政治の領域において、政治がどのように作用しているのかを理解することを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布したプリントを中心に進めていきます。時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で授業を進めます。学則では、単位取得のためには、原則として3分の2以上の出席が履修条件です。教職課程履修者は必修です。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。
復習：わからなかったことを自分で調べ、ノートに整理して下さい。

■教科書

毎回プリントを配布します。

■参考文献

久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection)』（有斐閣、2003年）他。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 政治を見る目	最近の日本の政治の動向
3 国家（1）	権力
4 —（2）	国家
5 ナショナリズム（1）	国民国家とナショナリズム
6 —（2）	民族のナショナリズム
7 民主政治（1）	民主政治の起源
8 —（2）	民主政治の実態
9 —（3）	民主政治への模索
10 —（4）	民主政治制度の多様性
11 選挙（1）	選挙制度
12 —（2）	選挙制度に関する考察
13 政治組織（1）	政党
14 —（2）	利益集団
15 —（3）	日本の政治と政党
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	日本史概論 I		対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	日本史概論 I		日本史概論 I			

■授業のねらいと到達目標

前近代における日本史の基礎知識と、各単元を授業で扱う際に注意すべき点などを紹介していく。この授業を通じて、高等学校の日本史あるいは中学校の社会科（歴史分野）の教員として、①各単元を指導する上での基礎知識を習得する。②各単元の指導案を作成することができる。③具体的に授業を実施する経験を積む。以上を到達目標としている。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回の授業では、教科書やプリントを利用しながら、各単元の基礎知識と指導上の留意点を学習する。それを踏まえて、①毎回小テストを実施する、②小テストの解答解説授業を体験する、③指導案や板書ノートを作成する、という進め方をする。提出された指導案等は、可能な限り翌週には添削して返却する。

■成績評価方法・基準

定期試験（100）＋小テスト（10×10）＋指導案・板書ノート（10×10）＋実技（50）を実施し、総合点（350）を5段階で評価する。なお、出席率が2/3に達していない学生は、評価対象外とするので注意すること。

■授業の予習・復習

予習：高校時代に使用した日本史の教科書の内容を覚えておくこと
復習：授業で扱った単元の日本史用語を全部頭に入れておくこと。
そして指導案を作成すること。

■教科書

『山川 詳説日本史図録』第4版（山川出版）

■参考文献

『詳説日本史』（山川出版）、『日本史用語集』（山川出版）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、指導案の書き方
2 原始社会	文化のはじまり、農耕社会の成立
3 古墳時代、飛鳥文化	古墳とヤマト政権、飛鳥文化
4 律令国家	律令国家の成立、平城京の時代
5 律令制の再編	天平文化、平安朝廷の形成
6 摂関政治と国風文化	摂関政治、国風文化
7 荘園制と武士政権	荘園と武士、院政と平氏政権
8 鎌倉幕府の成立	鎌倉幕府の成立、武士の社会
9 鎌倉幕府の衰退	元寇、鎌倉文化
10 室町幕府の成立と衰退	室町幕府の成立、室町幕府の衰退と庶民の台頭
11 戦国時代	室町文化、戦国大名の登場
12 織豊政権	織豊政権、桃山文化
13 幕藩体制の展開	幕藩体制の成立、幕政の安定
14 元禄時代	経済の発展、元禄文化
15 幕藩体制の動揺	幕政改革、幕府の衰退、化政文化
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	日本史概論Ⅱ		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	日本史概論Ⅱ		日本史概論Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

近代における日本史の基礎知識と、各単元を授業で扱う際に注意すべき点などを紹介していく。この授業を通じて、高等学校の日本史あるいは中学校の社会科（歴史分野）の教員として、①各単元を指導する上での基礎知識を習得する。②各単元の指導案を作成することができる。③具体的に授業を実施する経験を積む。以上を到達目標としている。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回の授業では、教科書やプリントを利用しながら、各単元の基礎知識と指導上の留意点を学習する。それを踏まえて、①毎回小テストを実施する、②小テストの解答解説授業を体験する、③指導案や板書ノートを作成する、という進め方をする。提出された指導案等は、可能な限り翌週には添削して返却する。

■成績評価方法・基準

定期試験（100）＋小テスト（10×10）＋指導案・板書ノート（10×10）＋実技（50）を実施し、総合点（350）を5段階で評価する。なお、出席率が2/3に達していない学生は、評価対象外とするので注意すること。

■授業の予習・復習

予習：高校時代に使用した日本史の教科書の内容を覚えておくこと
 復習：授業で扱った単元の日本史用語を全部頭にいれておくこと。そして指導案を作成すること

■教科書

『山川 詳説日本史図録』第4版（山川出版）

■参考文献

『詳説日本史』（山川出版）、『日本史用語集』（山川出版）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 開国と幕末の動乱	開国、公武合体と尊王攘夷、討幕運動、幕末の文化
2 明治維新と富国強兵	戊辰戦争、中央集権化、殖産興業、自由民権運動
3 立憲国家の成立	立憲体制、初期議会、条約改正、日清戦争と三国干渉
4 立憲国家の展開	日露戦争、国際関係、桂園時代
5 近代産業	産業革命、近代産業の発展、社会運動の発生
6 近代文化	思想、教育、科学、文学、芸術
7 第一次世界大戦と日本	大正政変、第一次大戦、中国進出、大戦景気、米騒動
8 ワシントン体制	ワシントン体制、普選運動、護憲三派内閣
9 市民文化	市民文化、大正デモクラシー
10 恐慌の時代	戦後恐慌、震災恐慌、金融恐慌、金解禁、昭和恐慌
11 軍部の台頭	満州事変、恐慌からの脱出、二二六事件
12 第二次世界大戦	日中戦争、戦時統制と耐乏生活、新体制
13 占領と改革	5大改革指令、憲法の制定
14 冷戦と講和	東西冷戦、逆コース、朝鮮戦争と講和条約
15 高度経済成長	55年体制、高度経済成長
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	山本健 Takeshi Yamamoto		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	世界史概論Ⅰ		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	世界史概論Ⅰ		世界史概論Ⅰ			

■授業のねらいと到達目標

前年度の講義を受けて、20世紀の世界大戦において、戦場にならなかったアメリカが世界経済の中心に座り超大国となった。この事実は20世紀の国家にとって、経済、とくに資本主義経済の動向（発展と崩壊）が一番の課題であることを理解させる。

■授業の進め方（履修条件等）

事前に配布するプリントを読んで、自分が理解できなかった事柄を質問シートに記させ、それに答える形で授業を進める。また副本としての高校時代の『世界史』の教科書を首読させる。

■成績評価方法・基準

出席状況、試験そして質問（疑問）シートの提出状況などで総合評価。

■授業の予習・復習

予習：高校時代の『世界史』の該当する箇所を読んで、疑問点などを整理しておくこと。
 復習：受講後、質問シートを再評価すること。

■教科書

毎回配布するプリント

■参考文献

- ①小林道憲『二十世紀とは何で会ったのか』（NHKブックス、1999年）
- ②高校時代に利用した『世界史』の教科書

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明
2 前年度の講義の総括	第1次世界大戦の意義（世界初の総力戦）
3 ロシア革命	大戦で疲弊し混乱した経済がロシアの解体を招く
4 ソ連邦の誕生	世界初の社会主義政権の誕生
5 ヴェルサイユ体制①	国際連盟の誕生とドイツへの多額の賠償金の問題
6 ヴェルサイユ体制②	アメリカの動向（ドイツへの投資支援と中国進出）
7 トルコとインドの民族運動	西欧の政治スタイルへの2つの方法
8 東アジア（中国）の民族運動	文学革命から始る中国統一運動
9 世界恐慌①	アメリカの過剰生産の行き詰まりによる経済崩壊
10 世界恐慌②	各国の対応（①ブロック経済陣営と②全体主義陣営）
11 ヴェルサイユ体制の崩壊	ナチス・ドイツの台頭（中産階級のヒッラー支持）
12 日中戦争	全体主義日本軍への中国の対応（国共合作）
13 第二次世界大戦①	ドイツの民族統一から始った戦争
14 第二次世界大戦②	日本参戦で世界規模の戦争へ。日本の優位は僅か半年。
15 マトメ	資本主義経済の動向に連動する国家の盛衰
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山本健 Takeshi Yamamoto		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	世界史概論Ⅱ		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	世界史概論Ⅱ		世界史概論Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

第二次世界大戦後、世界平和の維持機関として国際連合が創設されるも、「第三次世界大戦」とも称すべき冷戦時代が到来し、「自由」か「平等」かの壮大なるプロバガンダ合戦が展開された。そして世界の人々が選択したのが「豊かさ」であり、「共存」であったことを理解させる。

■授業の進め方（履修条件等）

事前に配布するプリントを読んで、自分が理解できなかった事柄を質問シートに記させ、それに答える形で授業を進める。また副本としての高校時代の『世界史』の教科書を音読させる。

■成績評価方法・基準

出席状況、試験そして質問（疑問）シートの提出状況などで評価。

■授業の予習・復習

予習：高校時代の『世界史』の該当する箇所を読んで、疑問点などを整理しておくこと。
復習：受講後、質問シートの自分の疑問点を再検討すること。

■教科書

毎回配布したプリント

■参考文献

- ①小林道憲『二十世紀とは何であったか』（NHKブックス、1999年）
- ②高校時代に使用した『世界史』の教科書（現代文明論（上））
- ③佐伯啓忠『人間は進歩してきたのか 現代文明論（上）』（PHP新書、2003年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明
2 前期の講義の総括	第二次世界大戦の世界史的意義
3 国際連合の誕生	戦勝国中心の世界平和機構と敗戦国日・独の対応
4 IMF体制の成立	アメリカを中心にしたドルの国際通貨と自由貿易拡大
5 冷戦の出現	自由主義陣営（米）と社会主義陣営（ソ連）の対立
6 冷戦の展開	両陣営の軍事ブロック化と大量破壊兵器の開発
7 朝鮮戦争	東アジアでの冷戦の勃発
8 アジア・アフリカの中立主義	米ソ両陣営に組み込まない「第三世界」の団結とその役割
9 中東戦争①	イギリスの二重外交から始ったパレスチナ問題
10 中東戦争②	イスラエルvs.アラブの中東戦争と世界経済への影響
11 中華人民共和国の成立	共産党を率いた毛沢東の大躍進と文化大革命での混乱
12 アメリカのアジア政策	米の外交政策に見るアジア各国の位置づけ
13 米ソ接近と東欧諸国の動揺	スターリン以後の平和共存
14 南北問題から南南問題へ	資源ナショナリズムと地域間で拡大する経済格差問題
15 マトメ	「豊かさ」と文明共存の重要性について
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	永野 征男 Yukio Nagano		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	地理学概論Ⅰ		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	地理学概論Ⅰ		地理学概論Ⅰ			

■授業のねらいと到達目標

わが国を地理的な見方から考察する一つの方法としては、諸外国との比較も重要なことである。つまり、異文化の理解は、自国の特性を知ることにつながる。講義の中では、具体的に多文化の社会の好事例であるアメリカ合衆国を取り上げ、わが国の現状と比較したい。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件：「地理歴史科」の教職履修者は必ず履修すること。毎回、配布するプリントを資料として講述する。合衆国という大国を取り上げるため、出来るだけ視聴覚教材を使う。中学・高校等で使用した地図帳のあることが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、出席状況（30%）として、総合的な評価を行う。

■授業の予習・復習

■教科書

教科書は使用しない。配布プリントが資料となる。

■参考文献

参考文献は、関連する部分で紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	本講義の主旨説明 近年の教職現場の説明
2 合衆国の認知度	アンケート調査の実施 回収後、正答に関して解説
3 歴史性	地名研究から分かること（1）
4	地名研究から分かること（2）
5 合衆国の教育システム	歴史からみた学校制度 複雑な高等教育制度
6 大学教育に学ぶこと	学生の身分と大学組織（1）
7	学生の身分と大学組織（2）
8 プロスクール	大学院の捉え方（1）
9	大学院の捉え方（2）
10 MBA制度	制度内容と人気の陰り
11 大学の海外進出	日本との関係
12	具体例の紹介
13 マイノリティー教育	先住アメリカ人の事例
14	ヒスパニック教育
15 まとめ	
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	永野 征男 Yukio Nagano		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	地理学概論Ⅱ		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	地理学概論Ⅱ		地理学概論Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

わが国と遠くで近い関係にあるアメリカ合衆国を事例として、同国の国民性について考察する。その国の国情は、民意によって形成される部分も大きい。そこで、長年、多文化社会を維持してきたこの国には、世界を知るための題材が多くある。そこで、改めて複雑なこの国を分析してみたい。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件：「地理歴史科」の教職履修者は必ず履修すること。配布するプリントを資料として講述する。合衆国という大国を取り上げるため、出来るだけ視聴覚器材を使う。中学・高校等で使用した地図帳があることが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、出席状況（30%）として、総合的な評価を行う。

■授業の予習・復習

■教科書

教科書は使用しない。

■参考文献

参考文献は、関連する部分で紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	本講義の主旨説明
2 少数民族	アメリカ国内における社会的な地位
3	北米大陸におけるルーツの解明
4 先住アメリカ人	マイノリティーとしての苦悩
5	現代社会における問題点
6	移民史的な観点から分析
7 日系アメリカ人	ハワイ移民の歴史的な捉え方
8	米本土における白人社会との確執
9	現代社会における日系人の活躍
10 ヒスパニック	アメリカ社会を変えする集団
11 ユダヤ系アメリカ人	政財界における影響力
12 黒人	二極分化する現状分析
13 具体的地域事例	カリフォルニア州の分析（1）
14	カリフォルニア州の分析（2）
15 特殊事例	宗教的な集団居住者「アーミシュ」の紹介
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	小林 秀樹 Hideki Kobayashi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	哲学概論Ⅰ	哲学概論Ⅰ	対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	哲学概論Ⅰ	哲学概論Ⅰ	哲学概論Ⅰ		哲学概論Ⅰ	

■授業のねらいと到達目標

西洋思想の歴史的展開を追いながら、西洋哲学に関する基本的な知識や哲学的なものの見方・考え方を身につけ、哲学という営みがかもつ意義について理解を深めることをねらいとする。前期は古代ギリシャの哲人に学び、各々の思索の特色や相違を理解し、要点を説明できるようになることを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

哲学概論Ⅰ（前期）は教職課程の必修科目であるため、出席を特に重視する。講義を通じて、世界や人間存在に関する多様な見方・考え方があはれることに気づき、思惟することの楽しさが実感できるよう進めたい。

■成績評価方法・基準

定期試験の結果（70%）、出席状況および授業態度、ならびに小レポート（30%）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：該当する部分の教科書を読み、不明な点を明確にしておくこと。

復習：理解できなかった点を中心に調べるなど、講義内容をノートにまとめること。

■教科書

貫成人『図説・標準 哲学史』新書館

■参考文献

荻野弘之『哲学の饗宴』日本放送出版協会
今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	・「哲学」の語源 ・哲学はどのようなことを問題にするのか
2 自然哲学①	・古代のギリシャ世界（歴史、民族、文化） ・イオニア学派
3 自然哲学②	・エレア学派
4 自然哲学③	・多元論者、原子論者
5 ソフィストの登場	・ソフィスト登場の背景と意義 ・ピュシスからノモスへ
6 ソクラテス①	・無知の知、問答法、魂への配慮
7 ソクラテス②	・ソフィストとの相違 ・正義について①
8 プラトン①	・イデア論
9 プラトン②	・国家論・正義について②
10 アリストテレス①	・イデア論批判 ・アリストテレスの形而上学
11 アリストテレス②	・アリストテレスの論理学
12 アリストテレス③	・アリストテレスの倫理学 ・正義について③
13 ヘレニズムの思想	・ゼノン、エピクロス ・ヘレニズム
14 ユダヤ・キリスト教思想との出会い	・西洋思想のもう一つの源流について
15 講義のまとめ	・要点の確認、質疑応答
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	小林 秀樹 Hideki Kobayashi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	哲学概論Ⅱ		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	哲学概論Ⅱ		哲学概論Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

西洋思想の歴史的展開を追いながら、西洋哲学に関する基本的な知識や哲学的なものの見方・考え方を身につけ、哲学という営みがかもつ意義について理解を深めることをねらいとする。後期はユダヤ・キリスト思想との葛藤を経て近代に到る西洋哲学の歩みを理解し、要点を説明できるようになることを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

哲学概論Ⅱ（後期）は教職課程の必修科目であるため、出席を特に重視する。後期はユダヤ・キリスト教および主に近世以降の哲学思想を扱うが、映像資料なども用いて講義を進めたい。

■成績評価方法・基準

定期試験の結果（70%）、出席状況および授業態度、ならびに小レポート（30%）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：該当する部分の教科書を読み、不明な点を明確にしておくこと。

復習：理解できなかった点を中心に調べるなど、講義内容をノートにまとめること。

■教科書

貫成人『図説・標準 哲学史』新書館

■参考文献

山形孝夫『聖書物語』岩波書店
今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション —後期で学ぶこと	・前期の復習
2 ユダヤ教①	・ヘブライ民族の歴史 ・旧約聖書（創世記）について
3 ユダヤ教②	・モーセの出エジプト ・シナイ契約
4 キリスト教①	・キリストの生涯①
5 キリスト教②	・キリストの生涯②
6 キリスト教③	・贖罪論、教義の確立
7 中世の思想	・教父哲学 ・スコラ哲学の概要
8 ルネサンスの思想	・古典復興、人間と世界の再発見、宗教改革
9 ベーコン	・イデオロ論、帰納法
10 デカルト	・方法的懐疑 ・心身二元論
11 ロック	・イギリス経験論 ・社会契約論①
12 ルソー	・「自然に帰れ」 ・社会契約論②
13 カント①	・理性の限界、コペルニクスの転回
14 カント②	・義務倫理学
15 講義のまとめ	・要点の確認、質疑応答
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	中山 幸夫 Yukio Nakayama		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	教育原論		対象学年	1年	単 位	4
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	教育原論		教育原論			

■授業のねらいと到達目標

教育原論Ⅰ（前期）の学習をふまえて、学校教育を構成する教育課程（カリキュラム）に関する基礎的知識を習得しながら、教育課程の制度や学校における教育課程編成の方法について理解することを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストの内容をふまえた講義要項、資料を毎回配付し、それらをもとに授業を進めていく。ビデオ、パワーポイント等の視聴覚教材も適宜用いる。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、出席および小レポート（50%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：次のテーマに関してテキスト等の指定範囲を読んでおく。

復習：授業の終わりに授業内容の確認を兼ねた小レポートの提出を求める。

■教科書

中山幸夫・田中正浩編著『教育学のグランドデザイン』八千代出版

■参考文献

授業時に紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 教育をめぐる今日の状況	問題としての教育、家庭・学校・地域社会の現状
2 教育の意義	教育の意義、教育の概念、人間の発達と教育
3 教育の理念、教育目的の普遍性と特殊性	教育目的の歴史的変遷
4 教育の目的	教育目的の歴史的変遷
5 西洋古代・中世の教育思想	公教育思想の発展と近代公教育制度の成立
6 西洋近世・近代の教育思想	新教育の思想と新教育運動の展開
7 教育の思想	近代公教育の導入と明治期の教育
8 日本近代化と教育	大正デモクラシーと新教育
9 戦争と教育	戦後教育改革の始動と展開
10 戦後教育改革の始動と展開	高度経済成長と教育
11 教育改革の模索と臨時教育審議会	今日の教育改革
12 定期試験	
13 オリエンテーション	教育課程の意義と課題（総論）
14 教科中心カリキュラム、経験中心カリキュラム	
15 学問中心カリキュラム、人間中心カリキュラム	
16 学習指導要領（1）昭和22年版、昭和26年版	
17 学習指導要領（2）昭和33年版、昭和42年版	
18 学習指導要領（3）昭和52年版、平成元年版	
19 学習指導要領（4）平成10年版、平成20年版	
20 教育課程編成の原理	教育課程にかかわる法令と編成基準
21 小学校における教育課程編成の方法	
22 中学校における教育課程編成の方法	
23 高等学校における教育課程編成の方法	
24 総合的な学習の時間をめぐる問題	
25 総合的な学習の時間をめぐる問題	
26 総合的な学習の時間をめぐる問題	
27 総合的な学習の時間をめぐる問題	
28 総合的な学習の時間をめぐる問題	
29 総合的な学習の時間をめぐる問題	
30 総合的な学習の時間をめぐる問題	
31 総合的な学習の時間をめぐる問題	
32 総合的な学習の時間をめぐる問題	
33 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	武内清 Kiyoshi Takeuchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	教育原論Ⅰ		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	教育原論（通年）		教育原論（通年）			

■授業のねらいと到達目標

教育の理念や理想について、教育思想家の論を参照しながら、歴史的かつ現代的な観点からも考察する。教育課程の編成の意義やその実際を学ぶ。学校組織や学級の意義やその特徴を理解する。教育改革に対しても理解を深め、自分の考えを確立する。

■授業の進め方（履修条件等）

■成績評価方法・基準

出席と毎時間の授業の課題への解答30%、レポート20%、試験50%

■授業の予習・復習

■教科書

武内清編『子どもと学校』学文社、2010年

■参考文献

プリントを授業時に配布

■授業内容

	授業内容
1	教育についての2つの考え方（引き出すことなのかVS鑄型にはめることなのか）
2	教育思想の流れ（西洋の場合）
3	教育思想の流れ（日本の場合）
4	脱学校論の今－学校教育の可能性と制約
5	ホームスクーリングの思想と実践
6	教育法規－教育基本法、学校基本法等
7	教育の官僚制と教職の専門職性
8	学校組織の特性
9	学級集団の歴史と集団的特質
10	カリキュラムの社会学
11	教科書の歴史と内容、その使い方
12	教育方法の理論と実際
13	教育の法則化運動
14	教育改革の歴史と思想
15	講義のまとめ
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	武内清 Kiyoshi Takeuchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	教育原論Ⅱ		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	教育原論（通年）		教育原論（通年）			

■授業のねらいと到達目標

教育の理念や理想について、これまでの論点を整理し理解する。西洋及び日本の教育思想の流れを学ぶ。学校と学校を取り巻く社会的な集団（家庭、地域社会、メディア等）との関連を考える。教育課程の編成の意義やその実際を、現代的な観点から学ぶ。グローバル化する社会での教育の問題（英語教育や情報教育）について考察し、これらに対する知識や技術を身に付ける。学校を取り巻く機関や人々との関係を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

■成績評価方法・基準

出席と毎時間の授業の課題への解答30%、レポート20%、試験50%

■授業の予習・復習

■教科書

武内清編『子どもと学校』学文社、2010年

■参考文献

武内清編『子どもの「問題」行動』学文社、2010年

■授業内容

	授業内容
1	教育の理念に関する論点を整理する。
2	西洋の教育の歴史を概観する。（学校教育だけでなくそれに続く大学についても考える）
3	日本の教育の歴史を概観する。
4	家庭教育と学校教育の関係（その理念的違いと実際の違い、連携について考える）
5	幼稚園、保育園、学童保育学と学校教育との関係
6	カリキュラムと児童・生徒
7	教育方法と児童・生徒
8	部活動、学級活動、HR、ボランティア活動の教育的意義の検討
9	道徳教育から教育を考える
10	進路指導・キャリア教育
11	ジェンダーと学校教育
12	多文化教育、海外子女教育、ニューカマー教育
13	小学校での英語教育
14	情報教育
15	地域社会と教育の関係を考える
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	藤井 輝男 Teruo Fujii		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	教育心理学		対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	教育心理学	教育心理学	教育心理学		教育心理学	

■授業のねらいと到達目標

児童・生徒の学習過程に関する心理学的知見を修得し、教育場面で役立てられることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めるが、配付資料を利用して学生諸君の発言を求めたり、課題提出を求めたりする。必要に応じてビデオ等を利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内小テスト（10％）・レポート及びその他の課題（10％）・出席（30％）で評価する予定である。

■授業の予習・復習

復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。

■教科書

山崎史郎編『教育心理学ルック・アラウンド』ブレーン出版

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2 教育心理学の領域と課題	分野の紹介
3 発達（1）	発達理論、発達段階
4 //（2）	母性剥奪について
5 教育と発達（1）	成熟と学習の関係について
6 //（2）	英才教育は役に立つのか？
7 知能	知能とは。知能指数の出し方
8 性格（1）	性格の形成過程について
9 //（2）	エゴグラム
10 動機づけ	「やる気」とは
11 授業の過程	教授学習過程について
12 評価	成績評価の内容
13 適応と障害（1）	適応と教育
14 //（2）	障害の理解
15 まとめ	まとめと質問
16 定期試験	
17 オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
18 成熟と学習	発達における成熟と学習の関連について
19 本能的行動	「インプリンティング」を例に、本能と学習を考える
20 遺伝と環境	遺伝と環境の相互作用について
21 胎児、新生児期	胎児、新生児期の特徴について
22 幼児期	幼児期の特徴について
23 児童期	児童期の特徴について
24 青年期	青年期の特徴について
25 発達障害（1）	LD、ADHD、広汎性発達障害について
26 //（2）	事例紹介
27 //（3）	事例紹介
28 発達理論（1）	ピアジェの発達理論について
29 //（2）	エリクソンの発達理論
30 //（3）	その他の発達理論
31 まとめ	まとめと質問
32 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	藤井 輝男 Teruo Fujii		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	発達心理学		対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	発達心理学	発達心理学	発達心理学		発達心理学	

■授業のねらいと到達目標

教員となった時に必要となる「学校教育相談」に関する知識を修得し、教育場面における生徒との対応の仕方について理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めるが、配付資料を利用して学生諸君の発言を求めたり、課題提出を求めたりする。必要に応じてビデオ等を利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内小テスト（10％）・レポート及びその他の課題（10％）・出席（30％）

■授業の予習・復習

復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。

■教科書

使用しない。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2 成熟と学習	発達における成熟と学習の関連について
3 本能的行動	「インプリンティング」を例に、本能と学習を考える
4 遺伝と環境	遺伝と環境の相互作用について
5 胎児、新生児期	胎児、新生児期の特徴について
6 幼児期	幼児期の特徴について
7 児童期	児童期の特徴について
8 青年期	青年期の特徴について
9 発達障害（1）	LD、ADHD、広汎性発達障害について
10 //（2）	事例紹介
11 //（3）	事例紹介
12 発達理論（1）	ピアジェの発達理論について
13 //（2）	エリクソンの発達理論
14 //（3）	その他の発達理論
15 まとめ	まとめと質問
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	武内清 <i>Kiyoshi Takeuchi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	教職概論		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	教職概論		教職概論			

■授業のねらいと到達目標

教職の意義について、講義と討論を行う。教員の役割を、法律と教育的観点から考える。教員の職務内容について、その法律と実際から学ぶ。教員の研修について、その仕組みを学び、その意義への理解を深める。子ども進路のモデルや指導のできる教員の資質を育成する

■授業の進め方（履修条件等）

■成績評価方法・基準

出席と毎時間の授業の課題への解答30%、レポート20%、試験50%

■授業の予習・復習

■教科書

授業時にプリントを配布する。

■参考文献

油布佐和子「教師の現在・教職の未来」教育出版、1999年。
その他は授業時に提示する。プリントも配布する。

■授業内容

	授業内容
1	教職の意義について
2	教育官僚制と教職の専門職性の葛藤、教師の倫理綱領
3	教育法規と教師の身分、役割
4	教員の研修について
5	教師の社会的背景について、教師の特質について（教師の社会学）
6	教師のメンタル・ヘルス（教師の心理学）
7	教師のライフスタイルと教師類型
8	教師の仕事の教師の多忙感
9	管理職（校長、教頭、主任）の役割
10	教師—生徒関係の理想と実際
11	生徒の問題行動と教師
12	キャリア教育と教師の役割
13	カリキュラムと教師
14	教師と親。PTA、教師と地域社会
15	講義のまとめ
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	坂本 義孝 <i>Yoshitaka Sakamoto</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	教職概論		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	教職概論		教職概論			

■授業のねらいと到達目標

教員を目指す者にとって教職の意義を理解し、教職への進路意識をより明確にするとともに、教師としての使命感、責任感を自覚できるようにすること。

■授業の進め方（履修条件等）

教職に関する事項を広範囲に講義する予定である。したがって、学生自らが教職に向っての意欲や適性を振り返ったり、確認したりできるように進める。

■成績評価方法・基準

出席点、平常点、レポート、定期試験、その他の小テストによる総合評価とする。

■授業の予習・復習

シラバスにしたがって、その都度指示する。

■教科書

『教職概論』（第3次改訂版）ISBN978-4-313-61137-5 C1037

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	教職の意義（1）	教職を目指す者にとって
2	〃（2）	教員養成について
3	〃（3）	教職課程で学ぶこと
4	教員の任用とサービス（1）	教職員の配置と任用
5	〃（2）	サービスと勤務条件
6	教師の職務内容（1）	校務分掌について
7	〃（2）	管理職と主任
8	〃（3）	学習指導
9	〃（4）	生徒指導
10	〃（5）	学級経営と教育相談
11	〃（6）	職場の人間関係とPTA
12	教師の資質向上（1）	研修制度
13	〃（2）	教師のライフステージ
14	教育実習	教育実習の意義と心得
15	教員採用	教員採用選考の現状
16	定期試験	

年度	11年度入学		担当者	越川浩明 <i>Hiroaki Koshikawa</i>		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	算数		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	算数概説		算数概説			

■授業のねらいと到達目標

日本の小学校の算数は海外ではElementary Mathematics (初等数学) とよばれています。これを指導するには十分な数学的知識が必要です。また小学校教員採用試験にあたっては高校入試程度の問題が多いので数学の全領域に渡っての基礎的知識を確実に把握することを到達目標とします。

■授業の進め方(履修条件等)

教科書とプリント教材に基づいて授業を進めます。算数科指導法を履修する前に必ず履修して下さい。

■成績評価方法・基準

小テスト(10%)、課題提出(20%)、定期試験(70%)ただしこの配分は変更することもあります。

■授業の予習・復習

予習：教科書およびプリント教材を良く読んでおいて下さい。
復習：復習のための課題を課します。

■教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』平成20年8月(東洋館出版社)。およびプリント教材。

■参考文献

授業時に適宜指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 集合と写像、自然数	1対1対応、集合数、順序数、命数法、記数法
2 自然数の性質1	四則演算、除法の定理、十進位取り記数法、
3 自然数の性質2	素数、素因数分解、合成数、約数・倍数
4 整数とその性質	p進数、2進数とコンピュータ
5 有理数の性質1	有限小数、循環小数
6 有理数の性質2	分数、分数の四則演算
7 無理数、数の体系	数の体系のまとめ
8 図形について1	平面図形の種類と性質、敷き詰め問題
9 図形について2	立体図形の種類と性質、展開図
10 求積公式について	面積、体積の公式とその導き方
11 表とグラフ、比例、反比例	表の読み方、グラフの種類と性質
12 式の読み、書き	文字式の用い方
13 文章題	文章題の種類と解き方
14 確率について	確率的な見方・考え方
15 総復習	これまでの講義をもとに演習問題を解く
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	宿城高興 <i>Takaoki Yadoshiro</i>		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	社会		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	初等社会概説		初等社会概説			

■授業のねらいと到達目標

社会科は「何のために、何をどう指導するのか」正しい認識を持つようにする。そのために、社会科の歴史的な変遷を学習し、現行学習指導要領が示す小学社会科の目標や内容及び児童達に身につけさせたい資質や能力について理解を深める。この授業では、ある小学校の授業実践を紹介しながら具体的に理解するように進めていきたい。

■授業の進め方(履修条件等)

各時間終了後、ミニレポート「本時の授業で分かったこと、疑問に思ったこと」を提出する。また、原則として20分以上の遅刻や途中退席は出席としては認めない。

■成績評価方法・基準

出席状況・授業態度を40%、各時間のレポート・期末のレポート60%で総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：各時間の前に出された課題の考えを確立して授業に臨む。
復習：各時間終了後「分かったこと、疑問・問題等」のレポートを提出する。

■教科書

プリント資料を配布して授業を進めます。小学校学習指導要領解説 社会科編 東洋館出版社 小学校社会科の教科書(3・4学年、5学年、6学年)東京書籍

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方等について
2 社会科の歩み①	昭和22年～昭和26年までの社会科学習
3 社会科の歩み②	昭和30年～平成10年までの社会科学習
4 現行の小学校社会科	社会科の目標・内容及び求められる資質や能力
5 第3・4学年の社会科学習指導①	地域の地形、土地利用、公共施設
6 //	② 地域の生産や販売に携わっている人々
7 //	③ 地域の人々の健康や安全を守る諸活動
8 //	④ 地域の年中行事等や発展につくした人々
9 //	⑤ 県の地形や産業 県内の特色ある地域
10 第5学年の社会科学習指導①	我が国の農業や漁業の様子と国民生活との関連
11 //	② 我が国の工業や通信などの産業の様子と国民生活との関連
12 //	③ 我が国の国土の様子
13 第6学年の社会科学習指導①	我が国の歴史上の主な事象
14 //	② 我が国の政治の働きや日本国憲法の考え方
15 //	③ 我が国と関係の深い国々の人々の様子や国際社会での役割
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	土井仁 <i>Zin Doi</i>		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	理科		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	初等理科概説		初等理科概説			

■授業のねらいと到達目標

小学校学習指導要領解説（理科編）をもとに、小学校理科の目標や内容を十分に理解し、指導に関する基礎的な知識、関連する知識を深めること。理科教育の重要性を子供の発達や社会的課題を念頭に説明できること。理科学習の楽しさを具体的な教材の研究を通して習得すること。

■授業の進め方（履修条件等）

毎時間授業資料としてプリントを配布します。授業は学生のプレゼンや応答等を取り入れ進めます。各単元の学習の系統や内容をもとに理科学習の方法等講義します。

■成績評価方法・基準

①学習への参加状況（出席・意欲・態度）。②模擬授業など教材準備や表現。③課題やレポートの内容。④定期テスト。 など総合して評価します。（めやす①20%②10%③10%④60%）

■授業の予習・復習

予習：次時の学習を予告します。必要により予習内容を指示します。

復習：配布プリントをもとに復習し、知識や自分の考えを加え、理解を深めてください。

■教科書

教科書：小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省
授業用プリント：授業時に配布。

■参考文献

小学校理科用教科書

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	小学校理科の目標と内容。講義内容と授業の進め方。理科問題演習。
2 理科の基礎知識	代表的な問題をもとに、基礎的な内容の理解を深める。
3 『生命』（1）	各学年の指導内容と系統。「身近な自然の観察」に関する基礎基本の学習。
4 『生命』（2）	「昆虫と植物」「季節と植物」昆虫と植物の成長と体のつくりについて理解する。
5 理科学習の方法	観察・継続観察の重要性。観察用具の特徴と使い方。記録・スケッチの方法。
6 『生命』（3）	植物の観察と記録。観察とスケッチの実際。花のつくりを調べる。
7 『地球』（1）	各学年の指導内容と系統。「土地のつくりと変化」
8 『地球』（2）	「月と太陽」観察記録の活用。月の形と月・太陽の位置関係。モデル思考。
9 理科学習論	理科学習の進め方。科学の方法、探究の進め方。実験と観察。
10 『エネルギー』（1）	各学年の指導内容と系統。「磁石の性質」「電流の働き（電磁石）」の原理・理論
11 『エネルギー』（2）	「電気の通り道」「電気の働き」電気回路や電池の理解。
12 『エネルギー』（3）	「振り子の運動」「てこの規則性」身近な運動、つりあいの理解。
13 理科学習の方法	「ものづくり」の意義と重要性。「簡易モーター」モーターの動く仕組み。
14 『物質』（1）	各学年の指導内容と系統。「粒子の存在」空気や水の圧縮など実験を通じ推論。
15 『物質』（2）	「粒子の結合」身近な燃焼など化学変化と反応について理解する。
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	山本陽子 <i>Yoko Yamamoto</i>		
区分	国際学科	こども学科				
科目名	音楽		対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	初等音楽概説		初等音楽概説			

■授業のねらいと到達目標

小学校の教員として必要な音楽に対する素養・教養を身につけることを目的とします。西洋音楽を中心に音楽についての基本的な知識（楽典、歴史等）を理解します。音楽と人との関係、学校教育で目指すものなどについても考えられるようにしたいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

日常生活の中にとけこんでいる音楽ですが、音楽は人間にとって何なのかということを一度深く考えてほしいと思います。自分自身の経験をもとに疑問や問題意識を大切に音楽の基本を学んでほしいと思います。

■成績評価方法・基準

授業への取り組み、毎時間の提出物（平常点）、テストなどを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：教科書に目を通し、疑問点などを把握する。

復習：既習事項の整理まとめ

■教科書

『改訂音楽通論』教育芸術社（2009）

■参考文献

『小学校学習指導要領解説音楽編』文部科学省（平成20年8月）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	音楽ってなんだろう
2 音楽の基礎的理解①	音の長さ
3 音楽の基礎的理解②	音の高さ
4 音楽の基礎的理解③	記号
5 音楽の基礎的理解④	楽器
6 音楽の基礎的理解⑤	音程① 長短系の音程
7 音楽の基礎的理解⑥	音程② 完全系の音程
8 音楽の基礎的理解⑦	音階① 長音階
9 音楽の基礎的理解⑧	音階② 短音階
10 音楽の基礎的理解⑨	和音
11 音楽の基礎的理解⑩	コード① メジャーコード 7 th コード
12 音楽の基礎的理解⑪	コード② マイナーコード ディミニッシュコード
13 音楽と人間①	音楽の発生
14 音楽と人間②	生活の中の音楽
15 音楽と人間③	人間にとっての音楽 音楽を教えることの意味
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山口 荘一 Soichi Yamaguchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	図画工作		対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	初等図画工作概説		初等図画工作概説			

■授業のねらいと到達目標

小学校図画工作科を指導する上で必要な造形理論と指導技術の習得を目標とします。授業では、小学校で扱う材料や道具、用具にふれ、その特性に応じた扱い方や表現方法について演習を通して学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

小学校図画工作科の教科書からの題材を基に、より実践的に安全指導、材料体験などを含む造形活動を演習形式で行います。

■成績評価方法・基準

事前準備、レポート、授業態度、課題提出、出席状況等を総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習：課題に対する材料集め等の準備をしっかりと行って下さい。
復習：配布資料、課題作品、活動プロセス等の記録をファイリング保存して下さい。

■教科書

平成23年度版 開隆堂出版社編小学校図画工作教科書 1学年～6学年一冊¥208（税込）×6学年分 ¥1,248-（税込）

■参考文献

必要に応じて適時紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	初等図画工作科の意味と価値 用具、道具について
2 低学年造形演習①絵に表す	クレヨン、クレパス、水彩絵具等の実際
3 低学年造形演習②工作	紙を基にした低学年工作の実際
4 低学年造形演習③造形遊び	材料を基にした造形遊びの実際
5 低学年造形演習④立体を表す	石粉（紙）粘土等での実際
6 中学年造形演習①絵に表す	ローラー等用具を使つての実際
7 中学年造形演習②工作	雑材を基にした中学年工作の実際
8 中学年造形演習③造形遊び	材料を基にした造形遊びの実際
9 中学年造形演習④立体を表す	木片等での実際
10 高学年造形演習①絵に表す	モダンテクニック（版画含む）を用いての実際
11 高学年造形演習②工作	総合的な材料の使い方をを用いての実際①計画、活動
12 高学年造形演習③工作	総合的な材料の使い方をを用いての実際②活動、発表
13 高学年造形演習④立体を表す	焼成粘土等での実際
14 まとめ①鑑賞	鑑賞の実際と美術史との関係性他
15 まとめ②造形理論	造形理論と初等造形教育との関係性他
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	藤井 喜一 Kiichi Fujii		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	体育		対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	初等体育概説		初等体育概説			

■授業のねらいと到達目標

小学校体育科の目的・目標、学習内容、方法、評価等についての基本理論を学習する。また、小学校学習指導要領「体育科」の運動領域の内容についてもとりあげる。これらの学習を通して、小学校における体育科の意義について理解を深める。

■授業の進め方（履修条件等）

講義が中心であるが、実技も適宜行い、理論との整合性を図れるように進める。

■成績評価方法・基準

出席40% 受講態度20% 通常時における小レポート20%
論述試験20%

■授業の予習・復習

予習：教科書である指導要領解説書の次時の領域に目を通す。
復習：ノートに授業の要点等をまとめる。

■教科書

文部科学省 小学校学習指導要領解説体育編
文部科学省 中学校学習指導要領解説保健体育編 東山書房

■参考文献

適宜紹介

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、評価方法、諸注意
2 体育・スポーツの概念	体育科の学習内容について
3 体育科の目標と内容	指導要領の変遷をたどりながら
4 体育科の学習計画	学習計画の構成について
5 体育科の学習指導と評価	学習の評価の方法について
6 運動領域①	小学校低学年の構成について
7 運動領域②	器械運動（マット運動）
8 運動領域③	器械運動（跳び箱運動）
9 器械運動④	器械運動（鉄棒運動）
10 運動領域⑤	水泳
11 運動領域⑥	陸上運動
12 運動領域⑦	ボール運動（攻防入り乱れ型）
13 運動領域⑧	ボール運動（ベースボール型）
14 運動領域⑨	体づくりの運動
15 保健領域	保健の学習について
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	関弘子 Hiroko Seki		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	家庭		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	初等家庭概説		初等家庭概説			

■授業のねらいと到達目標

小学校学習指導要領に基づいた「家庭」で扱う内容について、広く一般的な見地から理解を深める。学習指導要領に示されている目標や内容の理解と衣・食・住等の各領域の基本的な指導事項の習得を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

講義中心の科目であるが、演習、実習、検定等、グループの学習が多い。ノートやレポート等の提出もある。欠席、遅刻は他の人の迷惑になるので厳しく対処する。

■成績評価方法・基準

出席状況、授業態度、レポート、実習、作品製作、試験により評価する。

■授業の予習・復習

予習：次週の講義内容をテキストや資料で確認しておく。
復習：示された課題についてレポートにまとめる。

■教科書

- ・小学校学習指導要領解説家庭編：東洋館出版社
- ・小学校家庭科教育研究：教師養成研究会編著 学芸図書（株）

■参考文献

- ・家庭一般、子どもが見つめる「家族の未来」、ビジュアルワイド食品成分表、技術家庭科（家族分野）、改訂家庭概説

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義内容の概要、受講の約束事
2	家庭科の目標と内容	家庭科の「目標」と「内容」の概要
3	自分の成長と家族	自分の成長と家族のかかわり
4	家庭生活と仕事	家庭における生活時間と仕事の分担
5	食事の役割	栄養素の種類と働き、食品の栄養的特徴
6	栄養を考えた食事	食品の組み合わせと一食分の献立
7	調理の基礎（調理用具）	調理用具の名称や安全な取扱い方
8	調理の基礎（調理実習）	野菜サラダづくり
9	衣服の着方と手入れ	快適な着方と洗濯
10	快適な住まい方	暑さ・寒さ、通風・換気、採光
11	整理整頓・清掃	住いの汚れ落とし
12	被服製作の基礎（製作用具）	裁縫用具の名称と取扱い方（ボタン付け）
13	基礎的な作品製作	並縫いで布巾の製作
14	身近な消費生活	消費者問題（消費者の権利と責任）
15	環境に配慮した生活	消費生活と環境（グリーンコンシューマリズム）
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	池谷美佐子 Misako Ikeya		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	生活		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	生活科概説		生活科概説			

■授業のねらいと到達目標

小学校学習指導要領が示す生活科の目標や内容について学びながら小学校生活科という教科の特性をとらえる。また、小学校低学年の児童の興味や関心を理解し、生活科指導と教材の関連についてもその特徴をとらえていく。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回の授業の積み重ねで、理解を深めていくことを目指している。出席と無遅刻を重視する。授業には積極的な態度で臨むことが必要。

■成績評価方法・基準

毎回の授業ごとの出席表を兼ねたリアクションペーパー（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：次週の授業内容に関する教科書の部分を読み概要をとらえておく。連絡された学習材を準備する。
復習：教材の具体例等をもとに低学年児童の特性と教科の独自性について各自整理しておく。

■教科書

小学校学習指導要領解説 生活編（文部科学省）←必ず各自購入し、毎時間持参すること。

■参考文献

必要に応じて紹介

■授業内容

	授業項目	授業内容
1		オリエンテーション
2		生活科の目標、目標の構成・趣旨
3		生活科の内容構成について
4		内容①「学校と生活」
5		内容②「家庭と生活」
6		内容③「地域と生活」
7		内容④「公共物や公共施設の利用」
8		内容⑤「季節の変化と生活」
9		内容⑥「自然や物をつかった遊び」
10		内容⑦「動植物の飼育・栽培」
11		内容⑧「生活や出来事の交流」
12		内容⑨「自分の成長」
13		生活科の教材と学習指導
14		身近な自然や地域の教材化
15		まとめ
16		定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	山口政之 Masayuki Yamaguchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	読書入門		読書入門			

■授業のねらいと到達目標

この授業では小学校の学級担任が日常的に行っている読書活動を一通り紹介します。教壇に立つ前に読んでおいた方がよい文献を厳選しましたので、教師として生きることとは学び続けることなのだということを具体的に理解し、学生のうちに読書習慣を身に付けてほしいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

毎時間講義の終わりに次の授業で使う資料を配布します。課題も出す場合がありますので、家で読み込んでください。次の授業の始めに発表してもらうこともあります。電子辞書は必要ですが、原則として携帯電話の使用は認めません。

■成績評価方法・基準

出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえて総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席3回は履修放棄、もしくは特別課題の措置をとります

■授業の予習・復習

予習：事前に配布された資料を読み、内容を理解しておいて下さい。
復習：学習したジャンルの文献を図書館や書店などで手にとり読んでみましょう。

■教科書

特になし。毎回、印刷物を配布するので、必ずファイルしておくこと。

■参考文献

「本を読む本」アドラー、講談社学術文庫

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	教師にとって、子供にとって、読書とは何か
2 新聞	自身の要約力を鍛え、話題が豊富な担任となる
3 教育雑誌、学会誌	専門的に研修を深める
4 教育学の古典	ヘルバルトのタクト論
5 教育実践者の個人全集	芦田恵之助の自己概念
6 ビジネス書	社会人として自己啓発のきっかけをつかむ
7 日本の絵本、英語の絵本	読書指導のための読み聞かせが出来るようにする
8 児童文学	児童理解に役立つ作品を講読する
9 古典文学	伊曾保物語とインソップ、Aesopを読み比べる
10 学習指導要領と教科書	両者を比べて読み、関連を理解する
11 教科書と指導書	両者を比べて読み、関連を理解する
12 分野別の教育書	学級経営に役立てるための読み方を理解する
13 教科の専門書	教材研究をより深く行うための読み方を理解する
14 かるた	様々なかるたを実際に試し、馴染む
15 ブックトーク（実技）	1冊の本を紹介しつつ、自己を語る
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	畑中千晶 Hatanaka Chiaki		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	文学入門		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名						

■授業のねらいと到達目標

小学校の教科書に収録されることの多い、安房直子や宮沢賢治の童話、および、現代を代表するストーリーテラー・村上春樹の短編小説を題材として、文学を読み解くコツを習得していく。自分の力で作品の魅力を引き出せるようになることが到達目標である。

■授業の進め方（履修条件等）

作者の略歴を知ることから始め、教科書掲載作品を読み解いていく。さらに、応用編として多様な作品を読み進める。〈文学〉は作品を読まないところには存在しない。テキストを必ず購入し、読むこと。

■成績評価方法・基準

クラス内で課すタスクと授業参加度（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：次回取り扱う作品を読む。
復習：指定されたタスクに取り組む。

■教科書

宮沢賢治（2010）『注文の多い料理店』新潮文庫
安房直子（2006）『風と木の歌』偕成社文庫
村上春樹（2010）『カンガルー日和』講談社文庫

■参考文献

宮沢賢治（1995-2009）『【新】校本宮澤賢治全集』全16巻別巻1 筑摩書房
安房直子（2004）『安房直子コレクション』全7巻 偕成社
このほか適宜紹介。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	講義の進め方、テキストについて
2 文学の楽しみ	ファンタジーの構造
3 安房直子 1	略年譜、諸作品の傾向
4 安房直子 2	教科書掲載作品の読解・分析
5 安房直子 3	異世界から戻る話
6 安房直子 4	異世界へ消えていく話
7 宮沢賢治 1	略年譜、諸作品の傾向
8 宮沢賢治 2	教科書掲載作品の読解・分析
9 宮沢賢治 3	生き物へのまなざし
10 宮沢賢治 4	自然を恐れ敬う気持ち
11 村上春樹 1	略年譜、諸作品の傾向、海外の評価
12 村上春樹 2	キャラクターの魅力
13 村上春樹 3	迷宮をさまようこと
14 村上春樹 4	比喩の卓抜さ
15 まとめ	物語を楽しむということ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	板倉由香里 Yukari Itakura		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	書 写		対象学年	1 年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	書 写		書 写			

■授業のねらいと到達目標

小学校国語科書写に関する授業担当者としての書写力（知識、技能）基礎基本を習得することを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

■成績評価方法・基準

学習目標の到達度、個人の伸長度を評価の主とし、毎時間の提出物により評価します。学習態度、学習意欲も評価の対象とします。

■授業の予習・復習

用具用材は各自で準備します。

■教科書

『明解書写教育』改訂版
全国大学書写書道教育学会編（菅原書房）

■参考文献

学習指導要領準拠『漢字指導の手引き』
久米 公 編著（教育出版）
『小学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省

■授業内容

小学校学習指導要領の書写に関する事項を踏まえ、小学校国語科書写の基本的な内容を講義します。文字について、基礎的能力を理論と実技の両面から培います。硬筆および毛筆で仮名（ひらがな、カタカナ）、漢字（楷書）の実技を通して、その指導法を学びます。

授業項目	授業内容
1	ガイダンス
2	国語科書写の目標と指導事項
3	実技（1）姿勢、執筆法
4	実技（2）書写で使用する用具用材
5	実技（3）漢字の基本点画
6	実技（4）点画の長短、接し方、交わり方
7	実技（5）文字の組み立て1
8	実技（6）文字の組み立て2
9	実技（7）ひらがな
10	実技（8）カタカナ
11	実技（9）文字の形、大きさ、配列1
12	実技（10）文字の形、大きさ、配列2
13	模擬授業
14	模擬授業
15	書写の評価
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	山本陽子 Yoko Yamamoto		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	音楽と表現 I（合唱）		対象学年	1 年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	合 唱 I		合 唱（通年）			

■授業のねらいと到達目標

自分自身が声を出す歌唱は音楽表現の基本です。発声の基本や音程感・リズム感を身につけながら、読譜力をつけます。小学校レベルの歌唱教材を中心に響き合う感覚を協力して体験し、歌う心地よさを味わいます。

■授業の進め方（履修条件等）

合わせる楽しさを味わうことを目指します。音程感を身につけ、読譜力をつけるため基礎練習を積み重ねます。「歌は友だち」を使ってレパートリーを増やします。希望で伴奏もしていただきます。

■成績評価方法・基準

出席を重視します。課題への取り組みの姿勢、音楽性など総合的に判定します。

■授業の予習・復習

予習：配布されたプリントに目を通し、不明な点などを把握しておきます。

復習：学習したことを繰り返して定着させます。プリント類をきちんとファイルします。

■教科書

歌集『歌はともだち』3訂版 教育芸術社（2007）その他プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	オリエンテーション
2	発声の基本① 斉唱① 自然な発声
3	発声の基本② 斉唱② 曲想にあった発声
4	発声の基本③ 輪唱① 互いに聴き合って
5	楽譜を読んで① リズムの読譜
6	楽譜を読んで② 音程
7	楽譜を読んで③ フレーズ感
8	音の重なり① 簡単な2部合唱
9	音の重なり② 2部合唱
10	音の重なり③ 簡単な3部合唱
11	合唱① 声部の役割 パート練習
12	合唱② 響きを感じ取って
13	合唱③ 互いに聴き合って
14	合唱④ 表現の工夫
15	合唱⑤ 発表
16	定期試験

■参考文献

コールユーブンゲン

年 度	11年度入学		担 当 者	山本陽子 Yoko Yamamoto		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1 年	単 位	
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	合唱Ⅱ		合唱(通年)			

■授業のねらいと到達目標

自分自身が楽器となる歌唱は音楽表現の基本です。合唱Ⅰで身につけた発声や音程感・リズム感を実際の楽曲表現に生かして合唱します。音楽の構成についての理解も深めます。一つの音楽をつくりあげる過程を体験し、心を開いて歌う心地よさを味わいます。

■授業の進め方(履修条件等)

09カリでは「合唱Ⅰ」の履修は条件ではありませんが、内容は異なります。「歌唱共通教材」も取り上げたいと思います。

■成績評価方法・基準

出席を重視します。課題への取り組みの姿勢、音楽性などを総合的に判定します。

■授業の予習・復習

予習：楽譜を見て、歌詞の意味を考えておきます。

復習：学んだことを確認して、自分なりの表現を考えます。

■教科書

適宜プリントを配布します。きちんとファイルしておきます。

■参考文献

授業時に適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	
2 読譜の基本	リズム唱 音程
3 発声の基本	自然な発声
4 斉唱	気持ちをこめて
5 2部合唱①	重なりを感じて
6 2部合唱②	互いに聴き合って
7 2部合唱③	表現の工夫
8 2・3部合唱①	曲の構成
9 2・3部合唱②	曲の解釈
10 2・3部合唱③	レパートリーを増やす
11 2・3部合唱④	パート練習 グループ練習
12 2・3部合唱⑤	グループの解釈
13 2・3部合唱⑥	グループでの工夫
14 2・3部合唱⑦	聴き合って
15 発表会	自分たちの表現工夫を発表
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山口荘一 Soichi Yamaguchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	造形と表現Ⅰ		対象学年	1 年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	造形Ⅰ		造形(通年)			

■授業のねらいと到達目標

活動を通して必要な技術や技能を探究し、活用する力を培うことを目標とします。授業では発想、構想、活動、鑑賞のプロセスをふまえ、課題に取り組み、鑑賞を通して自他の違いやよさに気づき、相互理解の大切さについて学びます。

■授業の進め方(履修条件等)

造形Ⅰでは、立体表現の活動を通して、多様な材料や用具、道具の基本的な取り扱いについて学ぶ。造形Ⅰ造形Ⅱは継続して履修することが望ましい。

■成績評価方法・基準

授業態度、出席状況、課題提出状況等を総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習：材料の準備を含む事前準備等を行って下さい。

復習：課題制作のプロセスの記録等をファイルして下さい。

■教科書

新美術 表現と鑑賞 開隆堂出版社 税込¥720—

■参考文献

授業時、必要に応じ適時紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方 必須材料、用具等について
2 紙での立体表現①発想、構想	紙を折る、切る、貼る等の操作を知る。
3 紙での立体表現②活動	課題に合わせて紙の操作から、立体に表す。
4 紙での立体表現③活動、鑑賞	相互鑑賞し、違いやよさについて発表し合う。
5 粘土での立体表現①発想、構想	粘土を丸める、伸ばす、よる等の操作を知る。
6 粘土での立体表現②活動	課題に合わせて粘土の操作から立体に表す。
7 粘土での立体表現③活動、鑑賞	相互鑑賞し、違いやよさについて発表し合う。
8 液体粘土での立体表現①活動	液体粘土の特長を生かして立体に表す。
9 液体粘土での立体表現②活動	液体粘土と雑材の組み合わせで立体に表す。
10 金属材料での立体表現①発想、構想	様々な金属材料の特長を知る。
11 金属材料での立体表現②活動	課題に合わせて、材料の特長を生かして立体に表す。
12 金属材料での立体表現③活動、鑑賞	相互鑑賞し、違いやよさについて発表し合う。
13 木材での立体表現①発想、構想	木工用具、道具について知る。
14 木材での立体表現②活動	板を切る、接合する、接着する等して立体に表す。
15 木材での立体表現③活動、鑑賞	相互鑑賞し、違いやよさについて発表し合う。
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山口荘一 Soichi Yamaguchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	造形Ⅱ		対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	造形Ⅱ		造形(通年)			

■授業のねらいと到達目標

活動を通して必要な技術や技能を探索し、活用する力を培うことを目標とします。授業では発想、構想、活動、鑑賞のプロセスをふまえ、課題に取り組み、鑑賞を通して自他の違いやよさに気づき、相互理解の大切さについて学びます。

■授業の進め方(履修条件等)

造形Ⅱでは、平面表現の活動を通して、表現の多様な様式や形式について学ぶ。造形Ⅰ造形Ⅱは継続して履修することが望ましい。

■成績評価方法・基準

授業態度、出席状況、課題提出状況等を総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習：材料の準備を含む事前準備等を行って下さい。
復習：課題制作のプロセスの記録等をファイルして下さい。

■教科書

造形Ⅰで購入した「新美術 表現と鑑賞」を継続的に使用

■参考文献

授業で必要に応じ、適時紹介

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方 平面表現の様式や形式について
2 ドローイング① 発想、構想	テーマに合わせて描材を選択して構想を練る。
3 ドローイング② 表現活動	テーマに合わせてドローイングで表現する。
4 ドローイング③ 表現活動、鑑賞	相互鑑賞し、違いやよさについて話し合う。
5 ペインティング① 発想、構想	テーマに合わせて描材を選択して構想を練る。
6 ペインティング② 表現活動	テーマに合わせてペインティングで表現する。
7 ペインティング③ 表現活動、鑑賞	相互鑑賞し、違いやよさについて話し合う。
8 技法からの表現①活動	フロッタージュの技法から表現する。
9 技法からの表現②活動	デカルコマニーの技法から表現する。
10 技法からの表現③活動	スパッタリングの技法から表現する。
11 技法からの表現④のⅠ 発想、構想	コラーージュの技法について知り、表す内容の構想を練る。
12 技法からの表現④のⅡ活動	コラーージュで表現する。
13 技法からの表現⑤のⅠ 発想、構想	アッサンブラージュの技法について知り、表す内容の構想を練る。
14 技法からの表現⑤のⅡ活動	アッサンブラージュで表現する。
15 技法からの表現④⑤鑑賞	相互鑑賞し、違いやよさについて話し合う。
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	佐藤佳子 Keiko Sato		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	小学校英語Ⅰ		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	小学校英語Ⅰ					

■授業のねらいと到達目標

2011年4月より、公立小学校の5・6年生の科目に「外国語活動(英語)」が本格的に導入されます。この授業では、小学校英語教育の現状を把握し、授業計画や実践例を取り上げながら、英語教育の問題点とあり方について学びます。小学校教員としての必要な英語力の習得も目指しながら、幅広く小学校英語について知ってもらいます。

■授業の進め方(履修条件等)

講義と演習形式で進めていきます。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加、課題への取り組み、試験などを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：事前にテキストを読んできてください。
復習：授業で取り上げたチャンツ、ゲームを確認する。

■教科書

「小学校英語教育の進め方ー「ことばの教育」として」成美堂

■参考文献

授業中に適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	小学校英語とは
2 外国語教育について	第1章 外国語教育の意義について
3 日本の小学校英語①	第2章 外国語活動導入について
4 日本の小学校英語②	小学校英語の経緯と現状について
5 日本の小学校英語③	小学校英語導入の問題点
6 バイリンガル教育	第3章 海外の初等外国語教育
7 言語習得論	第4、5章 発達心理学と小学校英語教育
8 カリキュラム	授業計画のポイント
9 授業計画①	教材の選び方
10 授業計画②	教材の使い方
11 授業計画③	マルチメディア教材
12 子どもの歌①	あいさつ、ウォームアップ
13 子どもの歌②	数を使う
14 子どもの歌③	曜日を学ぶ
15 まとめ	
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	佐藤佳子 Keiko Sato		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	小学校英語Ⅱ		対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	小学校英語Ⅱ					

■授業のねらいと到達目標

2011年4月より、公立小学校の5・6年生の科目に「外国語活動（英語）」が本格的に導入されます。小学校英語のあり方についてはさまざまな議論がなされています。この授業では、小学校での英語教育の現状を把握し、授業計画や実践例を取り上げながら、英語教育の問題点とあり方について学びます。小学校教員としての必要な理論や技術、英語指導の基本的な考え方や英語力の習得もめざします。

■授業の進め方（履修条件等）

講義と演習形式で進めていきます。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加、課題への取り組み、試験などを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：事前にテキストを読む。

復習：授業で取り上げた歌・遊びを覚えること。

■教科書

「語研ブックレット3 小学校英語」語学教育研究所 2010

■参考文献

「小学校英語教育の進め方―「ことばの教育」として」成美堂 適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	小学校英語の復習
2 子どもの学習能力	
3 基本技能	インプット、アウトプット
4 英語を始める時期	早期英語教育
5 精神発達段階と指導方法①	低学年
6 精神発達段階と指導方法②	中学年
7 精神発達段階と指導方法③	高学年
8 子どもの語彙力	語彙の習得と理解力について
9 子どもの発話	早口ことば
10 英語の歌	歌の指導について
11 ことばへの気づき	文字指導
12 授業計画①	「えいごリアン」
13 授業計画②	「えいごリアン」と45分授業
14 授業の挨拶	ウォーム・アップなど
15 まとめ	
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	小林啓祐 Keisuke Kobayashi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名	千葉の経済構造		対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	千葉の経済構造		千葉の経済構造			

■授業のねらいと到達目標

日本でも有数の工業地域である京葉工業地域を有し、農業生産額は日本で常に上位に入り続ける千葉県。さらに日本の空の玄関である成田空港や、来園者数が年2000万人を超えるテーマパークを県内に有する千葉県だが、この姿は最近できたものではない。講義では千葉県経済の歴史と現在を学び、その構造をつかむことを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

講義中に配るコメントシートよりえられる学生の興味関心にそった内容も適宜盛りこんでいく。

■成績評価方法・基準

全部で4回小テストを行う。すべての小テストの合計点、およびコメントシートを合わせて評価する。

■授業の予習・復習

予習：千葉県の公共図書館の郷土資料コーナーから、千葉県の経済に関する書籍を講読していることが望ましい。

復習：講義中に配布するレジュメ、講義ノートにより復習すること。

■教科書

特に無し

■参考文献

千葉県史料研究財団「千葉県の歴史」近現代編、三浦茂一「千葉県の百年」1990年 山川出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義概要と千葉県の基本的なデータ
2 醤油の町―商工業1	伝統的な産業である醤油生産について学ぶ
3 工業化する千葉―商工業2	戦後の急速な工業化について学ぶ
4 大型化と地元商店―商工業3	大型店と地元商店街について学ぶ 一小テスト
5 米と魚―農漁業1	伝統的な農漁業について学ぶ
6 東京と千葉―農漁業2	戦後急成長する近郊農業について学ぶ
7 多様化する農漁業―農漁業3	農漁業の現状について学ぶ 一小テスト
8 人口の変動―住宅1	明治期以降の県内の人口動態について学ぶ
9 住宅団地の建設―住宅2	住宅団地を中心とした人口急増について学ぶ
10 開発の新展開―住宅3	昨今の住宅建設と人口動態について学ぶ 一小テスト
11 遅れた鉄道建設―交通1	千葉県の交通網整備の歴史を、鉄道を中心として学ぶ
12 人口増と新しい交通―交通2	最近の交通網整備の動向について学ぶ
13 海水浴場と千葉―観光1	千葉県の古くからある観光地について学ぶ
14 テーマパークの建設―観光2	テーマパークなど新しい観光地について学ぶ
15 まとめ	小テストを行ない、終了後まとめを行う
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	三幣利夫 Toshio Sampei		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	千葉の経済特殊		千葉経済特殊			

■授業のねらいと到達目標

国際ビジネスを展開する千葉県内の企業経営者から、経営戦略や実際の企業活動に関し直接話をうかがい、国際ビジネスについて理解を深める。就職に向けてのキャリア教育も兼ねる。

■授業の進め方（履修条件等）

企業経営者によるオムニバス形式の講義を中心に、企業訪問も行う。これらを通じ学習したことを、各自がレポートにまとめ、教室で発表し、議論も行う。

■成績評価方法・基準

企業毎にレポートを必ず提出する。また、授業における発表・議論を通じての参加度合いを重視する。（定期試験はない）

■授業の予習・復習

予習：経営者からの講義前に、企業について調べ、質問も用意する。

復習：レポートをまとめる。

■教科書

特になし

■参考文献

特になし

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	進め方の説明と千葉県経済の概要
2 空港ビジネス（1）	経営者の講義
3 （2）	企業訪問
4 （3）	教室でのまとめ
5 （4）	レポート発表と議論
6 食品ビジネス（1）	経営者の講義
7 （2）	企業訪問
8 （3）	教室でのまとめ
9 （4）	レポート発表と議論
10 アパレル関連ビジネス（1）	経営者の講義
11 （2）	教室でのまとめ
12 （3）	レポート発表と議論
13 海外建設ビジネス（1）	経営者の講義
14 （2）	教室でのまとめ
15 （3）	レポート発表・議論
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山本陽子 Yoko Yamamoto		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	世界の音楽					

■授業のねらいと到達目標

日常生活に音楽は欠かせないものとなっていますが、その多くは限られたジャンルにとどまっています。人間にとって音楽は何なのかを探りながら、世界各国の音楽に触れ、その多様性や共通性に気づくことを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

自分の生活の中の音楽について考えることから始めます。学生の自国の音楽や好む音楽についての情報提供を求めます。学生同士その音楽について伝え合う機会もつくりたいと思います。

■成績評価方法・基準

毎回の出席、授業への取り組み、提出物、レポート、発表などを総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習：音楽に興味をもって意識的に聴くようにします。

復習：授業で取り上げた音楽の地域や時代を地図帳や年表を使って確認します。

■教科書

特に指定しません。プリント資料を必要に応じて配布します。

■参考文献

柘植元一・塚田健一著『はじめての世界音楽』（1999）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	
2 音楽って何だろう①	自分と音楽
3 音楽って何だろう②	人間と音楽 音楽の発生
4 音楽って何だろう③	現代の音楽
5 世界の音楽①	アジアの音楽 朝鮮 中国
6 世界の音楽②	アジアの音楽 東南アジア 西アジア
7 世界の音楽③	ヨーロッパの音楽
8 世界の音楽④	オセアニア・アフリカの音楽
9 世界の音楽⑤	アメリカの音楽
10 日本の音楽①	日本の民俗芸能音楽
11 日本の音楽②	日本の音楽
12 私と音楽① 発表	私の国の音楽
13 私と音楽② 発表	私の好きな音楽
14 私と音楽③ 発表	私にとっての音楽
15 まとめ	人間にとっての音楽
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	田口功 <i>Isao Taguchi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	自然科学入門	自然科学入門	自然科学概論	自然科学概論		

■授業のねらいと到達目標

特に教員採用試験を受け、教員を志す学生、公務員を希望する学生に対し、採用試験対策となる事柄も含め授業を行なう。自然科学の中で、特に物理的な問題を中心に化学、情報も取り入れ授業を展開する。自然科学を学ぶうえで基礎的な知識を身につけることを目的とする

■授業の進め方（履修条件等）

前半、後半を通し歴史的背景から入り、非常に易しい教材を取り入れ、演習課題を解きながら授業を進めます。

■成績評価方法・基準

出席状況、提出物、小試験および定期試験の4点により総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：与えられた問題についてよく資料を見て研究をして下さい。
復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。

■教科書

授業でプリントを配布

■参考文献

よくわかる最新レンズの基本と仕組み 桑嶋 幹著 秀和システム 平成17年

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方について
2 カー（1）	速度、加速度、力と運動、力のつりあい、演習問題
3 カー（2）	演習問題を解くことによる力の理解
4 カー（3）	仕事とエネルギー、演習問題
5 カー（4）	熱と仕事
6 電流と磁界－（1）	電池について
7 電流と磁界－（2）	電磁石作成と電磁誘導実験装置の作成
8 電流と磁界－（3）	抵抗の直並列回路と電流計の原理
9 電流と磁界－（4）	アンペアの法則、磁界と電界
10 ばねとカー（1）	ばねとフックの法則
11 ばねとカー（2）	ばねを用いたおもちゃ
12 光とレンズ－（1）	凹レンズ凸レンズによる光の進み方を解く
13 光とレンズ－（2）	凹レンズ凸レンズによる像のでき方を確かめる
14 パソコン	パソコンの構成部品について調べる
15 全体のまとめ	まとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	折原 裕 <i>Yutaka Orihara</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	社会思想史 I	近・現代の思想	社会思想史	近・現代の思想		

■授業のねらいと到達目標

ヨーロッパ社会思想史の前半期について理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

ルネサンスから、宗教改革を経て、市民革命にいたる、ヨーロッパ社会思想史の歩みの前半期を概観します。種々の思想家の思想像のみならず、その人物像や、時代背景についても、できる限り触れることにしたいと思います。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、授業内小テスト（40%）

■授業の予習・復習

復習：簡単にいいから励行して下さい。

■教科書

市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。

■参考文献

塩野七生『わが友マキアヴェリ』中央公論社（メディアセンター所定のコーナーに5冊常備してあります。）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等
2	マキアヴェリ
3 ルネサンスの思想	トマス・モア
4	エラスムス
5	ルター
6	カルヴァン
7 小テスト	
8 イギリス市民革命の	トマス・ホブズ
9 展開	ジョン・ロック
10	モンテスキュー
11	ヴォルテール
12 フランス啓蒙思想	ディドロ
13	ルソー
14 小テスト	
15	まとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	小林哲郎 <i>Tetsuro Kobayashi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	CollegeEnglishⅢ					

■授業のねらいと到達目標

新TOEICテストの問題形式に対応しながら、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能の習得を目指すとともに、あるテーマについて自分の考えや意見を述べることができる英語の実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストに即して、リスニング、リーディング、ディスカッションと進み、新TOEICテスト対応の演習形式を通して英語の実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。小テストも適宜行う。

■成績評価方法・基準

出席状況、小テスト、授業参加度、定期試験などをもとに総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：次回の授業で扱うテキストを予め読み、付随のCDを繰り返し聞いておくこと。

復習：学習した内容を適宜復習し、完全な理解を図ること。

■教科書

TOEIC Test Success (南雲堂)

■参考文献

授業の中で必要に応じて指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 Lesson 1	リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング
2 Lesson 2	
3 Lesson 3	
4 Lesson 4	
5 Lesson 5	
6 Lesson 6	
7 Lesson 7	
8 Lesson 8	
9 Lesson 9	
10 Lesson10	
11 Lesson11	
12 Lesson12	
13 Lesson13	
14 Lesson14	
15 Lesson15	
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	George Whalley		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	College English Ⅲ					

■授業のねらいと到達目標

This class is designed for students who wish to further develop and apply the skills learned in College English I and II. Emphasis will be placed on expressing ideas verbally and in writing. The majority of class time will be spent with students practicing conversations, explaining events and discussing current topics.

■授業の進め方（履修条件等）

Check your placement scores.

■成績評価方法・基準

Grading will be based on attendance, classroom participation and presentations.

■授業の予習・復習

The instructor will provide materials however students should bring a dictionary to class.

■教科書

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 Introduction	Self-introduction
2 Rules	Learning about rules at school, in society and at home
3 Helping others	Asking for and offering help to others
4 Instructions	Asking for and giving instructions
5 Telephone	Taking messages, making reservation and appointments
6 Money	Budgeting your money
7 Shopping	Talking with sales staff
8 Presentations	
9 Communicating	Information exchange
10 Communicating	Information exchange (continued)
11 Work	Asking about work duties
12 Work	Fulfilling responsibilities
13 Work	Offering suggestions and advice
14 Rights	Dissatisfaction with products
15 Rights	Dissatisfaction with service
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	小林哲郎 <i>Tetsuro Kobayashi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	CollegeEnglishIV					

■授業のねらいと到達目標

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングを通して、議論しやすいトピックについての賛否両論を踏まえ、相手の話を聞き、自分の考えや意見を述べるスキルを学ぶ。英語の面白さを知り、自発的な学習意欲や態度を身につけ、英語の実践的なコミュニケーション能力の基礎を養う。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストに即し、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングを通して、議論しやすいトピックについて自分の考えや意見を述べるディスカッションを行う。また必要に応じて小テストを実施する。

■成績評価方法・基準

出席状況、小テスト、授業参加度、定期試験などをもとに総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：次回の授業で扱うテキストを予め読み、付随のCDを繰り返し聞いておくこと
復習：学習した内容を適宜復習し、完全な理解を図ること。

■教科書

For and Against（成美堂）

■参考文献

授業の中で必要に応じて指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 Unit 1	リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング
2 Unit 2	
3 Unit 3	
4 Unit 4	
5 Unit 5	
6 Unit 6	
7 Unit 7	
8 Unit 8	
9 Unit 9	
10 Unit 10	
11 Unit 11	
12 Unit 12	
13 Unit 13	
14 Unit 14	
15 Unit 15	
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	George Whalley		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	College English IV					

■授業のねらいと到達目標

This class is designed for students who wish to further develop and apply the skills learned in College English I and II. Emphasis will be placed on expressing ideas verbally and in writing. The majority of class time will be spent with students practicing conversations, explaining events and discussing current topics.

■授業の進め方（履修条件等）

Check your placement scores.

■成績評価方法・基準

Grading will be based on attendance, classroom participation and presentations.

■授業の予習・復習

The instructor will provide materials however students should bring a dictionary to class.

■教科書

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 Friends	Agreeing with someone
2 Friends	Disagreeing with someone
3 Friends	Complimenting someone
4 Friends	Hopes, wishes and regrets
5 Communication	Initiating conversations
6 Communication	Politely interrupting
7 Presentations	
8 Opinions	Opinions on current topics
9	
10 Opinions	Opinions on current topics
11 Debate	Making points and arguments
12 Debate	Making points and arguments
13 Speech	Making a short speech
14 Speech	Making a short speech
15 Humor	Making people laugh
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	嶋川洋一 Yoichi Shimakawa		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	ビジネス英語		ビジネス英語			

■授業のねらいと到達目標

英語でビジネス・パートナーとコミュニケーションをとる際には、1) 自分の意図や考えを明確に伝える言葉や行動ができる必要と、2) この場面では、なぜ、このようにコミュニケーションするべきかという「相手の背景にある文化的前提」を理解する必要があります。英語でビジネスをする際に出くわす場面を中心に、重要英語表現の習得と効果的にコミュニケーションを図る上での文化的前提の理解を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

指定教材を使用して予習、復習をしているという前提で授業を進めます。随所で英語の簡単なロールプレイなどを行い、学習者の積極的な参加を求めます。

■成績評価方法・基準

出席率、参加度、小テスト、プロジェクト発表などを総合して評価します。

■授業の予習・復習

予習：指定された課のスキットの内容をCDと和訳を利用して理解しておくこと

復習：各クラスで講師から与えられた課題を行うこと

■教科書

ジョン・ギレスピー、嶋川洋一共著 『入門ビジネス英語ベストプラクティスⅠ：自己紹介からプレゼンまで』NHK出版 2009年 ISBN978-4-14-039514-1

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	自己紹介、オリエンテーション	英語で自分をPR 日英コミュニケーションの相違点
2	Unit 1 ~ Unit 2	ファーストネーム インフォーマリティについて
3	Unit 3 ~ Unit 4	プレゼンの3 Cs: Clear, Concise and Concrete
4	Unit 5 ~ Unit 6	積極的に聞く
5	Unit 7 ~ Unit 8	ビジネスにおいて人間味を出す 感情表現
6	Unit 9 ~ Unit 10	情報収集のための質問 オープン・クエスチョン
7	Unit 11 ~ Unit 12	チームメンバーに協力を依頼する
8	Unit 13 ~ Unit 14	お客様と話す
9	Unit 15 ~ Unit 16	電話で話す
10	Unit 17 ~ Unit 18	ネットワークキングで情報収集する
11	Unit 19 ~ Unit 20	誤解の原因を究明する
12	Unit 21 ~ Unit 22	誤解を解く
13	Unit 23 ~ Unit 24	考え方の相違に建設的に向き合う
14	Unit 25 ~ Unit 26	考え方の違いに適切に対処する
15	プロジェクト発表	「私は自分の強みを生かして、こんな仕事をしたい」
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	加島潤 Jun Kajima		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	ビジネス中国語		ビジネス中国語			

■授業のねらいと到達目標

中国でのビジネスに必要な基本知識、用語、話題などを学びつつ、さまざまなシチュエーションに対応できる中国語コミュニケーション能力（話す・聞く・読む・書く）の修得を目指す。特に中国語の会話・文章表現を重視する。

■授業の進め方（履修条件等）

中国でのビジネスに関連する新聞記事、映像資料等を交えて、各トピックの重要な会話・文章表現を学ぶ。履修者は中国語Ⅰ、Ⅱのいずれかを履修していること（応相談）。なお、母語が中国語の学生の履修は認めない。

■成績評価方法・基準

出席とテスト（出席50%、テスト50%）

■授業の予習・復習

予習：講義スケジュールにもとづき、次回の内容に関連する話題をチェックしておく。

復習：授業中に配布する資料にもとづき、会話・文章表現の反復練習を行う。

■教科書

教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

■参考文献

守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店、1995。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	受講者の希望・レベルを確認する。
2	あいさつをする	様々な状況でのあいさつの表現を学ぶ。
3	電話をかける／うける	電話対応の基本形式を学ぶ。
4	アポイントメントをとる	相手のスケジュールを確認する表現を学ぶ。
5	お願いする	物事を依頼するときの表現を学ぶ。
6	感謝を述べる	相手に対する謝意を示す表現を学ぶ。
7	確認する	話の内容を確認するときの表現を学ぶ。
8	交渉する	自分の要求を相手に提示する表現を学ぶ。
9	断る	相手からの要求を断る表現を学ぶ。
10	謝る	謝罪するときの表現を学ぶ。
11	食事に招く／招かれる	食事に招くとき／招かれたときのマナーを学ぶ。
12	贈り物をする／される	贈り物をするとき／されたときのマナーを学ぶ。
13	苦情を言う	クレームをつけるときの表現を学ぶ。
14	新聞を読む	中国語の新聞の読み方を学ぶ。
15	ビジネス書類について	ビジネス書類の形式を理解する。
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	銅直信子 Nobuko Dobeta		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	日本語Ⅰ		日本語Ⅰ			

■授業のねらいと到達目標

基礎的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書に沿って、歴史上に名を残した人物や現在活躍中の人物の生き方、考え方を中心に学んでいく。コンテキストの中で文法的、意味的關係の捉え方を学習することによって読む力、書く力を養っていく。またビデオ・新聞などの生教材を用いて聞く力、話す力を養うと同時に語彙の増強を図る。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語能力試験2級の日本語能力を有する学生を想定して授業を進める。各課の「表現技術」にある文型をモデルに短文を作り授業終了後提出する。添削して返却するので、正しい日本語表現を確認する。

■成績評価方法・基準

定期試験60%、レポート20%、クラス活動点10%、出席点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙表の中の漢字の読み方および意味は事前に調べておく。分からない場合は授業中に確認する。
復習：添削されたレポートの正しい日本語表現をよく復習する。教科書の本文を音読する。

■教科書

『日本語の表現技術 読解と作文 上級』 Reading and Writing Skills in Japanese:古今書院

■参考文献

『大学・大学院 留学生の日本語』 ①読解編②作文編 出版社アルク

■授業内容

回数	授業内容
1	松下幸之助『素直な心』序論・本論・結論に使われる表現。
2	定義の表現。構成を考えて書く。小レポート①
3	湯川秀樹『目に見えないもの』起・承・転・結の表現。
4	分類の表現。新聞教材を読む。小レポート②
5	緒方貞子『難民つくらぬ世界へ』意見を述べる表現。
6	ビデオ『難民問題の取り組み』緒方の主張をまとめる。意見の発表および小レポート③
7	意見文を書く。新聞教材「大きな政府と小さな政府」小レポート④
8	引用の表現。『難民支援の現場から』
9	森英恵『ファッションから日本人を考える』問題提起に使われる表現。反対の立場の提示に使われる表現。
10	ビデオを見て、分かったことをまとめる。
11	要約文を書く。新聞教材を読み、要約する。
12	井深大『創造的技術力を備えた経営者』発言の引用によるまとめ方。
13	リーダーの魅力・リーダーの条件小レポート⑤
14	井深大と盛田昭夫
15	絵を見て状況を説明し、意見を述べる。
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	銅直信子 Nobuko Dobeta		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	日本語Ⅱ		日本語Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

基礎的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書に沿って、歴史上に名を残した人物や、現在活躍中の人物の生き方、考え方を中心に学んでいく。テキストの内容を把握し、それに対する意見を述べる、さらにレポートにまとめることで話す力、書く力を向上させる。またビデオ・新聞などの生教材を用いて聞く力、読む力を向上させると同時に語彙の増強を図る。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語能力試験2級の日本語能力を有する学生を想定して授業を進める。各課の「表現技術」にある文型をモデルに短文を作り授業終了後提出する。添削して返却するので、正しい日本語表現を確認する。

■成績評価方法・基準

定期試験60%、レポート20%、クラス活動点10%、出席点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙表の中の漢字の読み方および意味は事前に調べておく。分からない場合は授業中に確認する。
復習：添削されたレポートの正しい用法をよく復習する。教科書の本文を音読する。

■教科書

『日本語の表現技術 読解と作文 上級』 Reading and Writing Skills in Japanese:古今書院

■参考文献

『大学・大学院 留学生の日本語』 ①解編②作文編 出版社アルク

■授業内容

回数	授業内容
1	本田宗一郎『仕事を楽しむ』分析して説明する。分析の表現を学ぶ。
2	本田の生き方および本田イズムについて考える。小レポート①
3	『信長・秀吉・家康 時代を見据える』比較・対照して説明する。共通点・相違点を述べる表現を学ぶ。
4	ビデオを見て、「信長の改革」について口頭発表する。箇条書きでまとめる。小レポート②
5	新聞記事を読んで、事実をまとめ意見を書く。
6	論拠を明らかにする。
7	坂本龍馬『見える立場に立つ』目的・理由を述べる表現を学ぶ。
8	因果関係の表現を学ぶ。小レポート③
9	ビデオを見て、龍馬の生き方を考える。
10	重要点の明示に使われる表現を学ぶ。
11	OECD学習到達度調査の結果を分析する。
12	報告文を書く。小レポート④
13	夏目漱石『私の個人主義』要旨を述べる。「こころ」とはどんな小説か。主語・述語・修飾語の明確な文を書く。
14	福沢諭吉『文明は人を高尚にする』『学問のすすめ』を読む。
15	『自己アピール文』を書く。小レポート⑤
16	定期試験

年度	11年度入学		担当者	稲村すみ代 Sumiyo Inamura		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	1年	単位	1
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	日本語Ⅲ		日本語Ⅲ			

■授業のねらいと到達目標

1 年次必修の文章表現及び口頭表現の単位取得者を対象とし、日本語の適切な表現法と応用の力を習得することを目標とする。文章作成と語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。日本語文章を構成するスキル、論理的文章の書き方話し方等々について学ぶ。日本語でレポートや論文執筆ができ、日本語の新聞、雑誌の内容を的確に読み取る読解能力を習得するよう、はかっていく。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語Nテスト1級レベルの能力を有する学生を想定して授業をすすめるが、1級未受験者のために、1級レベル予想問題集なども活用し、的確な日本語力を養成する。毎回学生発表の時間を設け、一人ずつプレゼンテーションを行う。

■成績評価方法・基準

出席および授業内活動50%、定期試験30%、小テストほか20%積極的に授業へ参加していないと判断した場合（私語、内職、居眠り等）、正当な理由なき途中入室・退室は、出席とみなさないの注意すること。

■授業の予習・復習

予習：講義内で指示する。
復習：講義内で指示する。

■教科書

- 1) プリント配布
- 2) 「留学生のための国際関係」

■参考文献

「大学・大学院 留学生の日本語〈4〉論文作成編」
「留学生のための論理的な文章の書き方」

■授業内容

	授業内容
1	ガイダンス&イントロダクション
2	プレゼンテーションの方法（1）
3	プレゼンテーションの方法（2）
4	課題の提示とテーマ（1）
5	課題の提示とテーマ（2）
6	論説文の理解と執筆（1）
7	論説文の理解と執筆（2）
8	資料の利用と図表引用（1）
9	資料の利用と図表引用（2）
10	国際関係論読解（1）
11	国際関係論読解（2）
12	国際関係論読解（3）
13	国際関係論読解（4）
14	執筆論文発表（1）
15	執筆論文発表（2）
16	定期試験

年度	11年度入学		担当者	銅直 信子 Nobuko Dobeta		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	1年	単位	1
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	日本語Ⅲ		日本語Ⅲ			

■授業のねらいと到達目標

口頭表現・文章表現の応用能力を習得することを到達目標とする。主に新聞の論説文や新書本を用いて読む力を向上させる。テープ・ビデオ・DVDを用いて聞く力を、各自の意見を発表したりレポートにまとめることで話す力、書く力を向上させる。プレゼンテーションでは、口頭発表の展開における日本語表現を学ぶことに力をおく。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語能力試験1級程度の日本語能力を有する学生を想定して授業を進める。テーマごとに語彙表を配布し、用法などについて説明する。事実や各自の意見を書いて授業終了後提出する。添削して返却するので、正しい用法を確認する。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、レポート20%、発表点20%、出席点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙表の中の漢字の読み方および意味は事前に調べておく。分からない場合は授業中に確認する。グループ発表の準備を協力して行う。
復習：添削されたレポートの正しい日本語表現を試験までによく復習しておく。

■教科書

教科書は使わない。

■参考文献

「大学・大学院 留学生の日本語」 ③論文読解編④論文作成編 出版社アルク

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	ガイダンス	ガイダンス・環境問題
2	貧困問題	社会起業家とは。
3	新聞教材	マイクロクレジット
4	ビデオを見て、内容をまとめる。	論文の書き方①
5	読解文	「理想のリーダー」
6	読解文	「少子高齢化」論文の書き方②
7	読解文	「国民審査」
8	読解文	「有標と無標」論文の書き方③
9	読解文	「消費者が求めているもの」
10	ブックレポート	プレゼンの技法と作法
11		テーマを決めてレジュメを作る。
12		発表→質疑応答→ディスカッション
13		ブックレポートで調べたことをまとめる。
14		構成を考え、アウトラインを作る。
15		レポートを仕上げる。
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	本多久美子 Kumiko Honda		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	日本語Ⅲ		日本語Ⅲ			

■授業のねらいと到達目標

この授業では、現代社会のさまざまな問題についての新聞やインターネットの記事を読みながら、日本語の語彙力を高めることを、最大の目標にしている。受講生の皆さんは、授業で学んだ語彙をもとに自分だけの辞書を作るように努力してほしい。

■授業の進め方（履修条件等）

①その日のテーマに関係する言葉のリストを作る。②それらの言葉の使い方を単文で確認する。③本文を読んで、グループで話し合う。④ワークシートを提出する。

■成績評価方法・基準

1課ごとにワークシートを提出する。また、中間試験と期末試験を行う。

■授業の予習・復習

予習：グループ・リーダーは文章を読んで準備しておくこと。
復習：毎回学んだ語彙をもとに、自分の辞書を作ること。

■教科書

毎回、プリントを配るので、なくさないようにファイルしておくこと。

■参考文献

特になし。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「家族Ⅰ」	「結婚トレンド2010を読む」
2 「家族Ⅱ」	「頑張れ！ イクメン」
3 「家族Ⅲ」	「大学生の結婚願望」
4 「学生生活Ⅰ」	「シューカツ2010 ①」
5 「学生生活Ⅱ」	「シューカツ2010 ②」
6 「学生生活Ⅲ」	「大学生のアプリ開発」
7 「安全Ⅰ」	「地震体験ツアーに参加する」
8 中間試験	試験後に解答解説
9 「安全Ⅱ」	「緊急地震速報の仕組み」
10 「環境Ⅰ」	「旅行でもエコしたい」
11 「環境Ⅱ」	「低炭素社会へ」
12 「環境Ⅲ」	「環境都市 マスタードシティの建設」
13 「この人の生き方Ⅰ」	「バングラデシュで教育支援」
14 「この人の生き方Ⅱ」	「NPOカタリバの活動」
15 期末試験	試験後に解答解説
16 「この人の生き方Ⅲ」	「私の生き方」

年 度	11年度入学		担 当 者	稲村すみ代 Sumiyo Inamura		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	日本語Ⅳ		日本語Ⅳ			

■授業のねらいと到達目標

さまざまなタイプの日本語文章を的確に読解できる力を涵養し、日本語社会に通用する日本語表現の習得をめざす。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語Nテスト1級レベルの能力を有する学生を想定して授業をすすめる。

■成績評価方法・基準

出席および授業内活動50%、定期試験30%、小テストほか20%積極的に授業へ参加していないと判断した場合（私語、内職、居眠り等）、正当な理由なき途中入室・退室は、出席とみなさないで注意すること。

■授業の予習・復習

予習：講義内で指示する。
復習：講義内で指示する。

■教科書

- 1) プリント配布
- 2) 『留学生のための国際関係』

■参考文献

『大学・大学院 留学生の日本語〈4〉論文作成編』
『留学生のための論理的な文章の書き方』

■授業内容

	授業内容
1	ガイダンス&イントロダクション
2	国際関係論読解（1）
3	国際関係論読解（2）
4	国際関係論読解（3）
5	国際関係論読解（4）
6	日本の文化と社会（1）
7	日本の文化と社会（2）
8	日本の文化と社会（3）
9	日本の文化と社会（4）
10	国際交流の日本語（1）
11	国際交流の日本語（2）
12	国際交流の日本語（3）
13	国際交流の日本語（4）
14	執筆論文発表（1）
15	執筆論文発表（2）
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	長谷川頼子 <i>Yoriko Hasegawa</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1 年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	日本語Ⅳ		日本語Ⅳ			

■授業のねらいと到達目標

学校生活や社会生活に必要な「書く」ための基本的な技術を習得する。まずは基本的な文の書き方について整理した上で、ものごとの説明、意見文や自己PRのようなさまざまなタイプの文章を書くことで、「読み手」を意識した、正確で豊かな自己表現が日本語でできるよう心がける。

■授業の進め方（履修条件等）

各テーマにつき2～3週ずつ、表現や段落の組立など細かく練習の機会をとり、最後に課題作文としてまとめる。また、漢字や文法の練習問題も毎回行う。

■成績評価方法・基準

日常点（出席・態度）、課題作文、試験で判断する。欠席4回で名簿から外す。遅刻2回で欠席1回。

■授業の予習・復習

予習：筆記用具として鉛筆、消しゴムを用意すること。
復習：作文は授業内で作成し提出するので、クリアファイルを用意すること。

■教科書

特に教科書は使用しません。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	自己紹介、授業の進め方や評価について解説
2 文の基本①	正確な文を書く①
3 文の基本②	正確な文を書く②
4 文の基本③	文体の統一①
5 文の基本④	文体の統一②
6 物事の説明①	説明文のモデル、ワードマッピング①
7 物事の説明②	ワードマッピング②
8 物事の説明③	課題作文①
9 意見①	小論文①小論文のモデル
10 意見②	小論文②ワードマッピングを利用した論理展開
11 意見③	小論文③課題作文
12 PR文①	自己PR①
13 PR文②	自己PR②
14 PR文③	物事のPR・課題作文
15 総まとめ	発表
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	田口功 <i>Isao Taguchi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	シミュレーション入門		シミュレーション論			

■授業のねらいと到達目標

コンピューターシミュレーションは、どのような分野で行なうかによってさまざまである。本講義では、コンピューターシミュレーションの初歩を数学の復習をかねて行なう。決定的モデルのシミュレーションや、ニューラルネットワークのシミュレーションを例として、基礎的シミュレーション概念を身に付けることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

前半、後半を通し基礎的プログラム作成問題の演習を行ないながら授業を進めます。

■成績評価方法・基準

出席状況、提出物、小試験および定期試験の4点により総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：与えられた問題についてよく資料を見て研究して下さい。
復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。

■教科書

授業でプリントを配布

■参考文献

MATLABプログラミング入門 上坂吉則 牧野書店 平成13年
コンピュータシミュレーション 伊藤俊英・草薙信照 Ohmsha 平成18年

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方とMATLABについて初歩を説明
2 MATLABの基礎知識－(1)	起動、終了、画面の構成、プログラムの作成、保存の仕方
3 MATLABの基礎知識－(2)	MATLABの基本操作、コマンドウィンドウについて
4 MATLABの基礎知識－(3)	MATLABによる四則演算、ベクトルと行列の作り方
5 MATLABの基礎知識－(4)	四則演算、行列関数
6 2次元グラフィックス－(1)	関数データの作成と基本的折れ線グラフの作成と
7 2次元グラフィックス－(2)	多量のデータの入力と種々のグラフの作成法
8 3次元グラフィックス－(1)	基本的な空間曲線を描く、meshgrid命令の理解
9 3次元グラフィックス－(2)	たくさんの空間曲線を描く
10 数値解析－(1)	方程式の数値解法 ニュートン法について
11 数値解析－(2)	定積分の数値解法
12 物体の放物運動	放物運動曲線を描くプログラムの作成
13 モンテカルロ法	円周率 π の近似値
14 定積分－(1)	近似式による定積分の計算
15 モンテカルロ法の精度	期待値、標準偏差
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	村川庸子 <i>Yoko Murakawa</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	アメリカの社会と政治	移民と現代社会	アメリカ研究Ⅲ	移民と現代社会		

■授業のねらいと到達目標

アメリカは伝統的な移民国です。近年この言葉が余り使われなくなったのは、移民を受け入れる国が増えたからです。それでも、世界中から、長期にわたって、これほど多様な人々をこれほど大量に受け入れてきた国は他にありません。その意味で、人の国際的な流出・流入が進む日本も学ぶところが多いのです。アメリカの移民史で何が起きたのかを理解することを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。

■成績評価方法・基準

学生にはコーネル式ノート作成法を指導する。日々のノートの整理（60%）と最終の試験（40%）で評価する。

■授業の予習・復習

予習：統計、新聞記事など事前に配布する資料に目を通しておくこと。

復習：毎回、ノートの整理を行うこと。ノートは中盤と期末の二回、提出を求める。

■教科書

特に使用しない。適宜、資料を配布する。

■参考文献

特に使用しない。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	授業の進め方
2	概説①	国際的な視野から見たアメリカへの移民
3	概説②	キーになる概念（同化、エスニシティ、アイデンティティ）
4	移民の歴史①	植民地時代の移民
5	移民の歴史②	市民権とナショナルアイデンティティ
6	移民の歴史③	新移民の入国と経済
7	移民の歴史④	経済成長、政治、ホワイトネス
8	移民の歴史⑤	「自由の女神は東を見ている」？
9	移民の歴史⑥	エスニック・コミュニティ
10	移民の歴史⑦	20世紀の移民とネイティブイズム
11	移民の歴史⑧	移民とアメリカ文化
12	移民の歴史⑨	移民と第二次大戦
13	ビデオ鑑賞	ビデオ『From a Silkcocoon』
14	米国移民の歴史⑩	公民権運動の時代
15	まとめ	ポスト - 9.11のアメリカと移民
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	櫛田久代 <i>Hisayo Kushida</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	アメリカの社会と政治	移民と現代社会	アメリカ研究Ⅲ	移民と現代社会		

■授業のねらいと到達目標

授業では、世界の中でも代表的な民主国家であるアメリカの政治を多方面から取り上げます。その際、アメリカの政治文化、代表制の確保、選挙、議会政治、政党政治を通して、社会と政治の相互作用を理解することを目標としています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布するプリントを中心に進めます。授業参加者の規模にもよりますが、少人数の場合は、時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で行います。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%。

■授業の予習・復習

予習：日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。
復習：授業内でわからなかったことは、解決するようにして下さい。

■教科書

毎回プリントを配布します。

■参考文献

『アメリカを知る事典 新訂増補版』（平凡社、2000年）他。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	
2	社会的背景（1）	2010年の国勢調査とアメリカ国民
3	———（2）	移民の国アメリカと不法移民の問題
4	———（3）	保守とリベラル
5	———（4）	エスニシティ
6	ブッシュ大統領の時代（1）	伝説的な2000年大統領選挙
7	—（2）	9.11テロと「テロとの戦争」
8	—（3）	9.15と「経済不況」
9	オバマ大統領の時代（1）	2008年選挙
10	———（2）	ブッシュ大統領の負の遺産
11	———（3）	オバマ大統領による「変化」
12	———（4）	オバマ政権に対する評価
13	アメリカの民主政治（1）	政治文化
14	———（2）	共同体の変容
15	———（3）	様々な政治参加
16	定期試験	

年度	11年度入学		担当者	山本健 Takeshi Yamamoto		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	2年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	ヨーロッパ I		ヨーロッパ研究 I			

■授業のねらいと到達目標

近年、日本はアジア諸国と関係を深めている。これに伴い「脱欧入亜」なる新語も生まれている。これは明治時代の「脱亜入欧」と対極をなす。これは、ヨーロッパは優れ、アジアは劣っている、という偏見であり、近代以前の「豊かな」アジアの存在を無視した歴史観である。本講義では、「豊かな」アジアに対するヨーロッパの意識の変化をたどりながら、近代および近代ヨーロッパの差別的な体質を提示し、その意義を理解させる。

■授業の進め方（履修条件等）

各時代の古地図や旅行記の抜粋や私が翻訳したルーカス・レムの「日記」を音読させながら、ヨーロッパ人が渴望した「金と香辛料」をキーワードに、ヨーロッパ人のアジアへの憧れが侮蔑に転化する過程に注目させたい。

■成績評価方法・基準

月に1回、授業後に印象に残った事柄を自分の感想を記したレポート、試験として出席状況の3点で評価。なお、出席は厳しく取り、点数化する。

■授業の予習・復習

予習：古典の抜粋は前もって配布するので、目を通し、問題点を整理しておくこと。
復習：学んだ内容を整理し、高校時代の「歴史」の教科書で確認しておくこと。

■教科書

毎回、配布するプリントと拙訳「ドイツ中世商人の日記の邦訳」(2) (敬愛大学国際学研究、12号、2003年)

■参考文献

- ① 榊山純一「異境の発見」(東京大学出版会、1995年)
- ② J. マンデヴィル (大場正史訳)「東方旅行記」(東洋文庫、平凡社、1989年)
- ③ J. ファウイエ (内田日出男訳)「金と香辛料」(春秋社、1997年)
- ④ シェイクスピア (中野好夫訳)「ヴェニスの商人」(岩波文庫、2005年)

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明
2 はじめに	「脱亜」論から「入亜」論への変化の背景
3 大航海以前の時代のアジア観 空想のアジア像 (13・14世紀)	古地図 (ヘレホード図、カタロニア図など) やマンデヴィルの「東方旅行記」ポーロの「東方見聞録」の検討
4 空想の日本 (15世紀) ①	フラ・マウロの世界地図やベハイムの地球儀の日本
5 空想の日本②	旅行記に基づく日本=黄金伝説の意義を検討
6 ヨーロッパ人のアジア 進出①	コロンプスの新世界への到着と薄らぐ日本への関心
7 同上②	アジアの「豊かな」実態
8 同上③	ガマのインドでの横柄な態度と「貧しい」西欧の実態
9 16・17世紀のアジアでの 日本の経済的役割①	遅れたヨーロッパ人の来日來航とその理由
10 同上②	安土・桃山時代の日本の東南アジア進出とその背景
11 同上③	ポルトガルの日本からの銀調達とその方法
12 同上④	オランダの対日貿易の独占と鎖国体制
13 スウィフト「ガリバー 旅行記」の分析	江戸時代の描写を解説
14 豊かなアジアの解体と ヨーロッパ中心史観の 誕生	アジア物産の「文化」から「商品」への転化に伴い、アジアに対する畏敬の念が放棄され、アジア蔑視が固定化
15 マトメ	産業革命 (技術革新) による大量生産の意義を検討
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	家近亮子 Ryoko Ichika		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	2年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	中国 I		中国研究 I			

■授業のねらいと到達目標

中国は1978年12月以降「改革・開放」政策を実施し、経済成長を続け、2010年には国別GDPが世界第2位になりました。これは、経済において資本主義を導入した結果ですが、政治的には社会主義を堅持し、「共産党の指導」を続けています。授業においては、格差の拡大する中国の抱える諸問題を歴史的視点から分析していきます。到達目標は、建国以来の中国の歴史を理解し、その上で現状を知ることにあります。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。中国の社会、政治、国際情勢などのニュースを解説しながら、配布プリントを中心に、適宜映像資料を使いながら授業を進めていきます。

■成績評価方法・基準

平常点 (出席) を参考にし、数回的小テストと学期末試験で総合的に成績を評価します。

■授業の予習・復習

予習：教科書を読んでくること。新聞・ニュース等で中国の動向に関心をもつこと
復習：教科書による復習。授業で配布した資料とノートの整理。疑問点の提出

■教科書

家近亮子・唐亮・松田康博編著「改訂版 5分野から読み解く現代中国—歴史・政治・経済・社会・外交—」(晃洋書房、2009年)

■参考文献

授業では、詳細なプリントを配布します。授業項目に応じて、適宜紹介していきます。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の概説と進め方の説明—中国についての基礎知識
2 中華人民共和国史—①	建国期の政治・経済・社会・外交
3 中華人民共和国史—②	社会主義建設期の政治・経済・社会・外交
4 中華人民共和国史—③	経済調整期の政治・経済・社会・外交
5 中華人民共和国史—④	文化大革命期の政治・経済
6 中華人民共和国史—⑤	文化大革命期の社会・外交
7 中華人民共和国史—⑥	改革・開放期の政治・経済
8 中華人民共和国史—⑦	改革・開放期の社会・外交
9 中国の政治体制—①	人代制度と中国共産党の一元独裁体制
10 中国の政治体制—②	中国の三権分立の特徴と司法制度の問題点
11 中国の政治体制—③	民族政策と軍事制度
12 中国の社会問題—①	人口問題・「一人っ子政策」の仕組みと問題点、現状
13 中国の社会問題—②	戸籍制度の成り立ちと特徴、問題点
14 中国の社会問題—③	社会保障問題—年金・医療保険制度—
15 中国の社会問題—④	教育問題—現状と問題点、格差拡大の根源
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	小林聡明 <i>Somei Kobayashi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	朝鮮 I		朝鮮研究 I			

■授業のねらいと到達目標

韓国は、歴史的な関係だけでなく、現在の政治、経済、文化にいたるまで、あらゆる側面において、日本と密接な関係を持っています。本授業は、隣人である韓国を知るために必要な知識の習得を目的とするものです。特に本授業では現代韓国に焦点をあてるものとし、歴史的な背景や知識については『朝鮮Ⅱ』で講述します。

■授業の進め方（履修条件等）

本授業では、できるかぎり多様な視聴覚教材（映画やドキュメンタリー、音楽）を使用することで、現代韓国に関する知識と理解の定着を目指します。そして、講師が一方的に講義をするのではなく、インタラクティブな授業形態を採用し、講師と学生がともに「考える」というプロセスを大切にしたいと考えています。なお、可能な限り後科目である『朝鮮Ⅱ』とあわせて受講してください。

■成績評価方法・基準

出席状況（7割以上が必須）や毎授業後に提出してもらったコメント内容、レポートで総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：毎日、必ず新聞に目を通して下さい。

復習：各授業でお知らせする関連文献を読むほか、知人や友人と関連トピックについて、たくさん議論してください。

■教科書

授業で詳細なレジュメ（プリント）を配付します。

■参考文献

木宮正史『韓国—民主化と経済発展のダイナミズム』ちくま新書、2003年
石坂浩一、館野 哲（編著）『現代韓国を知るための55章』明石書店、2000年
石坂浩一（編著）『北朝鮮を知るための51章』明石書店、2006年
上記以外については、授業の際に随時紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	授業の目的と進め方
2	「韓国」を考える（1）	歴史のなかの韓国、世界のなかの韓国
3	「韓国」を考える（2）	日韓世論調査から見る相互認識
4	政治（1）	権威主義体制と民主主義体制
5	政治（2）	選挙と地域感情
6	政治（3）	韓国政治の特徴
7	経済（1）	開発独裁と冷戦
8	経済（2）	財閥と経済成長
9	経済（3）	韓国経済の特徴
10	社会（1）	メディアと権力
11	社会（2）	学歴社会と階層問題
12	社会（3）	徴兵制度と南北分断
13	北朝鮮（1）	北朝鮮の社会
14	北朝鮮（2）	日朝、日韓関係
15	おわりに	講義全体を通じたまとめ
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	水口章 Akira Mizuguchi		
区 分	国際学科	こども学科	対 象 学 年	2 年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	中東イスラム圏		中東イスラム圏研究 I			

■授業のねらいと到達目標

中東・イスラム諸国の社会空間の特性を学び、今後の動向を分析できる基礎能力を養う。

■授業の進め方（履修条件等）

授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行う。その討論を踏まえての課題レポートは必ず提出すること。

■成績評価方法・基準

授業内評価（レポート、討論参加）40%、定期試験60%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおくこと。
復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めておく。

■教科書

水口章『中東を理解する』日本評論社、2010年3月

■参考文献

山崎孝史『政治・空間・場所―「政治の地理学」にむけて』ナカニシヤ出版、2011年1月

■授業内容

授業項目	授業内容
1 社会空間の考え方	人間生活と空間について
2 人間行動と空間の特性	人と基層文化の関係について
3 メンタル・プログラム	人の発達と社会科について
4 空間と連帯意識	境界（国境）を超える連帯意識について
5 グループ討論「社会空間の特性とは」	「高度情報通信社会がもたらす変化」を考える
6 アラビア半島地域の発展	カタール、バーレーンなどの紹介
7 東地中海地域の発展	シリア、ヨルダンなどの紹介
8 北アフリカ地域の発展	アルジェリア、リビアなどの紹介
9 中央アジア地域の発展	カザフスタン、キルギスタンなどの紹介
10 グループ討論「経済発展と中東・イスラム諸国」	「イスラム諸国の特性」を考える
11 制度と改革	イスラム法と西洋法について
12 国家を超える連帯意識	アラブ主義、イスラム主義について
13 中東地域の国際介入	反テロ戦争について
14 世界秩序と中東・イスラム地域	国際機関の活動について
15 グループ討論「21世紀の中東・イスラム社会」	「宗教と国際秩序」を考える
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	大月隆成 Takashige Otsuki		
区 分	国際学科	こども学科	対 象 学 年	2 年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	アフリカ I		アフリカ研究 I			

■授業のねらいと到達目標

日本から見た場合、アフリカという地域は最もなじみが薄く、様々な面でかけ離れた存在であるため、偏った情報に基づく歪んだイメージが形成されやすい。この授業の狙いは、こうした関係の特殊性に注意しながら、アフリカについての基本的な知識とバランスの取れた見方を身に付けてもらうことである。

■授業の進め方（履修条件等）

ドラマや音楽、文学作品、ドキュメンタリーなどを手がかりに、「アフリカ初心者」でも無理なく学べる授業を実施する予定である。

■成績評価方法・基準

平常点（出席、課題提出など）と期末試験の結果に基づいて評価を行う。

■授業の予習・復習

予習：日頃からアフリカに関心を持ち、積極的に情報収集を心がける。
復習：授業で出された課題や関連するテーマについて、調べてみる。

■教科書

特定の教科書は使用しない。

■参考文献

伊谷純一郎ほか『アフリカを知る事典』平凡社、大迫秀樹『アフリカのことがマンガで3時間でわかる本』アスカ

■授業内容

授業項目	授業内容
1 アフリカ入門（1）	アフリカの多様性と共通性
2 アフリカ入門（2）	北アフリカとサハラ以南アフリカ
3 アフリカ入門（3）	共通性の起源～共通の歴史的经验
4 アフリカの歴史を知る（1）	「ルーツ」～アフリカの伝統社会
5 アフリカの歴史を知る（2）	「ルーツ」～大西洋奴隷貿易
6 アフリカの歴史を知る（3）	「不可思議な国境線」～アフリカ分割
7 アフリカの歴史を知る（4）	「シャーロック・ホームズとアフリカ」～植民地支配
8 アフリカの歴史を知る（5）	「地図のない国」～ギニアの独立
9 アフリカの現在を知る（1）	「ルワンダの義足工房」～アフリカの内戦（1）
10 アフリカの現在を知る（2）	「ブラッド・ダイヤモンド」～アフリカの内戦（2）
11 アフリカの現在を知る（3）	「ブラッド・ダイヤモンド」～天然資源の「恵み」
12 アフリカの現在を知る（4）	「ブラッド・ダイヤモンド」～子供兵
13 アフリカの現在を知る（5）	「ダイヤモンド」～深刻なエイズ問題
14 南アフリカを知る（1）	「インビクタス」～アパルトヘイトとネルソンマンデラ
15 南アフリカを知る（2）	「インビクタス」～アパルトヘイト後の南アフリカ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	舩方周一郎 <i>Shuichiro Masukata</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	ラテンアメリカ I		ラテンアメリカ研究 I			

■授業のねらいと到達目標

本授業は、「政治と社会」という視点から、ラミ諸国の社会と変容を概説するものである。そのために鍵となる歴史的背景とラミ地域における冷戦期前後の国際関係を取り上げて考察する。授業を通してラミ諸国を巡る諸問題を議論する能力と、受講生同士が協力し、主体的にプレゼンテーションを行う能力を養うことが狙いである。

■授業の進め方（履修条件等）

複数回の講義の後、各グループに分かれたプレゼンテーションを実施する。ラミ地域研究の基礎知識を知るためにラテンアメリカの歴史と社会、後期開講のブラジル地域研究に特化したラテンアメリカⅡの受講を勧める。

■成績評価方法・基準

プレゼンテーション（50%）、リアクション・ペーパー（50%）の総合点で評価する。

■授業の予習・復習

予習：予習は義務付けないが、関心ある者は、まずは参考文献の関連箇所を熟読されたい。それ以降は直接質問を受け付ける。
復習：まずは授業で配布されるプリントや資料を見返されたい。それ以降は直接質問を受け付ける。

■教科書

テキストは指定しない。講義内容をまとめたプリントを配布し、それに基づいて講義を進める。

■参考文献

恒川恵子『比較政治—中南米』放送大学教育振興会、2008年。
その他は、開講時に参考文献リストを配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 授業の概要説明	ガイドンス「ラテンアメリカ：反米（親米）大陸？」
2 ラミ政治社会の概観	ラミ政治社会の基本的特徴
3 ラミ政治社会の歴史背景（1）	1950年代までの米州関係
4 ラミ政治社会の歴史背景（2）	『モーターサイクル・ダイアリーズ』（映像資料）
5 冷戦期の国際関係（1）	キューバ革命
6 冷戦期の国際関係（2）	キューバ危機
7 プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションの仕方、作法、問題提起
8 冷戦期のラミ関係（1）	軍事政権の時代
9 冷戦期のラミ関係（2）	チリの事例：『マチュカ』（映像資料）
10 冷戦期のラミ関係（3）	1980年代の経済危機と民主化
11 現代のラミ関係	グローバル化とラテンアメリカ国際関係
12 プレゼンテーション（2）	グループ（1）報告
13 プレゼンテーション（3）	グループ（2）報告
14 プレゼンテーション（4）	グループ（3）報告
15 まとめ	総括：ラテンアメリカ政治社会とは何だったのか？
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	織井啓介 <i>Keisuke Orii</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	アメリカの経済		アメリカ研究Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

米国経済の最新動向にアプローチします。①マーケット（市場）の概要、②マクロ経済の動向、③主要企業の動向、④金融政策を中心に論じます。特に証券市場の動向とFRBの金融政策の理解に努めます。英字紙（The Wall Street Journal.など）の最新記事も随時学習し、時事英語力もアップします。

■授業の進め方（履修条件等）

とくに予備知識は必要ありません。新聞・テレビのアメリカ経済ニュースに関心のある受講者が望ましい。

■成績評価方法・基準

①期末試験（教場試験またはレポート）50%程度、②出席15%程度、③小テスト35%程度で評価する予定です。

■授業の予習・復習

予習：配布プリントで予習します。テレビの経済ニュースでは「モーニングサテライト」（TV東京系）等が参考になります。日・米の各新聞のアメリカ経済記事も定期的にチェックしましょう。

復習：配布する練習問題を自宅で演習し、次の授業時に答合わせをします。

■教科書

とくに使用しません。

■参考文献

M.B.Lehmann, *The Irwin Guide to Using the Wall Street Journal* (7th ed.), McGraw Hill, 2005.

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「アメリカ研究Ⅱ」講義の概要	講義スケジュール・参考文献等を説明
2 第1章：市場①	株式市場
3 第1章：市場②	金融市場
4 第1章：市場③	外為市場・商品市場
5 第2章：マクロ経済①	景気動向
6 第2章：マクロ経済②	GDP統計
7 第2章：マクロ経済③	生産・雇用統計
8 第2章：マクロ経済④	物価・国際収支統計
9 第3章：企業動向①	主要企業四半期業績の動向
10 第3章：企業動向②	アグリ・石油ビジネス
11 第3章：企業動向③	自動車・ITビジネス
12 第4章：金融・財政①	FRBとFOMC
13 第4章：金融・財政②	金融危機への対応
14 第4章：金融・財政③	財政状況と財政政策
15 「アメリカ研究Ⅱ」講義まとめ	講義全体の総括と補遺事項の説明
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	櫛田久代 Hisayo Kushida		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	アメリカ I		アメリカ研究 I			

■授業のねらいと到達目標

授業では、アメリカ政治社会の中に見られる「自由と統合」という対立する方向性を歴史的に、政治的に、社会的に取り上げます。アメリカ合衆国の制度や歴史を知り、現代アメリカの社会や政治の背景にある考え方を理解することを目標としています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布するプリントを中心に進めます。授業参加者の規模にもよりますが、少人数の場合は、時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で行います。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%。

■授業の予習・復習

予習：日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。
復習：授業内でわからなかったことは、解決するようにして下さい。

■教科書

毎回プリントを配布します。

■参考文献

『アメリカを知る事典 新訂増補版』（平凡社、2000年）他。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	
2 アメリカの今	2010年の中間選挙
3 アメリカを見る視点(1)	アメリカの制度的特徴
4 —————(2)	アメリカを見る視点
5 歴史的背景(1)	連邦制の起源
6 —————(2)	建国期の国家像の違い
7 —————(3)	合衆国憲法制定とその後の修正
8 —————(4)	連邦制と南北戦争
9 —————(5)	南北戦争後
10 アメリカ人(1)	公民権の問題
11 —————(2)	公民権運動と多文化主義
12 —————(3)	エスニシティと政治
13 アメリカの今後(1)	様々な国内問題
14 —————(2)	地域間対立
15 —————(3)	世界の中のアメリカ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	金子新 Shin Kaneko		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	ヨーロッパ経済論 I		ヨーロッパ研究 II			

■授業のねらいと到達目標

今日のヨーロッパは、EU（ヨーロッパ連合）を抜きにしては語れません。特に市場の統合を進めてきたEU諸国は、共通通貨ユーロをもつまでになりました。そしてEUが進めてきた自由貿易の取り組みは、いま世界に広がっています。この授業では、EUの歴史を振り返りながら、劇的に変化するヨーロッパ経済の実像に迫ります。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書とレジュメを用います。また映像などを使って、内容をよりリアルにイメージできるようにします。戦後の国際関係についての予備知識があると分かりやすいでしょう。国際政治学も合わせて履修することをお勧めします。

■成績評価方法・基準

成績の評価は、①出席、②授業での発言、③レポートまたは期末試験の3つで行います。

■授業の予習・復習

予習：次の授業内容について、参考図書やインターネットなどで簡単に調べてみよう。
復習：レジュメとテキストをよく読み返し、ヨーロッパ経済にとって特徴的な政策や制度のポイントを理解しよう。またそれが日本・アジアにとってどんな参考になるか考えてみよう。

■教科書

パンジャマン・アンジェル他『ヨーロッパ統合』（創元社、2005年）

■参考文献

渡邊啓貴（編）『ヨーロッパ国際関係史』（有斐閣、2008年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	戦後ヨーロッパ経済の特徴は何か
2 戦後復興とヨーロッパ統合	第二次大戦後の経済復興はどのように始まったか？
3 石炭鉄鋼共同体の形成	アメリカの経済援助とヨーロッパ経済統合の関係
4 関税同盟・共同市場を目指して	西ヨーロッパ経済の発展とヨーロッパ経済共同体
5 EECからECへ	共通の貿易政策vs共通の農業政策？
6 ドゴールとイギリスの対立	停滞するECとイギリスの加盟問題
7 ふたつのショックの影響	ドルと石油がヨーロッパ経済に与えた影響
8 対日貿易摩擦の激化	台頭する日本と不況に苦しむヨーロッパの貿易戦争
9 通貨統合の挑戦と挫折	貿易と金融の国際化にどう対応するのか？
10 ドローールと単一欧州議定書	カリスマ指導者による市場統合へのアクセラレーション
11 市場統合とEU発足	EUの設計図マーストリヒト条約の意義とは何か？
12 通貨統合への再挑戦	単一通貨ユーロ誕生への困難な道のりとは？
13 グローバル・リーダーEU	開発援助、環境保護、研究開発で世界をリードせよ！
14 世界同時不況とEU経済	リーマン危機後の経済危機、財政危機、ユーロの危機
15 これからのヨーロッパ経済	未来に向けたヨーロッパ経済の羅針盤は何か？
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	加島潤 Jun Kajima		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	中国Ⅱ		中国研究Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

急激なスピードで変化を続ける中国経済について、歴史や制度、国際関係などさまざまな角度から光をあて、その全体像を理解する。目標は、中国経済に関するバランスのとれた知識を得ること、また中国についてさらに深く知るための方法を身につけることである。

■授業の進め方（履修条件等）

各回のトピックについて、指定した教科書をベースに統計資料や新聞記事、映像資料などを交えて解説していく。履修者には積極的に関連知識を得ようとする姿勢を期待する。

■成績評価方法・基準

出席とテスト（出席30%、テスト70%）

■授業の予習・復習

予習：講義スケジュールを参考に、次回の授業内容について自分なりに調べておく。

復習：授業中に紹介する関連書籍を読む。

■教科書

南亮進・牧野文夫編『中国経済入門[第2版]——世界の工場から世界の市場へ』日本評論社、2005。

■参考文献

加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房、2004。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方について説明する。
2 中国の経済体制	中国が掲げる社会主義市場経済について考える。
3 中国経済の歴史	20世紀以降の中国経済の歴史的展開を学ぶ。
4 国有企業の改革	改革開放以後の国有企業の改革について学ぶ。
5 民間企業の勃興	新たに勃興した民間企業について学ぶ。
6 外資企業の役割	中国経済における外資企業の役割を考える。
7 財政制度と中央—地方関係	財政制度から中央—地方間政府関係を考える。
8 金融市場の発展	金融・資本市場の形成について学ぶ。
9 農村と農業	広大な農村地域の経済について考える。
10 人口構造と労働市場	人口構造の変動と労働市場について学ぶ。
11 所得格差と平等	地域間・階層間の所得格差について学ぶ。
12 中国の貿易構造	拡大する中国の貿易の全体像を把握する。
13 日中貿易関係	日中貿易の構造について学ぶ。
14 中国の対外経済進出	中国企業の対外進出の現状を理解する。
15 資源と環境	中国の資源制約や環境問題について考える。
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	田中和彦 Kazuhiko Tanaka		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	東南アジアⅡ		東南アジア研究Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

本講義は、東南アジアの中の特にフィリピンを取り上げ、フィリピンの衣、食、住といった生活文化について講義することによって東南アジア、特にフィリピンの生活と文化に対する理解を深めることを目的とする。本年度は、食文化に焦点をあて、現地における実際の資料と歴史的資料の両方を踏まえ、また、周辺地域との関連も視野に入れて取り扱う。講義の中では、私自身が現地で実際に撮影した写真や現地で入手した現物を提示しながら授業を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式ですすめる。

■成績評価方法・基準

出席及び学期末に課題本を読んだレポートを課し、両方に基づき評価する。

■授業の予習・復習

予習：該当する地域の地図を見ておくこと。

復習：ノートをまとめ、見直しておくこと。

■教科書

特に指定しない

■参考文献

授業の中で、その都度指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	本講義に関する参考文献の紹介
2 フィリピンの地形と地域	スンダランドとウオーレシア、火山帯、黒潮、珊瑚礁
3 フィリピンの気候と植生	フィリピンの気温、降雨、熱帯雨林、
4 フィリピンの言語	オーストロネシア語族の拡散とその特徴
5 フィリピンの民族	南方モンゴロイド集団と非モンゴロイド集団
6 東南アジアの稲とフィリピン	東南アジアの稲作研究とフィリピン：農学の成果
7 フィリピンの米	東南アジアの稲作研究とフィリピン：考古学の成果
8 フィリピンの米	フィリピンにおける米を利用した食品
9 東南アジアの製塩：1	東南アジアにおける製塩：タイの事例
10 東南アジアの製塩：2	東南アジアにおける製塩：インドネシアの事例
11 ヤシの利用	フィリピンにおけるココヤシの利用：容器、食材、酒
12 スペイン時代のフィリピン	初期の歴史、スペイン人居住地と中国人、日本人
13 ガレオン船と新大陸の食物	ガレオン船貿易の歴史と新大陸から齎された食物
14 フィリピンにおける土器作り	土器の調理甕の製作技術、技術伝承、使用
15 土器作り	土器の焔炉の製作技術、地域性、時代性
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	水口章 Akira Mizuguchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	中東経済論		中東イスラム圏研究Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

世界経済に影響を与えるアラブ産油国の経済構造と世界的に注目されるイスラム金融について理解を深める。そのことにより、21世紀の経済動向を考える力を身につけて欲しい。

■授業の進め方（履修条件等）

授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行う。その討論を踏まえての課題レポートは必ず提出すること。

■成績評価方法・基準

授業内評価（レポート、討論参加）40%、定期試験60%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおくこと。
復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めておく。

■教科書

水口章「中東を理解する」日本評論社、2010年3月

■参考文献

糠谷英輝「拡大するイスラム金融」蒼天社出版、2007年9月
加藤博「イスラム世界の経済史」NTT出版、2005年7月

■授業内容

授業項目	授業内容
1 世界経済システムと中東地域	大航海時代後の物流変化について
2 インド洋貿易と中東	ペルシャ湾、紅海の交易ルートについて
3 工業化と中東	中東の資本、労働力、技術力の市場について
4 アジア経済と中東経済	アジアと中東の経済発展の差について
5 グループ討論「中東の経済停滞」	「中東諸国の発展の遅れ」を考える
6 イスラムとは	イスラムにとっての「財」について
7 イスラム金融のスキーム	「ムダラバ」「ムシャラカ」について
8 イスラム金融市場	マレーシア、インドネシアなどについて
9 イスラム金融の課題と展望	国際金融との関係について
10 グループ討論「公平と利益分配」	「イスラム経済の特徴」を考える
11 サウジアラビア	オイルマネーの国際還流について
12 エジプト	肥大化した公共部門について
13 ドバイ	観光・中継貿易中心の国家戦略について
14 トルコ	復活するトルコ経済について
15 グループ討論「経済発展と格差」	「イスラムと経済発展」を考える
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	本山昭 Akira Motoyama		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際協力の理念と実践		国際協力論			

■授業のねらいと到達目標

先進国のODAを中心とする対開発途国援助は、近年、より人道的・社会的色彩を強め、貧困撲滅や人間開発をその究極の目的としています。授業では国際協力のさまざまな具体的事例を紹介しつつ、受講生には真の国際協力のあり方や、日本の貢献のあるべき形について、自分なりの考えを確立して貰うと同時に、国際協力分野で働くために必要な心構えと知識が身に付くことを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

全回パワーポイントを使用し、図表や写真を多用しながら分かりやすい授業を目指します。また、36年間の外交官としての体験談や映像資料を随所に取り込むなど可能な限り具体的事例に沿ったものにします。毎回レジュメ、資料等のプリントを配布する予定です。

■成績評価方法・基準

出席及び授業への貢献度（質問・意見発表等）、期末試験を総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：常に問題意識を持って受講できるように準備をしておいて下さい。
復習：自国内での日本のODA協力の具体例について纏めてみて下さい。

■教科書

使用しません。

■参考文献

『政府開発援助（ODA）白書（2010）』外務省
『国際協力ガイド（2011）』国際開発ジャーナル社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業概要説明
2 対外政策としてのODA（1）	①国際協力とは ②ODAとは
3 対外政策としてのODA（2）	借金大国日本がODA供与を続ける理由
4 ODA実施体制（1）	外務省、JICAの役割
5 ODA実施体制（2）	ODAが途上国にどのような形で届けられるか
6 ODA実施体制（3）	国際協力におけるマルチとバイの関係
7 ODA実施体制（4）	日本及びその他援助国のODA供与実績
8 日本の協力事例（1）	日本のODAに対する国際的評価
9 日本の協力事例（2）	ビデオ『トルコ第二ボスポラス架橋』
10 対中国ODA	日本の最大のODA供与国は中国
11 中国の対途上国援助	中国の援助がODAとは呼ばれない理由
12 MDGs（1）概要	①地球の今を考える、②これからの国際協力
13 MDGs（2）貧困問題	貧困削減に向けての日本の取り組み
14 MDGs（3）教育問題	DVD『僕たちも学校へ行きたいよ』
15 MDGs（4）環境問題	DVD『砂漠化との戦い～中国・河西回廊の村～』
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	庄司真理子 Mariko Shoji		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際関係法 I		国際関係法 I (国際社会と法)			

■授業のねらいと到達目標

法とは何か？法のご概念と歴史などの視点を織り込みつつ、法のなかでも国際法に焦点をあてて考察します。国際法とは何か？国際法はどのような形をした法律であるか？などの観点から考察を深めていきます。次に国際法の主体、特に国家についてどのように捉えているかを考察します。最後に、外交関係と国際法の関連についても言及します。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めます。講義への参加度、各自が自分で主体的にもの考えているかを確認しながらすすめます。

■成績評価方法・基準

講義の最中に毎回、授業内レポートを書いてもらう。そのほかに試験をします。

■授業の予習・復習

特に予習は必要ないが、可能ならば教科書を読んできて下さい。基本的に授業中が勝負です。授業に真剣に取り組んで欲しいと思います。

■教科書

中谷・河野・山本・植木・森田著『国際法』有斐閣アルマ

■参考文献

大沼・藤田編『国際条約集』有斐閣。
門広・船尾・降矢・松田『INVITATION法律学入門』不磨書房。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 授業のガイダンス	
2 法源論の基本的考察	法とは何か？
3 国際法とは何か	国際法の法源について考察します。
4 条約 I	成文法としての条約について、条約の定義について学ぶ
5 条約 II	条約の成立プロセス、留保などを学ぶ。
6 国際慣習法	不文法としての国際慣習法：国際慣習法について学ぶ
7 国際法の主体	国際社会の多様なアクター
8 国家	国家をめぐる国際法上の諸問題、国家承認論
9 承認論	政府承認論、交戦団体の承認
10 国家承継論	
11 国家と国際関係	外交使節と領事：外交使節、外交特権
12 領事について	その職務内容は何か。外交特権、領事特権
13 主権、平等、国内事項不干涉	国家主権、平等、国内事項不干涉
14 国際法と国内法の関係	
15 国際社会の新たな法源	ソフト・ロー
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	庄司真理子 Mariko Shoji		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	Theory of the United Nations		Theory of the United Nations			

■授業のねらいと到達目標

This course studies the United Nations (UN) as well as the International Organizations. The main objective of this course is to study the structure of the United Nations. From the viewpoint of the UN structure, we will discuss how we can access this world organ. The UN is not out of reach for the common people but it is an important factor in all our lives. "We the people of the United Nations", this one sentence is written in the preamble of the UN Charter. The UN is the organization for us, civil society.

■授業の進め方（履修条件等）

Lecture, Class participation will be strongly required.

■成績評価方法・基準

1) Class Participation 2) in class short Reports 3) Final examination

■授業の予習・復習

Basically, preparations and reviews are not required. Class participation is the most important. Students are required to take active role in the class.

■教科書

■参考文献

United Nations, *United Nations Today*, United Nations (August 10, 2008)
Linda Fasulo, *An Insider's Guide to the UN*, Yale University Press; 2 edition (June 9, 2009)

■授業内容

授業項目	授業内容
1 Video of the UN	Simulated experience of the UN by Video
2 History and birth of the UN	
3 Definition	Definition of the International Organizations
4 The League of Nations	The birth of The League of Nations
5 The birth of the UN	The birth of the UN and the World Order after WWII
6 Purposes and Principles	Purposes and Principles of the UN: accession
7 The UN General Assembly	The UN General Assembly as the World Congress
8 The Security Council	The Security Council and the Peace by the Powers
9 ECOSOC	Functional enhancement of Economic and Social Council
10 The ICJ	The International Court of Justice: Real judicial organ
11 The Secretariat	The Secretariat; center of the reform
12 The Secretary-General	The SG: The most difficult role in the world
13 The HRC and the PBC	The Human Rights Council and the Peacebuilding Commission
14 The UN and refugees	The UN and refugees
15 The UN and corporations	The UN, Global Civil Society and Corporations
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	家近亮子 Ryoko Ichika		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際政治史		国際政治史			

■授業のねらいと到達目標

20世紀以降の国際政治史を概説します。20世紀は帝国主義と民族主義、社会主義と資本主義などという二極分離的対立が特徴的な時代でありました。また、二つの世界大戦を経験した時代でもあり、国際連盟や国際連合などの国際的安定システムを導入、確立した時代でもありました。授業においては、現在の国際社会がどのような歴史を経て形成されたのかを明らかにしていきます。到達目標は、国際政治の歴史の流れを知り、なぜ現在のような世界ができあがったのかを理解することにあります。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。授業は配布プリントを中心に適宜、映像資料を使いながら進めていきます。

■成績評価方法・基準

平常点（出席）を参考とし、数回の小テスト、学期末試験によって総合的に成績を評価します。

■授業の予習・復習

予習：ニュースや新聞等で国際政治に関心をもつこと。次週の授業内容の予習
復習：配付資料・ノートの整理。疑問点を書いて提出すること

■教科書

教科書はありません。毎時間配布するプリントが教科書代わりになります。全部で30頁になります。欠ける頁がないように注意してください。

■参考文献

授業内容をすべてカバーする参考文献はないため、授業項目に合わせて、適宜紹介していきます。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	講義の概要と授業の進め方の説明、20世紀
2	20世紀の国際政治の特徴	帝国主義、社会主義、ファシズム、民族主義の説明
3	第一次世界大戦への道①	産業革命とアジア・アフリカの植民地化
4	第一次世界大戦の勃発	バルカン半島情勢と第一次世界大戦の拡大と特徴
5	ロシア革命	ロシアの情勢とレーニン革命、社会主義国の誕生
6	アメリカの台頭	アメリカの外交戦略（モンロー主義）と第一次世界大戦
7	日本の参戦	「対華二十一カ条の要求」と中国侵略
8	第一次世界大戦の戦後処理	ウィルソンの民族自決主義と国際連盟の設立
9	第一次世界大戦後の国際政治	対ドイツ賠償問題とアメリカ中心経済体制の確立
10	第二次世界大戦への道	イタリア・ドイツにおけるファシズムの台頭
11	第二次世界大戦の勃発	戦争の展開と終息
12	第二次世界大戦の戦後処理	国際連合の成立と冷戦構造の創出
13	冷戦下の国際政治	朝鮮戦争とベトナム戦争
14	冷戦の終結	ソ連邦解体と東欧の民主化、独立
15	冷戦後の国際社会	グローバリズムとリージョナリズム—その問題点
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	庄司真理子 Mariko Shoji		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際連合の仕組みと活動		国際連合			

■授業のねらいと到達目標

国連をはじめとする国際機構について考えます。本講義では、国連の組織構造を考察することに重点を置きながら、国連に私たちがどうコミットしていったら良いのかを考えます。国連は国際機構だから、国家間関係中心の組織構造で、などと堅く考えずに、地球上に住む人を中心に据えた組織構造を考えていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めます。授業の参加度を重視します。英語と日本語の両方で講義します。

■成績評価方法・基準

毎回書いてもらう授業内レポートと期末試験で採点します。出席は重視します。

■授業の予習・復習

基本的には予習・復習は特に課しません。授業中が勝負です。授業に真剣に取り組んでください。

■教科書

使用しない。

■参考文献

横田洋三編著『新国際機構論』国際書院

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	国連を疑似体験	ビデオをとおして国連を疑似体験。
2	国際機構の誕生と歴史	
3	国際機構の定義	
4	国際連盟の成立	
5	国連の創設	国連の創設と第二次世界大戦後の世界秩序。
6	国連の目的および原則	国連の目的および原則と、国連加盟。
7	国連総会	世界の議会をめざす国連総会
8	安全保障理事会	安全保障理事会と大国による平和。
9	経済社会理事会	機能強化が望まれる経済社会理事会。
10	国際司法裁判所	国際司法裁判所と真の司法機関への展望。
11	事務局	機構改革の要としての事務局。
12	国連事務総長	世界で最も難しい役割、国連事務総長。
13	人権理事会と平和構築委員会	21世紀の新しい組織、人権理事会と平和構築委員会
14	国連と難民問題	国連と難民問題
15	国連と企業	地球市民社会と国連 企業との関係
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	高田洋子 Takada Yoko		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	アジアの農業		途上国社会経済論			

■授業のねらいと到達目標

私たちの生活に不可欠な食糧・原料を生産する農業の歴史的過程を学び、社会にとっての「農」の未来を考える基礎的力をつけます。身近な千葉県と東南アジアの事例を中心に講義します。

■授業の進め方（履修条件等）

ITを活用する授業を展開しますが、講義の合間に「土」に触れ、農業の実践現場にも足を運んで学びます。

■成績評価方法・基準

授業への積極的取り組みと定期試験によって評価をつけます。

■授業の予習・復習

予習：日頃から農業の現状と課題について情報を収集しましょう。

復習：授業内小テストを行います。

■教科書

指定しません。

■参考文献

斉藤照子『東南アジアの農村』他。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	農業の持つイメージ	受講前の農業についてのイメージをまとめる
2	農業とは何か（1）	「農業」の範疇を考える
3	農業とは何か（2）	「農業」の現場を概観する
4	農業の歴史：千葉編（1）	房総半島の農業を知る
5	農業の歴史：千葉編（2）	明治期以降の下総地方における開拓から学ぶ
6	自然と農業の関わり	（東南）アジアの自然と地形・土地利用を知る
7	農業の発展過程（1）	焼き畑とは何か？
8	農業の発展過程（2）	食糧としてのコメ生産を知る
9	<戦前世界の三大輸出地域>	商品としてのコメ生産から学ぶ
10	農業生産システム（1）	工業的農業の発展（分業と協業）
11	農業生産システム（2）	プランテーション・農園会社の経営（資本と労働）
12	農業生産システム（3）	緑の革命とは何か？（農業の技術革命）
13	農業生産システム（4）	土地は誰のものか？（農地改革）
14	「農」の現場実習	土に触れ、土を耕す
15	「農」に生きる人びと	千葉の農業人から直接に話を聞く
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	庄司真理子 Mariko Shoji		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際関係法Ⅱ		国際関係法			

■授業のねらいと到達目標

国際関係法Ⅰの知識に加えて、国際法学をひとつとおり勉強することを目指します。まずは国際責任と紛争の解決、裁判について学びます。次に、国際法と領域について、陸・海・空さらに時間があれば宇宙空間についても学びます。公務員試験などにも役立つように講義を進めます。

■授業の進め方（履修条件等）

国際関係法（国際関係法Ⅰ）をすでに履修した学生。履修していない学生は、授業についてくるのが難しい。

■成績評価方法・基準

講義の最中に毎回アンケート形式のレポートを書いてもらう。その他に試験をする。

■授業の予習・復習

予習よりも授業中が勝負です。授業中にしっかりと授業を受けてください。もちろん余裕のある人は教科書を読んでください。

■教科書

中谷・河野・山本・植木・森田著『国際法』有斐閣アルマ

■参考文献

大沼・藤田『国際条約集』有斐閣

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	
2	国際責任 その1	
3	国際責任 その2	
4	国際違法行為の効果	
5	紛争の平和的解決と仲裁裁判	
6	国際司法裁判所	
7	海の国際法	
8	領海と公海	
9	接続水域	
10	排他的経済水域	
11	国際河川 国際海峡	
12	大陸棚、深海底	
13	国際化地域（国際河川・南極）	
14	空と宇宙の国際法	
15	国際環境法	
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	大月隆成 Takashige Otsuki		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	社会開発論		社会開発			

■授業のねらいと到達目標

開発プロジェクトにおける実施者（外部者）と受益者（住民）の間には、資金・知識・技術の格差があり、このことがしばしば問題を引き起こしてきた。参加型開発やPLAといった手法は、その対策として考え出されたものである。この授業では主としてミクロの視点から、国際協力に内在する様々な問題に光を当てることにしたい。

■授業の進め方（履修条件等）

「社会開発論」と「社会開発」共通の授業として実施する。受講希望者が多過ぎる場合は人数制限を行う。各自の意見を積極的に述べてもらうことになるので、授業には毎回必ず出席すること。

■成績評価方法・基準

平常点（授業への「参加」）及びレポートにより評価を行う。「社会開発」は「社会開発論」よりもやや厳しく評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書の指定された箇所を事前によく読んでおく。
復習：出された課題をしっかりとこなして提出する。教科書を読み返し自分の頭で考える。

■教科書

プロジェクトPLA編『続・入門社会開発』国際開発ジャーナル社

■参考文献

野田直人「開発フィールドワーカー」築地書館、佐藤寛ほか編『テキスト社会開発』日本評論社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ランバ族の人びとの暮らし（1）	開発とは何か
2	ランバ族の人びとの暮らし（2）	豊かさや幸福の基準
3	貧困と社会開発（1）	貧困の定義や考え方
4	貧困と社会開発（2）	経済開発と社会開発、社会開発の歴史
5	ケース・スタディA（1）	事実関係の整理
6	ケース・スタディA（2）	失敗の原因は何か
7	ケース・スタディA（3）	開発手法の特徴
8	プロジェクト型開発（1）	プロジェクトとは何か
9	プロジェクト型開発（2）	PCM（プロジェクト・サイクル・マネジメント）
10	プロジェクト型開発（3）	プロジェクト型開発の限界
11	ケース・スタディB	事実関係の整理
12	ケース・スタディB	ケースAとの相違点
13	ケース・スタディB	開発手法の特徴
14	参加型開発（1）	開発における「参加」
15	参加型開発（2）	PLA（参加による学習と行動）
16	レポート提出	

年 度	11年度入学		担 当 者	金子新 Shin Kaneko		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際政治学		国際政治学			

■授業のねらいと到達目標

戦後、冷戦後、9.11後。私たちは今、3つの「ポスト（後）」の時代を生きています。それは激動のグローバル化の時代でもあります。私たちは国際政治学を、歴史、理論、現状分析の3点を通して学び、グローバル化が国際政治に及ぼす影響を理解しなければなりません。一緒に現代世界が抱える政治的課題に接近してみませんか。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書とレジュメを用います。また映像などを使って、内容をよりリアルにイメージできるようにします。国際政治学は20世紀に発達した学問です。20世紀の世界史をざっとおさらいしておきましょう。

■成績評価方法・基準

成績の評価は、①出席、②授業での発言、③レポートまたは期末試験の3つで行います。

■授業の予習・復習

予習：各授業内容についてテキストの該当箇所を事前に読んでおきましょう。
復習：レジュメとテキストをよく読み返し、学んだ知識に照らしながら、具体的な国際政治上の事件や出来事を自分なりに分析し、ノートにまとめてみよう。

■教科書

細谷雄一・矢澤達宏（編）『国際学入門』（創文社、2004年）

■参考文献

村田 晃嗣、君塚 直隆、石川 卓、栗栖 薫子『国際政治学をつかむ』（有斐閣、2009年）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	国際政治の見方	国際政治をめぐる力・利益・理念
2	国際政治と国際システム	主権国家システムの形成と発展
3	リアリズムの国際政治理論	勢力均衡理論と覇権理論の違いは何か？
4	リベラリズムの国際政治理論	統合理論、相互依存論、レジーム論とは何か？
5	構造主義の国際政治理論	帝国主義と世界システム論
6	グローバル化①	グローバル化の光と影
7	グローバル化②	グローバル化と超大国アメリカの行方
8	グローバル化③	地球的問題群とグローバル・ガバナンス
9	開発と援助のグローバル化	「人間の安全保障」とは何か？
10	価値と規範のグローバル化	国境を超える民主主義・市民社会
11	反グローバル化	反WTO、反米主義、原理主義、そしてナショナリズム
12	岐路にある国連とPKO	頻発する紛争に国連や国際社会はどう立ち向かうか？
13	戦後日本外交の歩み	国際化・グローバル化の中の日本外交
14	国際政治の地殻変動	台頭する中国・インドが国際政治に与える影響
15	もう一度、国家とは何か	国際政治の中の主権国家再考
16	定期試験	

年度	11年度入学		担当者	覚正豊和 Toyokazu Kakusho		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	比較犯罪学		比較犯罪学			

■授業のねらいと到達目標

犯罪とは何か、刑罰とは何か、非収容者の処遇の実態、犯罪者をどのように再社会化させるかなどについて単なる犯罪対策にとどまるのではなく、その社会的・文化的要因や身体的要因、犯罪学仮説、警察機構、刑事司法対策等の諸問題にわたり比較犯罪学的展開を踏まえた上で理解していきます。そして、犯罪学における基本理念をわが国の理論的現状をも対比しつつ、国際的動向との関係から正しく捉え犯罪を防衛するための合理的、合目的な手段・方法を探求していくことを目的とします。今日、とうとうと流れる国際社会において、犯罪者という社会のもっとも片隅においやられた人権の在り方を考えるということは、ますます重要な問題になってくるはずで、講義を通じてそれを概観していきたいと思えます。

■授業の進め方（履修条件等）

分かりやすい授業を展開するので、特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において指示します。

■教科書

斉藤静敬・覚正豊和 共著『刑事政策論』八千代出版

■参考文献

授業において指示する。

■授業内容

回数	授業内容
1	受講のガイダンスー犯罪学と規範学との相違について学ぶ。
2	犯罪の概念ー犯罪とはなにか。日常わたしたちが用いるよりも広義なものであることを学ぶ。
3	現代犯罪学の課題ーラベリング理論、非犯罪化、非刑罰化、社会的統制理論などについて学ぶ。
4	刑事政策と暗数ー犯罪統計と暗数の意味、被害調査、事故報告調査などについて学ぶ。
5	犯罪の原因ー身体的・生理的要因について学ぶ。
6	犯罪の原因ー個人環境的要因について学ぶ。
7	犯罪の原因ー社会環境的要因について学ぶ。
8	刑罰の意義ー機能・沿革ー意義、機能はもちろん一般予防、特別予防、抑止主義、刑罰の種類などについて学ぶ。
9	死刑ー憲法と死刑、存廃論、代替刑などについて学ぶ。
10	自由刑・財産刑ー意義、歴史的考察、短期自由刑、不定期刑、罰金の特質、罰金と料料などについて学ぶ。
11	保安処分ー意義、種類、要件などについて学ぶ。
12	被害者補償ー意義、歴史、必要性、法的制度などについて学ぶ。
13	各種犯罪と対策ー少年非行、女性犯罪などについて学ぶ。
14	各種犯罪と対策ー組織犯罪、ホワイトカラー犯罪、薬物、アルコール犯罪などについて学ぶ。
15	まとめおよび質疑
16	定期試験

年度	11年度入学		担当者	水口章 Akira Mizuguchi		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	国際社会学		国際社会学			

■授業のねらいと到達目標

現代を代表する社会学者の1人サスキア・サッセンの著作をもとに情報通信技術の発達と社会変化の関係を考察し、21世紀の社会構造を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行う。その討論を踏まえての課題レポートは必ず提出すること。

■成績評価方法・基準

授業内評価（レポート、討論参加）40%、定期試験60%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおくこと。

復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めておく。

■教科書

特にないが適宜プリントを配布

■参考文献

サスキア・サッセン『グローバル空間の政治経済学』岩波書店、2004年12月
同『グローバル・シティ』筑摩書房、2008年11月

■授業内容

授業項目	授業内容
1 時空の圧縮のとらえ方	地球規模の社会変化について
2 技術革新と社会変化	インターネット社会について
3 国家と帰属意識	ナショナリズムの変化について
4 宗教と国家	宗教意識の変化について
5 グループ討論「グローバル化と国家」	「今、世界に何が起きているか」を考える
6 人口動態上の近代性	近未来の地球の人口について
7 社会問題としてのジェンダー	ジェンダー問題について
8 変容する家族	家族意識の変化について
9 地域意識と社会運動	社会運動の実態について
10 グループ討論「共同性と公共性」	「公共空間の生成」を考える
11 グローバル・シティ論	都市の公共空間について
12 リチャード・フロリダの都市論	発展する都市について
13 世界都市と移民	都市の生活スタイルの多様性について
14 多文化主義政策	異文化理解を深めた政策について
15 グループ討論「21世紀の都市と社会」	「近未来の日本社会の都市」の暮らしを考える
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	村川庸子 Yoko Murakawa		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	国際移動論		国際移動論			

■授業のねらいと到達目標

国際的労働力移動が盛んになった現代でも母国以外で暮らす人の数は世界の総人口の3%程度と言われています。数にして僅かな人々ですが存在感はかなりです。本講義ではまず、移動の総体を眺め、その後、受入国・送出国のみならず世界に与える影響、当人たちが新しい場でどのように変容するか、グローバル化の影響は、といった問題を理論と現実、両面から見て行きたいと思えます。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。

■成績評価方法・基準

学生にはコーネル式ノート作成法を指導する。日々のノートの整理（60%）と最終の試験（40%）で評価する。

■授業の予習・復習

予習：統計、新聞記事など事前に配布する資料に目を通しておくこと。

復習：毎回、ノートの整理を行うこと。ノートは中盤と期末の二回、提出を求める。

■教科書

使用しません。適宜、資料を配布します。

■参考文献

使用しません。適宜、資料を配布します。

■授業内容

授業項目		授業内容
1	イントロダクション	講義の進め方、ノートの取り方、評価方法を説明します。
2	労働力移動の現状を知ろう①	統計に見る世界の労働力移動
3	労働力移動の現状を知ろう②	地図に見る世界の労働力移動
4	労働力移動の現状を知ろう③	メディアに見る世界の労働力移動
5	労働力移動の現状を知ろう④	日本の外国人労働者問題
6	国際的労働力移動の歴史	労働力移動の歴史、意義、鍵概念
7	国際的労働力移動と経済①	労働力移動の理論とグローバルゼーション
8	国際的労働力移動と経済②	労働力移動の計測
9	国際的労働力移動と政治	移動と国家
10	国際的労働力移動と社会①	移動を支える産業
11	国際的労働力移動と社会②	米国の労働市場における移民の役割
12	国際的労働力移動と社会③	経済発展、福祉、環境への影響
13	国際的労働力移動と社会④	治安、政治、対立
14	グループ発表	自国の国際的労働力移動の状況
15	まとめ	再び日本の外国人労働者問題を考える
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	覚正豊和 Toyokazu Kakusho		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	世界の人権論	世界の人権問題	世界の人権問題	世界の人権問題		

■授業のねらいと到達目標

アメリカ社会において、人権、マイノリティ、ジェンダー、階級、セクシャリティなどの差異性を発端とする人権問題は、さまざまな社会問題として露呈または隠蔽されてきています。この講義では、そうした人権問題の現状を正しく捉え人道主義的立場から理解し、解決の方途についても模索していきます。すなわち、自由権保障、人身保護権保障、人権保障制度等がどのように運用されているかなど基礎的事項についても整理、理解していくことを目的とします。同時にそれは、グローバルなボーダレス化した社会のなかで私達が生きていく意味と異文化状況を的確に判断する能力、よりよい国際人としての能力を身につけていくためにも必要なものです。

■授業の進め方（履修条件等）

分かりやすい授業を展開するので、特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において指示します。

■教科書

初回の授業において指示します。

■参考文献

授業において指示します。

■授業内容

回数	授業内容
1	受講のガイダンスー人権擁護の推進と啓発
2	比較分析のためのフレームワークー人権と社会常識のあいだ
3	ヒューマン・ライツー基本的人権の原理・性格
4	ヒューマン・ライツー基本的人権の歴史・国際化
5	開かれた社会と情報公開
6	各種人権問題その1
7	各種人権問題その2
8	各種人権問題その3
9	各種人権問題その4
10	各種人権問題その5
11	人権条約ーイノベーション、モニタリング、グローバル化
12	司法解決と限界（国際刑事裁判所）
13	リーガルエイドー諸外国の実践と対応
14	
15	全体のまとめと展望および質疑
16	定期試験

年度	11年度入学		担当者	庄司真理子 <i>Mariko Shoji</i>		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	平和・安全保障論	平和・安全保障論	平和研究／安全保障論	平和研究		

■授業のねらいと到達目標

グローバル化の今日、戦争とは全く縁もないと思われる日本の生活も、実は地球の裏側で起きている戦争に大きく関わっている。本講の目的は、最終的に今日のグローバル化における「新しい戦争」ともいえる現象に、どのように向き合っていくら良いのかを検討することにある。その前提として、人類が戦争を克服し平和をもたらすために、どのような方法を編み出してきたのかを検討する必要がある。講義では、まずは古典的な形式である国家対国家の戦争の違法化の問題からはじめ、国連の平和と安全の維持制度の検討、その後の新しい平和への課題の模索へと議論をすすめる。講義の中で理解してほしいことは、旧来の戦争と異なり、今日の戦争の主体は国家ではなく地球市民、すなわち私たち一人一人となってきたことである。私たちの姿勢が、地球に戦争をもたらすか平和をもたらすかを決定づけていることを認識してほしい。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で授業をすすめる。平和研究を学ぶ上で、その裏返しに戦争の体験をした学生は少ない。数回、授業にかかわるビデオを見る予定である。

■成績評価方法・基準

毎回、授業中にコメントカードを作成してもらい、このカードを通して参加者の理解度や授業に臨む姿勢を判断する。これに加えて学期末試験を行う。

■授業の予習・復習

事前準備は特に必要ない。授業中が勝負である。真摯な授業態度臨んでほしい。

■教科書

一つに限定しない。授業中に紹介する参考文献のなかから一つ選んで欲しい。

■参考文献

小柏・松尾『アクター発の平和学』法律文化社。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	「平和」とは何か
2 戦争法の時代	「西部戦線異状なし」
3 戦争の違法化	
4 国連による武力行使の禁止	
5 国連による平和と安全の維持	国連による平和と安全の維持
6 国連平和維持活動	
7 平和への課題	予防外交
8 「新しい戦争」の時代	
9 人間の安全保障	「スレブレニツァの悲劇」
10 人道的介入と保護する責任	
11 平和構築	
12 紛争と復興・開発援助	
13 武器商人・子ども兵・密輸	「ブラッドダイヤモンド」
14 企業・地球市民社会と紛争	
15 まとめ	
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	増田雅之 <i>Masayuki Masuda</i>		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	平和・安全保障論	平和・安全保障論	平和研究／安全保障論	平和研究		

■授業のねらいと到達目標

安全保障論は、軍事を中心とする国防（Defense）の概念から成り立ってきた。しかし、今日では政治・経済・文化等のグローバル化を背景に、多面的な安全保障（Security）に概念が出現している。本講義では、安全保障論に関する基本的な理論や歴史的背景を踏まえ、冷戦終結後の国際安全保障の構造とアジアの安全保障環境の現状について教授する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で授業を進める。また、適宜、時事的な問題を取り上げ、学生諸君の安全保障問題への具体的な理解を促す。

■成績評価方法・基準

毎回、授業終了時にコメントカードに受講者の感想・意見等を記述してもらった。この記述を基に受講者の理解度や授業への参加度を判断する。加えて、学期末レポートにより評価する。

■授業の予習・復習

予習：事前の準備は特に求めないが、日頃からニュース等に関心を持つて欲しい。
復習：日本の政策対応という観点から講義内容を復習して欲しい。

■教科書

防衛大学校安全保障学研究会『最新版 安全保障学入門』（亜紀書房、2003年）。防衛省防衛研究所編『東アジア戦略概観2011』（アーバンコネクションズ、2011年）。

■参考文献

吉川元『国際安全保障論』（有斐閣、2007年）。
船橋洋一編著『同盟の比較研究』（日本評論社、2001年）。
ヘンリー・R・ナウ『アメリカの対外関与』（有斐閣、2005年）。
五十嵐颯郎ほか編『東アジア安全保障の新展開』（明石書店、2005年）。
東京財団政策研究部『アジア太平洋の地域安全保障アーキテクチャ』（東京財団、2010年）。
(<http://www.tkfd.or.jp/admin/files/2010-08.pdf>)

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	安全保障論とは何か
2 国家防衛の概念	戦争と平和の関係
3 同盟関係（1）	欧州における冷戦構造
4 同盟関係（2）	アジアにおける冷戦構造
5 多国間安全保障協力	冷戦後期の欧州におけるデタント（緊張緩和）
6 ポスト冷戦期の安全保障（1）	国連の安全保障
7 ポスト冷戦期の安全保障（2）	アジアの安全保障と日米同盟
8 9.11事件後の安全保障	対テロ戦争と安全保障論の新展開
9 非伝統的安全保障	テロリズム、麻薬、海洋の安全保障と実務協力
10 アジアの安全保障メカニズム	日米同盟と多国間安全保障メカニズムとの関係
11 中国の台頭（1）	中国外交の政策展開
12 中国の台頭（2）	中国の軍事的近代化
13 日本の安全保障政策（1）	日本の防衛政策の基本概念－専守防衛、基盤的防衛力
14 日本の安全保障政策（2）	拡大する防衛力の役割
15 まとめ	日本の安全保障政策の方向性
16 期末レポートの提出	

年 度	11年度入学		担 当 者	三幣利夫 Toshio Sampei		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	現代日本経済論		現代日本経済論			

■授業のねらいと到達目標

第二次大戦後からの日本経済の成長と停滞の過程を振り返り、現在の日本が抱える問題を認識し、今後の対策についても考える。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回配布するレジュメに沿って講義を進めるが、随時に質問したり意見を求めることも行う。

■成績評価方法・基準

出席（授業への参加度合いを含む）40%
定期試験（または、レポート提出）60%

■授業の予習・復習

毎日の新聞の経済欄を読み、日々の動きを確認すること。

■教科書

■参考文献

日本経済新聞『ゼミナール日本経済入門』日経出版社
岡部直明著『ベーシック日本経済入門』日経文庫

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義の進め方と日本経済新聞の読み方
2 日本経済の歩み(1)	戦後復興から高度成長
3 (2)	石油ショックと克服
4 (3)	円高不況からバブルへ
5 (4)	バブル崩壊後の低成長
6 (5)	世界同時好況期
7 (5)	リーマンショックから現在まで
8 日本の産業構造	経済成長と円高による変化
9 日本経済の課題(1)	日本を取り巻く環境
10 (2)	デフレ
11 (3)	少子高齢化
12 (4)	財政赤字と公的債務の増大
13 日本経済の活路(1)	世界経済の動向
14 (2)	経済連携協定と地域経済統合
15 (3)	地球環境問題への取り組み
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	覚正豊和 Toyokazu Kakusho		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	刑法	犯罪と現代社会	刑法	犯罪と現代社会		

■授業のねらいと到達目標

現代社会におけるさまざまな犯罪現象に対して、刑法がどのように対応しているのかについて明らかにしていきたいと思えます。一般的に刑法の講義は、「刑法総論」と「刑法各論」に分かれています。刑法総論は犯罪の成立要件と刑罰の内容を説明する部分で、刑法各論は法律上犯罪とされる行為はどのようなものであるのかについて各条文を一つ一つ検討していくものです。この講義では、公務員試験をはじめとする各種試験に向けた入門としての役割をも持たせようと考えています。よって、刑法の全体的概要、基本的しくみ、理念、解釈などについてわかり易く説明していくつもりです。ぜひ、興味をもって受講されることを望んでいます。

■授業の進め方（履修条件等）

特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において、指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において、指示します。

■教科書

斉藤静敬・覚正豊和 共著『刑法（総論）への招待』創成社
斉藤静敬・覚正豊和 共著『刑法（各論）への招待』創成社

■参考文献

授業において指示します。

■授業内容

回数	授業内容
1	受講のガイダンス
2	刑法の意義と機能（刑法の内容、構造、犯罪と刑罰、刑法解釈など）
3	刑法の基本原則（罪刑法定主義、謙抑主義、学派の対立、適用範囲など）
4	構成要件該当性（構成要件論、行為論、不作為犯論、因果関係論、故意論、錯誤論、過失論）
5	違法性（違法性の本質、正当行為、緊急行為、安楽死など）
6	有責性（責任の本質、責任能力、期待可能性など）
7	未遂犯・不能犯（実行の着手、中止犯、不能犯など）
8	共犯（共同正犯、教唆犯、幫助犯など）
9	個人的法益に対する罪（生命・身体に対する犯罪）
10	個人的法益に対する罪（自由、プライバシー、名誉・信用に対する犯罪）
11	個人的法益に対する罪（財産に対する犯罪）
12	社会的法益に対する罪（放火罪、通貨・有価証券・文書偽造罪・風俗罪）
13	国家的法益に対する罪（公務執行妨害罪、偽証罪、賄賂罪）
14	まとめおよび質疑
15	
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	小林聡明 <i>Somei Kobayashi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	日本社会と多文化共生	日本社会と多文化共生	多文化の共生	多文化の共生		

■授業のねらいと到達目標

現在、日本社会には、民族や国籍が異なる多数の人びとが暮らしています。本授業は、こうした日本社会の現状について、歴史的な展開をたどりながら検討し、「国籍」や「民族」の意味と多文化共生の意義について考えます。

■授業の進め方（履修条件等）

授業では皆さんの理解を助けるために、できるだけ多くの視聴覚教材（映画やドキュメンタリー）を活用するつもりです。可能な限り、皆さんとの対話を重視したインタラクティブな授業を目指したいと思っています。

■成績評価方法・基準

出席状況（7割以上が必須）や各授業後に提出してもらうコメント内容、レポートで総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：毎日、必ず新聞に目を通して下さい。
 復習：各授業でお知らせする関連文献を読むほか、知人や友人と関連トピックについてたくさん議論してください。

■教科書

授業で詳細なレジュメ（プリント）を配付します。

■参考文献

各授業時に紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	授業の概要と進め方
2	現代日本の多民族・多文化化	問題の所在
3	「外国人」とは誰か	民族・国籍概念の検討
4	日本社会の内なる他者(1)	「単一民族神話」と在日朝鮮人
5	日本社会の内なる他者(2)	ニューカマーとオールド・カマー
6	日本社会の内なる他者(3)	在日朝鮮人の「国籍」
7	「移民」とは誰か(1)	ヒトの越境的移動と歴史的展開
8	「移民」とは誰か(2)	「外国人労働者」問題の現在
9	「移民」とは誰か(3)	「外国人」の権利と日本社会の課題
10	定住外国人の現在(1)	社会階層
11	定住外国人の現在(2)	ライフコース
12	「無国籍者」とは誰か	「国籍」再考
13	多文化共生論の射程	多文化共生論の検討
14	現代日本の在日「外国人」政策	現代日本社会の課題と展望
15	おわりに	講義全体のまとめ
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	村川庸子 <i>Yoko Murakawa</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	日米関係		アメリカ研究Ⅳ			

■授業のねらいと到達目標

本講義では、主として占領期以降の日米関係の歴史について概説します。沖縄、自衛隊、憲法改正、領土問題、等、現在の日本が直面する多くの課題が、この時期以降の日米関係に規定されていると考えられるからです。また、この時期は、近年、日米両国で史料の公開が進み、新たな研究も生まれています。それらを積極的に活用していきたいと思えます。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。

■成績評価方法・基準

学生にはコーネル式ノート作成法を奨めている。日々のノートの整理（60%）と期末試験（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：事前に配布する資料に目を通しておくこと。
 復習：毎回、ノートの整理を行うこと。ノートは中盤と期末の二回、提出を求める。

■教科書

テキストは使用しない。事前に資料を配布する。

■参考文献

必要に応じて資料を配布する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション①	コーネル式ノート作成法について
2	戦後の日米関係	「戦後」の捉え方
3	米国にとっての「戦後」	良い戦争
4	米国にとっての「占領期」	対日占領政策の変容一逆コース
5	占領政策①	日本国憲法の誕生
6	占領政策②	政治改革一55年体制
7	占領政策③	経済改革一農地改革、財閥解体
8	占領政策④	社会改革一日本の民主化
9	日本人にとっての「戦後」	高度成長が忘れさせたもの
10	現代的課題①	天皇とマッカーサー
11	現代的課題②	沖縄戦と占領
12	現代的課題③	戦争責任と歴史問題
13	現代的課題④	核開発
14	現代的課題⑤	日本の農業問題
15	今後の日米関係を考える	占領政策が積み残した課題
16	定期試験	

年度	11年度入学		担当者	家近亮子 Ryoko Ichika		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	日中関係	日中関係史	中国研究Ⅲ	日中関係史		

■授業のねらいと到達目標

2006年9月小泉純一郎首相が退任し、安倍晋三が首相に就任した後、日中は戦略的互恵関係構築の方向に向い、07年4月の温家宝総理の訪日によって、「経冷政熱」関係は一応終息しました。その時期の対立の最大の原因は歴史認識問題と台湾問題でした。しかし、2010年9月におきた尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件は、領土問題をクローズ・アップしました。本授業においては、日中間の諸争点を歴史の文脈の中で多角的に説明していきます。到達目標は、近代以降の日中関係史を知り、その問題点と現状を理解することにあります。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。教科書と配付資料を中心に、適宜映像資料を使いながら授業を進めていきます。

■成績評価方法・基準

平常点（出席）を参考にして、数回の小レポートと学期末試験で成績を評価していきます。

■授業の予習・復習

予習：教科書と配布資料を事前に読んでくること。日中関係のニュースに関心をもつこと。
復習：配付資料とノートの整理。教科書による確認。疑問点をまとめて次の授業の時に提出すること。

■教科書

家近亮子・松田康博・段瑞聡編著『岐路に立つ日中関係』（晃洋書房、2007年）

■参考文献

家近亮子『日中関係の基本構造』（晃洋書房、2004年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の概説と進め方の説明、日本と中国の比較
2 近代における日中関係①	日清戦争、対華二十一条の要求、満洲事変
3 近代における日中関係②	日中戦争
4 戦後の日中関係①	戦後処理問題、日華平和条約
5 戦後の日中関係②	民間貿易、民間交流史
6 日中国交正常化への道	中国をめぐる国際情勢の変化
7 日中国交正常化	田中角栄と周恩来外交
8 日中関係の諸問題①	歴史認識問題
9 日中関係の諸問題②	教科書問題
10 日中関係の諸問題③	台湾問題①
11 日中関係の諸問題④	台湾問題②
12 日中関係の諸問題⑤	靖国神社参拝問題
13 日中関係の諸問題⑥	尖閣諸島問題、ガス田開発問題
14 日中関係の諸問題⑦	安全保障問題
15 今後の日中関係	戦略的互恵関係の展望
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	小林聡明 Somei Kobayashi		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	朝鮮Ⅱ	日韓関係史	朝鮮研究Ⅱ	日韓関係史		

■授業のねらいと到達目標

「朝鮮Ⅱ」では、メディアをキーワードとして、朝鮮半島の人びとが経験した20世紀の歴史を、日本との関係のなかで位置づけながら読み解きます。それは、「朝鮮Ⅰ」で得た知識を歴史的な観点から掘り下げ、自らの思考枠組で朝鮮半島と日本、アジアとの関係に向き合うことができるようになることを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

本授業では、朝鮮半島情勢に対する時事解説も交えながら、朝鮮半島の歴史的展開について説明していきます。講師が一方向的に講義をするのではなく、インタラクティブな授業形態を採用し、講師と学生がともに「考える」というプロセスを大切にしたいと考えています。なお、可能な限り前期集中科目である「朝鮮Ⅰ」とあわせて受講してください。

■成績評価方法・基準

出席状況（7割以上が必須）や毎授業後に提出してもらうコメント内容、レポートで総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：毎日、必ず新聞に目を通して下さい。
復習：各授業でお知らせする関連文献を読むほか、知人や友人と関連トピックについて、たくさん議論してください。

■教科書

授業で詳細なレジュメ（プリント）を配付します。

■参考文献

ブルース・カミングス『現代朝鮮の歴史－世界のなかの朝鮮』横田安司、小林知子訳、明石書店、2003年
文京珠『韓国現代史』岩波書店、2005年
韓洪九『韓国とはどういう国か』李尚珍 [ほか] 訳、平凡社、2003年
上記以外については、授業の際に随時紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	授業の目的と進め方
2 メディアとモダニティ	大韓帝国期の新聞成立と日本の存在：1890s～1900s
3 メディアと植民地主義1	植民地朝鮮の日本人社会とメディア：1890s～1910s
4 メディアと植民地主義2	朝鮮総督府の植民地政策とメディア：1910～45
5 メディアと植民地主義3	植民地朝鮮の朝鮮人メディア：1910～45
6 解放と占領1	米軍占領と大韓民国の成立：1945～48
7 解放と占領2	ソ連軍占領と朝鮮民主主義人民共和国の成立：1945～48
8 解放と占領3	GHQ占領と在日朝鮮人メディア：1945～52
9 メディアと戦争1	朝鮮戦争と日本：1950～53
10 メディアと戦争2	アメリカによる心理戦と日本の「貢献」：1950～53
11 メディアと戦争3	プロパガンダ・メディアとしての戦争捕虜：1950～53
12 メディアと冷戦	日米安保と朝鮮半島：1950's～60's
13 独裁と民主主義	メディアから見る日韓の連帯：1960's～70's
14 市民社会と南北統一	民主化過程におけるメディアの役割：1980's～90's
15 おわりに	講義全体を通じたまとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	高田洋子 Yoko Takada		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	日本・東南アジア関係	日本東南アジア関係史	東南アジア研究Ⅲ	日本東南アジア関係史		

■授業のねらいと到達目標

東南アジアは日本と密接な歴史的・経済的関係をもつ近隣地域です。前近代から現代までのさまざまな交流について、主にベトナムを中心に、民衆史の視点も踏まえて学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

ITを活用する授業を展開します。地域研究の東南アジアⅠあるいはⅡを履修した人を前提に、シラバスに沿ってトピックごとに講義します。

■成績評価方法・基準

授業への積極的取り組みとレポートによって評価をつけます。

■授業の予習・復習

予習：日頃から東南アジアと日本の関係についての情報を収集しましょう。
復習：毎回、授業内レスポンスペーパーを提出。

■教科書

指定しません。

■参考文献

テーマ別レポート提出のための文献リストを授業中に配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 序論	東南アジアの中のベトナム
2 前近代の交流史	17世紀の経済交流：ベトナムの日本人町ホイアン
3 近代の幕開け	明治日本のベトナム認識
4 ふたつの近代国家	新興国日本・フランス領インドシナ植民地
5 近代主義の相克	日露戦争の時代・ベトナム東遊運動（日本留学運動）
6 植民地ブロックと日本	戦前日本の東南アジア経済進出
7 軍事侵略への時代	日本の「南進」と「仏印進駐」
8 日本の東南アジア一元支配	「大東亜共栄圏」・「200万人餓死説」
9 解放戦争の中の人びと	植民地独立戦争と残留日本兵
10 冷戦の時代	ベトナム戦争と日本
11 雪解けの時代	日本の戦後賠償からODAへ
12 したたかな友人	ASEANの発展戦略と日本
13 ドイモイのベトナム	ASEANの中のベトナム経済
14 インドシナの国際紛争	中国・東南アジア・日本の国際関係
15 中国プラスワンの国	大メコン経済圏と日本企業の試金石
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	大月隆成 Takashige Otsuki		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	アフリカⅡ					

■授業のねらいと到達目標

日本から見た場合、アフリカは重要な相手とは見なされておらず、偏った情報に基づく歪んだイメージが形成されてしまうことが少なくない。授業の主眼はこうした日本とアフリカの関係の特殊性とその結果について理解を深めてもらうことである。また、最近アフリカとの関係を深めている中国についても取り上げることにはしたい。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回の授業では、様々な角度から日本・アフリカ関係を光を当ててみることにする。その上で、受講者諸君の自由な発想に基づくレポートの作成をお願いしたい。

■成績評価方法・基準

平常点（出席、課題提出など）および学期末のレポートに基づいて行う。

■授業の予習・復習

予習：日頃からアフリカに関心を持ち、積極的に情報収集を心がける。
復習：授業で出された課題や関連するテーマについて、調べてみる。

■教科書

特定の教科書は使用しない。

■参考文献

伊谷純一郎ほか『アフリカを知る事典』平凡社、大迫秀樹『アフリカのことがマンガで3時間でわかる本』アスカ

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方およびレポート作成について
2 アフリカ入門講座（1）	アフリカの共通性と多様性
3 アフリカ入門講座（2）	北アフリカとサハラ以南アフリカ
4 アフリカ入門講座（3）	共通性の起源～共通の歴史的経験
5 日本・アフリカ関係の特徴（1）	日本から見たアフリカの重要性
6 日本・アフリカ関係の特徴（2）	関係の非対称性～経済規模の比較～
7 レポート作成の進め方	テーマ設定のヒント、資料収集の方法
8 日本とアフリカのつながり（1）	日本に住むアフリカ人、アフリカに住む日本人
9 日本とアフリカのつながり（2）	貿易や援助などの経済関係
10 日本とアフリカのつながり（3）	日本人のアフリカ・イメージ
11 日本とアフリカのつながり（4）	教科書や文学作品などに見るアフリカ
12 日本とアフリカのつながり（5）	日常生活におけるアフリカとの接点
13 中国とアフリカ（1）	アフリカにあふれる中国製品
14 中国とアフリカ（2）	アフリカの天然資源と中国
15 中国とアフリカ（3）	政治と国際関係
16 レポート提出	

年 度	11年度入学		担 当 者	舩方周一郎 <i>Shuichiro Masukata</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	ラテンアメリカⅡ		ラテンアメリカ研究Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

本授業は、比較と国際関係の視点からブラジルを概説するものである。ブラジルはラ米地域を知る上で、重要な国の一つである。本授業では包括的にブラジル地域の様相とブラジルと日本の関係を概観する。ブラジルという視点から、既存の国際社会のしくみが変わろうとしている現実を理解することができれば、目標は達成される。

■授業の進め方（履修条件等）

授業内容をまとめたパワーポイントに基づき授業を進める。現場（ブラジル）の写真や映像資料を多用する。ラ米地域研究の概要を理解するためには、まずラテンアメリカの歴史と社会、ラテンアメリカⅠの受講を勧める。

■成績評価方法・基準

学期末に試験を実施する（50%）。但し出席重視のため、複数回のリアクション・ペーパーを求める（50%）。

■授業の予習・復習

予習：予習は義務付けないが、関心ある者は、まずは参考文献の関連箇所を熟読されたい。それ以降は直接質問を受け付ける。
復習：まずは授業で配布されるプリントや資料を見返されたい。それ以降は直接質問を受け付ける。

■教科書

テキストは指定しない。講義内容をまとめたプリントを配布し、それに基づいて講義を進める。

■参考文献

ブラジル日本商工会議所『現代ブラジル事典』新評論、2005年。その他は、開講時に参考文献リストを配布する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	授業の概要説明	ガイダンス「ブラジル：成長の軌跡／奇跡」
2	ブラジルの地理的概説	クイズ：もしもブラジルが100人の村だったら
3	ブラジルの伝統と文化(1)	ポルトガル語圏の世界
4	ブラジルの伝統と文化(2)	ブラジルの近現代史
5	現代ブラジルの動向(1)	ブラジル政治経済の基礎知識
6	現代ブラジルの動向(2)	変容するブラジル政治と国際関係
7	現代ブラジルの社会(1)	「沸騰都市ーブラジル・サンパウロー」(映像資料)
8	現代ブラジルの社会(2)	環境問題：気候変動とアマゾン森林保全
9	現代ブラジルの社会(3)	人権問題：難民保護政策
10	日本とブラジルの関係(1)	日系移民：出稼ぎからデカセギへ
11	日本とブラジルの関係(2)	「Gaijin」(映像資料)
12	日本とブラジルの関係(3)	在日ブラジル人の労働問題
13	日本とブラジルの関係(4)	在日ブラジル人の教育問題
14	日本とブラジルの関係(5)	ゲスト・スピーカー（予定）
15	まとめ	総括：ブラジル地域研究とは何だったのか？
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	織井啓介 <i>Keisuke Orii</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	経済学概論Ⅰ		経済学概論Ⅰ			

■授業のねらいと到達目標

主として教職課程履修者のための経済学概説講座です。今年度「経済学概論Ⅰ」はミクロ経済分野を対象とし、需要・供給、市場均衡、不完全競争、市場の失敗などが中心テーマになります。家計・企業の行動、市場メカニズムの機能と限界といったミクロ経済学のエッセンスが理解できるようになります。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを基にした概説と問題演習が中心です。特段の予備知識は必要ありませんが、「経済学入門」履修程度の経済の基礎知識があればなお結構です。教職課程履修者は中高教科書（公民・現代社会・政治経済）の復習を励行してください。

■成績評価方法・基準

①出席・小テスト50%程度、②期末試験（教場試験またはレポート）50%程度で評価する予定です。

■授業の予習・復習

予習：指示されたテキストの該当箇所を一読してきてください。
復習：練習問題を配布するので、自宅で演習するとともに、テキストを復習してください。

■教科書

伊藤元重『入門経済学（第3版）』日本評論社（2009年）。

■参考文献

賀川昭夫『現代経済学（改訂版）』放送大学教育振興会（2009年）がコンパクト。米国の標準的教科書としてHal R. Varian, *Intermediate Microeconomics: A Modern Approach* (8th edition), W. W. Norton (2009).など。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	「経済学概論Ⅰ」講義の概要	講義スケジュール・テキストの概要を説明
2	需要と供給	需要・供給分析
3	需要曲線と消費者行動①	需要曲線
4	需要曲線と消費者行動②	需要曲線と消費者余剰
5	費用の構造と供給行動①	供給曲線と費用の構造
6	費用の構造と供給行動②	利潤最大化と供給行動
7	市場取引と資源配分①	市場と価格メカニズム、余剰分析
8	市場取引と資源配分②	資源配分の歪み、市場競争と経済発展
9	独占と競争の理論①	独占の理論
10	独占と競争の理論②	完全競争と独占的競争
11	市場の失敗①	外部効果
12	市場の失敗②	公共財
13	不確実性と不完全情報①	不確実性
14	不確実性と不完全情報②	不完全情報
15	「経済学概論Ⅰ」講義のまとめ	講義全体の総括と補遺事項の説明
16	定期試験	

年度	11年度入学		担当者	和田 良子 Ryoko Wada		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	2年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	マクロ経済学		マクロ経済学			

■授業のねらいと到達目標

マクロ経済学によって、経済事象や財政政策、金融政策を理解することが第一目的です。
政府によって公表されている最新のデータを用いて経済の現状を把握していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

毎週出される2〜3問の小テスト・レポートに回答することによって授業の予習と復習を行うことができるようになっていきます。

■成績評価方法・基準

小テストやレポートの評価で6割、期末テストが4割での評価になります。

■授業の予習・復習

予習：小テスト・レポートによって行います
復習：小テスト・レポートによって行います

■教科書

井堀利宏『コンパクト経済学』新世社

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	経済学の考え方重要な概念、マクロ経済の主体
2 日本のマクロ経済データとマクロ経済学の問題	日本の経済の姿、GDP、デフレ、金利、失業率、財政問題、株価、為替レート
3 GDPの三面等価	GDP成長率、実質と名目、インフレとデフレ
4 経済主体と活動	家計および企業の消費と投資、政府支出、公共投資
5 景気の定義	景気とは何か、GDPの成長率
6 景気の見方と予測	景気の見方と予測、日銀短観、DIと経済予測
7 国内所得の決定	国内所得の大きさの決定理論
8 財政政策の問題点と理解	財政政策と次世代への負担についての考え方
9 経済政策の問題点と理解	公共投資と現代の経済政策の評価
10 労働市場の問題点と理解	労働市場と失業についての現代理論
11 金融市場と金利の理解	貨幣と金利の意味の理解、債券市場と株式市場
12 IS-LM分析	IS曲線とLM曲線
13 現代の金融政策とその評価	現代の金融政策、超低金利政策
14 国際経済	貿易、国際収支と為替レート
15 まとめと補足	足りない内容を補足します
16 定期試験	
17 イントロダクション	異時点間の経済学とは何か
18 異時点間のキャッシュフローの評価	経常価値、将来価値、割引現在価値、金利とは何か、金融市場の意義
19 企業の投資決定1	企業の投資決定、プロジェクト評価
20 企業の投資決定2	永代価値、企業価値、株価
21 企業の投資決定3	資本コスト、企業の投資決定
22 家計の動学的意思決定1	貯蓄理論1、時間選好率と割引率
23 家計の動学的意思決定2	異時点間の予算制約、割引率と異時点間の効用関数
24 家計の動学的意思決定2	異時点間の効用最大化
25 動学的不整合性	時間の整合性、ナイーブな経済主体、宿題をいつやるか
26 不確実性下の意思決定1	期待効用理論
27 不確実性下の意思決定2	エルスバークパラドックス、あいまいさ回避
28 財政政策1	財政政策の世代間負担に関する主な理論
29 財政政策の動学的不整合性	財政政策がうまくいかない事例
30 成長理論	経済が成長するための要因
31 まとめ	まとめと補足
32 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	織井啓介 Keisuke Orii		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	2年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	経済学概論Ⅱ		経済学概論Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

主として教職課程履修者のための経済学概説講座です。今年度「経済学概論Ⅱ」はマクロ経済分野を対象とし、国民所得の決定、貨幣、マクロ経済政策、インフレ・失業、経済成長などが中心テーマになります。GDP・インフレ・失業・財政政策・金融政策といったマクロ経済学のエッセンスが理解できるようになります。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを基にした概説と問題演習が中心です。特段の予備知識は必要ありませんが、「経済学入門」履修程度の経済の基礎知識があればなお結構です。教職課程履修者は中高教科書（公民・現代社会・政治経済）の復習を励行してください。

■成績評価方法・基準

①出席・小テスト50%程度、②期末試験（教場試験またはレポート）50%程度で評価する予定です。

■授業の予習・復習

予習：指示されたテキストの該当箇所を一読してきてください。
復習：練習問題を配布するので、自宅で演習するとともに、テキストを復習してください。

■教科書

伊藤元重『入門経済学（第3版）』日本評論社（2009年）。

■参考文献

賀川昭夫『現代経済学（改訂版）』放送大学教育振興会（2009年）がコンパクト。米国の標準的教科書としてN. Gregory Mankiw, *Macroeconomics* (7th edition), Worth Publishers (2010). など。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「経済学概論Ⅱ」講義の概要	講義スケジュール・テキストの概要を説明
2 GDP①	マクロ経済学とGDP
3 GDP②	マクロ経済学における需要と供給
4 有効需要と乗数メカニズム①	有効需要、限界消費性向と乗数
5 有効需要と乗数メカニズム②	消費・投資・政府支出と所得水準決定
6 貨幣の機能①	マネーサプライと信用乗数
7 貨幣の機能②	貨幣供給と物価
8 マクロ経済政策①	財政政策と金融政策
9 マクロ経済政策②	裁量vs.ルール
10 インフレと失業①	インフレーション
11 インフレと失業②	失業
12 財政政策とマクロ経済分析	財政収支の短期的側面と長期的側面
13 経済成長と経済発展①	ハロッド＝ドーマーの成長モデル
14 経済成長と経済発展②	ソローモデルと内生的成長モデル
15 「経済学概論Ⅱ」講義のまとめ	講義全体の総括と補遺事項の説明
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	渡辺 善次 Yoshitsugu Watanabe		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	ミクロ経済学		ミクロ経済学			

■授業のねらいと到達目標

ミクロ経済学は実際の経済でどのような役にたつのか、現実の社会制度を設計する上でその教えをいかに取り入れるべきなのか、といった疑問に答えることを念頭に置いてミクロ経済学の基礎理論を解説し、より高度な経済分析の理解・実践に向けた橋渡しとなる講義を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

配布するプリントの解説を中心とした講義形式。極力数学は用いずに、平易かつ直感的な説明を心がける。後期に開設されるミクロ経済学Ⅱと合わせて履修することが望ましい。

■成績評価方法・基準

授業中に行う小テストと定期試験によって評価する。

■授業の予習・復習

予習：特別な予習は前提としない。
復習：配布するプリントの該当箇所や各自が作成したノートを見返して理解を深めてもらいたい。

■教科書

テキストに替えてプリントを配布する。

■参考文献

J.E.スティグリッツ/C.E.ウォルシュ、『ミクロ経済学（第3版）』（東洋経済新報社、2006）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	
2 経済学の対象と分析手法	合理的意思決定とは何か？
3	需要と供給
4	消費選択の基本問題
5	効用と嗜好の表し方
6 消費者（家計）行動の分析	無差別曲線と消費の決定
7	応用：労働供給の決定
8	応用：貯蓄に関する意思決定
9	企業と費用
10 生産者（企業）行動の分析	短期と長期の費用曲線
11	費用最小化原理に基づく企業行動
12	競争的企業の行動
13	消費者余剰と生産者余剰
14 完全競争均衡	競争市場と経済的効率性
15	バロート効率性と競争市場
16 定期試験	
17 オリエンテーション	
18 完全競争モデルの復習	完全競争企業の行動原理
19	完全競争均衡の性質
20	独占企業の行動原理
21	独占と競争制限による弊害
22 独占と独占的競争	自然独占と政府の対応
23	独占的行動企業の行動原理
24	完全競争、独占、独占的競争の違い
25	戦略的行動とは何か？
26 寡占の理論	クールノー競争モデル
27	ベルトラン競争モデル
28	資源配分の失敗
29	政府の失敗
30	公共財と外部効果
31	不完全情報の経済理論
32	事前の情報の非対称性と逆選択
33	事後の情報の非対称性とモラルハザード
34 定期試験	

カリキュラム

年 度	11年度入学		担 当 者	織井啓介 Keisuke Orii		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	金融論		金融論			

■授業のねらいと到達目標

金融の基礎知識について平易に講義します。①金融の役割、②家計・企業の金融ニーズと金融商品、③銀行業務とさまざまな金融機関、④中央銀行の役割と機能（日本銀行、貨幣の役割、金融政策）が主な内容です。皆さんが将来、経済活動を営むのに不可欠な「金融」について包括的な知識が得られます。

■授業の進め方（履修条件等）

とくに予備知識は必要ありません。

■成績評価方法・基準

①期末試験（教場試験またはレポート）50%程度、②出席15%程度、③小テスト35%程度で評価する予定です。

■授業の予習・復習

予習：配布プリントで予習します。テレビ・新聞で経済ニュースに親しみましょう。
復習：配布する練習問題を自宅で演習し、次の授業時に答合わせをします。

■教科書

とくに使用しません

■参考文献

藤田康範『よくわかる金融と金融理論』学陽書房（2004年）。
日本銀行金融研究所『新しい日本銀行—その機能と業務』有斐閣（2004年）。池上彰『日銀を知れば経済がわかる』平凡社新書（2009年）。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「金融論」講義の概要	講義スケジュール・参考文献等を説明
2 第1章：金融の役割	金融の2つのルート（直接金融と間接金融）
3 第2章：家計の金融ニーズ①	単利と複利、固定金利と変動金利、債券利回り
4 第2章：家計の金融ニーズ②	株式投資の指標（PER, PBR, ROE）、投資信託の仕組み
5 第3章：企業の金融ニーズ	企業の資金繰り（運転資金と設備資金）
6 第4章：銀行業務①	預金・貸出業務
7 第4章：銀行業務②	為替・付随業務
8 第5章：金融制度①	大手銀行・地方金融機関
9 第5章：金融制度②	公的金融機関
10 第6章：日本銀行	日本銀行の組織と目的
11 第7章：貨幣と信用創造①	マネーストックと信用創造のメカニズム
12 第7章：貨幣と信用創造②	貨幣需要と貨幣供給
13 第8章：金融政策①	金融政策の手段
14 第8章：金融政策②	最近の金融政策動向、ブルーデンス政策
15 「金融論」講義のまとめ	講義全体の総括と補遺事項の説明
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	佐竹 勇子 Yuko Satake		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	簿記会計基礎		簿記会計基礎			

■授業のねらいと到達目標

本講義は、初めて簿記を学ぶ人に簿記のしくみを理解してもらい、実務で使用されている会計ソフトを利用してコンピュータによる簿記会計の基礎知識を修得することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書と配布プリントをもとに簿記の一定のルールを学習しながら、会計ソフトを習得する。

■成績評価方法・基準

出席点（40%）・課題提出（10%）・定期試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：授業中に指示
復習：授業中に指示

■教科書

『図解でわかる簿記入門』実教出版 520円

■参考文献

特にありません。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	概要と評価方法
2 簿記のしくみ	複式簿記と管理会計について
3 貸借対照表	資産・負債・資本
4 損益計算書	収益・費用
5 勘定と取引	5つの勘定と勘定科目・取引の2面性
6 伝票と会計帳簿	伝票の種類と仕訳帳・元帳
7 試算表と決算	決算整理と8桁精算表
8 仕訳～精算表	取引をもとに精算表作成まで
9 会計ソフト（弥生）－（1）	起動と環境設定・保存方法
10 会計ソフト（弥生）－（2）	勘定科目と補助科目の作成および修正
11 会計ソフト（弥生）－（3）	開始残高の入力
12 会計ソフト（弥生）－（4）	仕訳入力画面の基本操作
13 会計ソフト（弥生）－（5）	帳簿や伝票からの入力方法
14 会計ソフト（弥生）－（6）	集計表と会計情報の活用
15 まとめ	復習と試験対策
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	川西 正己 Masami Kawanishi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	中小ベンチャー企業論		中堅企業論/ベンチャービジネス論			

■授業のねらいと到達目標

ベンチャービジネスへ関心が集まっています。外部環境の大きな変化に対して、経済を活性化させる役割が期待されています。ベンチャービジネス論の基本を学びながら、特徴的項目に焦点をあててわかりやすく講義していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

身近な事例・実際のケースを多く取り上げていきます。できる限り、双方向（参加型）で進めていきたいと思えます。

■成績評価方法・基準

試験の成績と出席によって評価します。

■授業の予習・復習

予習：新聞を読んでください
復習：キーワードを確認します

■教科書

とくに用いません。

■参考文献

必要に応じて紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	キャリアとベンチャービジネス
2	ベンチャー企業の実態
3	企業家精神（1）
4	企業家精神（2）
5	5つの革新
6	ベンチャー企業の経営戦略
7	ベンチャー企業のマーケティング戦略
8	ビジネスモデルとリスクマネジメント
9	ベンチャー企業の政策
10	経営分析の基本（1）
11	経営分析の基本（2）
12	ビジネスプラン（1）
13	ビジネスプラン（2）
14	ビジネスプラン（3）
15	まとめ
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	黄和秀 Kazuhide Ko		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	マーケティング		マーケティング			

■授業のねらいと到達目標

マーケティング論は、企業活動における最も実践的な要素を含んでおります。特に、企業経営が厳しい市況の中では、よりマーケティング的な発想が強調されます。本講義では、マーケティングの本質に充実し、マーケッターが外部市場に対する持つべき考え方や、基本的な戦略思考を主として解説していきます。本講義を通じて、学生諸君が、将来、競争社会の1人として明確な思考能力を持って、適応能力を高められることに主たる目的を有するのである。

■授業の進め方（履修条件等）

当科目が半期であることを考慮し、基本的な考え方に対する説明は可能な限り省略し、戦略的な実践能力が高められる実務的な要素を中心として講義を進めることになる。特に、履修条件は設けていないのであるが授業を妨害するような学生がいるとすれば、厳しく対応していく。

■成績評価方法・基準

試験70%、出席30%
ただし、出席が50%に満たない学生は評価しない。

■授業の予習・復習

特に、予習や復習はありませんが、ノートをしっかり整理していくことと、その内容を応用的に理解することが重要である。

■教科書

特に指定なし。

■参考文献

特に指定なし。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	マーケティングの定義
2	マーケティング・コンセプト
3	マーケティング環境
4	市場細分化
5	
6	製品戦略
7	
8	
9	価格戦略
10	
11	
12	プロモーション戦略
13	
14	チャネル戦略
15	
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	中嶋 励子 Reiko Nakajima		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	社会調査のためのデータ解析		社会調査のためのデータ解析			

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、社会調査で収集されるデータの分析方法を、社会科学統計パッケージソフト（SPSS/PASW）を用いて学ぶことです。到達目標は、授業で扱うデータを用いて、自分達で、単純集計、クロス集計（ χ^2 検定を含む）、相関係数などの分析が行えるようになること、それぞれの分析に適切なグラフを示すことができるようになること、分析の結果について適切な解釈とレポートにまとめる力をつけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありませんが、パソコンによる基本操作（エクセル、ワードなど）はできるようにしておいてください。統計用語の知識は、授業の中で適宜説明していきますので、特に必要ありません。

■成績評価方法・基準

平常点（出席状況、小課題の提出を含む） 40%
最終レポート 60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要はありません。
復習：毎回の授業で得られる知識を確実に身につけるために、自習時間を利用して、授業内容や課題について理解し、分析や解釈を身につけるようにしてください。

■教科書

特に指定しません。

■参考文献

『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』小塩真司著 東京図書 2004年
『読む統計学 使う統計学』広田すみれ著 慶應義塾大学出版会 2005年

■授業内容

授業項目	授業内容
1	ガイダンス 授業のねらいと到達目標、評価方法など
2	データ入力・編集 エクセルでのデータ入力、統計ソフト用（sav.）変換
3	データの変換と尺度 質的・量的変数、尺度の種類
4	分析のための基礎統計用語 データ分析を行うための基礎的な統計用語の説明
5	データの単純集計 データの単純集計表の作成と見方の説明
6	単純集計のまとめ方 変数の種類などに適したグラフの作成の仕方
7	基本統計量 度数分布に関する基本統計量
8	クロス集計（2変数） 質的データ2変数のクロス集計表の作成とその解釈
9	χ^2 検定 χ^2 検定とその解釈
10	クロス集計（3変数） 質的データ3変数のクロス集計表の作成とその解釈
11	相関係数 散布図、相関係数、はずれ値、疑似相関
12	平均値の検定 t 検定
13	複数回答のデータ 複数回答の集計表の作成と解釈
14	新しい変数の作成、ケース選択 複数カテゴリのまとめ方、必要なケースの選択
15	データ分析のまとめ データ分析を適切にまとめる方法
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	織井啓介 <i>Keisuke Orii</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際金融論		国際金融論			

■授業のねらいと到達目標

国際金融の主要テーマを平易に紹介します。①金融・為替市場、②国民所得計算（GDP）、③国際収支、④外国為替、⑤国際金融の諸問題について講義する予定です。金融・為替の学習を通じて経済分析の基礎力が身につきます。

■授業の進め方（履修条件等）

とくに予備知識は必要ありませんが、「経済学概論」履修程度の経済の基礎知識があればなお結構です。簡単な数値計算を通じて理解を深めますので、各自、電卓を常備してください。

■成績評価方法・基準

①期末試験（教場試験またはレポート）50%程度、②出席15%程度、③小テスト35%程度で評価する予定です。

■授業の予習・復習

予習：配布プリントで予習します。テレビ・新聞で金融・為替のニュースに親しみましょう。

復習：配布する練習問題を自宅で演習し、次の授業時に答え合わせをします。

■教科書

とくに使用しません

■参考文献

高木信二『入門国際金融（第3版）』日本評論社（2006年）。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「国際金融論」講義の概要	講義スケジュール・参考文献等を説明
2 第1章：金融為替市場①	金融市場
3 第1章：金融為替市場②	為替市場
4 第2章：国民経済計算①	GDPの概要
5 第2章：国民経済計算②	成長率と1人当たりGDPの算出
6 第2章：国民経済計算③	GNEの算出
7 第3章：国際収支①	国際収支表の概要
8 第3章：国際収支②	経常収支と資本収支
9 第3章：国際収支③	外貨準備
10 第4章：外国為替①	通貨の種類と建値
11 第4章：外国為替②	通貨制度の推移と展望
12 第4章：外国為替③	為替相場の決定理論
13 第5章：国際金融の諸問題①	金融危機
14 第5章：国際金融の諸問題②	経常収支の不均衡問題
15 「国際金融論」講義のまとめ	講義全体の総括と補遺事項の説明
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	織井啓介 <i>Keisuke Orii</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際経済学		国際経済学			

■授業のねらいと到達目標

広義の「国際経済学」講義として、①世界経済の動向、②外国貿易の基礎（とくに信用状取引と国際貿易促進の枠組み）、③外国貿易の基礎、④国際貿易の理論を平易に紹介します。受講者は国際経済に関する基礎知識がスピーディに身につきます。

■授業の進め方（履修条件等）

とくに予備知識は必要ありませんが、「経済学概論」履修程度の経済の基礎知識があればなお結構です。教職課程（中学校・社会、高等学校・公民）履修者は中高教科書（公民・現代社会・政治経済）の復習を励行してください。

■成績評価方法・基準

①期末試験（教場試験またはレポート）50%程度、②出席15%程度、③小テスト35%程度で評価する予定です。

■授業の予習・復習

予習：配布プリントで予習します。テレビ・新聞で貿易・世界経済のニュースに親しみましょう。

復習：授業で配布する練習問題を自宅で演習し、次の授業時の答え合わせで、知識を確認します。

■教科書

とくに使用しません。

■参考文献

浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣アルマ（2011年）。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「国際経済学」講義の概要	講義スケジュール・参考文献等を説明
2 第1章：世界経済の動向①	経済分析の基礎用語
3 第1章：世界経済の動向②	主要な国際機関と地域連合
4 第1章：世界経済の動向③	世界経済の現状と見通し
5 第2章：外国貿易の基礎①	外国貿易のプロセス
6 第2章：外国貿易の基礎②	信用状取引の仕組み
7 第2章：外国貿易の基礎③	WTO（世界貿易機関）
8 第2章：外国貿易の基礎④	FTA（自由貿易協定）
9 第3章：外国為替の基礎①	外国為替の概要
10 第3章：外国為替の基礎②	外国為替市場
11 第3章：外国為替の基礎③	外国為替相場と貿易
12 第4章：国際貿易の理論①	機会費用と比較優位の理解
13 第4章：国際貿易の理論②	リカード・モデル
14 第4章：国際貿易の理論③	その他の貿易モデル
15 「国際経済学」講義のまとめ	講義全体の総括と補遺事項の説明
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	三幣利夫 Toshio Sampei		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際貿易論		国際貿易論			

■授業のねらいと到達目標

貿易に関わる基礎理論と貿易取引の流れについて理解し、世界の貿易が拡大する中で生じている問題について学習する。

■授業の進め方（履修条件等）

シラバスに沿って講義形式で進めるが、その時々発生する貿易関連ニュースを題材に議論も行う。

■成績評価方法・基準

出席 25%
 中間期（小テスト） 25%
 定期試験（期末テストまたはレポート） 50%

■授業の予習・復習

日々の新聞・TV等を通じ経済ニュースに関心を持つようになることが望まれる。

■教科書

■参考文献

伊藤元重著「ゼミナール国際経済入門」日本経済新聞出版社
 久保広正著「ベーシック貿易入門」日経文庫

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義の進め方の説明
2 貿易の基礎理論	比較優位の理論
3 貿易の流れ（1）	モノ・カネの流れ
4 （2）	為替銀行の役割
5 （3）	保険の仕組み
6 （4）	輸送と貿易手続き
7 国際収支	国際収支とは何か
8 外国為替取引	為替レートと変動
9 日本の貿易	日本の貿易収支の推移
10 直接投資と貿易構造（1）	企業の海外進出と貿易
11 （2）	産業内貿易
12 世界の貿易	世界の貿易取引の推移
13 世界の貿易体制（1）	貿易体制の変遷
14 （2）	貿易摩擦
15 （3）	FTAと経済統合
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	三幣利夫 Toshio Sampei		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際経営					

■授業のねらいと到達目標

経済がグローバル化する中で増加している企業の海外進出に関し、経営学の視点からその背景と諸問題について理解を深める。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回配布するレジュメに沿って、講義形式で進める。

■成績評価方法・基準

出席 30%
 中間試験（小テストまたはレポート） 25%
 定期試験（期末試験またはレポート） 45%

■授業の予習・復習

日頃から、国際経営関連のニュースについて関心を持って、読み、視聴すること。

■教科書

■参考文献

吉原英樹編「国際経営論への招待」有斐閣
 伊丹敬之他著「ゼミナール経営学入門」日本経済新聞出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義の進め方の説明
2 国際経営の理論（1）	国際経営と、その特徴
3 （2）	なぜ国際化するか
4 （3）	発展段階と類型
5 国際化の戦略（1）	国の選択、国際マーケティング
6 （2）	経営資源の移転
7 （3）	国際提携
8 国際化の問題（1）	政治・社会的問題
9 （2）	為替と資金調達
10 日本企業の国際経営	日本企業の海外進出の動向
11 実例研究（1）	トヨタの国際経営
12 （2）	パナソニックの国際経営
13 世界の多国籍企業（1）	欧米の多国籍企業の事業展開
14 （2）	アジアの多国籍企業の事業展開
15 まとめ	講義内容の総括
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	三幣利夫 Toshio Sampei		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際投資論		国際投資論			

■授業のねらいと到達目標

年々増加し続けている国際投資に関し、直接投資と間接投資に分けて、理論と現実の動きについて学習する。特に、直接投資となる企業の海外進出に重点をおいて検証する。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回レジュメを配布し、講義形式で進める。

■成績評価方法・基準

出席 30%
中間テスト 25%
定期試験（期末テストまたはレポート）45%

■授業の予習・復習

新聞やネットを通じ、日々の経済ニュースを必ず読むこと。

■教科書

■参考文献

島田克美著『概説海外直接投資』学文社
内藤忍著『外貨投資編』有斐閣

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義の進め方と概要説明
2 国際投資とは	国際投資の種類と理論
3 日本の国際投資(1)	海外直接投資
4 (2)	対日直接投資
5 海外直接投資(1)	統計から見る投資額の推移
6 (2)	世界の動向
7 企業の海外進出(1)	日本企業の進出状況
8 (2)	海外進出の実例研究
9 (3)	海外進出の課題と今後
10 中間テスト	小テストまたは小論文
11 海外間接投資	世界の動向
12 外国投資(1)	種類とリスク
13 (2)	投資の基本戦略
14 (3)	分散投資
15 まとめ	講義内容の総括
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	織井啓介 Keisuke Orii		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	国際会計		国際会計論			

■授業のねらいと到達目標

「英語・パソコン・国際会計」は現代ビジネスパーソンの三種の神器といわれます。日本の主要企業は2015年度からIFRS（国際財務報告基準）に移行する可能性がありますので、ぜひ国際会計の基礎を身につけましょう。本講の受講を通じて、①英文会計の基礎が理解でき、②IFRSの基本が理解できるようになります。

■授業の進め方（履修条件等）

「簿記会計基礎」を受講済みであるか、または日商簿記3級レベル程度の簿記能力があることが望ましい。簿記・会計の学習では、紙と鉛筆で例題・宿題を自力で解く不断の努力が必要です。

■成績評価方法・基準

①期末試験（教場試験またはレポート）50%程度、②出席15%程度、③小テスト35%程度で評価する予定です。

■授業の予習・復習

予習：配布プリントで予習します。日商簿記3級合格程度の簿記知識を自習で補いましょう。
復習：配布する練習問題を自宅で演習し、次の授業時に答え合わせをし、力を定着させます。

■教科書

教科書は使用しません。

■参考文献

東京商工会議所編『BATIC公式テキスト』（Subject 1）各年版、中央経済社。Hennie van Greuning, *International Financial Reporting Standards: A Practical Guide*（5th edition）, The World Bank（2009）。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「国際会計」講義の概要	講義スケジュール・参考文献等を説明
2 第1部：英文簿記①	第1章：会計・簿記の基本概念
3 第1部：英文簿記②	第2章：取引と仕訳
4 第1部：英文簿記③	第3章：試算表
5 第1部：英文簿記④	第4章：期末の会計処理（決算整理）
6 第1部：英文簿記⑤	第5章：精算表と締切仕訳
7 第2部：国際会計①	第1章：IFRSの概要
8 第2部：国際会計②	第2章：IFRSの財務諸表①（フレームワークと財務諸表表示）
9 第2部：国際会計③	第2章：IFRSの財務諸表②（キャッシュフロー計算書）
10 第2部：国際会計④	第2章：IFRSの財務諸表③（連結財務諸表）
11 第2部：国際会計⑤	第3章：財政状態計算書①（資産の会計基準）
12 第2部：国際会計⑥	第3章：財政状態計算書②（負債の会計基準）
13 第2部：国際会計⑦	第4章：包括利益計算書①（収益の認識基準）
14 第2部：国際会計⑧	第4章：包括利益計算書②（研究開発費他）
15 「国際会計」講義のまとめ	講義全体の総括と補遺事項の説明
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	織井啓介 <i>Keisuke Orii</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	ファイナンス		ファイナンス			

■授業のねらいと到達目標

ファイナンスがビジネスパーソンに必須の知識になってきました。本講では企業ファイナンスの基礎を平易に学習します。①財務諸表の復習と財務分析、②キャッシュフローの理解、③資本コスト(WACC)の算出、④投資決定理論(NPV,IRR)、⑤企業価値の算出、⑥MM(モディリアーニ=ミラー)理論、⑦最適資本構成、⑧配当政策を中心に学びます。

■授業の進め方(履修条件等)

企業会計の用語が多用されますので、「簿記会計基礎」講義程度の予備知識が必要です。問題演習用に電卓を常備してください。

■成績評価方法・基準

①期末試験(教場試験またはレポート)50%程度、②出席15%程度、③小テスト35%程度で評価する予定です。

■授業の予習・復習

予習:配布プリントで予習します。テレビ・新聞で企業・財務のニュースをチェックしましょう。
復習:配布する練習問題を自宅で演習し、次の授業時に答え合わせをします。

■教科書

とくに用いません

■参考文献

滝川好夫『入門ファイナンス理論』日本評論社(2007年)。
Simon Benninga, *Financial Modeling* (3rd edition), The MIT Press (2008)。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「ファイナンス」講義の概要	講義スケジュール・参考文献等を説明
2 第1章:財務諸表	貸借対照表と損益計算書
3 第2章:財務分析①	安全性の分析
4 第2章:財務分析②	収益性の分析
5 第3章:キャッシュフロー①	キャッシュフロー計算書の概要
6 第3章:キャッシュフロー②	キャッシュフロー系列の現在価値
7 第4章:資本コスト	資本コスト(WACC)の算出
8 第5章:投資決定理論	正味現在価値(NPV)と内部収益率(IRR)
9 第6章:企業価値	企業価値の算出
10 第7章:MM理論①	MM理論の第1命題
11 第7章:MM理論②	MM理論の第2命題
12 第8章:最適資本構成①	法人税と最適資本構成
13 第8章:最適資本構成②	法人税と倒産リスク
14 第7章:配当政策	増配と自社株取得
15 「ファイナンス」講義まとめ	講義全体の総括と補遺事項の説明
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	高橋和子 <i>Kazuko Takahashi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	情報ビジネス論					

■授業のねらいと到達目標

加速する情報社会にあつて、企業の意思決定の高度化と迅速化のためには、誰もが蓄積された情報を有効利用し分析できる必要があります。授業のねらいは、このための新しい概念「ビジネス・インテリジェンス(BI)」について解説することです。到達目標は、BIについての知識を得ることで新しい経営感覚を身につけることです。

■授業の進め方(履修条件等)

履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト(クイズ)を数回行います。

■成績評価方法・基準

平常点:授業内小テスト(毎回)40% 定期試験:60%

■授業の予習・復習

予習:特に必要ありませんが、日頃から企業のIT活用に関連するニュースに注意してください。
復習:専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。

■教科書

適宜、プリントを配布します。

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業のねらいと到達目標、評価方法
2 経営と情報活用(1)	企業経営の変化
3 経営と情報活用(2)	戦略的経営のためのIT基盤
4 経営と情報活用(3)	BIの重要性
5 BIとは(1)	ビジネスに求められるインテリジェンスとは
6 BIとは(2)	BI活用に向けた取組
7 CRMの現状と今後の課題(1)	CRMの本質
8 CRMの現状と今後の課題(2)	マーケティングにおけるCRM
9 CRMの現状と今後の課題(3)	アナリティカルCRMとBI
10 CRMの現状と今後の課題(4)	BIシステムの全体像 データウェアハウス
11 BIのコンポーネント技術(1)	BIシステムの全体像 データウェアハウス
12 BIのコンポーネント技術(2)	OLAP 統計手法によるデータ解析
13 BIのコンポーネント技術(3)	データマイニング テキストマイニング
14 BIの活用事例	BIの活用事例
15 まとめ	BIに関する基礎的な知識の総復習
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	高橋和子 Kazuko Takahashi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	経済経営のためのデータ解析		経済・経営のためのデータ解析			

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、経済・経営分野で多く用いられる量的なデータの分析方法と、分析結果を正しく解釈するために必要な推測統計学について学びます。地域調査に必要な量的なデータの分析方法も学びます。到達目標は、さまざまな分野の量的なデータの分析が行え、その結果をレポートに的確にまとめることのできる能力を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、講義により基本的な統計用語を理解した後、社会科学統計パッケージソフト（SPSS）を用いて実際にデータ分析を行います。「社会調査のためのデータ解析」を履修していることが望ましい。「社会調査士」「地域調査士」資格必須科目。

■成績評価方法・基準

平常点（授業への参加・貢献度）：40% レポート：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありません
復習：授業で習った新しい知識を身につけるために自習時間を活用してください。

■教科書

『読む統計学 使う統計学』広田すみれ著
慶應義塾大学出版会 2005年

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業のねらいと到達目標、評価方法 量的なデータ
2 基本統計量	平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、レンジ
3 相関係数	属性相関、相関係数、偏相関係数
4 地域調査の基本	統計地域、地域的分布
5 地域特性分析	構成比、特化係数、BN分析
6 推測統計学（1）	確率論の基礎
7 推測統計学（2）	母集団と標本
8 推測統計学（3）	正規分布、t分布、カイニ乗分布など
9 推測統計学（4）	統計的推定と検定の考え方
10 推測統計学（5）	平均の差の検定、比率の差の検定
11 推測統計学（6）	独立性の検定
12 回帰分析（1）	単回帰分析
13 回帰分析（2）	重回帰分析
14 多変量解析	クラスター分析など
15 まとめ	分析したデータを適切な方法にまとめる方法を説明
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	教務部委員会		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	アグリサイエンス&ビジネス					

■授業のねらいと到達目標

日々の生活の中で我々が食している農産物および加工食品の特性、生理機能、製造・開発、衛生管理などに関する知識の習得を通じて、食品ビジネスにおいて重要な、食の安全・安心の問題や、食品の製造・開発等について自ら考える力を習得することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は3名の教官によるリレー方式で行う。パワーポイントまたはプリントを用いた講義を行う。講義時間内に簡単な小テストを行い、理解度を確認する。

■成績評価方法・基準

出席・学習態度、講義時間内に行う小テスト、レポートについて、およそ50：30：20の割合で総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：講義内容に関する書籍や新聞記事などを読み、予備知識を得ておくことが望ましい。

復習：講義時間内に指示する。

■教科書

オリジナルプリントを配付する。
参考図書は講義時間内に適宜紹介する。

■参考文献

なし

■授業内容

授業項目	授業内容
1 アグリサイエンス&ビジネス概要	講義内容、講義の進め方など（平井）
2 食品材料とビジネス1	穀類（江頭）
3 食品材料とビジネス2	肉・卵（平井）
4 食品の科学と生理機能1	アミノ酸（江頭）
5 地球環境とビジネス1	アグリカルチャーの経済効果（松島）
6 食品の科学と生理機能2	ビタミン（江頭）
7 食品材料とビジネス3	乳製品（平井）
8 食品の科学と生理機能3	脂質（平井）
9 加工食品と食品開発1	食品添加物概論（江頭）
10 地球環境とビジネス2	排出権取引ビジネス（松島）
11 地球環境とビジネス3	水質汚染浄化ビジネス（松島）
12 加工食品と食品開発2	食品添加物各論（平井）
13 地球環境とビジネス4	汚染土壌浄化ビジネス（松島）
14 地球環境とビジネス5	緑化ビジネス（松島）
15 加工食品と食品開発3	栄養機能食品（平井）

年 度	11年度入学		担 当 者	梅田克樹 <i>Katsuki Umeda</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	環境と農業		環境政策概論			

■授業のねらいと到達目標

野菜のフードシステムは、かつて狭い地域内で完結していたのが、1980年代以降は急速なグローバル化を遂げた。グローバル化によって野菜産地がどのように変化したのかを、多角的視点から検証する。地域の自然環境や、地域をとりまく人文・社会環境が、地域農業のあり方とどのように関係しているのかを理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

適宜プリントを配付するほか、映像教材を使用することがある。

■成績評価方法・基準

平常点（出席や受講態度）50%と、定期試験50%によって判定する。

■授業の予習・復習

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

高柳長直『フードシステムの空間構造論』筑波書房
Erik Millstone・Tim Lang『食糧の世界地図』丸善

■授業内容

授業項目	授業内容
1 野菜生産の位置付け	日本農業に占める野菜生産の変化
2 野菜流通のグローバル化1	野菜輸入の量的・質的变化
3 野菜流通のグローバル化2	韓国における日本向けトマト輸出産地の成立と変容
4 野菜流通のグローバル化3	中国沿海部における冷凍野菜産地の展開
5 野菜流通のグローバル化4	日本商社による野菜の開発輸入
6 国内野菜流通の変容1	日本国内における生鮮野菜流通の外延的拡大
7 国内野菜流通の変容2	北海道における地熱利用型施設トマト産地の展開
8 国内野菜流通の変容3	国内かぼちゃ生産地域の二極化とその要因
9 国内野菜流通の変容4	千葉県における施設園芸産地の地理的拡大
10 国内野菜流通の変容5	施設園芸産地において農村社会システムが果たす役割
11 野菜フードシステムの変貌1	卸売市場流通の歴史と市場外流通の急増
12 野菜フードシステムの変貌2	小売業界の寡占化によるBuying Powerの遷移
13 野菜フードシステムの変貌3	外食業界におけるM&Aの急増とその影響
14 野菜フードシステムの変貌4	有機農産物市場の拡大とその要因
15 野菜流通の展望	あるべき野菜フードシステムの姿をめざして
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	中村圭三 <i>Keizo Nakamura</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	大気・水環境論		大気・水圏環境論			

■授業のねらいと到達目標

本講義では、都市域における大気環境および水環境について、理論と測定法を講義する。特に、都市の大気環境に関しては、本学周辺における「ヒートアイランド」についての観測を実施し、講義内容を体験させる。

■授業の進め方（履修条件等）

最初に各週の授業内容に関する基礎事項について説明し、その上で、調査事例を中心とした授業内容を展開する。

■成績評価方法・基準

出席30%、定期試験70% の比率で成績を評価する。

■授業の予習・復習

予習：テキストの「基礎技法」を学習しておくこと。
復習：学習した授業内容に関連する環境問題に関心を持って生活すること。

■教科書

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.

■参考文献

授業の中で、適宜指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	大気・水環境論概説
2 都市の大気環境（1）	都市の大気環境の成り立ち
3 都市の大気環境（2）	大気環境観測法
4 都市の大気環境（3）	ヒートアイランド 観測
5 都市の大気環境（4）	都市大気環境図の作成（1）
6 都市の大気環境（5）	都市大気環境図の作成（2）
7 都市の大気環境（6）	都市大気環境図の作成（3）
8 山岳と海洋	長野の山岳気候とオホーツク海の海水
9 水環境（1）	都市の水環境
10 水環境（2）	雨水の利用
11 水環境（3）	河川の汚染
12 水環境（4）	湖沼の汚染
13 水環境（5）	地下水の汚染
14 水環境（6）	水の汚染と環境問題
15 まとめ	総括
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	豊田知世 <i>Tomoyo Toyota</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	資源エネルギー論		環境資源エネルギー論			

■授業のねらいと到達目標

資源とエネルギーは経済活動や日常生活に不可欠ですが、それらの大量消費によって地球温暖化や資源枯渇などの課題に直面しています。本授業では、人類が歴史的に資源やエネルギーをどのように利用してきたのか、またそれによる問題点について考えていきます。さらに、省エネルギーや新エネルギー開発などについて学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

PowerPoint（パワーポイント）を使用して講義を行います。

■成績評価方法・基準

レポート・出席の状況により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習・復習：エネルギーは普段の生活においても大きく係わりがあるため、常に身近な所でのエネルギーに関心を持っておいて下さい。

■教科書

■参考文献

必要に応じて、授業内に適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	授業の進め方について
2 資源とエネルギーの定義と分類	資源・エネルギーに関する定義と分類
3 人類とエネルギーとの関わり	人類と資源・エネルギーの歴史的な関わりについて
4 我が国のエネルギー動向	日本のエネルギー利用に関する歴史的变化と概要
5 世界のエネルギー動向	国際的なエネルギー需給の概要
6 有限性を巡る問題	資源とエネルギーの分布地域や埋蔵量などについて
7 資源エネルギーの消費と環境問題Ⅰ	水俣病や大気汚染などの公害問題について
8 資源エネルギーの消費と環境問題Ⅱ	オゾン層破壊や気候変動などの地球環境問題について
9 資源エネルギーの分析Ⅰ	LCA（ライフサイクルアセスメント）
10 資源エネルギーの分析Ⅱ	リサイクル
11 再生可能エネルギー	太陽光・風力・地熱など自然エネルギーについて
12 資源エネルギーと途上国	途上国の発展によるエネルギー消費の増大と課題について
13 エネルギーを取り巻く国際的な取組み	世界のエネルギーに関する規制と条約について
14 国際協力の動向	省エネルギーの普及、気候変動に対応する国際協力の動向
15 まとめ	まとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	大八木英夫 <i>Hideo Oyagi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	【教職科目】日本地誌		日本地誌			

■授業のねらいと到達目標

日本の各地域に広がる景観について講義し、人々が生活する地域・風土・環境の基本的な地理的特徴を学び、地域にある特徴の見方・捉え方を習得することを目指します。また、環境と人間活動の関わりについて理解するとともに、世界の日本の地理的関わり・位置づけについても理解することも目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

PowerPoint（パワーポイント）を使用して講義を行います。

■成績評価方法・基準

レポートで評価を行います。出席および授業の取り組みも重視します。

■授業の予習・復習

予習：日本の各地域について関心を持ち、インターネット・テレビ等から様々な地域情報を得ることを心掛けること。
復習：授業で取り上げた地域・地名について、各自インターネットや地図等で概要や位置を確認しておくこと。

■教科書

教科書は特に指定しませんが、地図帳を持参して下さい。

■参考文献

必要に応じて、授業内に適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	授業の進め方について
2 日本の領土・領域	日本の地域区分について
3 日本の風土と環境	日本の自然環境について
4 日本の自然観	日本人と自然環境について
5 日本の自然と人間活動	日本の自然と人々の関わり合いについて
6 平野・台地の人々の生活	日本の地形と人間生活についてⅠ
7 山地の人々の生活	日本の地形と人間生活についてⅡ
8 川・海の水と産業	日本の陸水と人間生活について
9 都市の人間活動	日本の都市における人間活動について
10 地域の環境と開発	日本の土地利用と自然環境について
11 地域と産業	日本の人々の生活と産業について
12 地域と観光	日本の地域的特徴について
13 風土と食	日本の食と文化について
14 交通	日本の交通と移動
15 地域誌	日本と身近な地域
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	谷地隆 Takashi Yachi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	【教職科目】自然地理学		自然地理学			

■授業のねらいと到達目標

21世紀は環境の世紀と言われていいます。地形・気候・生物などの地球上の自然環境に関わる基礎的な知識を理解した上で、種々の環境問題や自然保護問題を地域から地球規模までの各スケール別の視点で考えていきます。さらに、自然地理学からの視点でもその対策、政策、展望をも考えていきたい。

■授業の進め方（履修条件等）

最初に自然地理学に関する基礎的な知識を習得します。ビジュアル等の映像を用いて、地形・気候・水環境を紹介し、自然地理学を多面的・立体的に理解できるようにします。ペネフィット（授業を通じて得られる成果）として、バーチャルトラベルが体験できると共に、海外旅行において不可欠な知識・教養が身につくような講義を行います。

■成績評価方法・基準

出席状況・レポートにより評価します。

■授業の予習・復習

平素から「自然」に関心を持ち、新聞・テレビなどのマスメディアなどから情報を得ておいて下さい。

■教科書

特に指定しませんが、授業毎にプリントを配布します。地図帳を持参して下さい。

■参考文献

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 地形（山地）	
3 地形（平野・海岸）	
4 気候（気温・風）	
5 気候（降水量・区分）	
6 陸水と海洋	
7 植生	
8 自然災害	
9 生態系・生物多様性	
10 自然環境の変化	
11 環境問題	
12 環境保全計画	
13 自然保護	
14 土地条件と土地利用	
15 まとめ（総整理をしながら、個々の疑問点を解明する）	
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	教務部委員会		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	アグリ・エコビジネス I					

■授業のねらいと到達目標

食生活や農業と環境問題との関連性や、持続的社会の実現のために開発されたエコシステムやエコビジネスの例を理解し、これらの知識を実践するための力を身につけることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は3名の教官によるリレー方式で行う。パワーポイントまたはプリントを用いた講義を行う。講義時間内に簡単な小テストを行い、理解度を確認する。

■成績評価方法・基準

出席・学習態度、講義時間内に行う小テスト、レポートについて、およそ50：30：20の割合で総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：講義内容に関する書籍や新聞記事などを読み、予備知識を得ておくことが望ましい。
復習：講義時間内に指示する。

■教科書

オリジナルプリントを配付する。
参考図書は講義時間内に適宜紹介する。

■参考文献

なし

■授業内容

授業項目	授業内容
1 アグリ・エコビジネス I 概要	講義内容、講義の進め方など（平井）
2 地球環境とアグリカルチャー (I) - 1	森林破壊と砂漠化（松島）
3 地球環境とアグリカルチャー (I) - 2	食品容器とリサイクル（平井）
4 地球環境とアグリカルチャー (I) - 3	土壌水質汚染（松島）
5 地球環境とアグリカルチャー (I) - 4	食生活と環境汚染（平井）
6 地球環境とアグリカルチャー (I) - 5	大気汚染と地球温暖化（松島）
7 副産物の利用とエコビジネス 1	食品としての利用 1～肝障害抑制（江頭）
8 副産物の利用とエコビジネス 2	家畜飼料としての利用（平井）
9 副産物の利用とエコビジネス 3	家畜排せつ物の農業利用（松島）
10 副産物の利用とエコビジネス 4	食品としての利用 2～コレステロール低下（江頭）
11 副産物の利用とエコビジネス 5	生ごみの利用（松島）
12 副産物の利用とエコビジネス 6	化粧品としての利用（江頭）
13 食品の科学とエコビジネス (I) - 1	酒の科学（平井）
14 食品の科学とエコビジネス (I) - 2	糖・食物繊維の科学（江頭）
15 食品の科学とエコビジネス (I) - 3	油の科学（平井）

年 度	11年度入学		担 当 者	教務部委員会		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	アグリ・エコビジネスⅡ					

■授業のねらいと到達目標

アグリ・エコビジネスⅠの発展編。農業に関連した地球環境問題や食の安全性の問題などを理解するとともに、持続的社会の実現のためのエコシステムや、エコビジネスへの展開について、自ら考える力を習得することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は3名の教官によるリレー方式で行う。パワーポイントまたはプリントを用いた講義を行う。講義時間内に簡単な小テストを行い、理解度を確認する。

■成績評価方法・基準

出席・学習態度、講義時間内に行う小テスト、レポートについて、およそ50：30：20の割合で総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：講義内容に関する書籍や新聞記事などを読み、予備知識を得ておくことが望ましい。

復習：講義時間内に指示する。

■教科書

オリジナルプリントを配付する。
参考図書は講義時間内に適宜紹介する。

■参考文献

なし

■授業内容

授業項目	授業内容
1 アグリ・エコビジネスⅡ概要	講義内容、講義の進め方など（平井）
2 食の安全性1	食品衛生の制度（江頭）
3 食の安全性2	食品汚染（平井）
4 食の安全性3	食中毒（江頭）
5 食の安全性4	安心な農産物（松島）
6 食の安全性5	寄生虫（江頭）
7 食品の科学とエコビジネス（Ⅱ）-1	おいしさの科学～味（平井）
8 食品の科学とエコビジネス（Ⅱ）-2	おいしさの科学～香り（平井）
9 食の安全性6	狂牛病・経口感染症（江頭）
10 地球環境とアグリカルチャー（Ⅱ）-1	人口爆発と緑の革命（松島）
11 地球環境とアグリカルチャー（Ⅱ）-2	将来の地球を養う土壌管理（松島）
12 地球環境とアグリカルチャー（Ⅱ）-3	食料自給率（平井）
13 地球環境とアグリカルチャー（Ⅱ）-4	日本の水田の1年（松島）
14 地球環境とアグリカルチャー（Ⅱ）-5	日本の畑の1年（松島）
15 地球環境とアグリカルチャー（Ⅱ）-6	バイオエタノール（平井）

年 度	11年度入学		担 当 者	松本太 Futoshi Matsumoto		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	環境アセスメント		環境アセスメント			

■授業のねらいと到達目標

近年様々な環境問題が顕在化する中、環境保全の必要性が注目されています。この講義では環境保全や公害防止のために、開発による環境への影響を事前に予測、評価を行う環境アセスメントに関して講義します。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件等は特にありません。
授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがあります。

■成績評価方法・基準

レポート、試験、出席状況、学習意欲、授業態度により、総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありません

復習：特に必要ありません

■教科書

テキストは使用しません。

■参考文献

特にありません。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	環境アセスメントとは何か
2 開発と環境	開発前に行われる環境影響評価の全般
3 地球環境の変化	地球温暖化など地球規模の環境問題について
4 都市環境の変化	時代による都市域の環境変化
5 公害問題	日本における公害の歴史および内容
6 環境アセスメントの変遷	環境アセスメントの歴史と現状
7 水環境の生物への影響評価	湖沼等の水環境が生物へ及ぼす影響について
8 大気環境の生物への影響評価	大気汚染や都市温暖化の生物への影響について
9 都市の熱環境の評価	衛星画像等を利用した熱環境の評価について
10 地域の環境アセスメント	自治体・企業・住民等による合意形成について
11 環境アセスメント実習①	実習（土地利用計画）の方法等の説明、班分け
12 環境アセスメント実習②	土地利用の作業開始（班別のミーティング含む）
13 環境アセスメント実習③	土地利用の配置図の作成（データの集計および解析）
14 環境アセスメント実習④	レポート作成、報告会・討論会
15 これからの環境アセスメント	今後の環境アセスメントのあるべき姿
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	松本太 <i>Futoshi Matsumoto</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	環境マネジメント		環境マネジメント			

■授業のねらいと到達目標

現代の人間活動は大量生産、大量消費に象徴され、地球温暖化など様々な環境問題を引き起こしました。この講義では環境問題をライフスタイルや社会システムの側面から考えつつ、問題を解決するために企業や自治体、地域が取り組んでいる環境マネジメントについて講義します。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件等は特ありません。
授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがあります。

■成績評価方法・基準

レポート、試験、出席状況、学習意欲、授業態度により、総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありません。
復習：特に必要ありません。

■教科書

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	環境マネジメントとは何か
2 地球規模の環境問題	地球規模の環境問題の現状
3 地球温暖化	地球温暖化の原因影響、対策
4 都市の環境問題と人口変化	都市の拡大（人口増加）とそれに伴う環境変化
5 エネルギー問題	化石燃料枯渇、クリーンエネルギー普及の可能性
6 ゴミ問題	大量生産・消費が引き起こしたゴミ問題の現状
7 省エネルギーとリサイクル	省エネルギー、リサイクルの有効性
8 環境マネジメント実習①	既存のデータ（地図・資料）による地域環境の評価
9 環境マネジメント実習②	GISによる地域環境の評価（空間データの利用と作業）
10 公的機関の環境問題への取り組み	国、自治体による環境問題への対策
11 企業による環境マネジメント	企業による環境マネジメントの取り組み
12 市民による環境マネジメント	市民による環境マネジメントの取り組み
13 景観による環境の評価	景観変化による都市の大気・水環境の評価について
14 環境共生型のまちづくり	地域の気候特性を活用したまちづくりの可能性
15 持続可能な社会の実現に向けて	持続可能な社会の構築に向けて何が必要か
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	豊田知世 <i>Tomoyo Toyota</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	環境と開発		環境と開発			

■授業のねらいと到達目標

開発によって豊かな生活が得られる一方、さまざまな環境問題を体験してきました。本授業では、人間活動による開発によって生じるさまざまな環境問題について学びます。特に開発途上国の発展過程による環境問題に焦点を当てつつ、地球規模の環境問題にまで視野を広げ、開発と環境の相互関係を理解することを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

PowerPoint（パワーポイント）を使用して講義を行います。

■成績評価方法・基準

レポート・出席の状況により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

与えられた事だけをするのではなく、自らがより積極的に予習・復習を行うこと。

■教科書

■参考文献

必要に応じて、授業内に適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	授業の進め方について
2 開発を測る指標	さまざまな指標を用いて開発について考える
3 経済発展と環境問題Ⅰ	経済発展による環境問題の概要
4 経済発展と環境問題Ⅱ	経済発展による環境問題の概要
5 経済発展と環境問題Ⅲ	日本の公害の事例とその対策
6 経済発展と産業構造の特徴	開発による産業構造変化と影響についてマクロ的視点から見る
7 開発途上国の特徴と現状	開発途上国の現状と環境問題について
8 開発と貧困、不平等	開発途上国の発展過程における問題について
9 農村発展と環境	農業の近代化による食糧生産拡大と環境負荷の増大について
10 都市化と環境問題	都市化のメカニズムと環境問題
11 地球規模の環境問題	熱帯雨林の破壊、オゾン層破壊、砂漠化など
12 地球温暖化と気候変動	温室効果ガス増加による気候変動への影響について
13 気候変動への取り組み	気候変動に関する国際的な取り組みとその動向について
14 環境国際協力と日本の役割	開発と環境に関する日本の取り組みの紹介
15 まとめ	まとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	村川庸子 Yoko Murakawa		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	フィールド調査		フィールド調査			

■授業のねらいと到達目標

本講義では、フィールド調査の可能性、方法を理論的に勉強し、基本的な概念の理解と、論理的な思考力、構成力を身に付けることを目標とします。最後に各自の関心に合わせて、身近なところでフィールド調査の実践を試みますが、各自この体験を楽しんでもらいたいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

講義が中心ですが、その中で個人の関心の所在を確かめ、最後の調査の実践に向け、準備を進めてください。本講義の性格上、履修者は30名に制限します。テーブル起こしなどの作業を厭わず、報告書をまとめられることが条件です。

■成績評価方法・基準

コーネル式ノート作成法を参考にまとめたノート（60%）と最後の調査のレポート（40%）で評価します。出席は重視します。

■授業の予習・復習

予習：事前に配布する資料に目を通しておくこと。
復習：毎回、ノートの整理を行うこと。ノートは中盤と期末の二回、提出を求めます。

■教科書

佐藤郁哉『フィールドワーク』（新曜社）

■参考文献

資料は適宜配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション①	フィールド調査とは何か？
2 イントロダクション②	フィールド調査の可能性
3 フィールド調査の理論①	概念と仮説、社会学的記述
4 フィールド調査の理論②	事例研究、
5 フィールド調査の理論③	信頼性と妥当性
6 フィールド調査の理論④	文献調査の役割
7 フィールド調査の理論⑤	参与観察
8 フィールド調査の理論⑥	面接の方法と注意点
9 フィールド調査の実践①	テーマの設定
10 フィールド調査の実践②	文献調査の結果報告
11 フィールド調査の実践③	テーマの絞り込み、質問紙作り
12 フィールド調査の実践④	面接調査実施
13 フィールド調査の実践⑤	面接調査実施
14 プレゼンテーション①	個人発表
15 プレゼンテーション②	個人発表
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	豊原明 Akira Toyohara		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	アルゴリズム論 I					

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、コンピュータによる問題解決法である「アルゴリズム」の基礎を学び、応用させることです。到達目標は、代表的なアルゴリズムを理解することと、これを通じて応用できることです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特に有りませんが、プログラム言語を履修していることが望ましい。基本的にプリントを配って授業を行います。サンプルプログラムによるデモをする場合があります。また、理解を深めるために、毎回授業の途中で小テストを行います。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（毎回）：50%
定期試験：50%

■授業の予習・復習

予習：毎回、次の授業の内容を予告し、テキストの該当部分を読んでおいてください。
復習：授業時間内で理解するよう努めてください。

■教科書

『アルゴリズムとデータ構造』 藤原暁宏著 森北出版社 2006年

■参考文献

プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業のねらい、到達目標、評価方法
2 アルゴリズムの表現方法	アルゴリズムのイントロダクション
3	配列、連結リスト
4 アルゴリズムの基本データ構造	スタック、キュー
5	木
6	線形探索、2分探索
7	ハッシュ
8	ハッシュ
9	探索アルゴリズムのまとめ
10	選択ソート
11	挿入ソート
12 ソートアルゴリズム	ヒープソート
13	クックソート
14	ソートアルゴリズムのまとめ
15	まとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	高橋和子 Kazuko Takahashi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	システム設計論 I					

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、システムの中でも特に「情報システム」に焦点を当て、システム設計を行う上で必要となる基礎的な知識を身につけることです。到達目標は、企業や官庁、教育機関などさまざまな職場で情報技術に携わる業務をこなし、担当業務に対して情報技術を活用することができる能力を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的に教科書にしたがって講義を進め、不足する部分は配布プリントで補います。履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト（クイズ）を数回行います。

■成績評価方法・基準

平常点：授業内小テスト（毎回）40% 定期試験：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありませんが、日頃から情報システムに関連するニュースに注意してください。

復習：専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。

■教科書

『コンピュータと情報システム』 草雄信照著
サイエンス社 2007年

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業のねらいと到達目標、評価方法
2 情報システムの概要	情報システムの必要性と事例
3 コンピュータの基礎知識	ハードウェアとソフトウェア インターネット
4 コンピュータと情報処理	情報の表現（数値、文字、画像、音声）
5 データベース	リレーショナルデータベース
6 システムの設計技法(1)	システムのライフサイクルと開発モデル
7 システムの設計技法(2)	要求定義
8 システムの設計技法(3)	外部設計
9 システムの設計技法(4)	ファイル設計
10 システムの設計技法(5)	内部設計
11 システムの設計技法(6)	プログラム設計
12 システムの設計技法(7)	テスト
13 システムの運用と管理(1)	システムの運用管理と評価指標
14 システムの運用と管理(2)	セキュリティ管理と権利の保護
15 まとめ	システム設計に必要な基礎知識の総復習
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	豊原明 Akira Toyohara		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	アルゴリズム論 II					

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、アルゴリズム論1で学んだ基本的な内容をさらに深めて、より高度なアルゴリズムを学ぶことです。到達目標は、アルゴリズムの設計手法を理解することと、これを通じで応用できることです。

■授業の進め方（履修条件等）

できれば、アルゴリズム論1を履修していることが望ましい。基本的にプリントを配って授業を行います。サンプルプログラムによるデモをする場合があります。また、理解を深めるために、毎回授業の途中で小テストを行います。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（毎回）：50%
定期試験：50%

■授業の予習・復習

予習：毎回、次の授業の内容を予告し、テキストの該当部分を読んでおいてください。

復習：授業時間内で理解するよう努めてください。

■教科書

『アルゴリズムとデータ構造』 藤原暁宏著 森北出版社 2006年

■参考文献

プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業のねらい、到達目標、評価方法
2 データ構造	データ構造の基本
3 探索アルゴリズム	代表的な探索アルゴリズムの紹介
4 ソートアルゴリズム	代表的なソートアルゴリズムの紹介
5	分割統治法
6 アルゴリズムの設計手法	グリーディ法
7	バックトラック法、分枝限定法
8 グラフアルゴリズム	最短経路問題
9 アルゴリズムの設計手法	アルゴリズムの設計手法のまとめ
10	文字列照合アルゴリズムの基本
11	ポイヤール・ムーア法A
12 文字列照合アルゴリズム	ポイヤール・ムーア法B
13	両ポイヤール・ムーア法の融合
14 アルゴリズムの限界	アルゴリズムの限界
15 まとめ	まとめ
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	高橋和子 Kazuko Takahashi		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	システム設計論Ⅱ					

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、「システム設計論Ⅰ」で学んだ知識をもとに、情報システムの設計を行うためのより高度な知識を解説することです。到達目標は、企業や官庁などさまざまな職場において、情報システムの構築や改善を提案できる高度IT人材となるために必要な知識を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には教科書にしたがって講義を進め、不足する部分は配布プリントで補います。「システム設計論Ⅰ」を履修していることが望ましい。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト（クイズ）を数回行います。

■成績評価方法・基準

平常点：授業内小テスト（毎回）40% 定期試験：60%

■授業の予習・復習

予習：特にありませんが、日頃から企業の情報システムに関連するニュースに注意してください。

復習：専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。

■教科書

『システム設計論』2007年 布広永示他著 コロナ社

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業のねらいと到達目標、評価方法
2 情報システムの設計思想(1)	企業情報システムの処理形態
3 情報システムの設計思想(2)	構造化技法とソフトウェア工学
4 情報システムの変革	クライアント/サーバシステム
5 システム設計・構築(1)	システム開発モデル システム設計・構築の流れ
6 システム設計・構築(2)	テスト計画・設計
7 システム設計・構築(3)	プロジェクト管理 CASEツール
8 インフラ設計	インフラ設計の必要性とその流れ
9 システム分析設計技法	各工程における構造化分析設計技法
10 アプリケーション設計・構築(1)	アプリケーション設計・構築の流れ
11 アプリケーション設計・構築(2)	ユーザインタフェース設計の流れ Web技術の利用
12 データベース設計・構築	データベース設計の流れ
13 システム運用設計・運用管理	システムの構築・テストと運用管理の流れ
14 データ記述・表現	データ記述言語 Webサービスの定義と適用事例
15 まとめ	システム設計に必要な知識の総復習
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	大山中勝 Nakakatsu Ohyama		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	1年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	英文法	英文法	英文法	英文法		

■授業のねらいと到達目標

題材は国際情報関連の英文であり、その内容を英文法に注目しながら学習できるように練習する。さらにそれぞれのテーマについてディスカッションをし、総合英語能力を養成することを主眼に講義を進める予定である。受講生には文法力を客観的に測定する手段としてのTOEIC IP (TOEIC Institutional Program) を利用し、この授業履修中に具体的な学習目標の設定ができるようにすることも重要なことである。

■授業の進め方（履修条件等）

この授業は受講対象者の興味ある分野について焦点を絞り、国際情報関連の英文を文法力を生かしながら興味あるテーマについて自分で調査し、その内容についてプレゼンテーション能力の向上も目標とする。その結果TOEICの得点も上げることができるようになる。また、インターネットやビデオなどを利用する予定である。

■成績評価方法・基準

出席、積極的な参加、宿題、テストを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：必ず予習して授業に参加すること。
復習：復習の結果を小テストで確認します。

■教科書

プリントを使用する。
TOEIC IP (TOEIC Institutional Program) を利用し、この授業履修中に具体的な学習目標の設定ができるようにするし、可能であれば模擬試験を実施する予定です。

■参考文献

TOEIC IP (TOEIC Institutional Program) 関連の参考書を自分にあうものを購入すること。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 動詞の基礎	動詞についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
2 動詞の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
3 準動詞の基礎	準動詞についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
4 準動詞の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
5 仮定法の基礎	仮定法についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
6 仮定法の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
7 複文の基礎	複文についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
8 複文の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
9 重文の基礎	重文についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
10 重文の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
11 時制の基礎	時制についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
12 時制の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
13 名詞句の基礎	名詞句についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
14 名詞句の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
15 資格試験について	可能であれば模擬試験を実施する予定です。
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	新堀司 Tsukasa Niibori		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	1年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	英語史		英語史			

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいはイギリスの歴史・文化を学びながら、英語という言葉に関する理解を深めることである。到達目標は英語の歴史（古英語期、中英語期、近代英語期、現代英語期）に関する基礎的な知識を身につけることである。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を通じての解説を行った後に、問題演習（提出）を行う。問題演習の内容はその都度指示する。

■成績評価方法・基準

出席状況（10%）、平常点（問題演習：30%）、試験の結果（60%）による総合的評価。

■授業の予習・復習

予習：指定した教科書の部分を読んでくること。
復習：必要に応じて指示。

■教科書

中尾俊夫・寺島迪子、『図説 英語史入門』、大修館書店。

■参考文献

授業中に指示。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業内容などの説明
2 英語の始まりー古英語期①	時代背景、方言、借入語
3 英語の始まりー古英語期②	アルファベット、発音
4 英語の始まりー古英語期③	古英語の語形など
5 中英語期①	時代背景、方言、借入語
6 中英語期②	チョーサーの英語、発音
7 中英語期③	中英語の語形など
8 近代英語期①	時代背景、借入語
9 近代英語期②	シェークスピアの英語など
10 近代英語期③	アメリカ英語、発音など
11 19世紀から現代英語期へ①	時代背景、借入語
12 19世紀から現代英語期へ②	意味の変化、語形成
13 主要な文法的発達①	否定文など
14 主要な文法的発達②	完了形など
15 まとめ	授業内容の総まとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	柳原由美子 Yumiko Yanagihara		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	1年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	英語の音声	英語の音声	英語の音声		英語の音声	

■授業のねらいと到達目標

英語の音声についての基礎的な知識を学びます。日本語の音声との比較も考慮しながら、英語教育への実践的応用ができるようにすること目的とします。英語の発音、および聞き取りに関する実際の練習も重点的に行います。

■授業の進め方（履修条件等）

基礎的な知識に関しては、教科書に沿って授業を進めていくので、履修者は必ず教科書を購入してください。

■成績評価方法・基準

- 1) 筆記試験（中間・期末） 80%
- 2) 英語の音声に関する英語文献の読解
プレゼンテーション、または練習問題（発音記号の読解） 20%

■授業の予習・復習

予習：次回の授業予告のあった単元を読んでおくこと
復習：レジュメに書かれている各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること

■教科書

佐藤 寧/佐藤 努著『現代の英語発音学』金星堂

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、評価、プレゼンテーションなど
2 音声学とは	なぜ音声学が必要か。音声学の3分野についてなど
3 発音のメカニズム	発音器官の名称と場所、発音過程について
4 音声表記	RPとGAの相違、IPAとは何か、精密表記と簡略表記
5 母音の調音 1	母音の特徴と分類の仕方、音声記号を用いて表記できる
6 母音の調音 2	母音を正しく発音し、聞き分けることができる
7 子音の調音 1	子音の特徴と分類の仕方、音声記号を用いて表記できる
8 子音の調音 2	子音を正しく発音し、聞き分けることができる
9 子音の調音 3	子音表を完成することができる
10 中間試験	試験の解説（復習）
11 音節	音節の切れ目のルール、音節に分ける、音節構造
12 語強勢	語強勢の生成と知覚、強勢の有無と音節、強勢と品詞
13 イントネーション	ピッチとイントネーション、音調句、音調核、核音調
14 音変化 1	音の短縮、音の消失、音の脱落
15 音変化 2	音の連結、音の同化、音の弱化
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	有馬容子 Yoko Arima		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	実践英語 I					

■授業のねらいと到達目標

これまで学んできた英語の知識を最大限活用し、書いて自己表現する力を修得するのが目的です。具体的には日常に行われる様々な事柄に即し、英文の手紙に自分の考えや気持ちを表現する練習をします。Writing I・IIで学んだ英文の書き方やCollege Englishで学んだ基礎知識のすべてを実践してください。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回少しずつ英文を書き提出してもらいます。辞書を必ず持参すること。Writing（I・II）を履修していることが望ましい。

■成績評価方法・基準

毎回提出する英文（60%） 学期末提出の英文（40%）

■授業の予習・復習

予習：授業中に書く予定の手紙の内容を考え、必要な表現を調べてくる。

復習：学んだ表現を暗記し、学期末提出の英文作成に備える。

■教科書

プリントを配布。

■参考文献

Writing Effective Letters, Memos, & E-mail. Arthur H. Bell. Barron's. 2004.

Here's How: Write First-Class Letters. L. Sue Baugh. McGraw-Hill. 1999.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	How to Write Letters	Where to Start
2	Social Letters(1)	Apologies
3	Social Letters(2)	Congratulations
4	Social Letters(3)	Family
5	Social Letters(4)	Friends
6	Social Letters(5)	Holidays
7	Social Letters(6)	Invitations
8	Social Letters(7)	Sympathy/Condolences
9	Social Letters(8)	Thank-You's
10	Employment Letters(1)	Beginning a Job Search
11	Employment Letters(2)	Resumes
12	Employment Letters(3)	Job Query Letter
13	Employment Letters(4)	Application Letter
14	Employment Letters(5)	Recommendation Letters
15	Employment Letters(6)	Follow-Up Letters
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	George Whalley		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	実践英語 II					

■授業のねらいと到達目標

This class is an elective English course. It is designed for students with an interest in learning the basics of basketball. Students will encounter terms and phrases commonly used in coaching. Students will be given opportunities to demonstrate their knowledge of the material through physical activities and presentations. The class is open to males and females. Each class will consist of a classroom portion and gym portion.

■授業の進め方（履修条件等）

Students must wear clothing appropriate for basketball activity including basketball shoes. Each student is encouraged to bring a basketball to each class.

■成績評価方法・基準

Grading will be based on attendance, participation and presentations. Students are expected to dress appropriately for the gym portion of the class.

■授業の予習・復習

The instructor will provide materials for this class.

■教科書

■授業内容

	授業項目	授業内容
1		Conditioning for basketball
2		Ball handling drills
3		Shooting drills
4		Passing drills
5		Rebounding drills
6		Defensive drills
7		Man to man defense
8		Zone defense
9		Man to man offense
10		Zone offense
11		Zone press
12		Breaking a press
13		Out of bounds plays
14		Fast Break
15		3 on 3
16	定期試験	

■参考文献

年 度	11年度入学		担 当 者	伊藤礼子 <i>Reiko Ito</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	英語学特講 I		英語学特講 I (日英比較)			

■授業のねらいと到達目標

現代英語に対する認識を深めるために、英語の変化を考察します。発音、語彙、名詞、動詞、構文（語順、否定文、疑問文、動名詞）の変化はいつ、どのように、なぜ起きたかを考察します。現代英語の成り立ちを理解し、英語の「不思議」を解明します。

■授業の進め方（履修条件等）

「英語学概論」、「英語の音声」、「英語史」を履修していることを望みます。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、課題の提出（40%）で判定します。

■授業の予習・復習

復習：分からないことを残さないためにも、新出事項の復習をしてください。

■教科書

家入葉子著『ベーシック英語史』ひつじ書房

■参考文献

中尾俊夫・寺島迪子著『図説 英語史入門』大修館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 授業の概観	英語の歴史と言語変化
2 英語の祖先語	インド・ヨーロッパ語と英語
3 英語の外面史	ゲルマン民族の英国移動
4 英語の借入語	ケルト語・古ノルド語・フランス語
5 語彙の歴史	意味変化
6 文字とつづり字	アルファベット
7 発音の変化	つづり字と発音の不一致
8 名詞の発達 1	単数形と複数形
9 名詞の発達 2	代名詞と関係代名詞
10 語順の確立	語形変化の衰退がもたらしたもの
11 接続詞の発達	主節と従属節
12 動詞の発達	規則変化動詞と不規則変化動詞
13 進行形・受動態・完了形の発達	beとhave
14 準動詞の発達	不定詞・分詞助・動名詞
15 否定文と疑問文の発達	doの挿入
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	鈴木英明 <i>Hideaki Suzuki</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	翻訳論 I					

■授業のねらいと到達目標

日本語と英語の発想の違いを翻訳作業という実践を通じて理解すると同時に、直訳風の「英文和訳」とは異なり、また原文からかけ離れたいわゆる「超訳」とも異なる正確な翻訳を行う基礎力を養成します。

■授業の進め方（履修条件等）

英文法の枠組みを利用して、名詞、動詞（自制、法、態）といった項目にしたがって翻訳上の問題点を説明したあとで、実際に短い英文を翻訳してもらいます。

■成績評価方法・基準

授業時に行う小テストあるいは小レポート50%、定期試験50%の割合で評価します。

■授業の予習・復習

予習：指定された英文を翻訳してください。
復習：授業で示された翻訳例がなぜそのような訳になるのか、原文と照らしてもう一度確認してください。

■教科書

■参考文献

安西徹雄『英語の発想』（ちくま学芸文庫、2000年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 名詞 1	「主格関係」、「目的格関係」を表す所有格
2 名詞 2	動名詞と不定詞の意味上の主語
3 名詞 3	無生物主語の問題
4 名詞 4	代名詞をどう処理するか
5 形容詞・副詞 1	述語的に訳すべき場合
6 形容詞・副詞 2	副詞的に訳した方がよい形容詞
7 形容詞・副詞 3	比較の表現
8 動詞 1	時制について
9 動詞 2	受動態をどう訳すか①
10 動詞 3	受動態をどう訳すか②
11 動詞 4	仮定法の問題点①
12 動詞 5	仮定法の問題点②
13 関係代名詞 1	関係代名詞の処理の仕方①
14 関係代名詞 2	関係代名詞の処理の仕方②
15 概括	授業のまとめ

年 度	11年度入学		担 当 者	鈴木英明 Hideaki Suzuki		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	翻訳論Ⅱ					

■授業のねらいと到達目標

翻訳の具体的なプロセスを注意深く点検し、英語から日本語へのどのような構文上の転換が必要になるのかを検証することを通じて、高度な翻訳技術を養成します。

■授業の進め方（履修条件等）

英語の構文において翻訳上問題となるポイントを説明したあとで、ある程度の長さをもつ英文を実際に翻訳してもらいます。

■成績評価方法・基準

授業時に行う小テストあるいは小レポート50%、定期試験50%の割合で評価します。

■授業の予習・復習

予習：指定された英文を翻訳してきてください。
 復習：授業で示された翻訳例がなぜそのような訳になるのか、原文と照らしももう一度確認してください。

■教科書

■参考文献

安西徹雄『英語の発想』ちくま学芸文庫、2000年）
 鈴木直『輸入学問の功罪—この翻訳わかりますか？』
 （ちくま新書、2007年）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	文型 1	第 5 文型 (SVOC) ①
2	文型 2	第 5 文型 (SVOC) ②
3	文型 3	第 5 文型 (SVOC) ③
4	構文上の注意点 1	省略・共通構文
5	構文上の注意点 2	倒置①
6	構文上の注意点 3	倒置②
7	構文上の注意点 4	強調構文
8	接続詞の問題 1	Till (Until)、Before
9	接続詞の問題 2	As、Except
10	語法 1	直接語法、間接語法の問題点
11	語法 2	混合語法、描出語法
12	翻訳の実際 1	論説文の翻訳
13	翻訳の実際 2	小説の翻訳
14	翻訳の実際 3	詩の翻訳
15	概括	授業のまとめ

年 度	11年度入学		担 当 者	有馬容子 Yoko Arima		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	アメリカ文学史		アメリカ文学史			

■授業のねらいと到達目標

17世紀の植民地時代からはじまってアメリカ文学が成熟する20世紀初頭までの歴史をそれぞれの時代を代表する作品とともに概観します。取り上げる作品はいずれも時代を越えて評価され続けているアメリカを代表する古典ばかりです。古典という敬遠されがちですが、映画やドキュメンタリーなど視覚教材を適宜用いて親しみやすく紹介します。

■授業の進め方（履修条件等）

授業中に配布するプリントは学期末試験の範囲となります。プリントの配布は各授業時間中に限られるので欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

平常点（毎回作品の内容について自分の意見を提出）（50%）
 学期末レポート提出（50%）

■授業の予習・復習

復習：興味を持った作品について全体を読み、学期末レポートに備える。

■教科書

プリントを配布

■参考文献

『はじめて学ぶアメリカ文学史』板橋・高田編著 ミネルヴァ書房 1991
 『アメリカ文学史講義』〈1〉～〈3〉亀井 俊介著 南雲堂 1998
 『講義 アメリカ文学史』第Ⅰ巻～Ⅲ巻 渡辺利雄著 研究社 2007

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義概要	アメリカ文学の背景
2	植民地時代	ベンジャミン・フランクリン『自伝』
3	アメリカ文学の独立期(1)	①アーヴィングWashington Irving『スリーピー・ホロー伝説』
4	アメリカ文学の独立期(2)	②クーパーJames Fenimore Cooper『モヒカン族の最後』
5	アメリカ文学の開花(1)	①ソーローHenry David Thoreau『ウォールデン』
6	アメリカ文学の開花(2)	②ポーEdgar Allan Poe『アッシャー家の崩壊』
7	アメリカ文学の開花(3)	③ホーソンNathaniel Hawthorne『緋文字』
8	アメリカ文学の開花(4)	④メルヴィルHerman Melville『白鯨』
9	リアリズムと自然主義(1)	①トウエインMark Twain『ハックルベリー・フィンの冒険』
10	リアリズムと自然主義(2)	②ヘンリー・ジェームズHenry James『ある貴婦人の肖像』
11	リアリズムと自然主義(3)	③ロンドンJack London『野生の呼び声』
12	リアリズムと自然主義(4)	④ドライサーT. Dreiser『アメリカの悲劇』
13	アメリカ文学の成熟(1)	①フィッツジェラルドF. Scott Fitzgerald『偉大なるギャツビー』
14	アメリカ文学の成熟(2)	②スタインバックJohn Ernst Steinbeck『怒りの葡萄』
15	アメリカ文学の成熟(3)	③ヘミングウェイErnest Hemingway『老人と海』
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	新堀司 Tsukasa Niibori		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	イギリス文学史		イギリス文学史			

■授業のねらいと到達目標

この授業では、イギリスの中世文学期からヴィクトリア朝文学期ぐらいまでをとりあげる。授業のねらいは、それぞれの文学期の概要、主要作家・作品などを学習することで、イギリス文学に関する理解を深めることである。到達目標としては、各文学期の概要、主要作家・作品、用語などに関する基礎的な知識を身につけることである。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を通じて、イギリスの中世文学期からの各文学期の特徴、主要作家・作品、用語などを学習し、その後各文学期に関連した原文（英文）を読み、最後にまとめとして問題演習（プリント、主要作家・作品などの穴埋め、用語の説明）を行う。

■成績評価方法・基準

出席状況（10%）、提出物（問題演習プリント：30%）、試験の結果（60%）による総合的評価。なお、学習態度不良の場合は、減点する。

■授業の予習・復習

予習：毎回1つの章ぐらい進むので、それに応じて、教科書を読むこと。
復習：必要に応じて指示。

■教科書

川崎寿彦、『イギリス文学史入門』、研究社、およびプリント。

■参考文献

授業中に指示。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の内容、進め方などの説明
2	古期から中世へ	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
3	ルネッサンスが花ひらく	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
4	演劇の時代の到来	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
5	そしてシェイクスピア登場	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
6	シェイクスピアの劇場	ルネッサンス期の劇場、名台詞など
7	時代は清教徒革命に向かう	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
8	清教徒革命の後	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
9	十八世紀の散文、詩、そして劇	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
10	小説時代の到来	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
11	ロマン主義の光と影	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
12	ヴィクトリア朝の詩と散文	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
13	ヴィクトリア朝の小説	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
14	20世紀文学	主要作家・作品など
15	まとめ	授業内容の総まとめ
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山下美樹 Miki Yamashita		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション		

■授業のねらいと到達目標

私たちのキャンパス、社会においても、グローバル化はますます進んでいます。本コースでは、こうした異文化共存社会に対応していくために、異文化コミュニケーション理論・概念をはじめ、異なる価値観、コミュニケーションスタイルについて理解し、異文化コミュニケーション能力を高めることを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

講義だけではなく、エクササイズ、シミュレーションゲームを体験しながら、異文化体験の中で受けるカルチャーショック、異文化間で起こりうる衝突、問題を理解し、その克服法・対処法を習得することを目指します。

■成績評価方法・基準

受講参加度、期末試験、出席日数より評価。
A：100～90点（欠席0～1回）
B：89～80点（欠席2回以下）
C：79～70点（欠席3回以下）
D：69～60点（欠席4回以下）
F：59点以下（欠席5回以下）

■授業の予習・復習

予習：授業の初日に指示いたします。
復習：授業の初日に指示いたします。

■教科書

授業内で配付

■参考文献

『異文化間コミュニケーション』ジョン・コンドン、サイマル出版会。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	
2	異文化コミュニケーションとは	コミュニケーションの定義
3	見える文化と見えない文化	価値観・信念を知る重要性
4	コミュニケーションスタイル	高文脈文化・低文脈文化
5	価値観の違い	個人主義・集団主義文化
6	非言語コミュニケーションⅠ	ジェスチャー・顔の表情
7	非言語コミュニケーションⅡ	スペース・時間の使い方
8	非言語コミュニケーションⅢ	パラ言語
9	カルチャーショック	兆候と対処法
10	異文化適応力	異文化に遭遇した時の対処法
11	ステレオタイプ・差別	自己の価値観・社会の価値観
12	聴くコミュニケーション	相手を傾聴するとは
13	コンフリクトマネジメント	コンフリクトの対処法
14	異文化感受性モデルの紹介	異文化適応段階について
15	アサーティブコミュニケーション	自分・相手を尊重する
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	村川庸子 Yoko Murakawa		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	比較文化論	比較文化論	比較文化論	比較文化論		

■授業のねらいと到達目標

本講義では、まず「文化とは何か」「文化を比較するとは何か」という問題から説き起こし、日米両国における日本文化/アメリカ文化研究、日本人論/アメリカ人論の系譜を跡づけます。併せて日米両国の狭間で生きた日系アメリカ人のアイデンティティのゆらぎを考察します。国際化の時代、異文化を理解することの意味を一緒に考えて行きましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

英語教職課程受講者の選択必修科目である。

■成績評価方法・基準

学生にはコーネル式ノート作成法を指導する。日々のノートの整理（60%）と最終の試験（40%）で評価する。

■授業の予習・復習

予習：事前に配布する資料に目を通しておくこと。
復習：毎回、ノートの整理を行うこと。ノートは中盤と期末の二回、提出を求める。

■教科書

テキストは使用しない。事前に資料を配布する。

■参考文献

必要に応じて資料を配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション①	コーネル式ノート作成法の紹介
2 イントロダクション②	文化とは何か？
3 日本文化論①	日本文化論の系譜
4 日本文化論②	日本人論の系譜
5 ジャパノロジー①	『菊と刀』『菊と刀再考』
6 ジャパノロジー②	「日本」「日本人」の相対化
7 アメリカ文化論①	アメリカ文化論の系譜
8 アメリカ文化論②	アメリカ人論の系譜
9 アメリカン・スタディーズ①	アメリカ文化の神話性・フロンティア論
10 アメリカン・スタディーズ②	アメリカ文化の神話性・人種・民族・階級・ジェンダー
11 事例研究①	日系アメリカ人の歴史：二つの文化の狭間で生きて
12 事例研究②	日系アメリカ人の歴史：強調と対立
13 事例研究③	日系アメリカ人の歴史：自己と他者の相対化
14 新たな時代へ	日米比較文化から見る今後の日米関係
15 まとめ	
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	佐藤佳子 Keiko Sato		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	英米児童文学 I	英米児童文学 I	英米児童文学 I	英米児童文学 I		

■授業のねらいと到達目標

20世紀以降のイギリス児童文学を読みます。日本でも人気のビアトリックス・ポッターの代表作である『ピーターラビットのおはなし』を、作者の生い立ち・時代背景・思想を視野に入れながら原作で読み進めていきます。また、同時代の動物を主体とする有名な物語であるA.A.ミルンの『熊のプーさん物語』を取り上げます。

■授業の進め方（履修条件等）

学期の前半は、ポッター『ピーターラビットのおはなし』を分析します。後半は、A.A.ミルンの『熊のプーさん物語』を英語で読みます。DVD等の映像も使用しながら、ポッターとミルンの世界を考えていきます。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加、課題への取り組み、試験などを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：その日に取り上げる作品（Chapter）を読んできてください。
復習：授業で議論したところを再度読み、理解を深めてください。

■教科書

A.A.ミルン『熊のプーさん物語』英宝社

■参考文献

適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	20世紀イギリス児童文学作品と時代背景
2 ビアトリックス・ポッター	作者と作品について
3 『ピーターラビットのおはなし』	ポッター湖水地方
4 『ベンジャミンバニーのおはなし』	自然観について①
5 『ベンジャミンバニーのおはなし』	自然観について②
6 A.A.ミルン	作者と作品について
7 Chapter I	We are introduced to Winnie-the-Pooh and some bees, and the stories begin
8 Chapter II	Pooh goes visiting and gets into a tight place
9 Chapter III	Pooh and Piglet go hunting and nearly catch a wozzle
10 Chapter IV	Eeyore loses a tail and Pooh finds one
11 Chapter V	Kanga and baby Roo come to the Forest, and Piglet has a bath
12 Chapter VI	Tigger comes to the forest and has breakfast
13 Chapter VII	Pooh invents a new game and eeyore joins in
14 Chapter VIII	Tigger is Unbounced
15 まとめ	ポッターとミルンについて
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	佐藤佳子 Keiko Sato		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	2年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	英米児童文学Ⅱ	英米児童文学Ⅱ	英米児童文学Ⅱ	英米児童文学Ⅱ		

■授業のねらいと到達目標

20世紀以降のイギリス児童文学、特にファンタジー文学を読みます。C.S.ルイスの『ナルニア国物語』の中の、主に第1章から第3章の作品を英語で読み、ナルニアに描かれたルイスのファンタジーの本質について考察します。また、ルイスが多なる影響を受けたといわれているJ.R.R.トールキンの作品も取り上げます。

■授業の進め方（履修条件等）

学期の前半は、トールキンの代表作『ホビットの冒険』や『指輪物語』について学びます。後半は、ルイスの『ナルニア国物語』を選んで読みます。DVDを必要に応じて使用します。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加、課題への取り組み、試験などを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：その日に取り上げる作品（Chapter）を読む。
復習：授業で取り上げたところを再度読み、理解を深めてください。

■教科書

The Chronicles of Narnia: The Voyage of the Dawn Treader
HarperCollins

■参考文献

適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	20世紀イギリスのファンタジー文学について
2 J.R.R.トールキン	作者の生い立ちについて
3 トールキンの作品	『ホビットの冒険』
4 『指輪物語』	作品分析と思想背景
5 C.S.ルイス	作者の生い立ちについて
6 『ライオンと魔女』①	想像力について
7 『ライオンと魔女』②	過去への憧憬
8 『カスピアン王子のつのぶえ』①	時代背景との関連性から読み解く
9 『カスピアン王子のつのぶえ』②	ナルニア国の風景
10 『朝びらき丸東の海へ』①	子どもの変化・成長について
11 『朝びらき丸東の海へ』②	過去の喪失
12 『朝びらき丸東の海へ』③	場所の回復
13 『朝びらき丸東の海へ』④	善と悪について
14 『朝びらき丸東の海へ』⑤	作品の結末
15 まとめ	トールキンとルイス
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	鈴木英明 Hideaki Suzuki		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	2年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	英米文学講読Ⅰ					

■授業のねらいと到達目標

Jane Austenの小説*Pride and Prejudice*（『自負と偏見』）は、二組の男女の恋の行方と日常を、鋭い観察眼とユーモアをもって描いた名作です。この小説を講読することによって、原作（英語）に触れることの楽しさを味わうと同時に、各登場人物のものの見方、考え方を批判的に検討する力を養います。

■授業の進め方（履修条件等）

演習形式で講読していきます。同時に、小説の内容を理解するための手助けとして、イギリスBBC放送制作のドラマ*Pride and Prejudice*を鑑賞します。授業の終わりには、その回の授業内容に関する小テストを行います。

■成績評価方法・基準

小テスト50%、定期テスト50%の割合で評価します。

■授業の予習・復習

予習：邦訳『自負と偏見』を参考にしながら、テキストの指定された範囲を読んでおくこと。
復習：各回の授業で読んだ範囲を読みなおし、不明な点があれば次回の授業で質問すること。

■教科書

Jane Austen, *Pride and Prejudice: 2500 Headwords (Oxford Bookworms Library)*. Oxford University Press; New edition (2007年) および、オースティン『自負と偏見』中野好夫訳（新潮文庫）

■参考文献

大島一彦『ジェイン・オースティン』（中公新書、1997年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 授業概要	今後の授業の内容、進め方等について説明します。
2 第1章	ベネット夫妻
3 第2章	エリザベスとダーシーとの最初の出会い
4 第3章	ジェーンの風邪
5 第4章	コリンズ牧師
6 第5章	エリザベスとウィッカム
7 第6章	シャーロットとコリンズ牧師との結婚
8 第7章	最初のプロポーズ
9 第8章	ダーシーからの手紙
10 第9章	ジェーンとビングリー
11 第10章	ペンバリー荘園への旅行
12 第11章	ダーシーの変化
13 第12章	リディアの駆け落ち
14 第13章	二度目のプロポーズ
15 最終章	大団円

年 度	11年度入学		担 当 者	増井由紀美 Yukimi Masui		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	英米文学講読Ⅱ					

■授業のねらいと到達目標

アメリカ文学の作品を原書で読むことにより英語力を身につけるとともに、その作品の背景を学び、自分の解釈ができる様に指導する。描かれた舞台（ニューヨーク）と、描かれた人物が視覚化できるまで理解を深めます。

■授業の進め方（履修条件等）

本授業は英語で行います。受講者をグループに分け、毎回担当チームの報告から授業を始めます。全員がテキストを読んでいることが前提です。

■成績評価方法・基準

レポート或は期末試験

■授業の予習・復習

予習：指定された箇所を必ず読んでから授業に出席します。
復習：授業での議論をもとに自宅で再読します。

■教科書

The Catcher in the Rye by J. D. Salinger (Penguin; Re-issue版) 2010年

■参考文献

授業内指示

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Introduction to the course	Discussion on American literature in general
2	New York	What kind of image do you have about NY?
3	Presentation 1	Chapter 1 & Chapter 2
4	Presentation 2	Chapter 3 & Chapter 4
5	Presentation 3	Chapter 5 & Chapter 6
6	Presentation 4	Chapter 7 & Chapter 8
7	Presentation 5	Chapter 9 & Chapter 10
8	Presentation 6	Chapter 11 & Chapter 12
9	Presentation 7	Chapter 13 & Chapter 14
10	Presentation 8	Chapter 15 & Chapter 16
11	Presentation 9	Chapter 17 & Chapter 18
12	Presentation 10	Chapter 19 & Chapter 20
13	Presentation 11	Chapter 21 & Chapter 22
14	Presentation 12	Chapter 23 & Chapter 24
15	Presentation 13	Chapter 25
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	鈴木英明 Hideaki Suzuki		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	英米文学特講Ⅰ		英米文学特講Ⅰ（イギリス小説）			

■授業のねらいと到達目標

19世紀初頭から世紀末のイギリスで書かれた三つの怪奇小説をさまざまな角度から読みながら、作品が書かれた時代の人々の無意識的な欲望や当時の知的言説（哲学、生物学、政治経済学等々）と文学テキストとの関わりを考えます。そうすることによって、現代に生きる私たちの足元を見つめ直すことが授業のねらいです。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回の授業で数枚のプリントを配布し、それに基づいて授業を行います。毎回の授業の終わりに、その授業内容に関する小テストを行います。

■成績評価方法・基準

小テスト50%、定期試験50%の割合で評価します。

■授業の予習・復習

予習：特にありません。
復習：授業で取りあげる三つの小説のうち、少なくとも一つの作品を読了すること（邦訳で可）。

■教科書

■参考文献

久守和子、中川僚子編著『シリーズもっと知りたい名作の世界 ①フランケンシュタイン』（ミネルヴァ書房、2006年）。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義概要	講義全体の概要、講義方法等についての説明
2	『フランケンシュタイン』1	作品の歴史的背景と内容の説明
3	『フランケンシュタイン』2	ジェンダー批評とフェミニズム批評
4	『フランケンシュタイン』3	精神分析批評
5	『フランケンシュタイン』4	映画における『フランケンシュタイン』
6	『ドリアン・グレイの肖像』1	作品の歴史的背景と内容の説明
7	『ドリアン・グレイの肖像』2	世紀末の唯美主義
8	『ドリアン・グレイの肖像』3	男性同性愛と表象
9	『ドリアン・グレイの肖像』4	心とからだ（生理心理学）
10	『ドリアン・グレイの肖像』5	私的所有と自由
11	『ドラキュラ』1	作品の歴史的背景と内容の説明
12	『ドラキュラ』2	東方（東欧ユダヤ人とドイツ）問題
13	『ドラキュラ』3	吸血の政治学
14	『ドラキュラ』4	アイルランドの大飢饉
15	概括	これまでの講義のまとめ

年 度	11年度入学		担 当 者	有馬容子 Yoko Arima		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	英米文学特講Ⅱ		英米文学特講Ⅱ (アメリカ小説)			

■授業のねらいと到達目標

現在高く評価されているアメリカの2人の作家に焦点を当て、それぞれの作家の作品を数編ずつ取り上げます。幅広く活躍する彼らの作品世界を共有することにより、新たな物の見方を学ぶことが目的です。前半はアーシュラ・K・ル＝グウィン、後半はジョン・クロウリーの作品を読みます。

■授業の進め方 (履修条件等)

全員が期間中に発表すること (各自グループで1回) が単位認定のために必要な条件となります (方法については開講時に説明)。「アメリカ文学史」「英米文学概論」の両方、あるいはいずれかを既に受講している人に適しています。

■成績評価方法・基準

発表内容 (35%) 毎回提出するコメント (30%) 学期末提出のレポート (35%)

■授業の予習・復習

復習: 特に興味を持った作品については作品全体を読み、学期末のレポートに備える。

■教科書

講義で取り上げる作品。購入の必要な図書についてはリストを配布。

■参考文献

「アメリカ文学史」平石 貴樹著 松柏社 2010
「ファンタジーと言葉」アーシュラ・K・ル＝グウィン著
青木由紀子訳 岩波書店 2006

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義概要 進め方の説明	
2 アーシュラ・K・ル＝グウィンについて	作家と作品について紹介
3 ル＝グウィン (1)	『世界の合言葉は森』1章～2章
4 ル＝グウィン (2)	『世界の合言葉は森』3章～4章
5 ル＝グウィン (3)	『世界の合言葉は森』5章～6章
6 ル＝グウィン (4)	『世界の合言葉は森』7章～8章
7 ル＝グウィン (5)	「オメラスから歩み去る人々」
8 ル＝グウィン (6)	「帝国より大きくゆるやかに」(1)
9 ル＝グウィン (7)	「帝国より大きくゆるやかに」(2)
10 ジョン・クロウリーについて	作家と作品について紹介
11 クロウリー (1)	「ナイチンゲールは夜に歌う」
12 クロウリー (2)	「時の偉業」1章～2章
13 クロウリー (3)	「時の偉業」3章～4章
14 クロウリー (4)	「時の偉業」5章～6章
15 クロウリー (5)	「ノヴェルティ」
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	新堀司 Tsukasa Niibori		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	英米文学特講Ⅲ		英米文学特講Ⅲ (イギリス詩)			

■授業のねらいと到達目標

この授業では、第19世紀前半の、いわゆるイギリス・ロマン派の詩人、ウィリアム・ワーズワス (1770-1850) の詩をとりあげる。授業のねらいは、彼の主だった詩篇を通じて、イギリスの詩の鑑賞力を養うことである。また到達目標としては、詩の基礎的な読解力・鑑賞力を身につけることである。

■授業の進め方 (履修条件等)

受講生の発表を主体とした演習形式。担当者による発表の後に、他の受講生を含めて詩を検討、鑑賞する。なお、とりあげる詩篇の順番は講義スケジュール参照 (状況に応じて進度を調整する)。

■成績評価方法・基準

平常点 (40%)、試験の結果 (60%) による総合的評価。

■授業の予習・復習

予習: 次回にとりあげる詩の予習 (不明な単語の発音・意味調べなど)。

復習: 必要に応じて指示。

■教科書

プリントを用いる。

■参考文献

授業中に指示。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業内容などの説明
2 ワーズワスの詩①	"My heart leaps up" の鑑賞
3 ワーズワスの詩②	"The Tables Turned" の鑑賞
4 ワーズワスの詩③	"To the Cuckoo" の鑑賞
5 ワーズワスの詩④	"I wandered lonely as a cloud" の鑑賞
6 ワーズワスの詩⑤	"Poor Susan" の鑑賞
7 ワーズワスの詩⑥	"The Solitary Reaper" の鑑賞
8 ワーズワスの詩⑦	Lucy Poems鑑賞
9 ワーズワスの詩⑧	"Michael" の前半部鑑賞
10 ワーズワスの詩⑨	"Michael" の後半部鑑賞
11 ワーズワスの詩⑩	"Composed upon Westminster Bridge" の鑑賞
12 ワーズワスの詩⑪	"It is a beauteous evening" の鑑賞
13 ワーズワスの詩⑫	"Tintern Abbey" の前半部鑑賞
14 ワーズワスの詩⑬	"Tintern Abbey" の後半部鑑賞
15 まとめ	授業内容の総まとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	増井由紀美 Yukimi Masui		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	英米文学特講Ⅳ		英米文学特講Ⅳ (アメリカ演劇)			

■授業のねらいと到達目標

アメリカ演劇を通史的にとらえた上で、現代アメリカ演劇を代表するArthur Millerの作品を精読・分析します。そして人物の描かれ方に注目しながら、表現／演出について自分の意見が出せるように指導します。

■授業の進め方（履修条件等）

クラスのメンバーと一緒にテキストを丁寧に読んで行きます。グループごとの報告会を行います

■成績評価方法・基準

レポート
期末試験

■授業の予習・復習

予習：指定された箇所を授業の前までに読んでおく。
復習：読んで意味をとったら自分が監督になったつもりで演出を考えてみましょう。

■教科書

All My Sons by Arthur Miller (Penguin Classics, 2000年)

■参考文献

授業内指示

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	授業の進め方の説明
2	アメリカ演劇史	通史的にみて、扱う作品を全体の中で位置づける
3	作家について	Arthur Millerとその他の作品
4	Act One	時代設定を考える
5	Act One	家族のメンバーの役割について考える
6	Act One	グループに分け音読。解釈の共有
7	Act One	象徴的な意味について考える
8	Act Two	罪の描かれ方を分析
9	Act Two	つくらないとは（父／息子；母／息子）
10	Act Two	グループに分け音読。解釈の共有
11	ビデオ鑑賞	監督の解釈について議論
12	Act Three	不安の描き方について考える
13	Act Three	救いについて考える
14	Act Three	グループに分け音読。解釈の共有
15	まとめ	本作品の現代的な意味について意見交換
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	中村圭三 Keizo Nakamura		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	4
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	2年次専門研究		2年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

本ゼミでは、「印旛沼流域鹿島川における自然環境調査」をテーマに、ゼミ活動を実施する。調査の準備・実施・成果の取りまとめを通して、調査研究の進め方を修得させる。

■授業の進め方（履修条件等）

前期には、鹿島川に関する文献収集・土地利用調査・調査機器類の準備等を行う。夏期休暇中に現地調査を実施し、後期には成果のとりまとめを行う。

■成績評価方法・基準

出席30%、定期試験70%の比率で成績を評価する。

■授業の予習・復習

予習：ゼミの調査研究テーマに関する文献・資料等に目を通しておく。
復習：ゼミで取り上げた内容について、文献・図鑑等で確認する。

■教科書

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007

■参考文献

授業の中で、適宜指示する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方についての説明
2	印旛沼の水と生態 (1)	印旛沼とその流域
3	印旛沼の水と生態 (2)	水源としての印旛沼
4	印旛沼の水と生態 (3)	自然環境
5	鹿島川の水と生態 (1)	農業と漁業
6	鹿島川の水と生態 (2)	水質悪化とその原因
7	鹿島川の水と生態 (3)	生態系の変化
8	水質調査法学習 (1)	水質調査機器
9	水質調査法学習 (2)	pH、ECなどの測定
10	水質調査法学習 (3)	バックテストによる水質調査
11	生態調査法学習 (1)	水生生物の採取方法
12	生態調査法学習 (2)	印旛沼流域に生息する水生生物
13	生態調査法学習 (3)	水生生物の撮影方法
14	土地利用調査学習 (1)	土地利用図による調査
15	土地利用調査学習 (2)	衛星画像による調査
16	調査データ整理 (1)	流量の計算 (1)
17	調査データ整理 (2)	流量の計算 (2)
18	調査データ整理 (3)	水質データの整理
19	調査データ整理 (4)	水質データの整理・水生生物データの整理
20	調査データ整理 (5)	水生生物データの整理
21	統計・グラフ解析 (1)	流量
22	統計・グラフ解析 (2)	水質 (1)
23	統計・グラフ解析 (3)	水質 (2)
24	統計・グラフ解析 (4)	水生生物 (1)
25	統計・グラフ解析 (5)	水生生物 (1)
26	研究成果報告会準備 (1)	パワーポイント作成 (1)
27	研究成果報告会準備 (2)	パワーポイント作成 (2)
28	研究成果報告会準備 (3)	パワーポイント作成 (3)
29	報告	研究成果報告会
30	まとめ	

年度	11年度入学		担当者	有馬容子 <i>Yoko Arima</i>		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単位	4
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	2年次専門研究		2年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

現代アメリカ文学の短編・中編を中心に様々な作品を読みます。少人数のゼミでじっくり読むことにより小説を能動的に読む力を身につけましょう。第一の目的はアメリカ文学の面白さを知ることであり、最終的には原文で鑑賞できるようになることを目指します。3・4年次までには自分の好きな作家や作品を見つけてみましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミで読む作品については各自の担当が決められ、発表することになります。全員が終了時までに数回発表することになります。自分の担当する回は絶対に欠席しないこと。積極的にゼミに参加し、自分の意見を述べられるよう心がけてください。

■成績評価方法・基準

平常点（担当部分の発表内容、扱う作品全般について取り組む態度）(70%) 学期末提出のレポート (30%)

■授業の予習・復習

予習：ゼミで取り上げる予定の作品を読み、自分の意見を述べられるように準備する。発表者はレジュメを用意。

■教科書

購入の必要な作品については開始時に図書リストを配布。

■参考文献

Joyce Carol Oates. *The Faith of a Writer: Life, Craft, Art.* (『作家の信念—人生、仕事、芸術』) New York: Ecco Press, 2003

■授業内容

授業項目	授業内容
1 専門研究の取り組み方について説明	
2 「最後のクラス写真」ダン・ジモンズ (1)	読み方について（相筋、主題、主要人物）作者について
3 「最後のクラス写真」(2)	作品について意見を出し合う。
4 「最後のクラス写真」(3)	要所を英文で読む。
5 「入り江」スティーヴンキング (1)	読み方について（相筋、主題、主要人物）作者について
6 「入り江」(2)	作品について意見を出し合う。
7 「入り江」(3)	要所を英文で読む。
8 「北斎の富嶽二十四景」ロジャー・セラスニイ (1)	読み方について（相筋、主題、主要人物）作者について
9 「北斎の富嶽二十四景」(2)	作品について意見を出し合う。
10 「北斎の富嶽二十四景」(3)	要所を英文で読む。
11 「みっともないニワトリ」ハワード・ワルドロップ (1)	読み方について（相筋、主題、主要人物）作者について
12 「みっともないニワトリ」(2)	作品について意見を出し合う。
13 「みっともないニワトリ」(3)	要所を英文で読む。
14 前期まとめ	前期に読んだ作品全体について意見を出し合う。
15 レポートの書き方について	アウトラインを提出
16 レポート返却	評価についてコメント
17 「ペーパー・ドラゴン」ジェイムズ・P・ブレイロック (1)	読み方について（相筋、主題、主要人物）作者について
18 「ペーパー・ドラゴン」(2)	作品について意見を出し合う。
19 「ペーパー・ドラゴン」(3)	要所を英文で読む。
20 「もの言う馬」バーナード・マラマッド (1)	読み方について（相筋、主題、主要人物）作者について
21 「もの言う馬」(2)	作品について意見を出し合う。
22 「もの言う馬」(3)	要所を英文で読む。
23 「氷の世界」ジョイス・キャロル・オーツ (1)	読み方について（相筋、主題、主要人物）作者について
24 「氷の世界」(2)	作品について意見を出し合う。
25 「氷の世界」(3)	要所を英文で読む。
26 「満たされた欲望」オーツ (1)	読み方について（相筋、主題、主要人物）作者について
27 「満たされた欲望」(2)	作品について意見を出し合う。
28 「満たされた欲望」(3)	要所を英文で読む。
29 後期まとめ	前期に読んだ作品全体について意見を出し合う。
30 レポートの書き方について	アウトラインを提出

年度	11年度入学		担当者	家近亮子 <i>Ryoko Ichika</i>		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単位	4
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	2年次専門研究		2年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

本年度は日本と中国の近代史及び日中関係史を学びます。日本の近代史は明治維新に至る歴史から、中国はアヘン戦争に至る歴史から読み起こし、太平洋戦争終結とその戦後処理まで、中国は内戦から中華人民共和国の成立までの歴史を学んでいきます。授業は教科書に沿って、講義と発表形式とを織り混ぜた方法ですすめていきます。ゼミのねらいは、自ら問題意識をもって積極的に授業に臨むことにあります。前期は毎回全員で問題にあたり、後期は発表者を決めて進めていきます。到達目標は、文章のまとめ方と発表方法を身に付けることにあります。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ生であることが履修条件です。授業は、教科書の読み合わせ、討論、発表、まとめを中心に進めていきます。

■成績評価方法・基準

ゼミなので、出席と積極的参加を重視します。適宜レポートを作成し、評価の対象とします。

■授業の予習・復習

予習：教科書を事前に読んで来ること。発表があたっている場合は、レジュメの作成
復習：授業の内容の整理。レジュメ及び配付資料の整理

■教科書

家近亮子『日中関係の基本構造』、晃洋書房、2004年

■参考文献

家近亮子・松田康博・段瑞聡『岐路に立つ日中関係』、晃洋書房、2007年
その他、各項目ごとに紹介していく。

■授業内容（前期）

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の内容と進め方の説明、自己紹介等
2 教科書第2章第1節①	近代以前の日本と中国—読み合わせ、問題提起
3 教科書第2章第1節②	近代以前の日本と中国—発表、まとめ
4 教科書第2章第2節①	福沢諭吉の「脱亜論」—読み合わせ、問題提起
5 教科書第2章第2節②	福沢諭吉の「脱亜論」—発表、まとめ
6 教科書第2章第3節①	日清戦争—読み合わせ、問題提起
7 教科書第2章第3節②	日清戦争—発表、まとめ
8 教科書第2章第4節①	「大日本帝国憲法」と「欽定憲法大綱」—読み合わせ
9 教科書第2章第4節②	「大日本帝国憲法」と「欽定憲法大綱」—発表、まとめ
10 教科書第2章第5節①	対華二十一ヶ条の要求—読み合わせ、問題提起
11 教科書第2章第5節②	「対華二十一ヶ条の要求」—発表、まとめ
12 教科書第2章第6節①	「日中戦争」—読み合わせ
13 教科書第2章第6節②	「日中戦争」—読み合わせ、問題提起
14 教科書第2章第6章③	「日中戦争」—発表、まとめ
15 総括討論	全体討論、レポートのテーマ、決定
16 定期試験	

■授業内容（後期）

授業項目	授業内容
1 レポート、発表①	レポートに基づく発表、討論
2 レポート、発表②	レポートに基づく発表、討論
3 教科書第2章第7節①	蔣介石の以德報怨の演説—読み合わせ、問題提起
4 教科書第2章第7節②	蔣介石の以德報怨の演説—発表、まとめ
5 教科書第2章第8節①	中華人民共和国の成立と日華平和条約—読み合わせ
6 教科書第2章第8節②	中華人民共和国の成立と日華平和条約—発表
7 教科書第2章第9節①	「日中国交正常化」—読み合わせ、問題提起
8 教科書第2章第9節②	「日中国交正常化」—発表、まとめ
9 教科書第1章第1節①	「台湾問題」—読み合わせ、問題提起
10 教科書第1章第1節②	「台湾問題」—発表、まとめ
11 教科書第1章第2節①	「歴史認識問題」—日本政府の公式見解について
12 教科書第1章第2節②	「歴史認識問題」—教科書問題について
13 教科書第1章第2節③	「歴史認識問題」—靖国神社参拝問題について
14 教科書第1章第2節④	「歴史認識問題」—尖閣諸島問題について
15 総括討論	全体ディスカッション、レポートのテーマ決定
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	覚正豊和 <i>Toyokazu Kakusho</i>		
区 分	国際学科	こども学科	対 象 学 年	2 年	単 位	4
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	2 年次専門研究		2 年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

2年プレゼミの目的は、3年次の専門ゼミの際に必要なとされる自主性に富んだ学習方法の確立にあると思います。そこで、プレゼミでは各自の興味や関心をもちたて積極的な学習への導入を図るため、新聞などを活用して情報収集、資料の探し方や調べ方、ディスカッションやディベート能力の育成さらにはレポートや論文の書き方やまとめ方などについてわかりやすく指導していきたいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において指示します。

■教科書

初回の授業において指示します。

■参考文献

授業において指示します。

■授業内容

演習の内容については本来、参加者の意見をもとに運営していくはずなので、はっきりしない面もありますが、次のような内容を予定しています。

回数	授業内容
1～2	オリエンテーション
3～7	<ul style="list-style-type: none"> ・法学的諸問題とは（なぜ、人間社会に問題が生じ、法が必要か） ・問題・テーマの発見方法（問題意識の明確化） ・基本書六法のつかいかた ・文献のよみかた ・判例のよみかた ・資料のあつめ方 ・発表にあたっての諸原則 ・レポート構成の方法 などについて講じ、興味、関心、理解を深めていくつもりです。
8～30	8回目以降は、毎回担当者を決めて、各自が興味をもっている分野のミニ報告を行い、問題解決能力およびディスカッション能力の養成をします。報告者は、レジュメ、黒板活用、関連資料などの提出により、実践的な研究発表になるように心がけて下さい。また、裁判の傍聴、最高裁判所見学、少年院や刑務所等の刑事施設見学も予定しています。

年 度	11年度入学		担 当 者	三幣利夫 <i>Toshio Sampei</i>		
区 分	国際学科	こども学科	対 象 学 年	2 年	単 位	4
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	2 年次専門研究		2 年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

グローバル経済下での企業活動に関し、その活動形態や、モノ・ヒト・カネの流れを分析し、海外展開の目的と問題点について学習する。各自の発表と議論を通じて、国際ビジネスの実態を知るとともに、自分で考える力と他人に説明する力を養う。

■授業の進め方（履修条件等）

テーマについて各自が発表し、議論をしながら進めたい。

■成績評価方法・基準

出席と議論への参加 70%
レポート 30%

■授業の予習・復習

予習：事前に与えられたテーマについて調べ、考えること。

■教科書

■参考文献

伊藤元重著『ゼミナール世界経済入門』日本経済新聞出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ゼミの進め方についての説明
2 日本貿易の動向-1	貿易額の推移
3 -2	相手国別分析
4 -3	商品別分析
5 -4	海上貨物・航空貨物の動き
6 流通	物流の仕組み
7 カネの移動	資本収支の推移、対外直接投資
8 ヒトの移動	出入国者数の推移
9 アジア生産ネットワーク-1	東アジア経済発展の歩み
10 -2	雁行型発展の変容
11 産業別実例研究(1)	自動車産業-1
12 (2)	自動車産業-2
13 (3)	電子産業
14 (4)	電機産業
15 (5)	アパレル産業
16 リーマンショックと世界経済	リーマンショックの影響
17 -2	新興国の成長と拡大
18 都市化の進行-1	都市化の進行と市場の拡大
19 -2	都市と農村の格差
20 世界の貿易体制-1	貿易体制の変遷
21 -2	自由貿易協定の利点・不利益
22 -3	FTAとEPAの違い
23 各国の事例調査(1)	各自の調査報告
24 (2)	各自の調査報告
25 (3)	各自の調査報告
26 食料の貿易-1	世界の食料貿易の現状
27 -2	流通と分配
28 トピックスについて討議(1)	ゼミ生による討議
29 (2)	ゼミ生による討議
30 (3)	ゼミ生による討議

年 度	11年度入学		担 当 者	高田洋子 Yoko Takada		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	4
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	2年次専門研究		2年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

ゼミとは何かを体験し、4年次までの3年間にわたる演習の基礎を習得します。現実の東南アジア世界ほかに起きる様々な現象に、自分なりの問題意識を培うことを1年間のねらいとします。

■授業の進め方（履修条件等）

できるだけITを活用する授業を進めます。ゼミの中心テーマを教員は講義しますが、各人は取り上げる問題について自分で情報を収集し、定期的にプレゼンテーションの訓練を行います。

■成績評価方法・基準

授業への積極的取り組みと年度末に提出するゼミ・レポートによって評価をつけます。

■授業の予習・復習

予習：日頃から東・東南・南アジアの現状と課題について情報を収集しましょう。
復習：特にありません。

■教科書

共通テキストは使用しない。ゼミ生の関心を聞いてから個別に対応する。

■参考文献

同上。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス（1）	ゼミのメンバー紹介・前期スケジュールを決める
2 ガイダンス（2）	ゼミで何を学ぶか 自分の目標を決める
3 序 東南アジア入門	地図を広げてみよう。どんな国があるか。
4 インドシナ半島部（1）	地形、国境線、社会構成を調べる
5 インドシナ半島部（2）	政治経済、歴史文化、国際関係を調べる。
6 島嶼とうしょ部（1）	地形、国境線、社会構成を調べる
7 島嶼とうしょ部（2）	政治経済、歴史文化、国際関係を調べる
8 現地を見てみる	ベトナムの今：写真のスライドショー
9 現地を感じてみる	現地の織物、衣装、食物、音楽などを教室に持ち込もう
10 各国をリサーチする	興味を持った国を選び、社会・政治・経済問題ほか、トピックなどを見つけて調べる。順番に発表を行う。
11～15 東アジア 発表①～⑤	朝鮮半島の歴史、韓国の財閥・経済発展、中国の貿易課題、中国と周辺国の国際関係、中国地方社会の経済などのテーマでグループ発表。
16～25 東南アジア 発表⑥～⑩	東南アジアの近代史、インドシナ半島と中国国際関係、東南アジアの華僑、ASEANの歴史と経済、アジアNIESの発展戦略、東南アジアとインド・日本等の経済関係、ベトナム戦争などのテーマをグループ発表。
25～27 アジア・グローバル・イシューのパネル展示	大学祭で、これまでの学習発表を準備、企画する。
28～30 1年間のまとめ	1年間の専門研究の成果と課題を確認する

年 度	11年度入学		担 当 者	高橋和子 Kazuko Takahashi		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	4
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	2年次専門研究		2年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、前期は、社会調査について、調査の種類と実例、調査方法、社会調査の実施過程、二次分析、調査倫理を学び、後期は、主に調査票調査の方法について、調査の企画から収集されたデータの整理の仕方に至るまでの過程を詳しく学ぶことです。到達目標は、3年次に調査を実施できる能力を身に付けることです。

■授業の進め方（履修条件等）

社会調査に必要な事項について講義形式で解説をします。データの分析方法を実習により学ぶ「社会調査のためのデータ解析」「経済・経営のためのデータ解析」を履修すること。「社会調査士」資格必須科目。

■成績評価方法・基準

平常点（ゼミへの参加・貢献度）100%

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありません。
復習：新しく学んだ事項についてよく復習してください。

■教科書

『社会調査へのアプローチ 第2版』大谷信介他著 ミネルヴァ書房 2005年

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 前期ガイダンス	ゼミで何を学ぶか 社会調査の目的
2 社会調査史	社会調査の歴史
3 社会調査の種類（1）	調査の種類と概要
4 社会調査の種類（2）	国勢調査と官庁統計
5 社会調査の種類（3）	世論調査
6 社会調査の種類（4）	学術調査
7 社会調査の種類（5）	マーケティング・リサーチ
8 調査方法論	社会調査の方法概要
9 調査方法種類（1）	量的調査と質的調査
10 調査方法種類（2）	統計的調査と事例研究法
11 調査方法種類（3）	調査票調査とフィールドワーク
12 社会調査のプロセス	社会調査の実施過程
13 二次分析	公開データの種類と利用の仕方
14 調査倫理	社会調査を実施する際に必要な倫理
15 前期のまとめ	社会調査の基本的事項の確認
16 後期ガイダンス	後期の目標 調査目的と調査方法
17 調査方法の決め方	調査方法の決め方調査企画と設計
18 調査票調査の方法（1）	調査企画と設計
19 調査票調査の方法（2）	仮説の構成
20 調査票調査の方法（3）	全数調査と標本調査
21 調査票調査の方法（4）	無作為抽出
22 調査票調査の方法（5）	標本数と誤差
23 調査票調査の方法（6）	サンプリングの方法
24 調査票調査の方法（7）	調査票の作り方（質問文）
25 調査票調査の方法（8）	調査票の作り方（回答・全体の構成）
26 調査票調査の方法（9）	調査の実施方法（調査票の配布・回収法など）
27 調査票調査の方法（10）	調査データの整理（コーディング、データクリーニング）
28 調査票調査の方法（11）	調査データの整理（コードブック作成など）
29 質的調査の方法	データ収集法（インタビューの仕方など）
30 まとめ	調査設計と実施方法の確認

年度	11年度入学		担当者	村川庸子 Yoko Murakawa		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	2年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	2年次専門研究		2年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

アメリカの歴史と現在の社会に関する入門のゼミナールです。前期は平易な英文に慣れていただきたいと思います。後期は少しレベルを上げてみましょう。日本語に関しても、3年次の専門ゼミに備え、読む、聞く、話す、書くの4技能の習得を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

前期はグループ別に仮想のアメリカ旅行を設定し、訪問地に関する情報（歴史、文化、交通、等）を収集し、報告してみましょう。後期は、アメリカの民主主義、産業、教育、政教分離等の文献を輪読し、討論します。特に批判的な読み方を身につけて欲しいと思っています。

■成績評価方法・基準

出席とクラスへの積極的な参加を重視します。逐次提出してもらった報告書と口頭報告を成績評価の主たる対象とします。

■授業の予習・復習

予習：平易ではありますが、ある程度の分量の邦文・英文を読んで行きます。予習は不可欠です。少しずつ分量を増やして行きますから、特に最初は頑張ってください。
復習：毎回、ノートをもとめていく習慣をつけていただきたいと思います。

■教科書

アメリカ大使館HP About the USA
<http://aboutusa.japan.usembassy.gov/j/>

■参考文献

適宜、指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	自己紹介、授業の進め方について
2 グループ・ワーク①	仮想アメリカ旅行 行く先の決定
3 グループ・ワーク②	仮想アメリカ旅行 資料収集
4 グループ・ワーク③	仮想アメリカ旅行 データの整理→とりまとめ
5 グループ・ワーク④	仮想アメリカ旅行 旅程表の作成
6 教員と面接（グループ）①	旅行プランの英文の翻訳
7 教員と面接（グループ）②	旅行プランの英文の翻訳
8 プレゼンテーション準備①	旅行参考資料作成（英文・和文併記）
9 プレゼンテーション準備②	旅行参考資料作成（英文・和文併記）
10 プレゼンテーション①	グループ別
11 プレゼンテーション②	グループ別
12 プレゼンテーション③	グループ別
13 プレゼンテーション④	グループ別
14 反省会	
15 夏休み期間中の学習に向けて	後期の授業について説明、夏休みの課題指示
16 定期試験・講評	
17 ガイダンス	報告の方法（レジュメの作り方、など）
18 講義	「アメリカの歴史の学び方」
19 講義	「アメリカ社会を考える」
20 資料輪読（US大使館HPより）	「多民族国家アメリカ」
21 資料輪読	「アメリカの民主主義（1）」
22 資料輪読	「アメリカの民主主義（2）」
23 ビデオ鑑賞	「青い目、茶色い目」
24 ビデオ鑑賞	「アメリカ公民権運動」
25 報告・ディベート	アメリカの「民主主義」について
26 資料輪読（大使館HP）	「アメリカの産業 農業」
27 資料輪読	「アメリカの産業 大量生産」
28 資料輪読	「アメリカの産業 労働運動」
29 資料輪読	「アメリカの産業 経済制度」
30 ビデオ鑑賞	「世界同時食糧危機」
31 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	山本健 Takeshi Yamamoto		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	2年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	2年次専門研究		2年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

2年次ゼミは、経済の基礎を勉強します。まずは日本語能力試験の受験を想定して、前期ではテキストを利用して、日本語のブラッシュアップに努めます。後期では、「経済のしくみ」の基本用語の説明を行います。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストの輪読（音読）を中心に、課題や感想文の宿題も出します。必ず提出のこと。添削して返却します。なお1限目なので、遅刻や欠席をする場合は必ず連絡すること。ビデオを鑑賞（2回）した際は、その感想文を義務とします。

■成績評価方法・基準

評価は、出席状況、提出物、討論への参加度などによる。

■授業の予習・復習

予習：発表者は必ず、それ以外の人も毎回、発表者のつもりになって、読んでくること。
復習：今より上位（級）の日本語能力試験の合格をめざして、整理しておくこと。

■教科書

- ① 蛇蔵&海野尻子『日本人の知らない日本語』（メディアファクトリー、2010年）
- ② 岸本重陳『経済のしくみ100話』（岩波ジュニア新書145、1993年）

■参考文献

- ① 蛇蔵&海野尻子『日本人の知らない日本語2』（メディアファクトリー、2010年）
- ② 稲葉振一郎『増補 経済学という教養』（ちくま文庫、2008年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方とグループ化についての説明
2 日本のテキストの輪読①	3～4人の発表者による音読と質疑応答 第1章「外国人の素朴な疑問」
3 日本のテキストの輪読②	第2章「そんな日本語使いません」
4 日本のテキストの輪読③	第3章「間違いない敬語」
5 日本のテキストの輪読④	第4章「トコロかわれば」
6 日本のテキストの輪読⑤	第5章「知られざる仮名の過去」
7 日本のテキストの輪読⑥	第6章「世界の漢字」
8 日本のテキストの輪読⑦	第7章「標準語について」
9 日本のテキストの輪読⑧	第8章「日本のルール」
10 日本のテキストの輪読⑨	第9章「日本語学校にて」
11 日本のテキストの輪読⑩	第10章「日本いいクニ」
12 日本語の習熟度テスト①	敬語について
13 日本語の習熟度テスト②	外来語について
14 日本語の習熟度テスト③	文法について
15 前期のまとめ	小試験と夏休みの宿題（作文）について
16 夏休みの宿題の講評	
17 経済のテキストの輪読①	3～4人の発表者による音読と質疑応答 円高と円ルート
18 経済のテキストの輪読②	円高不況
19 経済のテキストの輪読③	円高差益
20 経済のテキストの輪読④	貿易摩擦と日米経済摩擦
21 経済のテキストの輪読⑤	貿易黒字と貿易赤字
22 経済のテキストの輪読⑥	国際化と海外投資、そして産業空洞化
23 経済のテキストの輪読⑦	内需拡大と外需依存
24 経済のテキストの輪読⑧	プラザ合意と前川レポート
25 経済のテキストの輪読⑨	赤字国債と刷制改革
26 経済のテキストの輪読⑩	高齢者社会
27 経済のテキストの輪読⑪	金融の自由化と低金利時代
28 経済のテキストの輪読⑫	カード会社とサラ金
29 経済のテキストの輪読⑬	不動産の高騰と恐慌（バブル）
30 後期のまとめ	小試験

年 度	11年度入学		担 当 者	織井啓介 <i>Keisuke Orii</i>		
区 分	国際学科	こども学科	対 象 学 年	2 年	単 位	4
科 目 名			対 象 学 年	2 年	単 位	4
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	2 年次専門研究		2 年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

「時事英語・国際経済経営のゼミ」です。英語では、英文法の復習を通して基礎力充実を図るとともに、時事的・実務的な英文に触れ応用力をつけます。経済・経営では、マーケティングの基礎から勉強を始めましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

経済・金融の基本科目を並行して受講しましょう。定期的に英検・TOEICを受験しましょう（在学中に英検2級以上、TOEIC600点以上が目標です）。

■成績評価方法・基準

平常点と日頃の研鑽態度で評価します。

■授業の予習・復習

予習：事前のアサインメントをこなしてゼミに臨みましょう。
復習：ゼミで配布する練習問題を次回授業時まで自宅に演習してください。

■教科書

プリントを配布します

■参考文献

週刊ST, *The Japan Times*、他。授業中に随時紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 今年度専門研究のガイダンス	今年度専門研究の指導方針説明
2 初級英文法①	名詞・代名詞
3 初級英文法②	動詞・助動詞
4 初級英文法③	受動態
5 初級英文法④	現在完了
6 初級英文法⑤	不定詞・動名詞
7 初級英文法⑥	形容詞・副詞
8 初級英文法⑦	分詞・関係代名詞
9 初級英文法⑧	前置詞・接続詞
10 中級英文法①	文の要素と5文型
11 中級英文法②	時制
12 中級英文法③	関係詞
13 中級英文法④	仮定法
14 中級英文法⑤	分詞構文
15 前期専門研究のまとめ	前期中の成果の確認・夏休み中の自己研鑽指導
16 後期専門研究のガイダンス	夏休み中の自己研鑽成果の確認・後期の指導方針説明
17 時事・経済英語研究①	Eメール・手紙
18 時事・経済英語研究②	ビジネス文書
19 時事・経済英語研究③	広告
20 時事・経済英語研究④	レポート
21 時事・経済英語研究⑤	英字新聞（政治記事）
22 時事・経済英語研究⑥	英字新聞（経済記事）
23 時事・経済英語研究⑦	英字新聞（社会記事）
24 経済・経営の基礎①	マーケティング入門
25 経済・経営の基礎②	マーケティングの基礎知識
26 経済・経営の基礎③	マーケティング戦略の課題
27 経済・経営の基礎④	市場
28 経済・経営の基礎⑤	物流
29 経済・経営の基礎⑥	広告戦略
30 今年度専門研究のまとめ	今年度の成果の確認・春休み中の自己研鑽指導
31 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	J.IKESHIMA		
区 分	国際学科	こども学科	対 象 学 年	2 年	単 位	4
科 目 名			対 象 学 年	2 年	単 位	4
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	2 年次専門研究		2 年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

This is a seminar in which students will learn about Puppetry. Students will study about various types of puppets, and techniques for using them to entertain audiences. Various puppet-related topics will be researched and discussed, including how to make puppets, how to design a puppet show, types of puppets and puppetry worldwide, and famous puppeteers and ventriloquists. At the end of the course students will be able to put on a puppet show and be skilled at the techniques involved.

■授業の進め方（履修条件等）

Students must have a high level of English ability (above 50 on the English Placement Test) to be in this class.

■成績評価方法・基準

Students will be required to research one aspect of puppetry and to write a report on it. The grade for the course will be based primarily on homework assignments and the final report, and to a lesser extent on attendance and class participation.

■授業の予習・復習

予習：Students should watch puppet shows on tv and youtube, and learn about puppets on their own.

復習：Students should review the class material after each class and do any homework that was assigned.

■授業内容

回数	授業内容
1～2	Introductions
3～4	The history of puppets
5～7	Puppets around the world
8～10	Well-known puppeteers
11～13	Puppets in Literature, Ballet, Theater
14～16	Review and Test
17～18	Types of Puppets
19～20	How to make puppets
21～22	Puppet Movements and Expressions
23～24	Puppet Voices and Ventriloquism
25～26	Elements of a Puppet Show
27～32	Performing with Puppets
33	定期試験

■教科書

Printed Material

■参考文献

Students should bring a dictionary to class.

年 度	11年度入学		担 当 者	こども学科専任教員		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	4
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	総合講座Ⅰ・Ⅱ(2年次専門研究)					

■授業のねらいと到達目標

教育に関わる諸問題や人類に共通する課題等を新聞や書籍など様々な情報を通して知ること、自分の考えを友達や教員の中で発表したり修正したりすること、多様なものに興味をもって取り組み、自らの課題として捉え深めること などを通して、自分の進む道を探します。

■授業の進め方(履修条件等)

ゼミ担任制をとります。課題についての資料をもとに話し合ったり、各自の体験や思いを交換したりしながら、理解を深めます。互いのよさや違いを感じ、多様な考えを受け入れられるようにします。毎週の具体的な学習はクラスによって異なります。

■成績評価方法・基準

毎時間の話し合いや活動、記録、課題への取り組み、発表、レポート等を総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：教員とともに課題を探し、取り組む
復習：課題を整理して、自分なりにまとめる

■教科書

配付資料のほか、各担当教員が指定したものをを用います。

■参考文献

適宜紹介します。

■授業内容

- 情報収集
さまざまな資料から、重要な資料を探したり、必要とされる資料を選んだりできるようにする。
- アカデミック・スキル
教科の基本的な学びや活動に応じた効果的な学習方法を知る。
- コミュニケーション力
自分の考えを適切に表現する力をつけるとともに、相手の意見や立場を理解し、問題意識を共有できる力を身につける。
- 教育や学校についての課題
教員になるうえで欠かせない今日的な教育や学校についての課題意識をもてるようにする。自己の体験から学校の課題などを考え、意見を交換しながら思考を深める。
- 3年次へ向けて
3年次以降の学習計画を立て、目標を意識した履修科目等、自己の学習状況を把握し、進路について真剣に考える。

年 度	11年度入学		担 当 者	中村圭三 Keizo Nakamura		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単 位	4
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

本ゼミでは、2年生で実施した「印旛沼流域鹿島川における自然環境調査」について、さらにレベルアップした内容の調査を実施し、論文執筆に向けた準備をさせる。

■授業の進め方(履修条件等)

2年次に実施した調査結果について再検討し、3年次の調査実施計画を策定し、それに基づいた調査・研究を実施する。

■成績評価方法・基準

出席30%、定期試験70%の比率で成績を評価する。

■授業の予習・復習

予習：ゼミの調査研究テーマに関する文献・資料等に目を通しておく。
復習：ゼミで取り上げた内容について、文献・図鑑等で確認する。

■教科書

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.

■参考文献

授業の中で、適宜指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ゼミの進め方についての説明
2 2年次調査結果の検討	パワーポイントを見て検討
3 3年次調査計画の策定	討論をよして策定
4 印旛沼の水質研究	文献による調査・発表
5 印旛沼の生態研究	文献による調査・発表
6 鹿島川の水質研究	文献による調査・発表
7 鹿島川の水質研究	文献による調査・発表
8 水質調査準備(1)	pH、EC、ORP、DOなどの機器による測定準備
9 水質調査準備(2)	分光光度計による測定準備
10 水質調査準備(3)	イオンクロマトグラフによる測定準備
11 生態調査準備(1)	採取器具類の準備
12 生態調査準備(2)	同定資料文献準備
13 生態調査準備(3)	撮影器具等の準備
14 土地利用調査実施(1)	土地利用図による調査
15 土地利用調査実施(2)	空中写真・衛星写真による調査
16 調査データ整理(1)	流量の計算
17 調査データ整理(2)	水質データの整理(1)
18 調査データ整理(3)	水質データの整理(2)
19 調査データ整理(4)	水生生物データの整理
20 調査データ整理(5)	土地利用データの整理
21 統計・グラフ解析(1)	流量
22 統計・グラフ解析(2)	水質(1)
23 統計・グラフ解析(3)	水質(2)
24 統計・グラフ解析(4)	水生生物
25 統計・グラフ解析(5)	土地利用
26 研究成果報告会準備(1)	パワーポイント作成(1)
27 研究成果報告会準備(2)	パワーポイント作成(2)
28 研究成果報告会準備(3)	パワーポイント作成(3)
29 発表	研究成果報告会
30 まとめ	

年度	11年度入学		担当者	有馬容子 Yoko Arima		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

現代アメリカ文学のなかから特に幻想的な長編作品を読みます。まずは、幻想的な世界を背景に人間の本質がいかに表現されているかをしっかりと読み取ることが目標です。さらに要所は原文で読み、最終的には原文で読めるようになることを目指しましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

担当者による発表後、全員で意見を出し合います。自分の意見を述べられるよう準備しておくこと。各週で英文を読みますので、辞書を忘れないこと。

■成績評価方法・基準

平常点（担当部分の発表内容、扱う作品全般について取り組む態度）（70%）学期末提出のレポート（30%）

■授業の予習・復習

予習：ゼミで取り上げる予定の作品を読み、自分の意見を述べられるようにする。発表者はレジメを用意。適宜配布される原文を読んでくる。

■教科書

『華氏451』レイ・ブラッドベリ著 宇野利泰訳 早川文庫 2008
『エンジン・サマー』ジョン・クロウリー著 大森望訳 扶桑社 2008
※原文はプリントを配布。

■参考文献

Ray Bradbury. *Zen in the Art of Writing*. New York: Bantam, 1992.
Alice K. Turner et al. Ed. *Snake's Hands: The Fiction of John Crowley*. Cosmos Books, 2003

■授業内容

授業項目	授業内容
1 レイ・ブラッドベリ『華氏451』①	第2部 ふるいと砂（前半）粗筋、主題、各自意見提出
2 『華氏451』②	第2部 ふるいと砂（前半）要所を原文で読む
3 『華氏451』③	第2部 ふるいと砂（後半）粗筋、主題、各自意見提出
4 『華氏451』④	第2部 ふるいと砂（後半）要所を原文で読む
5 『華氏451』⑤	第3部 火はあかるく燃えて（前半）粗筋、主題、各自意見提出
6 『華氏451』⑥	第3部 火はあかるく燃えて（前半）要所を原文で読む
7 『華氏451』⑦	第3部 火はあかるく燃えて（後半）粗筋、主題、各自意見提出
8 『華氏451』⑧	第3部 火はあかるく燃えて（後半）要所を原文で読む
9 『華氏451』⑨	第3部 火はあかるく燃えて（前半）粗筋、主題、各自意見提出
10 『華氏451』⑩	第3部 火はあかるく燃えて（前半）要所を原文で読む
11 『華氏451』⑪	第3部 火はあかるく燃えて（後半）粗筋、主題、各自意見提出
12 『華氏451』⑫	第3部 火はあかるく燃えて（後半）要所を原文で読む
13 『華氏451』全体	論文のテーマについて考える
14 ジョン・クロウリー『エンジン・サマー』①	ジョン・クロウリーとその作品について概要
15 『エンジン・サマー』②	第1のクリスタル（前半）無数の生涯 夏期の課題について
16 『エンジン・サマー』③	無数の生涯 全体について 粗筋、主題、各自意見提出
17 『エンジン・サマー』④	第2のクリスタル 片足のない男の笑い（前半）粗筋、主題、各自意見提出
18 『エンジン・サマー』⑤	片足のない男の笑い（前半）要所を原文で読む
19 『エンジン・サマー』⑥	片足のない男の笑い（後半）粗筋、主題、各自意見提出
20 『エンジン・サマー』⑦	片足のない男の笑い（後半）要所を原文で読む
21 『エンジン・サマー』⑧	第3のクリスタル ドクター・ブーツからの手紙（前半）粗筋、主題、各自意見提出
22 『エンジン・サマー』⑨	ドクター・ブーツからの手紙（前半）要所を原文で読む
23 『エンジン・サマー』⑩	ドクター・ブーツからの手紙（後半）粗筋、主題、各自意見提出
24 『エンジン・サマー』⑪	ドクター・ブーツからの手紙（後半）要所を原文で読む
25 『エンジン・サマー』⑫	第4のクリスタル 空は空生（前半）粗筋、主題、各自意見提出
26 『エンジン・サマー』⑬	空は空生（前半）要所を原文で読む
27 『エンジン・サマー』⑭	空は空生（後半）粗筋、主題、各自意見提出
28 『エンジン・サマー』⑮	空は空生（後半）要所を原文で読む
29 『エンジン・サマー』全体	論文のテーマについて考える
30 論文の書き方	アウトラインを提出

年度	11年度入学		担当者	家近亮子 Ryoko Ichika		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

本年度は、現代中国の歴史、政治、経済、社会、外交に関して学び、中国が抱える諸問題を理解し、その問題の根源を分析していきます。中国は1978年12月から始めた改革・開放政策によって、飛躍的な経済発展をとげています。経済においては資本主義、政治においては社会主義という中国の仕組みを分析していきます。また、社会的な格差の拡大がもたらしている問題点について、皆で考えていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ生であることが履修条件です。授業は教科書を使いながら、発表、問題提起、討論形式で進めていきます。4年次に卒業論文を書くための問題意識をもてるようにします。2年次に「中国I」を履修していることが望ましい。

■成績評価方法・基準

ゼミであるため、出席を重視します。また、問題意識を持ち、積極的に授業に参加することを評価します。発表、討論、レポートによって総合的に成績評価をおこないます。

■授業の予習・復習

予習：教科書を読んでくること。発表の場合は、レジメの作成。
復習：まとめ、問題提起をおこない、討論の準備をすること。

■教科書

家近亮子・唐亮・松田康博編著『改訂版 5分野から読み解く現代中国』、晃洋書房、2009年。

■参考文献

各項目毎に参考文献を紹介していく。

■授業内容（前期）

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、計画、担当の決定
2 教科書第1章 第1～3節	『中国近代史』一①、発表・討論
3 教科書第1章 第4～6節	『中国近代史』一②、まとめ・討論
4 教科書第2章 第1～3節	『中華人民共和国史』一①、発表・討論
5 教科書第2章 第4～5節	『中華人民共和国史』一②、まとめ・討論
6 教科書第3章 ①	『中国の政治』一 国家制度①、発表・討論
7 教科書第3章 ②	『中国の政治』一 国家制度②、まとめ・討論
8 教科書第4章 ①	『中国の政治』一 中国共産党の一党支配体制①、発表
9 教科書第4章 ②	『中国の政治』一 中国共産党の一党支配体制②、発表
10 教科書第5章 ①	『中国の政治』一 国家統一、民族政策①、発表・討論
11 教科書第5章 ②	『中国の政治』一 国家統一、民族政策②、まとめ
12 教科書第6章 ①	『中国の政治』一 政治改革①、発表・討論
13 教科書第6章 ②	『中国の政治』一 政治改革②、まとめ・討論
14 教科書第7章 ①	『中国の経済』一 経済改革①、発表・討論
15 全体討論	問題の発見、前期レポートのテーマ、決定
16 定期試験	

■授業内容（後期）

授業項目	授業内容
1 教科書第8章 ①	『中国の経済』一 経済発展①、発表・討論
2 教科書第8章 ②	『中国の経済』一 経済発展②、まとめ・討論
3 教科書第9章 ①	『中国の経済』一 経済のグローバル化①、発表・討論
4 教科書第9章 ②	『中国の経済』一 経済のグローバル化②、まとめ
5 教科書第10章 ①	『中国の社会』一 社会の構造と変容①、発表・討論
6 教科書第10章 ②	『中国の社会』一 社会の構造と変容②、まとめ
7 教科書第11章 ①	『中国の社会』一 人口問題①、発表・討論
8 教科書第11章 ②	『中国の社会』一 人口問題②、まとめ・討論
9 教科書第12章 ①	『中国の社会』一 教育問題①、発表・討論
10 教科書第12章 ②	『中国の社会』一 教育問題②、まとめ・討論
11 教科書第13章	『中国の社会』一 環境問題、発表・討論
12 教科書第14章	『中国の社会』一 社会保障問題、発表・討論
13 教科書第15章	『中国の外交』一 冷戦期の外交、発表・討論
14 教科書第16章	『中国の外交』一 冷戦後の外交、まとめ・討論
15 全体討論	問題の発見、卒業テーマ、決定
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	覚正豊和 <i>Toyokazu Kakusho</i>		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単位	4
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

このゼミの目的は、法学・刑事法学的諸問題をテーマに掲げています。例えば、わが国および諸外国の犯罪現象をとりあげ、犯罪とはなにか、どのようにすれば犯罪はなくなるのか、また、いかにして犯罪者を再社会化させるかなどについて、人道主義的立場から考察しようとするものです。演習は、本質的に講義とは異なり、授業、学外学習としての刑務所・少年院等の見学や裁判傍聴あるいは参考文献、判例等を通じて得たさまざまな知識を確認し昇華する場所です。したがって、演習はその参加者がつくりあげること、つねに議論に加わり結論を模索したり、問題点を指摘できるようになることが必要です。そのためには、他者の発言をよく聞き、どこまで理解できて、どこからが理解できないかを自ら整理する努力、自分の意見を他者に、より説得力をもって理解してもらえぬ能力などをつくりあげることがこのゼミの主眼でもあります。

■授業の進め方（履修条件等）

特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において指示します。

■教科書

初回の授業において指示します。

■参考文献

授業において指示します。

■授業内容

演習の内容については本来、参加者の意見をもとに運営していくはずなので、はっきりしない面もありますが、次のような内容を予定しています。

回数	授業内容
1～2	オリエンテーション（ゼミの目的・位置づけ）
3～7	<ul style="list-style-type: none"> ・刑事法学的諸問題・法学的諸問題とは（なぜ、人間社会に犯罪が生じ、法が必要か） ・問題・テーマの発見方法（問題意識の明確化） ・六法のつかいかた ・文献のよみかた ・判例のよみかた ・資料のあつめ方 ・発表にあたっての諸原則 ・レポート構成の方法 などについて講じ、興味、関心、理解を深めていくつもりです。
8～30	8回目以降は、毎回担当者を決めて、各自が興味をもっている分野のミニ報告を行い、問題解決能力およびディスカッション能力の養成をします。報告者は、レジュメ、黒板活用、関連資料などの提出により、実践的な研究発表になるように心がけて下さい。また、裁判の傍聴、最高裁判所見学、少年院や刑務所等の刑事施設見学も予定しています。

年度	11年度入学		担当者	三幣利夫 <i>Toshio Sampei</i>		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単位	4
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

国境を越えて行われる国際経営について、実例を検証しつつ、企業活動の背景や経営の実態を学習する。国による違いや国際経営の問題点も理解し、4年次での更なる研究のテーマを絞る。また、自分で考え、それを相手に伝える能力を養うことも狙う。

■授業の進め方（履修条件等）

テーマ毎に学生の準備した内容を発表し、議論するように進めたい。

■成績評価方法・基準

出席（ゼミ議論での参加度合いも）60%
レポート 40%

■授業の予習・復習

予習：事前に与えられたテーマでの発表の準備を十分に行うこと。

■教科書

■参考文献

吉原英樹著『国際経営への招待』有斐閣ブックス

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ゼミの進め方について説明
2 国際経営（1）	国際経営の特徴と環境
3 （2）	国際経営の理論
4 （3）	国際経営組織
5 （4）	日本企業の国際経営
6 海外における日本企業の経営	日本企業のアジア展開の状況
7 事例研究（1）	各自の研究発表と討議
8 事例研究（2）	各自の研究発表
9 事例研究（3）	各自の研究発表
10 事例研究（4）	各自の研究発表
11 アジアの投資環境比較	アジアの経済成長の歩み
12 各国の実情調査（1）	各自の調査報告
13 （2）	各自の調査報告
14 （3）	各自の調査報告
15 （4）	各自の調査報告
16 サービス業の国際経営	製造業から非製造業の海外展開の増加
17 事例研究（1）	各自の研究発表
18 事例研究（2）	各自の研究発表
19 事例研究（3）	各自の研究発表
20 事例研究（4）	各自の研究発表
21 異文化経営-1	異文化経営論
22 -2	文化の多様性
23 各国の調査（1）	各自の調査報告
24 各国の調査（2）	各自の調査報告
25 各国の調査（3）	各自の調査報告
26 各国の調査（4）	各自の調査報告
27 日本食の国際化	海外展開の実情と可能性
28 事例研究（1）	各自の研究発表
29 事例研究（2）	各自の研究発表
30 4年次論文テーマ	テーマ選択と準備

年度	11年度入学		担当者	高田洋子 Yoko Takada		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単位	4
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

アジアの大国周辺に位置する諸地域、東南アジア、南アジア諸国、日本、朝鮮半島などの社会研究を行うゼミです。2年次専門研究に引き続いて、これらの諸地域の基本問題を考察しながら、各自が興味を持ったテーマを探求します。

■授業の進め方（履修条件等）

第1に主体的に学びましょう。第2に知識を豊富に蓄積し、書くことを通じて深く考えましょう。やや専門性のある書物を輪読しつつ、各自の研究テーマを探求し、順次発表を行います。

■成績評価方法・基準

年度末までに提出するゼミ論の内容・完成度で成績を評価します。

■授業の予習・復習

予習：テキストを読んでくること。
復習：理解したことをノートにまとめる。

■教科書

川田他編著、発展途上国の政治経済論、東大出版会。

■参考文献

各自のテーマに沿って個別に指定する。

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	ガイダンス	3年次演習の目標を決める。年間計画を立てる。
2	問題・討論 --- ①大国と小国	大国の条件、メリットとデメリット、小国との関係
3	--- ②多様な小国	小国の諸例、小国の戦略、大国との関係
4	--- ③周辺から眺める	中心と周辺、“辺境”について議論する
5～15	発展途上国の諸理論を読む	途上国の社会経済理論に関するテキストを輪読することを通して、社会科学の専門書の読み方、社会現象をみる方法および従来の諸理論についての基礎知識を学ぶ。
16～28	問題意識の報告会	各自が興味を持ったテーマ、問題意識の萌芽を順番にふたりずつ発表する。自分で検索し、選んだ文献資料の内容を報告する。 発表①～⑭
29～30	まとめ	1年間の学習の総括と課題を確認する

年度	11年度入学		担当者	水口章 Akira Mizuguchi		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単位	4
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

本講義では、国や地方自治の行政における政策形成についての基礎的知識を学ぶ。特に、政策形成における構想力や交渉力の必要性、客観的な評価の重要性を理解することで、社会人としての問題解決能力の向上に役立ててもらえることを期待する。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、政策形成学の概要を把握するため講義を主体に進める。その後、リンドブロム、ウッドハウス著『政策形成の過程』を各書ごとに分担し、内容発表、討論を行う。

■成績評価方法・基準

報告内容（レジュメ作成、説明、質疑応答）60%、課題レポート40%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおくこと。
復習：キーワードや理論は図書館を利用し、内容を十分把握すること。

■教科書

指定なし。適宜コピーを配布する。

■参考文献

チャールズ・E・リンドブロム、エドワード・J・ウッドハウス『政策形成の過程—民主主義と公共性』東京大学出版会、2004年5月

■授業内容

授業項目	授業内容
1	年間スケジュール・問題意識の確認 学習方針、役割分担の明確化
2	政策・情報の分析について 問題の見出し方について
3	政策形成過程について 問題解決の方法について
4	政策実施について 問題解決の実行について
5	政策評価について 自己評価、第三者評価について
6	政策形成をめぐる諸問題：基調報告 学生2名による参考文献の章ごとの要旨報告
7	政策形成をめぐる諸問題：自由討論 教員の解説と学生によるディスカッション
8	分析の限界：基調報告 学生2名による参考文献の章ごとの要旨報告
9	分析の限界：自由討論 教員の解説と学生によるディスカッション
10	民主主義の潜在的知性：基調報告 学生2名による参考文献の章ごとの要旨報告
11	民主主義の潜在的知性：自由討論 教員の解説と学生によるディスカッション
12	投票の不確実性：基調報告 学生2名による参考文献の章ごとの要旨報告
13	投票の不確実性：自由討論 教員の解説と学生によるディスカッション
14	公選職公務員：基調報告 学生2名による参考文献の章ごとの要旨報告
15	公選職公務員：自由討論 教員の解説と学生によるディスカッション
16	官僚による政策形成：基調報告 学生2名による参考文献の章ごとの要旨報告
17	官僚による政策形成：自由討論 教員の解説と学生によるディスカッション
18	政策形成における利益集団：基調報告 学生2名による参考文献の章ごとの要旨報告
19	政策形成における利益集団：自由討論 教員の解説と学生によるディスカッション
20	政策形成における利益のゆらぎ：基調報告 学生2名による参考文献の章ごとの要旨報告
21	政策形成における利益のゆらぎ：自由討論 教員の解説と学生によるディスカッション
22	政治的不平等：基調報告 学生2名による参考文献の章ごとの要旨報告
23	政治的不平等：自由討論 教員の解説と学生によるディスカッション
24	調査の機能不全：基調報告 学生2名による参考文献の章ごとの要旨報告
25	調査の機能不全：自由討論 教員の解説と学生によるディスカッション
26	分析の最大限の活用：基調報告 学生2名による参考文献の章ごとの要旨報告
27	分析の最大限の活用：自由討論 教員の解説と学生によるディスカッション
28	さらなる民主主義を求めて：基調報告 学生2名による参考文献の章ごとの要旨報告
29	さらなる民主主義を求めて：自由討論 教員の解説と学生によるディスカッション
30	まとめ レポート発表会

年度	11年度入学		担当者	村川庸子 Yoko Murakawa		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

前期は文献の輪読と議論を通して、20世紀アメリカの歴史について学びます。プレゼンの仕方（クリティカルな読み方、議論の仕方、レジュメの書き方を含む）を実践的に学んでいきたいと思えます。後期は、学生各自の興味に従った資料の収集、データの整理、プレゼンを経て、ゼミ論をまとめていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は文献の輪読、後期は個人（またはグループ）の研究発表を重ねながら、ゼミ論執筆を行います。

■成績評価方法・基準

クラスの活動への積極的な参加、プレゼン、ゼミ論の結果を総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：ある程度の量の文献（邦文と平易な英文）を読んでいくこととなります。予習は必須です。
復習：短い時間でも、毎回の議論を整理する時間をとってください。

■教科書

前期：有賀夏紀『アメリカの20世紀』（上・下）中公新書、2002年。

■参考文献

適宜、指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	講義の進め方
2 20世紀のアメリカ史①	アメリカの世紀
3 20世紀のアメリカ史②	1890年代のアメリカ
4 20世紀のアメリカ史③	革新主義の時代（1900年代）
5 20世紀のアメリカ史④	大衆消費社会（1920年代）
6 20世紀のアメリカ史⑤	大恐慌とニューディール（1930年代）
7 ビデオ鑑賞	Chaplin, Modern Times
8 20世紀のアメリカ史⑥	「アメリカの世紀」（1940年代前半）
9 20世紀のアメリカ史⑦	冷戦期のアメリカ（1940年代後半から50年代）
10 ビデオ鑑賞	「公民権運動」
11 20世紀のアメリカ史⑧	激動の60年代
12 20世紀のアメリカ史⑨	保守の時代（70～80年代）
13 20世紀のアメリカ史⑩	世紀末（1990年代）
14 後期授業に向けて	ゼミ論のテーマ設定①
15 後期授業に向けて	ゼミ論のテーマ設定②
16 定期試験・講評	
17 ガイダンス	後期授業に向けて
18 ゼミ論①	アウトラインの検討①
19 ゼミ論②	アウトラインの仕上げ②
20 論文・記事の輪読①	不法入国者問題
21 論文・記事の輪読②	日米関係
22 論文・記事の輪読③	米中間接
23 中間報告①	他の人の報告も真剣に聞き、コメントをする。
24 中間報告②	自分のテーマを知らない人への説明の仕方を考える。
25 中間報告③	微調整をしつつ、何度も書き直すこと。
26 論文・記事の輪読④	米国の宗教
27 論文・記事の輪読⑤	ナショナリズム
28 最終報告①	ゼミ論の仕上げの段階です。
29 最終報告②	最後の修正が必要。
30 最終報告③	明確なビジョンを出しているかをチェックする。
31 講評	
32 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	山本健 Takeshi Yamamoto		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

現在の世界経済は資本主義経済に傾いているが、その中心は物作りから産業（生産分野）から金融ビジネスへと転換し、その暴走により全世界はしばしば大きな混乱を被っている。本講義の目標はその原因は何かをテーマに、お金とどう向き合うべきかなどを理解させることにある。

■授業の進め方（履修条件等）

今日の市場経済の成り立ちを映像で見せて、アメリカの事例をモデルに求めて、その経済システムやその問題点などを学習させ、自国の経済システムとの比較を学ばせる。

■成績評価方法・基準

ビデオ鑑賞の発表、課題の提出そして出席状況（議論への参加度合い）などで評価。

■授業の予習・復習

予習：前もって配布されたプリントは必ず読んでおくこと。
復習：課題とされたレポートは必ず提出できるように、整理しておくこと。

■教科書

堤未果『ルポ 貧困大国アメリカ』（岩波新書、2008年）

■参考文献

- ① 飛岡健『バブルの経済学』（実業之日本社、1992年）
- ② D. ヤーギン他（山岡洋一訳）『市場対国家』（上・下）（日経ビジネス人文庫、2001年）
- ③ 浜矩子『グローバル恐慌』（岩波新書、2009年）
- ④ 神谷秀樹『強欲資本主義』（文春新書、2008年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明
2 世界の経済状況	中進国（BRICs）の発展の特徴と先進国との関係
3 ビデオ鑑賞「市場対国家」①	「政府主導型経済の誕生」とその説明
4 ビデオ鑑賞「市場対国家」②	「政府主導型経済の挫折」とその説明
5 ビデオ鑑賞「市場対国家」③	「市場経済の再登場」とその説明
6 ビデオ鑑賞「市場対国家」④	「市場経済の問題点」とその説明
7 「市場対国家」について議論	ケインズ主義経済と市場経済についての意見交換
8 「市場対国家」の輪読①	重要な箇所の特徴を輪読し、その重要性の確認 市場経済導入後の世界（イギリスについて）
9 「市場対国家」の輪読②	グローバル化経済の特徴について
10 「市場対国家」の輪読③	改革後の世界
11 「市場対国家」の輪読④	市場経済の是非を判断する5つの基準
12 市場と国家についての発表	各自の学生の感想、疑問点など自由討論
13 中国経済との比較	市場経済から見た中国経済の問題点
14 レポート作成の指導	レポートの主題の決定
15 前期のマトメ	夏休みの宿題（レポート）について
16 レポートの発表会	各自のレポートを報告させる
17 アメリカ経済の現状	「物つくり」の出来ないアメリカ、金融中心へ転身
18 金融：サブプライム問題の危機	この本質はローン問題ではなく、証券化の問題。
19 債権の証券化とは	浜矩子「グローバル恐慌」からの解説
20 グローバル・バブルの発生	この背景は①世界的なナカネあり状態②低金利状態
21 堤未果『ルポ 貧困大国アメリカ』の輪読①	アメリカでの民間化の果ては弱者を食いものにする構造—サブプライム問題
22 堤未果『ルポ 貧困大国アメリカ』の輪読②	貧困が生み出す肥満国民
23 堤未果『ルポ 貧困大国アメリカ』の輪読③	民間化による国内難民と自由化による経済難民
24 堤未果『ルポ 貧困大国アメリカ』の輪読④	医療費と貧民への転落
25 堤未果『ルポ 貧困大国アメリカ』の輪読⑤	出口をふさがる若者たち
26 堤未果『ルポ 貧困大国アメリカ』の輪読⑥	民間競争請け合い会社と弱者
27 グローバル経済への対応	競争主義の排除と自分の身の丈に合った経済生活
28 後期のマトメ	各自の学生の感想、疑問点など自由討論

年度	11年度入学		担当者	織井啓介 <i>Keisuke Orii</i>		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単位	4
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

「時事英語・国際経済経営のゼミ」です。英語では、中級英文法の復習と時事的・実務的英語の読解を通して応用力を養います。経済・経営では、企業の組織と会計を学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

経済・経営の専門科目を並行して受講しましょう。定期的に英検・TOEICを受験しましょう（在学中に英検2級以上、TOEIC600点以上が目標です）。

■成績評価方法・基準

平常点と日頃の研鑽態度で評価します。

■授業の予習・復習

予習：事前のアサインメントをこなしてゼミに臨みましょう。
復習：ゼミで配布する練習問題を次回授業時まで自宅に演習してください。

■教科書

前田信弘『知識ゼロからの会社しくみ』幻冬舎（2010）。
高田 茂『中堅・新興&地方大学から内定を勝ち取る方法』アスペクト（2010）。

■参考文献

新聞の経済記事やテレビの経済ニュースにも興味を持ちましょう。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 今年度専門研究のガイダンス	今年度専門研究の指導方針説明
2 中級英文法①	文の要素と5文型
3 中級英文法②	時制
4 中級英文法③	関係詞
5 中級英文法④	仮定法
6 中級英文法⑤	分詞構文
7 時事・経済英語研究①	Eメール・手紙
8 時事・経済英語研究②	ビジネス文書
9 時事・経済英語研究③	広告
10 時事・経済英語研究④	レポート
11 時事・経済英語研究⑤	英字新聞（政治記事）
12 時事・経済英語研究⑥	英字新聞（経済記事）
13 時事・経済英語研究⑦	英字新聞（社会記事）
14 時事・経済英語研究⑧	英字新聞（科学記事）
15 前期専門研究のまとめ	前期中の成果の確認・夏休み中の自己研鑽指導
16 後期専門研究のガイダンス	夏休み中の自己研鑽成果の確認・後期の指導方針説明
17 会社のしくみ①	会社とは何か
18 会社のしくみ②	会社の仕事と組織のしくみ
19 会社のしくみ③	会社の経営のしくみ
20 会社のしくみ④	会社と人
21 会社のしくみ⑤	会社の機関
22 会社のしくみ⑥	会社と株主
23 会社のしくみ⑦	会社の数字
24 会社のしくみ⑧	会社の再編と解散・精算
25 企業会計①	貸借対照表
26 企業会計②	損益計算書
27 企業会計③	国際財務報告基準
28 企業会計④	財政状態計算書
29 企業会計⑤	包括利益計算書
30 今年度専門研究のまとめ	今年度の成果の確認・春休み中の自己研鑽指導
31 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	櫛田久代 <i>Hisayo Kushida</i>		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単位	4
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

3年次ゼミでは、日本およびアメリカの社会、政治、経済について知識を深めることをねらいとし、最終的に3年次レポートを書き上げることが目的とされています。

■授業の進め方（履修条件等）

現代の日本およびアメリカについての理解を深めるために、毎週、論文や本をテキストとして輪読を行います。毎回、発表担当あるいは発表範囲を決めて輪読を進めていきます。

■成績評価方法・基準

授業内での発表（60%）、レポート（40%）により評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業で扱う範囲を読んで発表準備を欠かさないようにして下さい。
復習：理解できなかったところは、再度確認しておいて下さい。

■教科書

前嶋和弘『アメリカ政治とメディア』（北樹出版）他。

■参考文献

佐藤望他編『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』（慶應大学出版会）他。

■授業内容〔前期〕

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 講義	テキストについて背景説明
3 テキストの読み方（1）	内容の把握
4 (2)	内容の要約
5 (3)	内容の要約のしかたを練習
6 テキスト読講（1）	学生による内容発表、議論 第1章前半
7 (2)	学生による内容発表、議論 第1章後半
8 (3)	学生による内容発表、議論 第2章前半
9 (7)	学生による内容発表、議論 第2章後半
10 (8)	学生による内容発表、議論 第3章
11 (9)	学生による内容発表、議論 第4章
12 (10)	学生による内容発表、議論 第5章
13 (11)	学生による内容発表、議論 第6章
14 (12)	学生による内容発表、議論 第7章
15 まとめ	
16 定期試験	

■授業内容〔後期〕

1 ガイダンス	
2 講義	テキストについて背景説明
3 テキストの輪読（1）	学生による内容発表、議論 第1章
4 (2)	学生による内容発表、議論 第2章
5 (3)	学生による内容発表、議論 第3章
6 (4)	学生による内容発表、議論 第4章
7 (5)	学生による内容発表、議論 第5章
8 (6)	学生による内容発表、議論 第6章
9 (7)	学生による内容発表、議論 第7章
10 レポートの作成準備	テーマを考える
11 レポートの作成準備	問題設定
12 レポートの構成	
13 レポート作成作業	本論の作成
14 レポート作成作業	結論の作成
15 レポートの提出	
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	大月隆成 Takashige Otsuki		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

2年ゼミでは、「地球温暖化」や「感染爆発」をテーマにしたゲームを実際にプレイすることにより、まずはボードゲームに慣れることが目的であった。3年ゼミでは一歩進んで、国際経済や企業経営、様々な時代の国際政治を扱ったより複雑なゲームを通じて、それらのゲームが表現している現象や世界の本質を理解することを目指したい。

■授業の進め方（履修条件等）

2年次から引き続き履修していることが条件になる。ボードゲームはメンバーが揃わなければ話にならないので、授業には必ず出席して積極的に参加すること。

■成績評価方法・基準

評価は平常点（授業への「参加」）および期末レポートに基づいて行う。

■授業の予習・復習

予習：事前に説明書を熟読し、どのようなゲームなのか自分なりに理解しておく。

復習：どのような構造を持つゲームなのか自分なりに分析し、次回へ向けた戦略を練り上げる。

■教科書

特定の教科書は使用しない。

■参考文献

広瀬幸雄編『シミュレーション世界の社会心理学』ナカニシヤ出版、吉川肇子ほか『クロスロード・ネクスト』ナカニシヤ出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「電力会社」(1)	企業経営の基本
2 「電力会社」(2)	資源配分と利潤の最大化
3 「電力会社」(3)	競争と経営戦略
4 「電力会社」(4)	ゲームの実践
5 「電力会社」(5)	ゲームの分析と評価
6 「コンテナ」(1)	生産と物流、貿易
7 「コンテナ」(2)	価格と利潤
8 「コンテナ」(3)	独占と規模の経済
9 「コンテナ」(4)	ゲームの実践
10 「コンテナ」(5)	ゲームの分析と評価
11 「諸国民の富」(1)	政府と国民経済
12 「諸国民の富」(2)	産業構造と産業間の連関
13 「諸国民の富」(3)	技術革新の効果
14 「諸国民の富」(4)	ゲームの実践
15 「諸国民の富」(5)	ゲームの分析と評価
16 「ディプロマシー」(1)	帝国主義の世界
17 「ディプロマシー」(2)	外交と軍事
18 「ディプロマシー」(3)	同盟と敵対、中立
19 「ディプロマシー」(4)	ゲームの実践
20 「ディプロマシー」(5)	ゲームの分析と評価
21 「イデオロギー」(1)	20世紀の政治体制：帝国主義とファシズム
22 「イデオロギー」(2)	20世紀の政治体制：資本主義と社会主義
23 「イデオロギー」(3)	20世紀の政治体制：イスラム原理主義と民主主義
24 「イデオロギー」(4)	ゲームの実践
25 「イデオロギー」(5)	ゲームの分析と評価
26 「インベリアル2030」(1)	近未来の国際政治
27 「インベリアル2030」(2)	BRICsの台頭
28 「インベリアル2030」(3)	国境を超える資本移動
29 「インベリアル2030」(4)	ゲームの実践
30 「インベリアル2030」(5)	ゲームの分析と評価

年度	11年度入学		担当者	越川浩明 Hiroaki Koshikawa		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

学習指導要領の改正により小学校算数科では従来に増して「算数的活動」の重視が盛り込まれました。そこでこの専門研究では、まず中・高数学の復習をし、その後算数授業の実践例のテキストのもとに授業のやり方を研究していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

前半は主にプリントにより中・高の数学の復習をし、その後テキストにそって各自発表する形式で進めます。

■成績評価方法・基準

出席状況、発表回数、レポートの3点により総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：ゼミ用のプリント・テキストを必ず読んで、出席して下さい。

復習：ゼミ内容をレポートにまとめてください。

■教科書

坪田耕三著、坪田式算数授業シリーズ①算数楽しく授業術、教育出版、2005年1月、坪田式算数授業シリーズ②算数楽しくハンスオン・マス、教育出版、2005年1月。

■参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』、東洋館出版社、2008年8月。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 前期ガイダンス	ゼミの進め方の説明・発表担当者の決定
2 中学校数学1年(1)	中学校数学1年の前半部分の復習
3 中学校数学1年(2)	中学校数学1年の後半部分の復習
4 中学校数学2年(1)	中学校数学2年の前半部分の復習
5 中学校数学2年(2)	中学校数学2年の後半部分の復習
6 中学校数学3年(1)	中学校数学3年の前半部分の復習
7 中学校数学3年(2)	中学校数学3年の後半部分の復習
8 高校数学1年(1)	高校数学Iの復習
9 高校数学1年(2)	高校数学Aの復習
10 高校数学2年(1)	高校数学IIの復習
11 高校数学2年(2)	高校数学Bの復習
12 小学校低学年の算数的活動1	数と計算に関する実践例
13 小学校低学年の算数的活動2	量と測定に関する実践例
14 小学校低学年の算数的活動3	図形に関する実践例
15 小学校低学年の算数的活動4	数量関係の実践例
16 後期ガイダンス	ゼミの進め方の説明・発表担当の決定
17 小学校中学年の算数的活動1	数と計算に関する実践例
18 小学校中学年の算数的活動2	量と測定に関する実践例
19 小学校中学年の算数的活動3	図形に関する実践例
20 小学校中学年の算数的活動4	数量関係の実践例
21 小学校高学年の算数的活動1	数と計算に関する実践例
22 小学校高学年の算数的活動2	量と測定に関する実践例
23 小学校高学年の算数的活動3	図形に関する実践例
24 小学校高学年の算数的活動4	数量関係の実践例
25 ハンスオン・マス(1)	低学年における作業的・体験的活動例
26 ハンスオン・マス(2)	中学年における作業的・体験的活動例
27 ハンスオン・マス(3)	高学年における作業的・体験的活動例
28 ハンスオン・マス(4)	ハンスオン・マスの授業研究例
29 ハンスオン・マス(5)	評価について
30 総まとめ	算数的活動例について総復習する

年 度	11年度入学		担 当 者	武内清 <i>Kiyoshi Takeuchi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	4
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

学校と子どもの実態の理解の上に立って、教育を行いこはきわめて重要である。学校と子どもに関して、理論と体験をつき合わせて理解を深める。

■授業の進め方（履修条件等）

教育社会学的な見方の講義と、テキストの各自の発表と討論（体験の発表も含む）によって行う。

■成績評価方法・基準

出席状況、発表状況、討論参加、レポートによる総合評価。

■授業の予習・復習

その日のテキストを事前に読んで、コメントを書き、出席すること。

■教科書

武内清編『子どもの「問題」行動』学文社

■参考文献

武内清編『子どもと学校』学文社、

■授業内容

授業内容	
1	ガイダンス
2	講義 教育について
3	講義 学校について
4	講義 教師について
5	講義 子どもについて（1）
6	講義 子どもについて（2）
7	テキストの発表分担の決定
8～9	子どもの問題行動・概説（1章）
10～11	子どもの学力問題（2章）
12～13	校内暴力、学級崩壊（3章）
14～15	学校におけるいじめ（4章）
16～17	少年犯罪、非行（5章）
18～19	子どもの居場所の喪失と地域社会（6章）
20～21	子ども集団のメカニズムと「問題行動」（8章）
22～23	ジェンダーと子どもの問題（9章）
24～25	サブカルチャーにみる「問題」行動（10章）
26～27	「情報化」と子ども「問題」（11章）
28～29	子ども問題と語りの地平（12章）
30	まとめ

年 度	11年度入学		担 当 者	池谷美佐子 <i>Misako Ikeya</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	4
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

教育の意味、子どもについての理解、教育における人間関係論等の理論を学び「教育とは何か」についての自分なりの教育理念をもてるようになってほしいと思います。それをもとに、後半は小学校教育の実践に結び付く内容を取り上げ、小学校教育についての理解を深められるようにしたいと考えています。

■授業の進め方（履修条件等）

- ・地域こども教育専攻の3年生
- ・遅刻をしないで出席することを重視
- ・積極的な態度で参加することができる。

■成績評価方法・基準

出席状況と平常点（発言、発表、討論の参加）（50%）、レポート（50%）

■授業の予習・復習

予習：課題に関する資料の検索と収集
復習：レポート作成の準備

■教科書

デューイ著『学校と社会』岩波文庫
ボルノー著『問いへの教育』川島書店

■参考文献

必要に応じて紹介

■授業内容

授業項目	授業内容
1	オリエンテーション
2～8	教育の古典を読む
9～11	教育の必要性について
12～14	教育研究のカテゴリー
15	まとめ
16～18	学校教育について
19～22	教育研究
23～26	各自のテーマに基づく研究
27～28	発表・討論
29～30	まとめ

年 度	11年度入学		担 当 者	山口政之 Masayuki Yamaguchi		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単 位	4
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

このゼミでは小学校の教科書をもとに国語科教育の具体的な問題（指導法、教材解釈等）を取り上げます。国語科の授業における原理や方法について、具体的な実践例を検討しながら、理論について考察を深め、具体的な実践方法を考察し、魅力的な学習支援の方法を理解していくようにします。

■授業の進め方（履修条件等）

各自の興味・関心に基づいて課題を設定し、その課題の解決に当たります。その際、実践記録を読み、国語科授業の実際を知るところを重視します。そこから授業の原理や方法を考察し、子供に対する学習支援の方法を議論していきます。

■成績評価方法・基準

出席の状況、課題への取り組み、発言等をふまえて総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席6回は履修放棄とみなします。

■授業の予習・復習

予習：課題に関する文献や資料を収集し、読み込んでおきます。
復習：ゼミでの議論をもとにレポートを作成します。

■教科書

授業中、印刷物を配布していく。

■参考文献

『ことばがひろがる I』 首藤久義、東洋館出版社
『教育科学国語教育』 明治図書（※月刊誌）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	1年間の教科書研究を中心としたゼミの進め方を理解する。
2～7 説明的文章の指導システム	2年「さげがおおきくなるまで」と4年「花を見つける手がかり」を通して、指導内容の系統と指導方法を具体的に理解する。
8～13 文学的文章の指導システム	3年「わすれられないおくりもの」と5年「雪わたり」を通して、指導内容の系統と指導方法を具体的に理解する。
14～19 書くことの指導システム	1年「めいし」でじこしょうかいしよう」と5年「コラムを書こう」について実際に学習することを通して学習支援の在り方を考察する。
20～23 話す・聞くの指導システム	2年「きき方名人になろう」と6年「パネルディスカッションをしよう」について実際に学習することを通して学習支援の在り方を考察する。
24～27 読書指導の指導システム	1年「おはなし どうぶつえん」をつくらう」と4年「本の世界を広げよう」（世界の民話）について実際に学習することを通して学習支援の在り方を考察する。
28～29 伝統的な言語文化	4年「故事成語」が、中学校国語科の授業とどのような点で異なるのか、指導目標と学習活動のレベルで理解する
30 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	佐藤佳子 Keiko Sato		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単 位	4
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	3年次専門研究		3年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

このゼミでは、イギリス文学作品の中から、特に子どもの本、絵本を中心に読んでいきます。代表的な作品を英語で読み、英文読解力と作品分析力を身に付けることを目標にします。後期は、前期に取り上げた作品を中心に、各自で設定した研究テーマに基づいたレポートを作成します。

■授業の進め方（履修条件等）

作品の輪読と各自の発表を並行してゼミ形式で進めていきます。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加、発表、課題への取り組みなど、総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：作品を輪読します。事前に作品を読んできてください。また、発表者はレジюмеを用意してください。
復習：レポート作成の準備。

■教科書

プリントを配布します。

■参考文献

授業中に適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 前期ガイダンス	1年間のスケジュール、前期の進め方
2 子どもの本	イギリス児童文学のはじまり
3 ルイス・キャロル	「ふしぎの国のアリス」
4 フリリバ・ピアス	「トムは真夜中の庭で」
5 K.グレアム	「たのしい川べ」
6 J・M・バリー	「ピーター・パンとウェンディ」
7 絵本について	イギリス近代絵本の誕生
8 ケート・グリーンアウェー	アルファベットの本
9 リチャード・ドイル	「妖精の国で」
10 A.A.ミルン	「くまのプーさん」
11 ピアトリックス・ポター	「ピーターラビットのおはなし」
12 L・レスリー・ブルック	「金のがちょうのほん」
13 アーサー・ラッカム	マザー・グースの絵本
14 グループ発表	授業で読んだ作品の分析
15 前期まとめ	各自の発表
16 後期ガイダンス	後期の進め方
17 研究テーマについて	テーマ設定について話し合う
18 レポート作成について	レポートの書き方
19 文献について	資料収集の仕方
20 文献調査①	
21 文献調査②	
22 中間報告①	各自のテーマに基づいた研究
23 中間報告②	
24 中間報告③	
25 レポート提出	
26 詳細報告①	
27 詳細報告②	
28 詳細報告③	
29 詳細報告④	
30 後期まとめ	最終レポートの提出

年度	11年度入学		担当者	キャリアセンター		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	2年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	インターンシップ		インターンシップ			

■授業のねらいと到達目標

3年生の学生諸君に、夏期休暇中の一定期間、県内外の企業・団体等で実習を行う機会を提供します。企業活動の現場を知るとともに、将来の進路決定の一助としてもらうことを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

「参加者学内選考」→「マッチング（実習先決定）」→「事前指導」→「実習」→「事後指導」の5段階で進みます。形式は、全参加者を集めての「集合研修」、ならびに担当教員による各学生への「個別指導」の2本立てで行います。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（60%）・出席（40%）

■授業の予習・復習

実習先企業等への提出書類、実習先の調査報告、報告書の原稿、報告会のプレゼンテーションなどについては、個別指導を踏まえて、自宅等で作業をすることを求めます。

■教科書

事前指導時に「講義資料」、実習に行く直前に「実習ノート」を配布します。

■参考文献

■授業内容

		授業項目	授業内容
1	4月	ガイダンス	指導方針の説明、前年度参加者の体験談
	5月	参加者学内選考	書類・面接による選考
2	5月	マッチング	実習先への提出書類の作成、面接の練習
3			ビジネスマナー①
4	6月		ビジネスマナー②
5			ビジネスマナー③
6		事前指導	グループワーク①
7			グループワーク②
8	7月		プレゼンテーション①
9			プレゼンテーション②
10		スピーチ	
11			直前諸注意
	8月	実習	企業・団体等での実習
	9月		
12	9月		実習内容のふりかえり
13	10月	事後指導	実習報告書の執筆・修正
14	11月		実習報告会のプレゼンテーションリハーサル
15			実習報告会

※事前・事後指導の日程の詳細は別途告知します。

【成田で職をゲットする】2011年度は5月中旬開講・6月上旬終了の予定で運営します。この講座は「成田空港関連企業」に内定を目指し、企業研究方法や就職活動全般の知識を学びながら、実際に就職活動へチャレンジする企画です。詳細は別途説明会およびパンフレットで確認して下さい。

年度	11年度入学		担当者	キャリアセンター		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	3年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	キャリアデザイン I		キャリアデザイン I			

■授業のねらいと到達目標

民間企業の就職活動において、筆記試験が第一関門。なかでも、SPIが実施率の高いため、SPI試験対策が就職活動上の重要なポイント。本科目ではSPIの言語・非言語について基礎学力の向上を目指すとともに、非言語の前提となる数学の基礎の対策を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストと補助冊子を中心に授業をすすめる。数学の基礎：四則計算・小数分数比例・反比例・図形など、言語：同義語・反意語・ことわざ・四字熟語など、非言語：文章問題・判断推理などを指導。

■成績評価方法・基準

出席および小テスト・定期試験で総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：講師より出題された課題は事前に確認すること。
復習：毎時間講師が指示します。

■教科書

SPI対策テキスト（言語・非言語）および補助冊子（数学の基礎）。その他、配布プリント。

■参考文献

■授業内容

		授業項目	授業内容
1	SPI非言語 1	ガイダンス、数学の基礎（基本計算、約数倍数）	
2	SPI非言語 2	数学の基礎（単位、平均、速さ）	
3	SPI言語 1	同義語・類義語、対義語・反対語、語句の関連意味	
4	SPI非言語 3	数学の基礎（割合、グラフ、比例と反比例）	
5	SPI非言語 4	数学の基礎（図形と計量）	
6	SPI言語 2	同音異義語、同訓異字、ことわざ・慣用句、	
7	SPI非言語 5	n進法、食塩水、売買算、仕事算、	
8	SPI非言語 6	平均算、年齢算、時計算、	
9	SPI言語 3	故事成語、四字熟語、その他	
10	SPI非言語 7	速さの問題、虫食い算、場合の数と確率	
11	SPI非言語 8	図形の問題、表とグラフ、数学的な公式	
12	SPI言語 4	文章理解	
13	SPI非言語 9	物理の基礎、規則性の発見、数列	
14	SPI非言語 10	判断推理パズル、集合、論理	
15	SPI言語 5	文章理解	
16	定期試験		

年 度	11年度入学		担 当 者	キャリアセンター		
区 分	国際学科	こども学科	対 象 学 年	3 年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	キャリアデザインⅡ		キャリアデザインⅡ			

■授業のねらいと到達目標

就職ガイダンスを聞くだけではなく、当日学んだ知識を生かせるよう期間中5回程度レポート提出を義務付けます。たとえば履歴書の書き方を学んだ「セミナー」を終了後は、次週までに履歴書を清書して提出することで、頭の中の知識だけで終わることのないように実践を交えた知識に変える。

■授業の進め方（履修条件等）

3年生向就職ガイダンスと同時に並行で講座を開講する。併せて本講義履修生は別途課題を与え、提出物・レポート・プレゼンテーションなどを科します。

■成績評価方法・基準

出席および提出物の内容を重視し、併せて受講態度を加味して総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習：ふだんから新聞の経済面を読むこと。
復習：講義終了後、講義で知れた知識などを改めて自己点検すること。

■教科書

講義毎にプリントおよび必要資料を配布する。および本学独自編集の「就職の手引き」

■参考文献

■授業内容

回数	授業内容
1	就職に関する心構え
2	※就職手順①
3	※就職手順②
4	※適性テスト
5	就職ナビを活用した就職活動
6	※業界研究と職種
7	※自己分析と学生時代の振り返り
8	面接試験対策
9	※履歴書の書き方
10	※エントリーシートの書き方
11	※キャリアセンター長親密企業紹介
12	就職説明会体験
13	※就職フェア体験
14	※就職活動体験談
15	総合演習
16	定期試験

※ = 「就職ガイダンス」と同一内容

年 度	11年度入学		担 当 者	キャリアセンター		
区 分	国際学科	こども学科	対 象 学 年	2 年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	キャリアデザイン基礎Ⅰ					

■授業のねらいと到達目標

学生生活を充実させ、ビジネス社会への関心を高めるためのビジネス基礎を学びます。情報化社会とトレンド、雇用環境、企業組織、ヒット商品、等々を確認し、仕事に関する視野を広げる講座です。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、具体的事例を取り入れながら、裏付けとなる理論、考え方を解説していく。

■成績評価方法・基準

授業出席率と課題レポートにより判断出席率は80%以上が望ましい。

■授業の予習・復習

講師より指示された課題は事前に必ず準備しておいて下さい。また講義終了後は当日学んだ事柄をノート1Pにまとめる理解しやすいチャートとして描くこと。

■教科書

毎回プリントを配布。

■参考文献

その都度紹介します。

■授業内容

回数	授業内容
1	世の中の動きに関心をもつ各種メディア情報について
2	情報化社会と経営 次世代を創るキーワード
3	会社組織とは 日本の経営組織の実態
4	職種と業界・業種有形・無形、B to B・B to Cとは
5	川上～川中～川下① 原料産地、メーカーについて
6	川上～川中～川下② 商社機能と運輸・倉庫・保険の拘り
7	川上～川中～川下③ 川下の実態と売上強化について
8	雇用形態と雇用環境 各種雇用形態の長所・欠点
9	実践マーケティング① 有形ヒット商品を理論で考える
10	実践マーケティング② 無形ヒット商品を理論で考える
11	営業・販売の数値 売上と各種利益について
12	会社四季報を読む 業績不振企業の見極め方法
13	資格（必要・十分条件） 職種・業界資格について
14	ライフデザインを描く 自分の人生を考える
15	総括 質疑応答
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	キャリアセンター		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	キャリアデザイン基礎Ⅱ					

■授業のねらいと到達目標

学生生活を充実させ、ビジネス社会への関心を高めるためのビジネス基礎を学びます。情報化社会とトレンド、雇用環境、企業組織、ヒット商品、等々を確認し、仕事に関する視野を広げる講座です。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、具体的事例を取り入れながら、裏付けとなる理論、考え方を解説していく。

■成績評価方法・基準

授業出席率と課題レポートにより判断出席率は80%以上が望ましい。

■授業の予習・復習

講師より指示された課題は事前に準備をしておいて下さい。また配布したプリントには目を通しファイリングして下さい。

■教科書

毎回プリントを配布。

■参考文献

その都度紹介します。

■授業内容

回数	授業内容
1	ガイダンス 授業のねらい、ビジネス最前線
2	ビジネスマナーの基本① 第一印象の重要性、身だしなみ
3	ビジネスマナーの基本② 第一印象の重要性、身だしなみ
4	立ち振る舞い 挨拶のポイント、お辞儀
5	ことば遣い① 尊敬語、謙譲語、丁寧語
6	ことば遣い② 二重敬語、言葉使いのまちがい
7	ビジネス文書の基本① 文書の基本と作成手順
8	ビジネス文書の基本② 内定御礼
9	電子メールの基本 メールの基本、ルールとマナー
10	電話のかけ方 電話応対の基本、かける、受ける
11	訪問と来客対応 心構え、名刺交換、席次、コミュニケーション
12	自己紹介 プレゼンテーションの仕方
13	面接対応① 自己分析、自己PR
14	面接対応② グループ面接、志望動機
15	総括 質疑応答
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	長谷川頼子 Yoriko Hasegawa		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	日本語学Ⅰ		日本語学Ⅰ（半期科目）			

■授業のねらいと到達目標

日本語教育では、日本の国語文法では通用しません。日本語を一つの外国語として扱い、理解する必要があります。そこで、教科書に出てくる多くの例文を分析的に見る作業を通じて、背後に見られる文法に対する基本的な考え方を学びます。マルチリンガルに書かれた実際の日本語教材を使って、実践的に文法を見る目を養います。

■授業の進め方（履修条件等）

外国人に日本語を教えたみたい人、コミュニケーションに関心のある学生の受講を歓迎します。第1週の授業を欠席しないこと、全員の発言ですめる講義形式に協力できることが履修条件です。

■成績評価方法・基準

「授業」（出席、態度、提出物）50%と、「試験」50%。欠席4回以上は履修放棄とみなします。また、遅刻2回＝欠席1回とします。

■授業の予習・復習

予習：教科書の指定範囲を事前に予習すること。
復習：規則としての文法、使い分けの仕組みという点から整理しておくこと。

■教科書

長谷川頼子（2009）『にほんご日記ノート』アルク

■参考文献

『ベーシック日本語教育』ひつじ書房

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	自己紹介、講義の概要、進め方について説明
2 品詞①	日本語の品詞について
3 品詞②	品詞の観点から非文を分析してみよう
4 主な文型①	文とは何か、単文・複文について
5 主な文型②	構造文型・表現文型について
6 格①	格とは何か・必須の格・任意の格
7 格②	必須格のさまざまなパターン
8 格③	さまざまな格の使い分けについて文を分析する
9 活用①	学校文法の活用について復習
10 活用②	子音語幹動詞・母音語幹動詞・不規則動詞
11 活用③	日本語教育から見た動詞の活用
12 ヴォイス①	受動文のタイプ、動作主を表すマーカについて
13 ヴォイス②	受動文のさまざまな機能について
14 ヴォイス③	使役文について
15 総まとめ	
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	長谷川頼子 <i>Yoriko Hasegawa</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	日本語学Ⅱ		日本語学Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

日本語学Ⅰに引き続き、外国人に日本語を教えるために必要な日本語の知識を、初級文法を中心に取り上げ解説します。日本語教科書に書かれていることを、教師の立場で理解できるようになることが目標です。マルチリンガルに書かれた日本語教材を使うことで、理解できたという実感を持ち、文法に対する自信をつけます。

■授業の進め方（履修条件等）

外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生の受講を歓迎します。日本語学Ⅰを履修していることが望ましいです。

■成績評価方法・基準

「授業」（出席、態度、提出物）50%、「試験」50%。
欠席4回で履修放棄とみなします。また、遅刻2回＝欠席1回とします。

■授業の予習・復習

予習：教科書の指定範囲を事前に学習すること。
復習：規則としての文法、使い分けの仕組みという観点から整理しておくこと。

■教科書

長谷川頼子（2009）『にほんご日記ノート』

■参考文献

『ベーシック日本語教育』ひつじ書房

■授業内容

授業項目		授業内容
1	ガイダンス	自己紹介、講義の進め方、評価について解説
2	テンス①	ル形とタ形
3	テンス②	複文におけるテンス
4	テンス③	特別な用法
5	テンス④	文章におけるテンス
6	さまざまな文末表現①	可能的表現
7	さまざまな文末表現②	自発的表現
8	さまざまな文末表現③	依頼・勧誘の表現
9	さまざまな文末表現④	命令の表現
10	さまざまな文末表現⑤	許可・禁止の表現
11	さまざまな文末表現⑥	義務の表現
12	接続表現①	「バ」と「タラ」について
13	接続表現②	「バ」と「タラ」と「ト」について
14	接続表現③	「ナラ」について
15	接続表現④	「バ」「タラ」「ト」「ナラ」の総まとめ
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	畑中千晶 <i>Chiaki Hatanaka</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	日本の文化Ⅰ	日本の文化と子ども	日本文化論	日本の文化と子ども		

■授業のねらいと到達目標

「花札」に描かれた図柄を切り口として、日本文化の諸相を探究していく（文学、演劇、絵画、工芸、宗教など）。まず古典世界のコードを学び、次にそのコードを用いて読み解くことのできる具体例について学ぶ。最終的には、身近な生活の中に息づく伝統文化を自ら見出せるようになることが到達目標である。

■授業の進め方（履修条件等）

パワーポイント、DVD等の映像資料を多用する。古典芸能の視聴（解説付）なども含まれるので、留学生の場合は、日本語能力試験N1（1級）程度の日本語力が不可欠である。

■成績評価方法・基準

クラスで指示した課題への取り組み（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：Eラーニング（Moodle）を用いて、授業内容に関連したWebサイト等に目を通す。
復習：Eラーニング（Moodle）のフォーラム機能を用いて、学習内容に関する意見交換を行う。

■教科書

レジュメと複数の資料を配布する。これらが教科書の代わりとなるので、必ずファイリング管理すること。

■参考文献

加藤周一（2004）『日本文学史序説 上・下』ちくま学芸文庫
青木美智男（2009）『全集 日本の歴史 別巻 日本文化の原型』小学館

■授業内容

授業項目		授業内容
1	イントロダクション	日本文化について考える方法
2	「正月 松」	黄山VTR、松のめでたさ・靈力
3	「二月 梅」	菅原道真、飛梅伝説、天神信仰
4	発展項目	絵を読む（紅白梅図VTR）
5	「三月 桜」	桜のイメージの両義性、禁忌の恋
6	「四月 藤」	藤のデザインと季節感の演出
7	「五月 あやめ」	『伊勢物語』と琳派の絵
8	「六月 牡丹」	蕪村の愛した牡丹、漢詩と俳句
9	「七月 萩」	猪はポエティックな動物
10	「八月 芒」	年中行事
11	「九月 菊」	江戸の市民生活
12	十二ヶ月概観	十二ヶ月の札に季節感のズレがある理由
13	「十二月 桐」	切りよく終わる桐、桐のデザイン（国宝VTR）
14	発展項目	ことば遊び、浮世絵に見る遊び
15	発展項目	伝統芸能鑑賞、学習内容に関する意見交換等
16	定期試験	

年度	11年度入学		担当者	滝口正哉 Masaya Takiguchi		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単位	2
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	日本の文化Ⅱ	日本の文化と子ども	日本文化論	日本の文化と子ども		

■授業のねらいと到達目標

この講義では、現代の日本において「日本らしさとは何か」を考えたときのキーワードとなる江戸時代の文化と社会に注目し、「日本らしさ」のルーツを歴史から紐解いてみたいと思います。具体的には、江戸時代の本の挿絵や錦絵に描かれた内容や、ヨーロッパ人の見聞記を読み解き、江戸東京の地域の特徴などを考えていく予定です。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回出席を取り、参加型のものにしたいので、授業中はこちらから適宜指名していくかたちをとりたいと思います。受講者の積極的な参加を期待します。

■成績評価方法・基準

平常点（出席ほか）＋期末試験により総合的に評価。

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありません。
復習：毎回しっかり復習しておくこと。

■教科書

特に教科書を指定することはせず、毎回プリントを配布します。

■参考文献

竹内誠編『江戸文化の見方』（角川学芸出版、2010年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス、導入～江戸時代の鎖国とは～	江戸時代の成立と鎖国社会について
2 江戸の名所風景（1）～江戸城周辺～	『江戸名所図会』の挿絵から江戸城周辺を考察
3 江戸の名所風景（2）～山の手～	『江戸名所図会』の挿絵から山の手を考察
4 江戸の名所風景（3）～下町～	『江戸名所図会』の挿絵から下町を考察
5 江戸の名所風景（4）～近郊農村～	『江戸名所図会』の挿絵から近郊農村を考察
6 江戸の名所風景（5）～神社仏閣～	『江戸名所図会』の挿絵から浅草寺を考察
7 江戸の名所風景（6）～広場と盛り場～	『江戸名所図会』の挿絵から広小路を考察
8 江戸の物売り	『守貞謄稿』の挿絵から江戸の物売りを考察
9 外国人の見た江戸（1）	ドイツ人旅行家ケンベルの見た江戸の町について
10 外国人の見た江戸（2）	ドイツ人旅行家ケンベルの見た江戸の風俗について
11 外国人の見た江戸（3）	ドイツ人医師シーボルトの見た江戸の町について
12 外国人の見た江戸（4）	ドイツ人医師シーボルトの見た江戸の風俗について
13 江戸庶民の一生	江戸の人々の人生儀礼について
14 江戸の五節句	江戸庶民の間で行われていた節句について
15 家紋と由緒	さまざまな家紋と江戸時代の「家」のあり方
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	畑中千晶 Chiaki Hatanaka		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単位	2
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	比較文学		比較文学			

■授業のねらいと到達目標

異文化接触が人の精神・考えにどのような影響を及ぼすのか、具体的な材料に基づいて語れるようになることが到達目標です。この講義では、比較文学の方法論を用いて、①日本の作家が英米文化をどのように理解し受容したのか、②来日外国人が日本文化をどのように理解し受容したのか、この両面から検討を行います。

■授業の進め方（履修条件等）

「比較文学」という学問の性質上、講義で用いる日本語レベルは高度なものとなります。留学生の場合には、日本語能力試験N1（1級）取得者であるか、もしくはそれに相当する日本語理解力が必要です。

■成績評価方法・基準

クラスで指示した課題への取り組み（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：配布資料に目を通す。
復習：指定の形式でノートを整理し、学習内容について再考する時間を持つ。

■教科書

配付資料を用いる。

■参考文献

秋山正幸/榎本義子編（2005）『比較文学の世界』南雲堂

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	講義の進め方、ノートの取り方など
2 総論1	比較文学とは
3 総論2	比較研究と対照研究
4 総論3	文学と他の芸術
5 総論4	越境する文学
6 夏目漱石におけるイギリス1	略年譜、留学時代について
7 夏目漱石におけるイギリス2	『カーライル博物館』の読解と分析
8 夏目漱石におけるイギリス3	『倫敦塔』の分析、印象派の絵画との対比
9 有島武郎におけるアメリカ1	略年譜、父の存在、キリスト教との出会い
10 有島武郎におけるアメリカ2	留学時代、ホイットマン
11 有島武郎におけるアメリカ3	『或る女』『カインの末裔』のあらすじ、分析
12 ラファディオ・ハーソンの日本1	略年譜、文化的混淆、マイノリティの自覚
13 ラファディオ・ハーソンの日本2	『怪談』『耳なし芳一』『雪女』（映像視聴・原文読解）
14 ラファディオ・ハーソンの日本3	新たに植え直された伝説
15 まとめ	学習内容の整理、補正項目等
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	黄 麗華 Huang Lihua		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	心理言語学		心理言語学			

■授業のねらいと到達目標

人間はことばを用いてどのようにコミュニケーションを図るのか、その様々な側面を理解する。また、言語的／非言語的コミュニケーションや異文化間コミュニケーションなども考慮に入れ、人間とことばについて総合的に考える。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には講義形式であるが、適宜さまざまな資料を読んだり、グループワークを行ったりしながら理解を深める。留学生で受講を希望する者は、日本語能力試験2級相当の日本語力を必要とするので、注意すること。

■成績評価方法・基準

定期試験8割、平常点2割。
3回以上欠席した者、または受講態度の良くない者は評価から外す。遅刻も認めない。

■授業の予習・復習

予習：授業時に指示する。
復習：授業時に指示する。

■教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

■参考文献

授業時に適宜紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	概要
2 言語的コミュニケーション1	記号とことば
3 言語的コミュニケーション2	言語の特徴
4 言語的コミュニケーション3	コミュニケーションの諸相
5 言語的コミュニケーション4	言語的コミュニケーション
6 言語的コミュニケーション5	非言語的コミュニケーション
7 異文化間コミュニケーション1	コンテキストについて
8 異文化間コミュニケーション2	言語運用能力について
9 異文化間コミュニケーション3	会話の公準
10 異文化間コミュニケーション4	異文化接触 1
11 異文化間コミュニケーション5	異文化接触 2
12 バイリンガリズム1	バイリンガリズムの基礎
13 バイリンガリズム2	ダイグロシアについて
14 バイリンガリズム3	中間言語について
15 バイリンガリズム4	国家レベルで見た中間言語の形成
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	長谷川頼子 Yoriko Hasegawa		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	日本語教授法 I		日本語教授法 I			

■授業のねらいと到達目標

外国人に日本語を教えることの基本的な知識を学びます。国内・世界各国別にみた日本語教育の現状を紹介した上で、「日本語を教える」とは何をすることなのか、実例を挙げながら詳しく解説し、「ことばの教え方」を学ぶための基礎をしっかりと築きます。

■授業の進め方（履修条件等）

外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生なら学年を問わず受講を歓迎します。全員の発言で進める講義形式に協力できることが履修条件です。第一回の授業を休まないこと。

■成績評価方法・基準

授業（出席、態度、提出物）50%と、「試験」50%。
欠席4回で履修放棄とみなします。遅刻2回＝欠席1回です。

■授業の予習・復習

予習：日本人・留学生が互いの日本語に関心を持ち、積極的にコミュニケーションしよう。
復習：「外国語としての日本語」に対する自分なりの見方を培うつもりで内容を整理しよう。

■教科書

特に使用しません。プリントを配布します。

■参考文献

佐々木泰子（2007）『ベーシック日本語教育』ひつじ書房
石田敏子（1995）『入門日本語教授法』大修館書店

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	自己紹介、講義の進め方や評価について解説
2 日本語教育の特色①	日本語教育の概要
3 日本語教育の特色②	日本語教師に必要な要件
4 日本語教育の特色③	国語教育や外国語教育との比較
5 現状と問題点①	国内
6 現状と問題点②	中国・韓国・アメリカ
7 現状と問題点③	アジア諸国・その他の国、地域
8 コースデザイン①	コースデザインとは
9 コースデザイン②	ニーズとレディネス
10 コースデザイン③	シラバス・教案
11 授業計画・教案①	教案作成について
12 授業計画・授業②	授業について
13 教材①	教材・教具
14 教材②	教材開発
15 総まとめ	用語の整理
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	長谷川頼子 Yoriko Hasegawa		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	日本語教授法Ⅱ		日本語教授法Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

「日本語教授法Ⅰ」に引き続き、さまざまな外国語教授法を紹介して具体的な指導の方法を検討します。それを通して、「外国語としての日本語」を教えることに、むきあうことが目標です。教材や評価法についても取り上げ、日本語教育の基礎的知識をしっかりと身につけ、次のステップへつなぎます。

■授業の進め方（履修条件等）

外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生なら学年を問わず歓迎します。全員の発言で進める講義形式に協力できることが履修条件です。日本語教授法Ⅰを履修していることが望ましいです。

■成績評価方法・基準

「授業」（出席・態度・提出物）50%と、「試験」50%。欠席4回で、履修放棄とみなします。遅刻2回＝欠席1回です。

■授業の予習・復習

予習：自分の外国語学習経験を思い出しましょう。教師はどんな教え方をしていましたか？

復習：留学生に日本語学習経験を聞いて、教授法を具体的にイメージしてみよう。

■教科書

特に使用しません。プリントを配布します。

■参考文献

佐々木泰子（2007）『ベーシック日本語教育』ひつじ書房

■授業内容

授業項目		授業内容
1	ガイダンス	自己紹介、講義の進め方や評価について解説
2	外国語教授法各論①	GT方式～直説法
3	外国語教授法各論②	オーラル・メソッド～アーミー・メソッド
4	外国語教授法各論③	構造言語学の影響を受けた教授法
5	外国語教授法各論④	心理学の影響を受けた教授法
6	外国語教授法各論⑤	ナチュラル・アプローチ
7	外国語教授法各論⑥	コミュニカティブ・アプローチ
8	学習活動①	3つのレベルと学習項目
9	学習活動②	初級の指導
10	学習活動③	中級の指導
11	学習活動④	上級の指導
12	日本語教育評価法①	テストの種類、テストの妥当性・信頼性
13	日本語教育評価法②	テストの諸形式について
14	日本語教育評価法③	平均・分散・標準偏差について
15	総まとめ	各教授法、用語の整理
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	長谷川頼子 Yoriko Hasegawa		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	日本語教授法Ⅲ		日本語教授法Ⅲ			

■授業のねらいと到達目標

日本語教育の方法について、四技能（聞く・話す・読む・書く）別にみた指導のあり方について検討します。各技能について理解した上で、具体的な教え方や教材などを紹介します。

■授業の進め方（履修条件等）

外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生の受講を歓迎します。日本語教授法Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましいです。

■成績評価方法・基準

「授業」（出席・態度・提出物）50%と「試験」50%。欠席4回で、履修放棄とみなします。また、遅刻2回＝欠席1回です。

■授業の予習・復習

予習：これまでに学習した内容を良く復習し、思い出しておくこと。

復習：「自分が教師ならどう教えたいか」と想像しながら、授業内容を整理しましょう。

■教科書

基本的にはプリントを配布します。

■参考文献

国際交流基金日本語教授法シリーズ『話すことを教える』『読むことを教える』『書くことを教える』『聞くことを教える』ひつじ書房

■授業内容

授業項目		授業内容
1	ガイダンス	自己紹介、講義の進め方や評価について解説
2	四技能とは何か①	子供の言語獲得について
3	四技能とは何か②	外国語における四技能の学習について
4	聞き方の指導①	「聞く」とはどのようなことか
5	聞き方の指導②	初級における「聞き方」の指導
6	聞き方の指導③	中・上級における「聞き方」の指導
7	話し方の指導①	日本語の話しことばの特徴
8	話し方の指導②	初級における話し方の指導
9	話し方の指導③	中・上級における話し方の指導
10	読み方の指導①	「読み」に必要なストラテジー
11	読み方の指導②	初級における読み方の指導
12	読み方の指導③	中・上級における読み方の指導
13	書き方の指導①	ひらがな・かたかなの指導について
14	書き方の指導②	漢字の指導について
15	書き方の指導③	作文の指導について
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	長谷川頼子 Yoriko Hasegawa		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	日本語教授法Ⅳ		日本語教授法Ⅳ			

■授業のねらいと到達目標

日本語教育における音声指導をテーマに取り上げ、日本語の音声に関する知識を体得します。日本語教育でも音声指導は難しいものの1つとされていますが、外国人学習者に対してどのような指導を行ってあげればよいか、授業内で実際に発音練習も行いながら、項目別に詳しく検討していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

授業の理解度に関わるので、日本語学関連の講義（言語学入門、心理言語学、日本語学、日本語教授法）をすでに履修したか、履修中であること。

■成績評価方法・基準

「授業」（出席、態度、提出物）50%と、「試験」50%。欠席4回で、履修放棄とみなします。また、遅刻2回＝欠席1回です。

■授業の予習・復習

予習：日本人学生・留学生の発音に関心をもとう。
復習：五感を使って学んだことを再度学習しよう。

■教科書

プリントを配布します。

■参考文献

佐々木泰子（編）（2007）『ベーシック日本語教育』ひつじ書房

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	自己紹介、授業の進め方や評価の方法について解説
2 基本的用語	音声器官、音素・異音
3 日本語の母音①	母音の作られ方
4 日本語の母音②	母音の特徴
5 日本語の母音③	外国人学習者に見られる母音の発音上の問題点
6 日本語の子音①	子音の作られ方、調音点・調音法
7 日本語の子音②	カ、ガ、サ、ザ、タ、ダ行の子音
8 日本語の子音③	ナ、ハ、バ、パ、マ、ラ行の子音
9 日本語の子音④	撥音・促音・拗音・長音
10 日本語の子音⑤	外国人学習者に見られる子音の発音上の問題点
11 日本語の拍とリズム	拍と拍感覚、音節について
12 日本語のアクセント①	アクセントとは何か、アクセントの式と型
13 日本語のアクセント②	外国人学習者に見られるアクセント上の問題点
14 日本語のイントネーション①	イントネーションとは何か
15 日本語のイントネーション②	外国人学習者に見られるイントネーションの問題点
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	長谷川頼子 Yoriko Hasegawa		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	日本語教育実習		日本語教育実習			

■授業のねらいと到達目標

日本語教員養成講座の総まとめとして、これまで各自が学んできた日本語及び日本語教育というものを、一人ひとりが体験的に認識することを学習の目的とします。具体的には、初級日本語教科書「みんなの日本語初級Ⅰ本冊」の各課を分担して分析を行い、どう教えればよいかを発表する演習形式で行います。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語教員養成講座科目をすべて履修していること。未履修科目を残して先に実習に参加することはできません。また、教員の資格認定に向け、高度な日本語能力が必要です。

■成績評価方法・基準

平常点、提出課題、発表内容から総合的に評価します。なお、欠席や遅刻は、教員養成の観点から見てきわめて望ましくないことであり、原則として認めません。

■授業の予習・復習

予習：担当する課の前後を良く分析し、形式的にも揃ったレジュメを作成すること。
復習：各課のつながりを意識し、積極的に質問やコメントなどをすること。

■教科書

スリーエーネットワーク『みんなの日本語初級本冊Ⅰ』

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	自己紹介、講義の進め方や評価について解説
2 模擬発表	みんなの日本語初級Ⅰ本冊第4課、担当決め
3 発表①	第5課
4 発表②	第6課
5 発表③	第7課
6 発表④	第8課
7 発表⑤	第9課
8 発表⑥	第10課
9 発表⑦	第11課
10 発表⑧	第12課
11 発表⑨	第13課
12 発表⑩	第14課
13 発表⑪	第15課
14 発表⑫	第16課
15 発表⑬	第17課
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	大八木英夫 <i>Hideo Oyagi</i>		
区 分	国際学科	こども学科	対 象 学 年	2 年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	【教職科目】世界地誌		世界地誌			

■授業のねらいと到達目標

世界の地形・気候・陸水・生態・文化・産業などの基本的な地理的事象について講義を行います。そして、世界の地理的分布・特徴を理解することによって、世界各地で引き起こされている国際問題や環境問題について関心を持ち、解決に向けた能力を養うことを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

PowerPoint（パワーポイント）を使用して講義を行います。

■成績評価方法・基準

レポートで評価を行います。出席および授業の取り組みも重視します。

■授業の予習・復習

世界地誌に関する文献・資料は非常に多く多岐にわたるので、講義内の内容にとどまらず、普段から幅広い分野で関心を持ち、様々なものに目を通して置いて下さい。

■教科書

教科書は特に指定しませんが、地図帳を持参して下さい。

■参考文献

必要に応じて、授業内に適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	授業の進め方と事前アンケート
2 地球と世界地図	世界地図の表現方法と地図投影法
3 世界の地域区分	大陸区分と大陸間境界
4 地形環境	地球の形と大きさ、大地形
5 気候環境	世界の気温と降水量の分布
6 水文環境	世界の水循環
7 生物圏環境	世界遺産と生物多様性
8 都市と人口	都市化と人口分布
9 農業と食料	世界の食糧生産
10 貿易と産業	鉱物資源と経済
11 動態地誌Ⅰ	アジアを例として
12 動態地誌Ⅱ	オーストラリアを例として
13 環境と発展	世界の環境問題
14 民族と国家	国際関係と紛争
15 まとめ	まとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	大八木英夫 <i>Hideo Oyagi</i>		
区 分	国際学科	こども学科	対 象 学 年	2 年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	【教職科目】人文地理学		人文地理学			

■授業のねらいと到達目標

地理学における総合的な地域研究・調査では、自然現象と人文現象を個々に捕らえるのではなく、この両者について総合的かつ相互関係を含めて理解することが重要です。本講義では、日本の地域を対象として、「地域とは何か」、「地域性・地域的特徴とは何か」を考えます。

■授業の進め方（履修条件等）

PowerPoint（パワーポイント）を使用して講義を行います。授業課題の実施・毎回の出席ができることが履修の条件です。

■成績評価方法・基準

試験は実施せず、作業課題およびレポートによって評価します。

■授業の予習・復習

復習：前回までの授業内容をきちんと復習しておいて下さい。

■教科書

地図帳。地形図を購入してもらいますが、詳細は授業時に説明します。

■参考文献

『地図読解入門』（籠瀬良彦著、古今書院）、『日本地誌』（日本地誌研究所、二宮書店）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	授業の進め方
2 地理学の体系と地誌の位置付け	系統地理と地誌について
3 地域・地域性とは	地域の概念
4 地域の景観と風土	集落景観について
5 日本の地理概論	地域構造について
6 地域と人間活動	都市景観について
7 地図と地形図	近代地理学と地図の発達
8 地形図の見方地形図の利用	立地と分布
9 読図	生活文化と風土について
10 統計による地域理解	GISと地域統計処理法
11 地図と統計による地域理解Ⅰ	農業地理について
12 地図と統計による地域理解Ⅱ	人口地理について
13 観察・観測等による地域理解Ⅰ	フィールドワーク
14 観察・観測等による地域理解Ⅱ	アンケート・聞き取り調査
15 まとめ	まとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	小西 紀男 Norio Konishi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	教育行政	教育行政	教育行政	教育行政		

■授業のねらいと到達目標

教育改革が進む中で、学校現場では多様化する児童生徒・保護者への適切な対応が重要視され、新しい時代に対応した教育行政のあり方が問われています。そこで、わが国における教育行政の特質と課題、及び行政改革の内容について考え、教職員の任免や服務等を学校現場の実務に即して学びます。また、この授業は、教員採用試験受験者に役立つ内容と方法に重点を置いて進めます。

■授業の進め方（履修条件等）

毎時間配布する資料を読解するとともに、各自が「学習ノート」を完成させながら幅広い教職教養を身につけていきます。また、履修者は「教育原論」「教職概論」等の単位を取得した2～3年生が対象となります。

■成績評価方法・基準

定期考査時に論述試験を実施します。また、教員養成の観点から授業に臨む姿勢及び出席状況を評価に加えます。

■授業の予習・復習

授業に臨む前に、新聞・テレビ等の情報で教育時事問題に関する教養を身につけておくことが大切です。

■教科書

教科書は使用しない。毎時間配布する資料および「学習ノート」を利用する。

■参考文献

解説教育六法（三省堂）・学習指導要領（文部科学省）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業計画と内容および評価
2 民主的教育行政の確立①	戦前の教育
3 民主的教育行政の確立②	憲法・教育基本法の成立
4 民主的教育行政の確立③	民主的教育行政の現状
5 教育行政の組織と機能①	国の教育行政
6 教育行政の組織と機能②	地方自治と教育行政
7 教育関係職員①	教育職員の身分と現状
8 教育関係職員②	校長・教頭及び教育職員の職務
9 教育関係職員③	教育職員の分限及び懲戒
10 教育関係職員④	教育職員の服務と研修
11 教育関係職員⑤	勤務の現状と教職員団体
12 教育行政の課題①	学校の施設設備と環境整備
13 教育行政の課題②	教育改革への取り組み
14 教育行政の課題③	関係法規の改訂
15 教育行政の課題④	学習指導要領の改訂
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	小西 紀男 Norio Konishi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	教育法規	教育法規	教育法規	教育法規		

■授業のねらいと到達目標

近年、学校現場では多様化する児童生徒・保護者への適切な対応が重要視され、教育法規に関する基礎知識が強く求められてきています。そこで、憲法・教育基本法・学校教育法など、教育に関する主たる法規について学び、教育活動の法的根拠を理解するとともに、教育現場での応用力を身につけます。また、この授業は、教員採用試験受験者に役立つ内容と方法に重点を置いて進めます。

■授業の進め方（履修条件等）

毎時間配布する資料を読解するとともに、各自が「学習ノート」を完成させながら幅広い知識と応用力を身につけていきます。また、履修者は「教育原論」「教職概論」等の単位を取得した2～3年生が対象となります。

■成績評価方法・基準

定期考査時に論述試験を実施します。また、教員養成の観点から授業に臨む姿勢及び出席状況を評価に加えます。

■授業の予習・復習

授業に臨む前に、新聞・テレビ等の情報で教育時事問題に関する教養を身につけておくことが大切です。

■教科書

教科書は使用しない。毎時間配布する資料および「学習ノート」を利用する。

■参考文献

解説教育六法（三省堂）教育法令百選（有斐閣）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業計画と内容および評価
2 教育に関する法の基礎知識	国と地方自治体の教育法規
3 基本的法規①	日本国憲法①（憲法と教育条項）
4 基本的法規②	日本国憲法②（基本的人権の尊重）
5 基本的法規③	教育基本法①（教育の目標と機会均等）
6 基本的法規④	教育基本法②（学校・家庭・社会の教育）
7 人権と福祉の法規①	児童憲章・人権宣言・児童福祉法
8 人権と福祉の法規②	権利条約・虐待の防止に関する法規
9 学校教育の法規①	学校教育法①（学校の設置管理と就学）
10 学校教育の法規②	学校教育法②（学校種別の設置目的）
11 学校教育の法規③	学校法施行規則・学校保健法
12 行財政に関する法規	地方教育行政に関する法規
13 職員に関する法規①	地方公務員法・教育公務員特例法
14 職員に関する法規②	教育職員免許法・労働基準法
15 他の法規	少年法・国家賠償法・情報公開法
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	坂東 侑司 Takeshi Bandou		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2 年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	社会科・地歴科指導法Ⅰ		社会科・地歴科指導法Ⅰ			

■授業のねらいと到達目標

社会科の授業は、知識注入型の授業から、「学び方を学ぶ学習」の指導が重視され、調査、思考、表現、作業学習など実践的な課題解決的学習活動が求められている。地理・歴史の学習を中心に、基礎理論、教材理解・研究の方法、授業の方法論等について実践例によって検証する。

■授業の進め方（履修条件等）

教師作成のプリントならびに中学校学習指導要領解説－社会編に基づいて授業をすすめる。授業では、各自が「学習指導要領」を分担し、レポートすることで内容理解に努める。

■成績評価方法・基準

課題小論文（50点） 定期試験（50点）

■授業の予習・復習

レポートするときには必ずレジュメを作成する。

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説－社会編
文部科学省

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 社会科教育の現状と課題	オリエンテーション、アンケート
2	社会科教育の理念
3 社会科教育の基本	社会科教育の歴史
4	社会科教育の展望（今日的課題）
5 社会科の学力観	社会認識の過程と社会科の学力
6 社会科の授業観	わかる授業・楽しい授業
7	地理的分野の学習
8	地理的分野の指導と方法
9 社会科地歴学習の基礎理論	歴史的分野の学習
10	歴史的分野の指導と方法
11	問題解決学習と系統学習の理論
12	地理・歴史の教材研究
13 社会科授業の方法論	地理・歴史の指導技術
14	社会科の作業的・体験的学習の方法
15 社会科の評価	社会科の評価と展望

年 度	11年度入学		担 当 者	坂東 侑司 Takeshi Bandou		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2 年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	社会科・地歴科指導法Ⅱ		社会科・地歴科指導法Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

社会科・地歴科指導法Ⅰで学んだ理論がどのような観点で学習が行われているか、中学校学習指導要領解説－社会編の教科指導の方針や理念について、実際に使用されている教科書によって検証し、学習内容や指導方法について理解するとともに学習指導案が作成できるようにする。

■授業の進め方（履修条件等）

社会科・地歴科指導法Ⅰを履修した者が受講できる。教科書を使用し学習指導要領の内容と関連させ指導のポイントを理解する。

■成績評価方法・基準

レポート作成40点 課題発表60点

■授業の予習・復習

授業では、毎回、発表方式を採用しているので発表者は必ず準備をして授業に臨む。

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説－社会編 文部科学省
中学校教科書 東京書籍版
（地理的分野）新編新しい社会 地理
（歴史的分野）新編新しい社会 歴史

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1	オリエンテーション（授業の進め方）
2	中学校社会科の構造（地歴分野と公民的分野の関連性）
3	地理的分野学習内容の分析Ⅰ（世界の様々な地域）
4	Ⅱ（ // 教科書による分析）
5	Ⅲ（日本の様々な地域）
6	Ⅳ（ // 教科書による分析）
7	Ⅴ（地理的内容の取り扱いに関する考察）
8	歴史的分野学習内容の分析Ⅰ（小・中・高の歴史学習の関連）
9	Ⅱ（古代までの日本）
10	Ⅲ（中世の日本）
11	Ⅳ（近世の日本）
12	Ⅴ（近代の日本と世界）
13	Ⅵ（現代の日本と世界）
14	地理・歴史的分野の学習指導計画の作成（課題）
15	中学校社会科授業参観とレポート提出（佐倉市立根郷中学校）

年 度	11年度入学		担 当 者	福田 靖 Yasushi Fukuda		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	社会科・公民科指導法Ⅰ		社会科・公民科指導法Ⅰ			

■授業のねらいと到達目標

主に中学校社会科教員となった場合に必要とされる教員としての心構え、教育上の諸技法の基礎的理論と現実を理解する

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを使用した講義形式及び演習
教室内での座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

おおむね出席状況25%、小テスト、課題レポート等25%、試験（またはレポート）50%の割合で評価する。
授業の出席日数が2/3以下の者については、原則として単位認定をしない。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない
復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

- 『社会科中学生の地理、歴史、公民（教科書）』 帝国書院 2011
- 『新編中学校社会科地図』 帝国書院 2011

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 教師とはどんな仕事か	教育とは何か、教師とはどんな職業か
2 教育における「場」の設定	生徒理解、生徒との間合いの取り方
3 社会科を教えるということ	社会科教員としての基礎的資質
4 生徒の思考回路を回すということ	発問の仕方、プリントの作り方
5 社会科における評価	生徒を多角的に評価するという事
6 学習指導案の書き方	学習指導案作成上の留意点
7 社会科における基礎知識演習-1	日本の行政区分
8 日本国憲法の扱い方-1	平和主義を例に
9 日本国憲法の扱い方-2	基本的人権を例に
10 社会科における基礎知識演習-2	世界の国家と国家連合
11 経済分野の扱い方-1	生産活動と物の価格を例に
12 経済分野の扱い方-2	金融と財政を例に
13 社会科における基礎知識演習-3	20世紀以降の日本と世界の主な出来事
14 時事問題の扱い方-1	裁判員制度を例に
15 時事問題の扱い方-2	環境問題を例に
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	福田 靖 Yasushi Fukuda		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	社会科・公民科指導法Ⅱ		社会科・公民科指導法Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

主に中学校社会科教員となった場合に必要とされる、心構え、知識、授業展開の技能などを実践的に育成する。

■授業の進め方（履修条件等）

社会科・公民科指導法Ⅰの先修を原則とする。模擬授業を数多く行い、実践的訓練をする。教室内での座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

おおむね出席状況25%、小テスト、課題レポート等25%、試験（またはレポート）50%の割合で評価する。
授業の出席日数が2/3以下の者については、原則として単位認定をしない。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない
復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

- 『社会科中学生の地理、歴史、公民（教科書）』 帝国書院 2011
- 『新編中学校社会科地図』 帝国書院 2011

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 中学校学習指導要領について	平成20年版学習指導要領中学校社会科改訂の要点
2 視聴覚教材の扱い方-1	視聴覚教材を使う上での留意点
3 視聴覚教材の扱い方-2	視聴覚教材の実例
4 社会科と国際理解教育	社会科の観点から見た国際理解教育の目指すもの
5 社会科学習指導の研究-1	学生による模擬授業 企業の活動
6 社会科学習指導の研究-2	学生による模擬授業 市場経済
7 社会科学習指導の研究-3	学生による模擬授業 税金の使い道
8 社会科学習指導の研究-4	学生による模擬授業 基本的人権
9 社会科学習指導の研究-5	学生による模擬授業 国会のあり方
10 社会科学習指導の研究-6	学生による模擬授業 地方自治
11 社会科学習指導の研究-7	学生による模擬授業 裁判員制度
12 社会科学習指導の研究-8	学生による模擬授業 国連と地域機構
13 社会科学習指導の研究-9	学生による模擬授業 地球温暖化
14 社会科学習指導の研究-10	学生による模擬授業 地域紛争
15 高校入試（社会科）について	公立高校入試問題への対応
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	福田 靖 Yasushi Fukuda		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	地理歴史科指導法		地理歴史科指導法			

■授業のねらいと到達目標

主に高校の地歴科教員となった場合に必要とされる、教員としての心構えを育成するとともに最重要の教育内容についての扱い方と基本知識を身につける

■授業の進め方（履修条件等）

主として高校地歴科の日本史、世界史、地理の各科目を想定した内容で授業を進める。プリントを使用した講義形式及び演習。座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

おおむね出席状況25%、小テスト、課題レポート等25%、試験（またはレポート）50%の割合で評価する。授業の出席日数が2/3以下の者については、原則として単位認定をしない。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない
復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

特になし

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 地歴科を教えるということ	教育とは何か、教師とはどんな職業か
2 地理・歴史を学ぶ意味をどう伝えるか	学問としての地理・歴史と授業としてのそれとの違い
3 講義録とプリントをどう作るか	魅力的な講義、わかりやすいプリントとは
4 地理的空間認識演習-1	アジア地域の地図の作成演習
5 日本史で地域教材をどう扱うか-1	律令体制の崩壊から荘園の発生
6 日本史で地域教材をどう扱うか-2	荘園の発展と武士団の形成
7 日本史で地域教材をどう扱うか-3	鎌倉幕府の成立と千葉常胤
8 地理的空間認識演習-2	ヨーロッパ地域の地図の作成演習
9 世界史で環境問題をどう扱うか-1	神話に残った森の伐採
10 世界史で環境問題をどう扱うか-2	森の木材が海軍力を決める
11 世界史で環境問題をどう扱うか-3	ロンドン、パリにおける都市問題の解決
12 地理的空間認識演習-3	アメリカ地域の地図の作成演習
13 地理で隣国中国をどう扱うか-1	中国の歩みと人びと
14 地理で隣国中国をどう扱うか-2	多様な自然と農業
15 地理で隣国中国をどう扱うか-3	世界の工場としての中国
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	福田 靖 Yasushi Fukuda		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	公民科指導法		公民科指導法			

■授業のねらいと到達目標

主に高校の公民科教員となった場合に必要とされる、教員としての心構えを育成するとともに最重要の教育内容についての扱い方と基本知識を身につける

■授業の進め方（履修条件等）

主として高校公民科の政経、倫理、現代社会の各科目を想定した内容で授業を進める。プリントを使用した講義形式。座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

おおむね出席状況25%、小テスト、課題レポート等25%、試験（またはレポート）50%の割合で評価する。授業の出席日数が2/3以下の者については、原則として単位認定をしない。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない
復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

特になし

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 高校学習指導要領について	平成21年版学習指導要領高校公民科改訂の要点
2 戦争と平和をどう教えるか-1	二つの世界大戦
3 戦争と平和をどう教えるか-2	キューバ危機
4 戦争と平和をどう教えるか-3	有事法制
5 経済事象の取り扱い方-1	市場経済の原理
6 経済事象の取り扱い方-2	経済現象の図式化
7 経済事象の取り扱い方-3	市場の失敗
8 経済事象の取り扱い方-4	価格弾力性
9 宗教をどう教えるか-1	キリスト教
10 宗教をどう教えるか-2	仏教
11 宗教をどう教えるか-3	イスラム教
12 哲学をどう教えるか-1	宗教と哲学の違い、哲学の諸課題
13 哲学をどう教えるか-2	ソクラテスの「無知の知」をテーマに
14 哲学をどう教えるか-3	ソクラテスの「よく生きる」ということをテーマに
15 教員採用試験	教員採用試験の実際
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	柳原由美子 Yumiko Yanagihara		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単位	2
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	英語科指導法Ⅰ		英語科指導法Ⅰ			

■授業のねらいと到達目標

英語科指導法Ⅰでは、中学校・高等学校の英語教員として知っておくべき英語教育理論や各種教授法の概要を理解することを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開して行きます。

■成績評価方法・基準

- 1) 筆記試験（中間・期末）50%
- 2) 英語教授法に関する英語文献の要約（発表とデモンストラーション）30%
- 3) 授業への参加度 20%

■授業の予習・復習

予習：予告されている次回の授業に関する教科書の各章を読むしておくこと

復習：毎回配布されるレジュメに書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること

■教科書

望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』
大修館書店（改訂版2010年10月発行）

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、評価、プレゼンテーションについて
2 英語教育と英語教育学	英語教育の目的、英語教育の存廃論、実用論か教養論か
3 英語の国際化と日本の英語教育（1）	国際化時代の英語の役割、国際語としての英語など
4 英語の国際化と日本の英語教育（2）	国際語としての英語の特徴、国際コミュニケーションとしての英語教育、EILと日本の英語教育
5 学習指導要領	学習指導要領とは、その変遷、特色（中学と高校）
6 学習者	発達の要因、適性要因、認知的要因、動機づけなど
7 英語教員	英語教師の役割、教師の要因、学習内容定着への工夫
8 中間試験	試験の解説（復習）
9 国際理解と早期英語教育への展望	早期英語教育に対する賛成論と反対論、公立長学校での外国語教育導入への経緯、小学校での英語学習目標
10 英語教授法（はじめに）	英語教授法に関する英語文献の概略説明
11 英語教授法（発表と実践）	Language Learning Methods, Grammar Translation Method
12 英語教授法（発表と実践）	Direct Method, Reading Method
13 英語教授法（発表と実践）	Audio Lingual Method, Restoring the Cognitive Element
14 英語教授法（発表と実践）	Natural Language Learning, Eclectic Approach
15 英語教授法（まとめ）	論争分野
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	柳原由美子 Yumiko Yanagihara		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単位	2
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	英語科指導法Ⅱ		英語科指導法Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

英語科指導法Ⅱでは、英語科指導法Ⅰ（前期）で学習した基礎理論を踏まえて、実践に必要な知識と技術を習得することを目的とします。特に英語の4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）の指導方法や指導上の問題点、留意点などについて、具体例や授業のビデオなどを用いながら解説します。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開して行きます。原則として、「英語科指導法Ⅰ」を履修済みの学生を対象とします。

■成績評価方法・基準

- 1) 筆記試験（中間・期末）60%
- 2) 4技能の一つを選択し、簡単な指導案の作成と模擬授業（実習）40%

■授業の予習・復習

予習：予告されている次回の授業に関する教科書の各章を読むしておくこと

復習：毎回配布されるレジュメに書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること

■教科書

望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』
大修館書店（改訂版2010年10月発行）

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、評価、プレゼンテーションなど
2 第二言語習得と英語教育（1）	英語教育における第二言語習得研究の意義など
3 第二言語習得と英語教育（2）	第二言語習得研究と英語教育、第二言語習得と言語観
4 コミュニケーション能力の育成	コミュニケーション能力とは、その活動の特徴
5 リスニング（1）	リスニングとは、その諸相と指導の視点、指導過程
6 リスニング（2）	リスニングに関する授業のビデオ視聴と討論
7 中間試験	試験の解説（復習）
8 スピーキング（1）	スピーキングとは、その諸相と指導の視点、指導過程
9 スピーキング（2）	スピーキングに関する授業のビデオ視聴と討論
10 リーディング（1）	リーディングとは、その諸相と指導の視点、指導過程
11 リーディング（2）	リーディングに関する授業のビデオ視聴と討論
12 ライティング（1）	ライティングとは、その諸相と指導の視点、指導過程
13 ライティング（2）	ライティングに関する授業のビデオ視聴と討論
14 ミニ模擬授業（1）	学生による模擬授業（4技能のどれかを選択して）
15 ミニ模擬授業（2）	学生による模擬授業（4技能のどれかを選択して）
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	柳原由美子 Yumiko Yanagihara		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	英語科指導法Ⅲ		英語科指導法Ⅲ			

■授業のねらいと到達目標

英語科指導法Ⅲでは、実際に授業をする場合必要となる1コマ(45分)の授業案の作成ができるようになることを目的とします。そのために、チーム・ティーチング、テストングと評価、マルチメディア機器の活用、教材、授業の運営などについて学習します。

■授業の進め方(履修条件等)

毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開して行きます。原則として、「英語科指導法Ⅰ」「英語科指導法Ⅱ」を履修済みの学生を対象とします。

■成績評価方法・基準

- 1) 筆記試験(中間・期末) 50%
- 2) 試験の作成と採点(実習) 20%
- 3) 学習指導案の作成 30%

■授業の予習・復習

予習: 予告されている次回の授業に関する教科書の各章を読んでおくこと
 復習: 毎回配布されるレジュメに書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること

■教科書

望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店(改訂版2010年10月発行)

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、評価、プレゼンテーションなど
2 チーム・ティーチング	JETプログラム、TTの理念と定義、その課題など
3 測定と評価(1)	測定とは、評価とは、テストの種類、テスト作成の条件
4 測定と評価(2)	実験結果の簡単な処理方法、実習を含む
5 マルチメディア機器等の活用	文字/画像情報・音声・動画の提示、CALLの利用など
6 教科書と教材研究	教材とは、教材研究の意義、教材分析と評価の視点など
7 文法の学習と指導	コミュニケーションと文法の知識、文法指導の目的など
8 語彙と辞書検索指導	語の形態的特長、語と語の意味関係、語と語の連結など
9 授業運営	1コマの授業の流れ、代表的な授業分析方法
10 学習指導案	学習指導案の書き方、作成
11 模擬授業(1)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
12 模擬授業(2)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
13 模擬授業(3)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
14 模擬授業(4)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
15 模擬授業(5)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	柳原由美子 Yumiko Yanagihara		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単 位	2
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	英語科指導法Ⅳ		英語科指導法Ⅳ			

■授業のねらいと到達目標

「英語科指導法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」で学習した語学教育理論や様々な教授法の理論を踏まえて、実際に授業をする場合の準備、および進め方の演習を行います。したがって、履修者は実際に作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行い、授業後に全員でディスカッションをし、教育実習に向けての準備を目的とします。

■授業の進め方(履修条件等)

毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開して行きます。原則として、「英語科指導法Ⅰ、Ⅱ」を履修済みの学生を対象とします。

■成績評価方法・基準

- 1) 学習指導案の作成 20%
- 2) 模擬授業の実施(実習) 40%
- 3) 模擬授業後の討論への参画(討論) 30%

■授業の予習・復習

予習: 学習指導案の作成・模擬授業の準備

■教科書

望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、評価、プレゼンテーションなど
2 外部講師による講義	英語教育現場の現状と問題点、教育採用試験等について
3 外部講師による講義	学習指導案と模擬授業の実施、討論会
4 模擬授業(1)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
5 模擬授業(2)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
6 模擬授業(3)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
7 模擬授業(4)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
8 模擬授業(5)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
9 模擬授業(6)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
10 模擬授業(7)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
11 模擬授業(8)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
12 模擬授業(9)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
13 模擬授業(10)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
14 模擬授業(11)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
15 模擬授業(12)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	柳原由美子 Yumiko Yanagihara		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	教育方法・技術論	教育方法・技術論	教育方法・技術論	教育方法・技術論		

■授業のねらいと到達目標

この授業は、将来教員を目指す学生たちが受講することを前提に、学校教育の実践に必要な基礎的理論を理解し、その理論を踏まえて、現実の授業実態や最近の方法技術の特質を探ることを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開して行きます。

■成績評価方法・基準

次のように行いますが、2)と3)についてはどちらかを選択します。

- 1) 筆記試験（中間・期末）70%
- 2) コンピュータや教材提示装置などの教具を利用したミニ授業 30%
- 3) プログラム学習教材の作成 30%

■授業の予習・復習

予習：初回の授業の際に提示された参考文献のうち、次の授業に必要な単元について眼を通しておくこと
 復習：レジュメに書かれている各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること

■教科書

毎回配布する印刷物（レジュメetc.）を利用します。

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、評価、プレゼンテーションについての説明
2 教えるという仕事	柔軟な方法観の必要性、TTTIとは、スキーマとは
3 変貌する教室	学校の転換期、教室の風景の変貌、欧米と日本の相違
4 授業の様式	教える2つの様式とその歴史、日本の学校文化
5 授業の歴史（1）	近代以前の教育方法、近代の教育学の成立、
6 授業の歴史（2）	ベスタロッチ、ヘルバルト、ツィラー等の教授の変遷
7 授業の歴史（3）	子ども中心の教育、効率主義の教育、行動科学の教育
8 中間試験	試験の解説（復習）
9 いろいろな教育（1）	オープン教育の発展と現状、その難しさの可能性
10 いろいろな教育（2）	プログラム学習、完全習得学習、応答する環境
11 いろいろな教育（3）	視聴覚メディアの特質とその利用、視聴覚教育の変遷
12 プレゼンテーション（1）	学生による視聴覚機器を利用した発表
13 プレゼンテーション（2）	学生による視聴覚機器を利用した発表
14 授業のパラダイム転換（1）	行動科学のパラダイム、行動科学への批判（1）
15 授業のパラダイム転換（2）	行動科学への批判（2）、参与観察による研究
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	中山 幸夫 Yukio Nakayama		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	道徳教育研究	道徳教育研究	道徳教育研究	道徳教育研究		

■授業のねらいと到達目標

今日のわが国社会の現状に関心を寄せながら、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育のあり方を検討する。道徳および道徳教育の本質について学ぶことを通じて、学生諸君が人間としてのより善い生き方、あり方に関心を深めることを目標とした。

■授業の進め方（履修条件等）

授業内容に即した講義要項を配付し、それをもとに授業を進めていく。「道徳」授業の実際については具体的な資料（副読本）や実践例について検討を加える。課題図書を読むことも履修条件とする。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、出席および小レポート（50%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：課題レポートの作成。
 復習：課題レポートの再検討

■教科書

文部科学省「小学校／学習指導要領解説 道徳編」日本文教出版
 文部科学省「中学校／学習指導要領解説 道徳編」東洋館出版
 宇佐美 寛「『道徳』授業に何が出来るか」明治図書

■参考文献

授業時に紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	道徳教育の体験、道徳教育の意義と課題（総論）
2 わが国における道徳	戦前の道徳教育
3 教育の歩み	戦後の道徳教育
4 道徳教育の思想・理論	道徳教育の思想
5 論	道徳性の発達理論
6 家庭、学校、地域社会の連携	家庭における道徳教育
7	地域社会における道徳教育
8	学習指導要領における「道徳」の時間
9	「道徳」授業の現実
10	「道徳」授業の課題
11	「道徳」授業の改善
12	教科指導と道徳教育
13 学校の教育活動と道徳教育	特別活動と道徳教育
14	総合的な学習の時間と道徳教育
15 総括	道徳実践力の育成はいかにして可能となり得るか
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	坂東 侑司 Takeshi Bandou		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	生徒指導論	生徒指導論	生徒指導論	生徒指導論		

■授業のねらいと到達目標

生徒指導は、生徒の望ましい人格形成、自己実現を支援するために組織的、計画的、継続的に行われ、教育目標達成に欠かせない教育活動になっています。学校生活の充実、将来の人生設計に必要な自己指導能力の育成、主体的な進路選択ができる指導、支援の理論や方法について事例によって理解することします。

■授業の進め方（履修条件等）

生徒指導や進路指導の在り方、学校生活の様々な場面で応用される指導理論や指導方法について、個々の体験、学校における様々な実践事例を題材として取り上げ具体的に検証することします。

■成績評価方法・基準

レポート50点、テスト（50点）で行います。

■授業の予習・復習

必要ありません。

■教科書

生徒指導提要 文部科学省 290円

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の方法・生徒指導の現状と課題
2	生徒指導の意義・性格・機能
3 学校における生徒指導	生徒指導の組織・目標・計画
4	生徒指導と教科・道徳・特別活動
5	適応と発達課題
6	自己指導能力
7 生徒指導の理論と方法	生徒理解
8	問題行動
9	生徒指導と法規
10	進路指導の現状と課題・歴史
11	進路指導の方法原理（意義・性格・機能）
12 学校における進路指導	進路指導の組織と運営（計画の作成）
13	高校中退、進路相談
14	進路指導の教育課題（キャリア教育）と評価
15 生徒指導・進路指導と学級担任	

年 度	11年度入学		担 当 者	藤井 輝男 Teruo Fujii		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	教育相談	教育相談	教育相談	教育相談		

■授業のねらいと到達目標

教員となった時に必要となる「学校教育相談」に関する知識を修得し、教育場面における生徒との対応の仕方について理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、教育相談における生徒理解の考え方を概説する。その後、教科書の各章を学生が各自分担し、報告を行う。その報告内容に対して教員が補足説明を行う形式で進める。

■成績評価方法・基準

出席（40%）・発表及びその他の課題（40%）・授業態度（20%）

■授業の予習・復習

予習：事前に教科書を読んでおくこと。

■教科書

川島・勝倉編著『臨床心理学からみた生徒指導・教育相談』ブレーン出版

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2 生徒指導、教育相談とは	発達の視点からの教育相談
3 学校での社会的スキル	対人行動の基本的技術について
4 学校でのカウンセリング	カウンセリングマインドについて
5 システムアプローチ	問題行動をどうとらえるのか
6 発達障害	LD、ADHD等について
7 キレル子ども（1）	キレル子の特徴
8 //（2）	キレないための生徒指導
9 不登校	様々な事例から考える
10 いじめ	いじめ防止には何が必要なのか
11 孤立児童・生徒	集団内での孤立状態について考える
12 スクールカウンセラーとは	スクールカウンセラーの意義
13 教師のメンタルヘルス	教師自身の精神衛生について
14 学校と地域	地域との連携について
15 まとめ	まとめと質問
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	中山 幸夫 Yukio Nakayama		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	教職総合演習		教職総合演習			

■授業のねらいと到達目標

人類に共通する課題、わが国社会全体に関わる諸課題の複雑性・総合的な性格を理解しつつ、具体的な研究テーマについての分析・検討を進め、「知の総合化」をめざす。併せて、これらのテーマを学校現場（小・中・高等学校）で児童・生徒が学習できるように教材化の工夫を図ることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

以下の取り組みを中心に授業を進める。

- ①グループで諸課題に関する研究テーマを設定し、それらについて文献、資料を収集し、まとめ、発表する。
- ②文献・資料の収集だけでなく、インターネットを活用した情報の収集および整理、実在の人を介しての情報収集など、見通しを立てたうえでの取り組みを進める。
- ③発表においては、情報機器などを活用した効果的なプレゼンテーションが望まれる。

■成績評価方法・基準

出席（50%）、テーマ発表（30%）、レポート（20%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

グループでの発表準備。

■教科書

使用しない。

■参考文献

上杉賢士著「総合的な学習を楽しむコツー チャータースクールからの示唆ー」明治図書
上杉賢士著「総合学習進化論ー12年間で育てる学力ー」明治図書

年 度	11年度入学		担 当 者	坂東 佑司 Takeshi Bandou		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	特別活動研究	特別活動研究	特別活動研究	特別活動研究		

■授業のねらいと到達目標

特別活動は、「なすことによって学ぶ」実践的な学習機会になっている。生徒の自主的・実践的な活動、集団生活の人間関係づくり、体験活動の教育的効果、指導力が期待される学級担任の在り方等についての理解深めて特別活動の方向性について考察するようにします。

■授業の進め方（履修条件等）

教師が配布する学習プリント、中学校学習指導要領解説ー特別活動編を中心教材として使用し発表等を重視する主体的学習機会となるようにする。理論に基づいた特別活動の実践事例及び研究成果の紹介をとおして内容を理解できるようにします。

■成績評価方法・基準

毎時間提出のレポート内容の評価（50点）及び定期試験（50点）で行います。

■授業の予習・復習

特に必要ありません

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説ー特別活動編
文部科学省 ぎょうせい

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の進め方・特別活動の現状と課題
2 特別活動とは何か	特別活動の目標・教育的意義
3	特別活動の歴史
4	学級経営の理論・学級経営の内容
5	学級活動指導計画の作成と評価
6 特別活動の理論・内容・方法	生徒会活動の理論
7	生徒会活動の方法論
8	学校行事の理論
9	学校行事の方法論
10	学級づくりの方法論
11 特別活動の技法	自然体験・社会体験等の指導法
12	生徒活動の支援と指導法
13	教科・道徳・生徒指導と特別活動の関連性
14 学校経営と特別活動	特別活動指導計画の作成
15	特別活動における評価と活用

年度	11年度入学		担当者	坂東 侑司 Takeshi Bandou		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	3年	単位	1
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	教育実践研究		教育実践研究			

■授業のねらいと到達目標

教育実習を前に教育者としての心構えを学ぶ。学校教育に対する理解を深めるため、学習指導要領の理解、専門性など教員としての責務、役割等について理解を深める。

■授業の進め方（履修条件等）

中学校学習指導要領解説－総則編を中心教材に、あわせて配布プリントにより実践を意識した理論学習を行う。学校参観はレポートにまとめる。習熟に必要な指導方法や指導技術、教材研究の方法等は講義のなかの発表・報告等の機会をとらえ実践的に指導する。

■成績評価方法・基準

教育実習・教職員の適性検査に備え、参観実習、講義の中で行われた提案や発表態度、レポート（8000字以上）によって評価する。

■授業の予習・復習

レポートするときにはレジュメ等の作成によって行えるようにする。

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説－総則編
文部科学省 ぎょうせい

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の進め方、現代の教育課題
2 学校教育の条件	学校の教育機能
3	学校の組織・施設・教職員
4	教育課程の編成及び実施（基準、法則、一般方針）
5	//（道徳、体育・健康）
6	//（内容の取り扱いに関する共通的事項）
7	//（授業時数等）
8	//（指導計画の作成）
9 学校の教育活動の展開（教育課程）	//（体験・問題解決・自発的自主的学習）
10	//（生徒指導、進路、ガイダンス）
11	//（学習活動、個に応じた指導）
12	//（特別支援、帰国生徒、情報）
13	//（部活動、指導の評価、地域連携）
14 学校の理解	学校参観の意義と方法（学校参観事前研修）
15	学校参観実習（千葉市立轟町中学校）

年度	11年度入学		担当者	八田 厚子 Atsuko Hatta		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単位	2
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	子どもの心と体		児童心理学 子どもの心と体			

■授業のねらいと到達目標

まず、子どもの心と体が成長し、発達するしくみと機能について学び理解を深めたい。次に子どもが健全に育つ為の人間関係や環境（響）について考察し、生命の有機的な関連性について認識を深めたい。三つめに、子どもの心の問題とその事例から支援と予防について学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

講義だけでなく、グループ活動（情報収集、討議、発表）、体験的学習、ビデオ視聴などを取り入れて進行する。

■成績評価方法・基準

受講状況、試験等による総合評価

■授業の予習・復習

予習：子どもに関する記事や情報があれば、ファイルしておく。
復習：教科書、印刷教材、ノート、参考文献などで再確認しておく。

■教科書

『子どものこころ 児童心理学入門』桜井茂男、他著 有斐閣 アルマ

■参考文献

『脳科学からみた機能の発達』ミネルヴァ書房
『児童の心理』『児童心理学への招待』サイエンス社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 子どもをどうとらえるのか	人間の存在と発達の視点、児童期の位置づけ
2 現代の子どもたちの生活	家庭のなかの子ども、学校生活、遊び、仲間、情報通信とメディア
3 心と体との関連	身体の成長、運動機能、性、ストレス
4 ことば	ことばの発達、言語と思考、コミュニケーション、読み、書き、話す
5 知性	知能の考え方、思考、創造性、学力、個人差
6 認知と思考	記憶、問題解決、感情と行動
7 学習意欲と動機づけ	意欲と無気力、学習達成の要因、動機づけのメカニズム
8 自己概念とパーソナリティ	自己概念の発達、パーソナリティの理解
9 人間関係	家族、友達、仲間、教師との関係、ソーシャルサポート
10 社会性	社会性とは、向社会的行動、道徳性、養護性、攻撃性、社会的相互作用
11 子どもの心理臨床	理解、配慮、支援、教育のあり方
12 心の問題とその事例①	不登校、非行、いじめ
13 心の問題とその事例②	児童虐待とPTSD
14 心の問題とその事例③	社会性の困難、運動動作の困難、注意集中の困難、学習の困難
15 まとめ	歴史的事例の考察とまとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山口政之 Masayuki Yamaguchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	初等国語科指導法		初等国語科指導法			

■授業のねらいと到達目標

国語科教育の現状と課題をふまえて、これからの時代に求められる適切な表現力や正確な理解力を養うための国語科学習のあり方を学習指導要領の内容に即して理解することをねらいます。初等国語科におけるキーワードが口頭で説明できるように理解してください。

■授業の進め方（履修条件等）

学習指導要領に示された内容と、学習材（授業では主に教科書教材）、学習者の実態、学習指導案の4者のつながりを踏まえて、実際の授業における教師の役割や教育方法等について理解を深めてもらいます。電子辞書は必要ですが、原則として携帯電話の使用は認めません。

■成績評価方法・基準

出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。

■授業の予習・復習

予習：『小学校学習指導要領解説国語編』を読んでおいて下さい。
復習：資料やノートを読み返し、授業内容の理解に努めて下さい。

■教科書

文部科学省『小学校学習指導要領』
文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社

■参考文献

西本鶏介監修『教科書にでてくるお話5年生』ポプラ社
その他、授業の中で適宜紹介していく。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	学生の国語科学習の思い出から問題点を挙げる
2 国語科教育の歴史	国語科100年の歴史を概観する
3 小学校学習指導要領「国語科」	国語科と国語の違い、学校としての実践
4 「読むこと」の指導法・文学	指導案に込められた指導理念を理解する
5 「読むこと」の指導法・説明文	指導案に込められた指導理念を理解する
6 「書くこと」の指導法①（実用文）	指導案に基づいて学習活動を体験し理解を深める
7 「書くこと」の指導法②（虚構文）	指導案に基づいて学習活動を体験し理解を深める
8 「話すこと・聞くこと」の指導法	スピーチを楽しむ学級にするためには
9 「言語事項」の指導法・漢字、言語	新出漢字の指導法、日常的な漢字指導
10 「言語事項」の指導法・書写	ワークシートの作成と活用
11 総合的な学習との連携	国語科にとらわれない言語活動とは
12 小学古典の指導法	徒然草109段、百人一首を学習材として
13 学習指導計画の作成①（単元構成）	1時間の授業における単元の位置づけを理解する
14 学習指導計画の作成②（年間計画）	学校教育の中で計画的に指導を行うために
15 小学英語との連携	ことばの教育を担う学級担任
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	越川浩明 Hiroaki Koshikawa		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	算数科指導法		算数科指導法			

■授業のねらいと到達目標

小学校における算数の内容を知り、現場で行われている代表的な指導実践例などを紹介します。学校現場でより良い授業が展開できるようになることをねらいとし、算数科の指導案が作成できることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを中心に授業を進めます。小学校での算数の授業がどのように行われるかについて現場教諭による講義も取り入れます。算数概説を履修済みが履修条件です。

■成績評価方法・基準

指導案提出（50%）、定期試験（50%）ただしこの配分は変更することもあります。

■授業の予習・復習

予習：小学校学習指導要領解説の算数編をよく読んでくること。
復習：講義中に配布した資料をよく復習しておくこと。

■教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』平成20年8月（東洋館出版社）。およびプリント教材。

■参考文献

授業中に適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	算数科の目標と内容の概観
2 学校現場での実際	小学校教諭による模擬授業
3 数と計算の指導1	低学年の内容
4 数と計算の指導2	中学年の内容
5 数と計算の指導3	高学年の内容
6 量と測定の指導1	1学年～3学年の内容
7 量と測定の指導2	4学年～6学年の内容
8 図形の指導1	1学年～3学年の内容
9 図形の指導2	4学年～6学年の内容
10 数量関係の指導1	1学年～3学年の内容
11 数量関係の指導2	4学年～6学年の内容
12 算数科の学習指導計画	学習指導計画の立て方
13 算数科の評価基準	評価基準の趣旨について
14 指導案作成	グループに分かれ指導案を作成する
15 指導案の発表	グループごとの指導案発表を行う
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	坂東 侑司 Takeshi Bandou		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単位	2
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	初等社会科指導法		初等社会科指導法			

■授業のねらいと到達目標

初等社会概説によって理解した基礎・基本的な社会科の理念を実際の指導ではどのように活用するかという観点で学習指導要領を中心に講義・演習を行います。目標達成のための実践プランの作成、教材研究・授業展開の方法（学習指導案の作成）、社会科の技能について具体的な事例によって実践的に検証します。

■授業の進め方（履修条件等）

初等社会概説の単位を修得した者

■成績評価方法・基準

課題レポートの内容（50点）、定期テスト（50点）で評価を行います。

■授業の予習・復習

小学校学習指導要領解説－社会編を読んで課題を持って受講できるようにする。

■教科書

- （1）教師作成のプリントを配布します。
- （2）小学校学習指導要領解説－社会編を使用します。
- （3）東京書籍版3・4年、5年、6年の教科書を使用します。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業概要・社会科教育の現状と学習指導要領
2 社会科の歴史	
3 社会科目標の分析	各学年（3・4年、5年、6年）の目標構造と内容
4 3・4年の授業方法	学習指導要領の解説（目標、身近な地域の学習法）
5	//（都道府県の学習法）
6 5年の授業方法	//（我が国の国土の学習法）
7	//（我が国の産業の学習法）
8	//（歴史を学ぶ意義と学習法）
9 6年の授業方法	//（我が国の歴史上の人物の働き、文化遺産の学習法）
10	//（我が国の政治の学習法）
11	//（世界の中の日本の学習法）
12	社会科学学習指導案作成の理論①
13 授業プランの作成	社会科学学習指導案作成の作業②
14	社会科学学習指導案の検討
15 社会科の評価	学習評価の理論と方法

カリキュラム

年度	11年度入学		担当者	土井 仁 Zin Doi		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	2年	単位	2
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	初等理科指導法		初等理科指導法			

■授業のねらいと到達目標

小学校理科の目標や内容を十分に理解するとともに、目標達成のための実践的な方法について学習します。教材研究をどう進めるか。授業をどう構成するか。実験・観察の実際。子供の活動の場づくりと支援。安全への取り組み等を模擬授業も含めて学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

『理科概説』を履修した学生が対象です。毎時間授業資料としてプリントを配布します。各分野から小単元を選び、小学校での授業を念頭に、実験・観察を中心に据えた実践的な学習を行います。

■成績評価方法・基準

①学習への参加状況（出席・意欲・態度）。②模擬授業など教材準備や表現。③課題やレポートの内容。④定期テスト。など総合して評価します。（めやす①20%②10%③10%④60%）

■授業の予習・復習

予習：次時の学習を予告します。必要により予習内容を指示します。
 復習：配布プリントをもとに復習し、知識や自分の考えを加え、理解を深めてください。

■教科書

教科書：小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省
 授業用プリント：授業時に配布。

■参考文献

小学校理科用教科書

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	「教師に必要な資質・能力」「授業の構成と進め方」「プレゼンの方法」
2 課題プレゼン①	「基礎的な問題」や「小学校での指導に必要な知識や技能など」を学生が解説し資料や教具を用いて説明する。
3 課題プレゼン②	
4 授業研究「物質」（1）	VTR視聴「模範授業」（金属を溶かす水溶液）授業の構成・展開を学ぶ。
5 指導案の作成	「金属と酸の反応」指導案（略案）の作成①。授業準備（板書計画と予備実験）
6 授業場面の検討	「理科授業の進め方」導入、課題把握、実験、まとめ、安全への取り込み
7 「物質」（2）	「水の加熱」実験・観察と推論。安全な実験。安全管理・安全指導。
8 「エネルギー」（1）	「振り子の運動」実験条件の制御。指導案の作成②
9 「エネルギー」（2）	「電気の動き」「電流の動き」電流計、電圧計。簡易モーターの製作。
10 「エネルギー」（3）	「この規則性」教具と効果的な演示。モデル思考。
11 「生命」（1）	「身近な生物」「水の中の小さな生物」観察器具の習熟。記録の方法。
12 「生命」（2）	「昆虫と植物」「植物の養分と水の通り道」観察器具の活用。記録法の指導。
13 「地球」（1）	「月と星」「月と太陽」モデルの製作と活用。指導案の作成③。
14 「地球」（2）	「流水の動き」「土地のつくりと変化」実験器具の活用。視聴覚教材の作成。
15 まとめ	理科授業の特徴と展開。教師に必要な資質・能力。安全管理・安全指導。
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	山本陽子 Yoko Yamamoto		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	2年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	初等音楽科指導法		初等音楽科指導法			

■授業のねらいと到達目標

音楽科教育の意義を理解し、基本的な授業づくりを行う能力を養うことを目的とします。学習指導要領にある小学校音楽科の目標と内容、指導計画、評価などについて学び、実際の音楽科授業についての理解を深めます。

■授業の進め方（履修条件等）

初等音楽概説の履修を原則とします。音楽に対する基礎的理解を前提に実際の授業についての具体的な事例を取り上げながら進めます。

■成績評価方法・基準

毎時間の取り組み、課題レポート、実際の活動、試験等、総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：教科書を読む 課題意識をもつ
復習：ノート・資料の整理

■教科書

『新音楽の授業づくり』教育芸術社（2009）
『小学校学習指導要領解説音楽編』文部科学省（平成20年8月）

■参考文献

『改訂音楽通論』教育芸術社（初等音楽概説の教科書）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 音楽教育の目的と意義	なぜ音楽を学ぶのか
2 学習指導要領	音楽科の目標 各学年の目標と内容
3 日本の音楽教育の変遷	明治以降の音楽教育
4 授業づくりに向けて①	年間指導計画と題材 共通事項と音楽の理解
5 授業づくりに向けて②	子どもの発達と音楽の理解
6 授業づくりに向けて③	音楽科の評価
7 授業づくりの実際①	基本的な考え方 低・中・高学年の授業づくり
8 授業づくりの実際②	表現の授業（歌唱）を中心に
9 授業づくりの実際③	表現の授業（器楽）を中心に
10 授業づくりの実際④	表現の授業（音楽づくり）を中心に
11 授業づくりの実際⑤	鑑賞の授業 表現と鑑賞の一体化
12 授業づくりの実際⑥	指導案の書き方
13 授業づくりの実際⑦	指導案の検討
14 授業づくりの実際⑧	模擬授業
15 授業づくりの実際⑨	指導と授業のまとめ
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	小橋暁子 Satoko Kobashi		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	2年	単位	2
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科目名	図画工作科指導法		図画工作科指導法			

■授業のねらいと到達目標

小学校における図画工作の目的と意義について、授業を展開する上で必要な具体的な諸問題をまじえ、理論と実習より学び、教材開発の力、自分なりの造形教育観を持つことができるようにすることを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は講義と演習を併用しながらすすめていきます。原則として「初等図画工作概説」を先に受講してください。

■成績評価方法・基準

出席、授業への取り組み、発言、作品提出、レポート等によって総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習：道具、材料の準備から図画工作の学習は始まります。必要な事前の準備をした上で、授業へ臨んでください。
復習：講義や演習等で行ったことについての感想や分析等、自分の考えをノートなどにまとめてください（授業時に指示します）。

■教科書

小学校学習指導要領解説『図画工作編』日本文教出版

■参考文献

授業時に適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	スケジュール説明、図工の経験等についてのアンケート
2 基礎編①表現について	「表現」について様々な角度からみていく
3 基礎編②	学校の中で造形活動が行われている意味
4 基礎編③	図画工作の役割について過去から現在までとらえ
5 基礎編④	指導要領の内容と、教科書の取り扱いについて
6 教材編①造形遊び	造形遊びの意味付けと実際について
7 教材編②平面・立体	平面表現・立体表現の実際について
8 教材編③鑑賞	様々な鑑賞の方法について
9 教材編④他教科他領域との関連	図画工作の活動と他の領域とのかかわりについて
10 材料編①彩色用具	クレヨンやパス、絵具の組成や使い方について
11 材料編②材料と道具	材料と道具の関係について
12 計画／指導編①	図工教材をつくる時の視点について
13 計画／指導編②	図工教材をつくる時の計画の方法について
14 計画／指導編③	図工の授業を構成する時の視点について
15 計画／指導編④	図工の授業を構成する時の方法について
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	藤井 喜一 <i>Kiichi Fujii</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	初等体育科指導法		初等体育科指導法			

■授業のねらいと到達目標

小学校学習指導要領「体育科」の目標及び内容を理解し、学習内容や学習の進め方に関する基礎的な考え方を理解する。さらに、学習計画立案の手順を理解し、学習指導案の作成を行うことができるようにする。

■授業の進め方（履修条件等）

学習指導案の内容と授業の組み立て方を学んだ後、グループ、あるいは個人で学習指導案を作成し、模擬授業を行う。そして、授業後に研究協議を行う。

■成績評価方法・基準

出席50% 模擬授業に対する積極性20% 作成した学習指導案20% 論述試験10%

■授業の予習・復習

予習：指導要領解説の各領域を読み内容をノートにメモすることむこと。

復習：授業の要点をまとめる。また、模擬授業の研究協議については詳細に記録すること。

■教科書

文部科学省 小学校学習指導要領解説体育編 東洋館出版社
文部科学省 中学校学習指導要領解説保健体育編 東山書房

■参考文献

適宜紹介

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	体育科で学ぶものは何か
2	小学校学習指導要領(体育編)	学習指導要領の全体を概観する
3	体育科の歴史	基本的性格、目標、内容の変遷
4	体育のカリキュラム	カリキュラムの構造と授業設計
5	評価について	体育の授業評価の方法
6	教師の指導技術	体育の授業における教師の指導技術とは
7	指導計画について	指導計画をどのように作成するか
8	学習指導案の作成①	模擬授業に向けての学習指導案づくり
9	学習指導案の作成②	模擬授業に向けての学習指導案づくり
10	模擬授業①	模擬授業と授業後の協議会
11	模擬授業②	模擬授業と授業後の協議会
12	学習指導案の作成③	模擬授業に向けての学習指導案づくり
13	学習指導案の作成④	模擬授業に向けての学習指導案づくり
14	模擬授業③	模擬授業と授業後の協議会
15	模擬授業④	模擬授業と授業後の協議会
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	関弘子 <i>Hiroko Seki</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	初等家庭科指導法		初等家庭科指導法			

■授業のねらいと到達目標

小学校「家庭」の指導者育成を目指して、基本的な指導法の理解を図り、実践的な力を培う。目標として学習の指導計画の立案や指導案の作成を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

グループによる演習、実習を中心にレポートのまとめ、指導案の作成等取り入れる。グループでの学習が多く、欠席遅刻は他の人の迷惑になるので厳しく対処する。

■成績評価方法・基準

出席状況、授業態度、提出物（レポート、指導案）、作品製作、試験により評価する。

■授業の予習・復習

予習：次週の授業内容をテキストや資料で確認しておく。

復習：示された課題に取り組む。

■教科書

・小学校学習指導要領解説家庭編：東洋館出版社
・小学校家庭科の指導：中間美砂子・多々納道子編著 建邦社

■参考文献

・家庭科教育法：高陵社、小学校家庭科の研究：学芸図書、小学校5・6年家庭科：開隆堂

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	家庭科の歩み	「目標」や「内容」の変遷、課題
2	家庭科の指導法	指導法の諸方式
3	家庭科の評価	評価の意義、評価の計画・観点・基準・方法
4	家庭科の指導計画	指導計画の意義、作成上の留意事項
5	学習指導案	題材案、時案
6	「家庭生活と家族」の授業設計	指導内容の概要、指導内容の分析「A(2)」
7	「家庭生活と家族」題材案作成	題材名、題材設定の理由、目標、指導計画
8	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計	指導内容の概要、指導内容の分析「B(3)」
9	「野菜サラダ作り」の題材案作成	題材名、題材設定の理由、目標、指導計画
10	「野菜サラダ作り」の題材案検討	題材案の検討
11	「ごはんのみそ汁」の実習計画	指導内容の確認、実習計画
12	「ごはんのみそ汁」の実習と評価	調理実習と評価
13	「快適な衣服と住い」の授業設計	指導内容の概要、指導内容の分析「C(1)(2)」
14	「生活に役立つ物」の製作計画	指導内容の確認、ミシンを活用して作品製作の計画
15	「生活に役立つ物」の製作と評価	作品製作と作品評価
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	池谷美佐子 Misako Ikeya		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	生活科指導法		生活科指導法			

■授業のねらいと到達目標

生活科の特性をふまえ、児童の生活圏における「人、社会、自然」についての理解を深めたり、児童の発達特性もとに行動や思いについての理解を深めたりしながら生活科の教材化について学び、実践をふまえた指導計画の作成並びに学習指導案の作成に取り組む。また、生活科の指導に必要な基礎的なことから習慣・技能について具体的に身に付けることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

授業においては毎時間の取組みをもとに内容を積み重ねていくので、無遅刻と出席を重視する。

■成績評価方法・基準

毎回の授業ごとの出席表を兼ねたリアクションペーパー（60%）、期末試験（40%）

■授業の予習・復習

予習：生活科の指導計画についての理解を深める。
復習：授業中に取り組んだ課題を必ず完成する。

■教科書

小学校学習指導要領解説 生活編（文部科学省）←各自毎時間必ず持参のこと。

■参考文献

必要に応じて紹介

■授業内容

授業項目	授業内容
1	オリエンテーション
2	低学年児童の発達特性と児童理解
3	地域環境と地域素材について
4	地域素材の教材化について
5	指導計画作成の方法について
6	学習指導案の作成について
7	学習指導案の作成と検討
8	授業実践について
9	模擬授業の実践
10	生活上必要な習慣や技能について
11	「生活や出来事の交流」の教材研究
12	「生活や出来事の交流」の学習指導案
13	本時案作成と検討
14	模擬授業の実践と研究
15	まとめ
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	山口政之 Masayuki Yamaguchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	教育実践研究（事前・事後指導）		教育実践研究（事前・事後指導）			

■授業のねらいと到達目標

教育実習では授業を行うだけでなく、休み時間には子供と遊び、放課後には担任の先生の仕事の手伝いをし、自分の授業の準備をします。子供と指導教師から謙虚に学ぶという心構えと具体的な行動・判断の仕方を学んでください。あなたの教師としての資質・人間性が総合的に問われているのです。

■授業の進め方（履修条件等）

この授業では学生を教育実習生と見做します。資料に基づいてグループで話し合ったり、意見交換をしたりします。実習生ですから、無遅刻無欠席を求めますし、飲食・携帯操作は厳禁です。

■成績評価方法・基準

課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。遅刻・熟睡は大きく減点し、ガイダンスの欠席者は履修放棄とみなします。

■授業の予習・復習

予習：新聞を読み、教育関連の話題には意見が言えるようにしておく。
復習：資料やノートを読み返し、授業内容の理解に努める。

■教科書

授業中、適宜印刷物を配布します。

■参考文献

「兎の眼」灰谷健次郎（角川文庫）

■授業内容

注意：受講希望者は必ず1回目の授業に出席すること。

授業項目	授業内容	
1	ガイダンス	教育実習で何を学ぶのか（立場やマナー等の理解）
2	発問と机間指導	国語の模擬授業を通して教師の役割を理解する
3	机間指導と指名計画	算数の模擬授業を通して教師の役割を理解する
4	自己紹介	自分の長所を端的に表現し子供の心をつかむ
5	児童理解のために①	教室で花瓶が割れた時、嘔吐があった時等の対応
6	児童理解のために②	放課後の備品から（机、ロッカー、靴箱から）
7	指導案	指導案作成上の留意点
8	生活指導の実際	授業以外の場面で教師はどんな指導をしているのか
9	実習記録簿の書き方①	記録簿の役割と記載事項を理解する
10	実習記録簿の書き方②	日々の実践記録として実践場面を描写し考察する
11	4年生4月・教育実習の事前指導	一斉
12	4月・実習期間中の教科指導の教材研究	個別
13	5月・精錬指導案の作成	個別
14	6月・教育実習報告会	一斉
15	7月・教育実習記録簿提出と面談	個別
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	畑中千晶 <i>Chiaki Hatanaka</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			初等国語概説		初等国語概説	

■授業のねらいと到達目標

国語は小学校で学ぶあらゆる科目の基礎となります。子どもたちの国語力を十分に伸ばすことのできる教員を目指し、①教科に必要な国語の専門知識②教員にふさわしい国語運用能力、この二つを身につけることを到達目標として本講義を進めています。

■授業の進め方（履修条件等）

講義中心ですが、自発的に考える力を伸ばすため、適宜、グループ討議なども行っていきます。また、国語力向上を目的に、クラスの最初の時間に、漢字・表現・文学史等の小テストを実施します。

■成績評価方法・基準

クラス内活動への取り組み（25%）、小テスト（25%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：配付資料、テキストに目を通す。
復習：宿題として課されたタスクに取り組む。

■教科書

鈴木真喜男/長尾勇（2006）『新編 日本語要説』学芸図書
このほか適宜配布資料を追加する。

■参考文献

授業時に適宜指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	授業の進め方、評価方法など
2 総論「言葉というもの」	基本的な考え方、要約作成
3 総論「言葉の種々相」	言葉の分析方法
4 音声	音が出る仕組み
5 音声	鼻音化・わりり・連音などの諸現象
6 意味	言葉の意味とは
7 語彙	単語量、語種（和語・漢語・外来語）、位相、新語
8 語彙	教科書の設問分析（和語・漢語・外来語）
9 語彙	グループに分かれて考察・発表
10 文法	考える楽しみを知る
11 文法	代表的な文法論、文・文節・品詞
12 敬語	新分類について、実際の運用場面に即して考察
13 文字	六書、仮名、ローマ字
14 方言	標準語と共通語、方言とは、共通語と方言、指導要領
15 まとめと発展項目	「伝統的な言語文化」について
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	越川浩明 <i>Hiroaki Koshikawa</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			数の不思議		数の不思議	

■授業のねらいと到達目標

小学校で習う「数」の範囲は限られていますが、自然や文化の中には小学校で扱う範囲以上の「数」が沢山存在し、「数」の持つ面白い性質や不思議さがたくさんあります。それらのことを小学校教員の素養として持ってもらうことを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを中心に授業を進めます。毎回問題を出します。それを解いてもらいます。授業中適宜小テストも行います、また課題提出してもらいます。

■成績評価方法・基準

小テスト（10%）、課題提出（20%）、期末試験（70%）
ただしこの配分は変更することもあります。

■授業の予習・復習

予習：授業で配布するプリント教材をよく読んでおいて下さい。
復習：復習のための課題を課します。

■教科書

プリント教材を配布します。

■参考文献

佐藤修一著『自然にひそむ数学』講談社ブルーバックス、町田彰一郎著『なぜその人は「計算」が「速い」のか？』東洋館出版社。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	これからの講義の概要について述べる
2 計算の法則	計算の法則に基づく速算術
3 数の遊び 1	虫食算と魔方陣
4 数の遊び 2	小町算
5 図からわかる数列 1	三角数、四角数など多角数
6 図からわかる数列 2	等差数列
7 図からわかる数列 3	等比数列
8 図からわかる数列 4	階差数列
9 代数的無理数	身近な無理数について
10 芸術で現れる数	黄金比と黄金数
11 自然界で現れる数	フィボナッチ数と黄金数
12 超越数 1	円周率 π とその性質
13 超越数 2	e とその性質
14 方程式と複素数	虚数単位とその性質
15 総復習	これまでの講義をもとに演習問題を解く
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	越川浩明 <i>Hiroaki Koshikawa</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1 年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	かたちの数学					

■授業のねらいと到達目標

自然界や建築物、芸術の中にあるいろいろな「形」がたくさん存在します。その中で数学が関係している事柄について講義します。平面図形や空間図形、曲線・曲面について数学的な多くの知識を得ることを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを中心に授業を進めます。コンピュータを用いた曲線・曲面の紹介もします。授業中適宜小テストを行います、また課題提出もしてもらいます。

■成績評価方法・基準

小テスト（10%）、課題提出（20%）、期末試験（70%）ただしこの配分は変更することもあります。

■授業の予習・復習

予習：授業で配布するプリント教材をよく読んでおいて下さい。
復習：復習のための課題を課します。

■教科書

プリント教材を配布します。

■参考文献

堀井洋子著『折り紙と数学』明治図書。
泉谷周一、竹内伸子著『「かたち」の数学』日科技連出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 折り紙の数学から（1）	正多角形を折る
2 折り紙の数学から（2）	芳賀の定理について
3 折り紙の数学から（3）	線辺折りについて
4 折り紙の数学から（4）	正多面体を折る
5 2次曲線（1）	放物線、楕円、双曲線の方程式
6 2次曲線（2）	放物線、楕円、双曲線の性質
7 2次曲面	代表的な2次曲面とその性質
8 微分幾何学からの話題（1）	曲線と曲率
9 微分幾何学からの話題（2）	曲面とガウス曲率
10 微分幾何学からの話題（3）	極小曲面
11 トポロジーからの話題（1）	一筆書き
12 トポロジーからの話題（2）	図形の扱い方
13 トポロジーからの話題（3）	図形の分類
14 フラクタルの話	代表的なフラクタル
15 総復習	これまでの講義に基づき演習問題を解く
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山本陽子 <i>Yoko Yamamoto</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1 年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	器楽 I		器楽（通年）			

■授業のねらいと到達目標

小学校で使用される楽器リコーダーを中心に学びます。個人、ペア、アンサンブルなどの活動を通して音楽に対する理解を深めます。コードネームから、簡易な伴奏やベースの付け方等を知り、実践的に音楽に親しみ、楽器を合わせる楽しさを味わいます。

■授業の進め方（履修条件等）

各自ソプラノリコーダーを用意してください。その他個人持ちの楽器があれば持参し、音楽室の楽器と合わせる合奏もしたいと思えます。

■成績評価方法・基準

出席を重視します。課題への取り組みの姿勢、音楽性など総合的に判定します。

■授業の予習・復習

予習：ソプラノリコーダーを用意する。
復習：学習したことをどう生かせるか考えたり、楽器の練習をしたりします。

■教科書

とくにありません。必要に応じて楽譜等プリントを配布します。

■参考文献

授業時に適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	
2 リコーダーの基本①	姿勢 構え方 タンキング
3 リコーダーの基本②	シ〜ソ、高いド・レ
4 リコーダーの基本③	ファ〜ド、高いミ・ファ・ソ・ラ
5 リコーダー二重奏①	輪奏を中心に
6 リコーダー二重奏②	メロディと副・対旋律 フレーズ
7 リコーダー二重奏③	発表会
8 音楽の仕組み	楽器の役割
9 コードの理解	コードとメロディ
10 簡単な伴奏①	メロディとベース
11 簡単な伴奏②	メロディとコード、ベース 音の重なり
12 アンサンブル①	編曲のポイント
13 アンサンブル②	楽器の工夫 パートの工夫
14 アンサンブル③	互いに聴き合って
15 アンサンブル発表会	発表
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山本陽子 Yoko Yamamoto		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1年	単 位	1
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	器楽Ⅱ		器楽(通年)			

■授業のねらいと到達目標

ピアノ(鍵盤楽器)を中心に、音楽の基本を学びます。コードネームを理解し、簡易な伴奏法等、実践的に音楽に親しめるようにします。合わせることの楽しさ、よりよい表現を目指します。

■授業の進め方(履修条件等)

ピアノの経験の有無は問いません。希望者が多い場合は音楽室スペース・楽器の設置台数から、人数を制限することがあります。

■成績評価方法・基準

出席を重視します。課題への取り組みの姿勢、音楽性など総合的に判定します。

■授業の予習・復習

予習:楽譜を歌えるようにしておきます。
復習:学んだことを自分で再現してみます。

■教科書

とくにありません。必要に応じてプリントを配布します。

■参考文献

授業時適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方 準備 読譜について
2 ピアノの基本	運指の基本
3 ピアノの基本	リズムに合わせて指を動かす
4 メロディとコードの関係	メロディに合うコードの選び方 I・IV・V(7)
5 コードネームの意味と理解	調とコードの関係
6 ピアノ伴奏の実際	低音(単音)伴奏をつける
7 ピアノ伴奏の実際	コード(和音)伴奏をつける
8 ピアノ伴奏の実際	2人組で合わせる
9 ピアノ伴奏の実際	伴奏のリズム型を知る
10 ピアノ伴奏の実際	好きな曲に適切なコードを合わせる
11 ピアノ伴奏の実際	曲に合った伴奏を工夫する
12 ピアノ伴奏の実際	互いに聴き合う
13 まとめ オリジナル伴奏づくり	好きな曲に適切なコードをつけ、低音伴奏を工夫
14 まとめ オリジナル伴奏づくり	和音伴奏・伴奏リズム等をさらに工夫
15 まとめ 発表会	互いに聴き合ってよさを感じる
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	藤井 喜一 Kiichi Fujii		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	スポーツ教育(実技)		スポーツ教育(実技)			

■授業のねらいと到達目標

体育の指導実践者としての基礎的な体力を得るとともに子どもの遊び、運動の基本的な知識と技術の習得を目指す。また、生涯体育という観点から、技術とルールの関係を考え初心者から楽しめるスポーツの在り方等も追究する。

■授業の進め方(履修条件等)

体育館において実技をおこなう。その実技を通して技術の獲得をはかれるようにする。

■成績評価方法・基準

出席60%、受講態度20%、論述試験20%

■授業の予習・復習

予習:技術の系統、ゲームのルール等を調べる。
復習:授業の内容、感想、反省等をまとめておくこと。

■教科書

無し

■参考文献

体育科教育別冊 新しいマット運動の授業づくり(大修館書店)
体育科教育別冊 新しい跳び箱運動の授業づくり(大修館書店)

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、評価方法、諸注意
2 からだほぐしの運動①	体力づくり
3 からだほぐしの運動②	仲間とともに
4 器械運動	マット運動①
5 器械運動	マット運動②
6 器械運動	とびばこ運動①
7 器械運動	とびばこ運動②
8 ボール運動	バレーボール①
9 ボール運動	バレーボール②
10 ボール運動	バスケットボール①
11 ボール運動	バスケットボール②
12 ボール運動	アルティメット①
13 ボール運動	アルティメット②
14 ボール運動	フットサル①
15 ボール運動	フットサル②
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	池谷美佐子 Misako Ikeya		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	いのちと環境(環境教育)		いのちと環境(環境教育)			

■授業のねらいと到達目標

身近な生物の生態や現状を、環境とのかかわりを通してとらえ、「いのち」と環境への関心を深めていく。さらに、人間と身近な生物、人間と自然環境とのかかわり、人間が「生きる」ことと物的・人的な環境とのかかわりなどにふれながら、地球の環境問題について理解できるようにしていく。また、それらをふまえて環境教育についての関心と理解に繋げていく。

■授業の進め方(履修条件等)

無遅刻と出席を重視する。日常の中で環境問題について関心を持ち、情報収集を実践できることが必要である。

■成績評価方法・基準

毎回の授業ごとの出席表を兼ねたリアクションペーパー(50%)、期末試験(50%)

■授業の予習・復習

予習：授業内容に関連する情報を収集整理しておく。
復習：授業内容について毎回まとめておく。

■教科書

プリント配付。

■参考文献

適宜紹介

■授業内容

授業項目	授業内容
1	オリエンテーション
2	身近な生き物たち
3	動物と環境
4	植物と環境
5	生き物と自然環境とのかかわり
6	動植物の現状と人間の生活
7	人間の生活と環境①「衣」について
8	人間の生活と環境②「食」について
9	人間の生活と環境③「住」について
10	環境の変化とその原因
11	日本の環境問題とその対応
12	地球の環境問題
13	環境教育の現状と課題
14	環境教育の実践について
15	まとめ
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	藤井 喜一 Kiichi Fujii		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	遊びと子ども(レクリエーション概論)		遊びと子ども(レクリエーション概論)			

■授業のねらいと到達目標

社会の変化により、子どもたちの生活もその影響を受け大きく変わってきており子どもの遊びの貧弱化がいわれている。本講義では、現在の子どもの生活実態を明確にとらえ、子どもたちに、子どもたちの遊びや、遊びから発展するスポーツ、レクリエーションの楽しさを体験させるための知識を得ることを目的とする。

■授業の進め方(履修条件等)

現在の子どもの生活の中での遊びの調査をし子どもの生活実態をつかむ。また、伝承遊びを中心に子どもたちの遊びの実体験をする。

■成績評価方法・基準

出席40% 受講態度20% 通常授業における小レポート20% 論述試験20%

■授業の予習・復習

予習：前時に知らされた目を通してとよい文献を読み、内容をまとめておくこと。
復習：授業の概要をまとめること。

■教科書

無し

■参考文献

適宜紹介

■授業内容

授業項目	授業内容
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法、諸注意
2	子どもの生活の変化と実態 社会変化に伴う子どもたちの生活の変容
3	子どもの生活実態の調査 調査方法について
4	子どもの生活実態の調査 調査方法の確認
5	子どもと遊び 子どもの生活における遊びの位置づけ
6	子どもの遊び 鬼遊びを考える(起源、様々な鬼遊び)
7	伝承遊び① わらべうたと遊び
8	伝承遊び② 石けり、かくれんぼ
9	伝承遊び③ だるま、水雷駆逐
10	伝承遊び④ ビー玉、めんこ、こままわし
11	伝承遊び⑤ 折り紙、お手玉、おはじき
12	伝承遊び⑥ すもう、Sケン
13	スポーツ遊び① 角ぶつけ、三角野球
14	スポーツ遊び② 的当てサッカー、めっちゃサッカー、中当てドッジ
15	スポーツ遊び③ 縄を使った遊び
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	田口功 <i>Isao Taguchi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名			ものづくり教育		ものづくり教育	

■授業のねらいと到達目標

自然科学分野の基礎的な原理や法則を身につけ、それを元に、簡単な実験装置を作り、原理や法則を深く身につけることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

前半、後半を通し歴史的な背景の記述文書を見ながら、原理や法則の成り立ちを把握する。また、非常に易しい教材を取り入れ、目に見える形の実験装置を作成していく。

■成績評価方法・基準

出席状況、提出物、小試験および定期試験の4点により総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：与えられた問題についてよく資料を見て研究をして下さい。

復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。

■教科書

授業でプリントを配布

■参考文献

ゆかいな物理実験 K.ギブス著 笠 耐 訳 朝倉書店 平成12年

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方について
2 風力発電や太陽光発電	太陽電池を使って発光ダイオードを点灯してみよう
3 1次電池	異種金属による発電、果物電池作成
4 静電気による発電装置	静電気による発光ダイオード点灯回路作成
5 磁石と電気ー（1）	電磁石から電磁誘導実験装置の作成
6 磁石と電気ー（2）	電磁誘導回路と発電装置の利用法
7 シャボン玉	シャボン玉の形について色々工夫してみよう
8 力と安定性ー（1）	力と安定性、テングスリティーの作成の説明
9 力と安定性ー（2）	実際にテングスリティーを作ってみよう
10 ばねとカー（1）	ばねとフックの法則
11 ばねとカー（2）	ばねを用いたおもちゃの作成
12 光とレンズー（1）	凹レンズ凸レンズによる光の進み方の数式的理解
13 光とレンズー（2）	凹レンズ凸レンズによる像のでき方
14 フリップフロップ回路	電子部品の組み合わせでフリップフロップ回路作成
15 全体のまとめ	まとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	池谷美佐子 <i>Misako ikeya</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名			学校の安全教育		学校の安全教育	

■授業のねらいと到達目標

児童・生徒に、自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を生涯にわたって営むことのできる態度や能力を身に付けさせるためには、どのような指導や配慮をしていくことが必要であるかを学校生活の具体的な場面を想定しながら考えていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

出席と無遅刻を重視します。

■成績評価方法・基準

毎回の授業ごとの出席表を兼ねたリアクションペーパー（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

学校の安全に関する情報の収集に努める。授業内容をもとに危機感覚を磨いていく。

■教科書

プリント配付

■参考文献

必要に応じて紹介

■授業内容

授業項目	授業内容
1	オリエンテーション
2	「安全」とは、「危険」とは。
3	学校安全の意義と内容
4	子どもと事件・事故
5	学校安全の構造と領域
6	学校安全計画について
7	安全教育の進め方
8	安全学習「体育科」
9	安全学習「図工科」
10	安全指導「家庭科」
11	安全指導「理科」
12	学校の安全と危機管理「校内生活」
13	学校の安全と危機管理「校外学習」
14	学校安全と学校施設・設備
15	まとめ
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	山口政之 Masayuki Yamaguchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	共生支援教育（障害児教育）		共生支援教育（障害児教育）			

■授業のねらいと到達目標

通常学級における特別な支援を要する子供への理解を深めることを目指します。具体的には、軽度発達障害だけでなく、先天的な障害を持った子供の実情を知ることから具体的な支援のありかたを特別支援教育の理念と関連付けて取り上げていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

講義では関連する文献資料を取り上げるだけでなく、共生支援に関わる文学作品や映画の一部を鑑賞し、言葉だけではわからない障害者の特性や苦労を理解していきます。

■成績評価方法・基準

出席及び発言を重視します。欠席3回は履修放棄、もしくは特別課題の措置をとります。

■授業の予習・復習

予習：教科書の関連箇所を音読しておく。
復習：新聞に目を通して、共生支援教育に関する記事については内容を要約し書きとめておく。

■教科書

『発達障害の子どもたち』 杉山登志郎、講談社現代新書。
他は適宜印刷物を配布します。

■参考文献

長谷川修平『長谷川君きらいや』
丘修三『ぼくのお姉さん』
DVD「レインマン」「学校Ⅱ」

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	共生社会の断片を拾う
2 LD	特別支援学級と一般学級にみるLD児
3 LD	映画「インハーシューズ」から学ぶ
4 ディスレクシア	読みの障害に対する理解と支援の在り方
5 ADHD	ADHDについて医学的、教育的な理解をする
6 ADHD	教室のADHD児への対応
7 自閉症、高機能自閉症	映画「レインマン」から学ぶ
8 アスペルガー症候群	ちょっと変わった子がクラスで孤立しないように
9 先天的な障害	『さっちゃんのまほうのて』を読みとく
10 教育行政の取り組み	学校に配布される資料から教育の在り方を考える
11 学校の支援体制	「校内委員会」の設置と運営
12 特別支援学校の参観	※特別支援学校の文化祭に参加し、参観記録を書く。
13 特別支援学校	特別支援学校の文化祭参加の報告会
14 児童文学にみる共生	『窓際のトットちゃん』から学習障害を考える
15 児童文学にみる共生	『ぼくのお姉さん』から特別支援学校を考える
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	坂東佑司 Takeshi Bandou		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	1年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	体験・ボランティア学習論		体験・ボランティア学習論			

■授業のねらいと到達目標

生徒の問題行動の背景には、体験の欠損に伴う思いやりや社会性の欠如など、豊かな人間性がはぐくまれていないという現実があります。講義では、人間の成長に必要な体験活動ボランティアの基礎的・基本的知識・技能、について実践的に理解を深めるとともに教育効果について実証的に学習を進めて生きます。

■授業の進め方（履修条件等）

教職を希望する学生およびボランティア等で地域貢献を志している学生に受講を進めます。

■成績評価方法・基準

レポート・参加態度（50点） 定期試験（50点）

■授業の予習・復習

必要ありません。

■教科書

内容に応じたプリントを配布します。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1	オリエンテーション（体験・ボランティア学習とは何か）
2	体験学習の教育的意義
3	学習指導要領と体験学習
4	ワークショップ～「体験の教育効果」
5	学校の体験学習事例の検証～小学校
6	// ～中学校
7	体験活動現場の見学（地域における体験活動事例）
8	体験学習の諸類型～自然体験
9	// ～社会体験
10	// ～奉仕体験
11	ボランティア活動とは何か
12	ボランティア学習の意義
13	わが国の児童・生徒のボランティア活動の現状
14	諸外国のボランティア活動
15	ボランティア学習の教育効果

年 度	11年度入学		担 当 者	矢作由美子 Yumiko Yasaku		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	児童福祉論		児童福祉論			

■授業のねらいと到達目標

児童・家庭福祉分野では、児童虐待、少子化、少年非行など、問題の多様化に伴い、新たな施策の整備が急務となっています。本授業では、児童の権利、児童福祉法に規定されている児童福祉サービス、児童虐待防止法に規定される虐待への対応など押さえる。各論では、多言語多文化、セクシャルマイノリティなどの視点を加え、さらに、教育報道や、児童福祉を支える現場の方々からの話を聞く機会を設けます。例えば、現在交渉中ですが、乳児院、児童養護施設、障害児施設、民間支援団体（セクシャルマイノリティ、少年非行、デートDV）など、理解を深めることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

現場の声を重視しますので、初回の授業に、今後のスケジュールについて説明します。授業の終わりに、確認テスト・事例テストをします（自己採点・回収しないので安心して下さい）。

■成績評価方法・基準

授業への出席を重視します。レポートと期末試験を含めて総合点で判断します。

■授業の予習・復習

予習：課題や資料を事前に渡しますのでよく読むようにしてください。
復習：関連する内容を積極的に情報収集してください。

■教科書

授業時にプリントを配布します。

■参考文献

・堤 末果ルポ 貧困大国アメリカ（岩波新書）【新書】
・板井 理（子どもの発達と描画—保育・障害児教育の現場からかもがわ出版（2008）【サイト検索】47News（よんななにゅーす）全国地方新聞社参加「47スクール」

■授業内容

授業項目	授業内容
1 本授業の概略と視点	児童・家庭の生活実態と社会情勢
2 児童福祉の生成と発展	児童・家庭福祉制度の発展過程
3 児童の権利	子どもの権利条約とわが国の児童福祉
4 児童福祉法及び関連諸法（1）	児童福祉の機関・施設の概要
5 児童福祉法及び関連諸法（2）	社会的養護と児童福祉施設
6 児童・家庭福祉の法制度（1）	児童虐待対策の概要と社会的養護
7 児童・家庭福祉の法制度（2）	里親制度と子育て支援施策
8 児童相談所の業務	その役割と各種機関との連携
9 非行少年と向き合う（1）	非行と児童福祉施策
10 非行少年と向き合う（2）	非行少年を支える
11 社会的養護と児童福祉施設（1）	児童福祉を支える人々—乳児院
12 社会的養護と児童福祉施設（2）	児童福祉を支える人々—母子生活支援施設
13 社会的養護と児童福祉施設（3）	児童福祉を支える人々—障害児施設
14 社会的養護と児童福祉施設（4）	児童福祉を支える人々—児童養護施設
15 まとめ	今後の児童福祉施策について
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	本山昭 Akira Motoyama		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名			日本外交史			

■授業のねらいと到達目標

今日の私たちは、日本と近隣諸国との間で外交的摩擦が生じているのを目の当たりにしています。この原因を考える上で過去の日本が問われていることを忘れてはいないでしょうか。この問いに対する答えを授業を通じて考えてみたいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

全回パワーポイントを使用し、図表や写真を多用しながら分かり易い授業を目指します。毎回レジュメ、資料等のプリントを配布する予定です。各週の講義内容は連続性があるので、前週までの復習をしっかりとしてから授業に臨んで下さい。

■成績評価方法・基準

授業への出席率と貢献度（質問、意見発表等）、定期試験を総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：前回までの講義内容をしっかりと理解しておいて下さい。
復習：講義の中で興味を持った事項について自分の考え方を纏める練習を重ねてください。

■教科書

特定の教科書は使用しません。毎回レジュメ、資料等のプリントを配布する予定です。

■参考文献

池井優「日本外交史概説」慶応通信
Harold Nicolson "Diplomacy" Oxford University Press
城山三郎「落日燃ゆ」新潮文庫

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業概要説明
2 日本の大陸政策（1）	大陸政策の目的と背景
3 日本の大陸政策（2）	日清・日露戦争
4 日本の大陸政策（3）	日中戦争はなぜ拡大し、長期化したの（か）
5 日本の大陸政策（4）	廣田弘毅（DVD『外交の信念時流に散る』）
6 終戦期日本外交	日米（太平洋）戦争への道
7 戦後民主化過程（1）	DVD-「マッカーサーが見た日本の降伏」
8 戦後民主化過程（2）	ボツダム宣言受諾と対米基軸外交の始まり
9 戦後民主化過程（3）	日本国憲法制定過程における日米交渉
10 国際社会への復帰（1）	サンフランシスコ講和条約と日米安保条約
11 国際社会への復帰（2）	日本の戦後経済復興が成功した背景
12 国際社会への復帰（3）	韓国との国交正常化への道
13 国際社会への復帰（4）	中国との国交正常化への道
14 アジアの中の日本（1）	冷戦構造下の日本の外交
15 アジアの中の日本（2）	日本とはどんな国か/どうあるべきか
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	増井由紀美 Yukimi Masui		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	1年	単 位	1
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			英語入門Ⅰ～特級Ⅱ		英語Ⅰ・Ⅱ	

■授業のねらいと到達目標

英語の総合能力を高めるためのクラスです。「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を磨きますが、上達するには文法力が必要です。これまでに習ってきた英文法を復習しながら、それを理解するだけでなく、使いこなせるという自信を手に入れることを目標にします。

■授業の進め方（履修条件等）

共通のテキストを用いて進めていきます。週ごとに学びのポイントをあげますが、毎日が予習であり復習であることを意識して下さい。

■成績評価方法・基準

出席
中間試験
期末試験

■授業の予習・復習

予習：授業の前にその日に扱うテキストを読んでおきます。
復習：課題をこなします。

■教科書

Basic College English Seminar, Takemae Fumio他、
Nanundou, ¥2,000+税

■参考文献

授業内指示

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について説明
2	文型	英語のしくみについて復習
3	動詞	活用及び時制
4	名詞	数えられる名詞と数えられない名詞
5	代名詞	短い読み物で学習
6	形容詞	作文しながらその役割を考える
7	冠詞	基本的な約束事を習得
8	中間試験	筆記による
9	復習	試験結果をもとに復習
10	前置詞	絵を見て学ぶ
11	接続詞	作文を試みる
12	疑問文	パートナーと一緒に会話
13	作文	自分の考えを伝える
14	復習Ⅰ	ゲームを通して復習
15	復習Ⅱ	学んだことを整理する
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	池嶋保幸 Yasuyuki Ikeshima		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	1年	単 位	1
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			英語入門Ⅰ～特級Ⅱ		英語Ⅰ・Ⅱ	

■授業のねらいと到達目標

課題を中心に授業を行う。各学生のレベルに合わせた課題をすることで総合的に基本を学習する。

■授業の進め方（履修条件等）

課題を各自こなす。

■成績評価方法・基準

課題を採点評価する。出席を重視する。授業態度

■授業の予習・復習

復習：課題で学んだ単語や表現を覚える。

■教科書

■参考文献

なし

■授業内容

回数	授業内容
1	課題
2	課題2
3	課題3
4	課題4
5	課題5
6	課題6
7	課題7
8	課題8
9	課題9
10	課題10
11	課題11
12	課題12
13	課題13
14	課題14
15	課題15
16	定期試験

年 度	11年度入学		担 当 者	竹内義昭 <i>Yoshiaki Takeuchi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			アジア経済特殊Ⅰ			

■授業のねらいと到達目標

中国と並んで新興国のリーダー的存在となったインドの歴史、経済を学ぶ。建国の父、マハトマ・ガンジーの思想が今どうなっているのか、私たち自身の問題としてガンジー主義を学び取ろう。

■授業の進め方（履修条件等）

日々の新聞記事の中からインドに関連したニュースをできるだけ取り上げる。講義だけでなく、討論を交えながら、国際関係の見方も学ぶ。

■成績評価方法・基準

出席 45、試験35、レポート 20

■授業の予習・復習

予習：新聞の国際ニュースに毎日目を通す

■教科書

特になし

■参考文献

インド放浪（藤原信也・朝日文庫）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガンジーの時代①	映画「ガンジー」鑑賞
2	ガンジーの時代②	ガンジーの政治哲学
3	ガンジーの時代③	ガンジーとカースト
4	ガンジーの時代④	ガンジーと宗教
5	ガンジーとは何者？	現代における存在意義
6	世界最大の民主主義	インドの政治概観
7	パキスタンとの関係	独立以来の歴史を振り返る
8	インド政党史	国民会議派を中心に
9	新興国への歩み	経済政策
10	経済の現状	中産階級の成長
11	人口問題	中国を追い越すのはいつか
12	カースト	アキレス腱といわれる身分制度の功罪
13	印僑	インド経済を支える人々
14	国境を考える	パキスタン、中国との紛争を見る
15	マザー・テレサ	インドにこんな人がいた
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	竹内義昭 <i>Yoshiaki Takeuchi</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			アジア経済特殊Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

南西アジア、東南アジア両地域の政治・経済情勢を分析しつつ、本当の豊かさとは何か、を考える。

■授業の進め方（履修条件等）

日々の国際ニュースを題材に、日本の進むべき道を探りながら、討論を中心に進行する。

■成績評価方法・基準

出席：45、試験：35、レポート：20

■授業の予習・復習

予習：新聞の国際ニュースを読むこと

■教科書

特になし

■参考文献

とくになし。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	貧困と豊かさ	アジア各国の現状を見る
2	SAARC	南アジアの経済連合
3	ASEAN	アジア経済の要への成長
4	東アジア共同体	その実現性
5	TPP	環太平洋経済連携とは？
6	アジアの大国	中国、日本、インド
7	人口と国力	中国とインドに見る
8	国境紛争	南アジア、東シナ海
9	国民総幸福度	ブータンの試み
10	貧者の知恵	バングラデシュのグラミン銀行
11	アジアの小国	シンガポール、ブータン、ブルネイ
12	開発と環境	インドネシアの熱帯林
13	経済連携と政治①	討論会
14	経済連携と政治②	同
15	経済連携と政治③	同
16	定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	大月隆成 Takashige Otsuki		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	2年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			原書講読Ⅱ			

■授業のねらいと到達目標

高度な英語力を身につけたいと考えている学生を対象に、英文読解力を養成し、本格的な内容の英文を何とか読めるようになることが、授業の目的である。そのため、まず英文読解に必要な基本事項（文法・構文等）の確認作業を行い、その後でやや複雑な英文を教材に、英文の構造を正確に理解するための演習を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

主として英検準2級程度以上の英語力がある人を対象にした授業であるが、熱意のある人はその限りではない。授業では予習よりも復習を重視するので、しっかりと復習してほしい。

■成績評価方法・基準

評価は学期末の試験に基づいて行う。

■授業の予習・復習

予習：課題に目を通し、どこかわからないのが明確しておく。
復習：黙読、リスニング、シャドーイング等の作業を繰り返し行い、授業で扱った英文を完全に自分のものにする。

■教科書

特定の教科書は使用しない。

■参考文献

吉本佳生・渡辺智恵「The Economistの記事で学ぶ『国際経済』と『英語』」日本評論社、越前敏弥「日本人なら必ず誤訳する英文」ディスカヴァー・トゥエンティワン

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の説明、学習方法（特に復習方法）の指導
2 英文読解に必要な基本事項(1)	文型と文の構成要素、第5文型
3 英文読解に必要な基本事項(2)	仮主語、名詞節
4 英文読解に必要な基本事項(3)	関係詞、形容詞節
5 英文読解に必要な基本事項(4)	不定詞、動名詞
6 英文読解に必要な基本事項(5)	分詞、分詞構文
7 英文読解に必要な基本事項(6)	様々な否定表現
8 英文読解に必要な基本事項(7)	倒置、強調構文、同格
9 英文読解に必要な基本事項(8)	様々な比較表現
10 英文読解に必要な基本事項(9)	仮定法、譲歩構文
11 英文読解のための応用演習(1)	「人間は動物とどう異なるか」
12 英文読解のための応用演習(2)	「医者には患者に告知すべきか」
13 英文読解のための応用演習(3)	「犯罪とメディアの関係」
14 英文読解のための応用演習(4)	「経済発展と自然環境」
15 英文読解のための応用演習(5)	「人類の歴史」
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	本山昭 Akira Motoyama		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			NGO論		NGO論	

■授業のねらいと到達目標

①NGOの歴史、理論、課題等についての基本的知識を得た上で、②実際に活動するためにはどのような手順でいかなる準備・予備知識が必要かを検討し、効果的な協力のあり方を共に考えます。その上で、自らがNGO活動の当事者となった場合に、どのように行動すべきかを具体的事例に沿って考える力を養うことを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回パワーポイントを用いて、図表や写真を多用しながら解り易い内容となるよう努めます。更にレジュメや関連資料等のプリントを毎回配布します。授業中の質問、反論等を歓迎し、それを成績評価にも反映させます。

■成績評価方法・基準

授業への出席率と貢献度（質問、意見等）、期末試験を総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：毎回問題意識を持って出席してください。
復習：講義で興味を持った問題について自分の考え方を纏めておく訓練を重ねてください。

■教科書

使用しません。

■参考文献

西川潤、佐藤幸男編著『NPO/NGOと国際協力』ミネルヴァ書房
目加田説子『地球市民社会の最前線』岩波書店
定松栄一『開発援助か社会運動か』 commons
この他に、適当な参考文献等がある場合にはその都度紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業概要説明
2 概説(1)	①NGOとは何か ②NGO歴史を比較する
3 概説(2)	NGOの存在意義、活動内容、社会的評価
4 概説(3)	NGO/NPO/ボランティアの違いを知る
5 現状と課題(1)	①活動分野の多様性 ②克服するための努力
6 現状と課題(2)	①活動資金不足 ②fund raising活動
7 現状と課題(3)	各国政府や国際機関との連携の是非
8 現状と課題(4)	NGOで働く(活動する)ということ
9 現状と課題(5)	善意の活動と被支援者の眼
10 現状と課題(6)	メディアから見たNGO
11 分野別事例研究(1)	自然災害とNGO
12 分野別事例研究(2)	人道支援(DVD「国境地帯の避難民を救え」)
13 分野別事例研究(3)	平和構築NGO(DVD『菜の花畑の笑顔と銃弾』)
14 分野別事例研究(4)	環境保護NGOについて
15 全体のまとめ	DVD『ガーナ・NGO成功への軌跡』
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	大月隆成 <i>Takashige Otsuki</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			援助政策論			

■授業のねらいと到達目標

途上国に対する援助が行われるようになったのは第二次世界大戦後のことであり、数十年の歴史しかないが、この間に国際情勢も開発援助のあり方も大きく変化した。この授業では、この間の経緯を振り返りつつ、現代の援助がどのような特徴を持つものであるか、様々な角度から検証することにした。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にないが、途上国の政治・経済・社会や国際政治、国際経済、マクロ経済政策など、幅広い分野の知識を前提にした授業になるので、その点に注意して受講してほしい。

■成績評価方法・基準

評価は学期末の試験（論述式）に基づいて行う。

■授業の予習・復習

予習：配布された教材や資料をよく読む。
復習：演習問題を自分で実際に解いてみる。

■教科書

特定の教科書は使用しない。

■参考文献

下村恭民ほか「ODA大綱の政治経済学」有斐閣、白鳥正喜「開発と援助の政治経済学」東洋経済新報社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 開発援助の始まり	ブレトン・ウッズ体制の成立
2 開発援助の始まり	戦後復興から開発援助へ
3 開発援助の始まり	初期の開発援助理論
4 工業化の光と影	工業化の理論と実際
5 工業化の光と影	輸入代替工業化とその失敗
6 工業化の光と影	輸出指向型工業化とその成功例
7 70年代の開発援助理論	OPECと資源ナショナリズム
8 70年代の開発援助理論	従属論～世界システム論
9 70年代の開発援助理論	BHN——経済開発から社会開発へ
10 構造調整以後の開発援助	累積債務問題と途上国の経済危機
11 構造調整以後の開発援助	構造調整の始まり
12 構造調整以後の開発援助	ガバナンスと政治的コンディショナリティ
13 開発援助の現在と今後の課題	主要先進国の開発援助（1）欧米諸国
14 開発援助の現在と今後の課題	主要先進国の開発援助（2）日本
15 開発援助の現在と今後の課題	21世紀の開発援助に求められるもの
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	本山昭 <i>Akira Motoyama</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	3年	単 位	2
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			対外政策論			

■授業のねらいと到達目標

国際政治における様々な事例の中から主要なトピックをとりあげ、それがいつ、誰によって、どのように策定されたのか等を外交官としての実践経験や映像資料を織り交ぜながら考察します。それによって、「この問題がなぜこういう結末になったのか」の背景を見抜き、国際社会の動きを読み解く力をつけることを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

全回パワーポイントを使用し、図表や写真を多用しながら分かり易い授業を目指します。また、36年間の外交官としての体験談や映像資料を随所に取り込むなど可能な限り具体的事例に沿ったものにします。

■成績評価方法・基準

授業への出席率と貢献度（質問、意見発表等）、期末試験を総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：常に問題意識を持って授業に臨んで下さい。
復習：講義で興味を持った問題について自分の考え方を纏めておく習慣をつけて下さい。

■教科書

特定の教科書は使用しません。毎回レジュメ、資料等のプリントを配布する予定です。

■参考文献

佐藤英夫『対外政策』東京大学出版会
J・ケナン『アメリカ外交50年』岩波現代文庫
Z・ブレジンスキー『世界はこう動く』日本経済新聞社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業概要説明
2 特質と目的（1）	対外政策の定義、起源、歴史的変遷
3 特質と目的（2）	「国益」と国家にとっての「優先順位」
4 特質と目的（3）	「守秘義務」と「国民の知る権利」
5 政策形成要素（1）	国力、国民性、国際環境など
6 政策形成要素（2）	軍事力-DVD『1989年米軍パナマ侵攻』
7 政策形成要素（3）	国会、外務省、世論、メディア、NGOなど
8 政策形成要素（4）	経済開発援助
9 政策実施過程（1）	核兵器について考える（全5回）
10 政策実施過程（2）	DVD『1962年キューバ危機戦慄の記録』
11 政策実施過程（3）	広島原爆投下の真目的を探る
12 政策実施過程（4）	核兵器廃絶は可能か
13 政策実施過程（5）	DVD『私たちは核を作った』
14 国別事例（1）	アメリカの対外政策
15 国別事例（2）	日本の対外政策
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	坂東 信司 Takeshi Bando		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	4 年	単 位	4
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名			中学校・高等学校教育実習			

■授業のねらいと到達目標

教育実習は、大学で履修し学んだ、教育に関する科目・教職に関する科目・専門に関する科目等すべての集大成として行うものです。学校現場での実習を通して、学校教育全般の理解を深め、教師としての資質を確かめる上にも大切な実習です。年度初めに「教職ガイダンス」、実習終了後に「教育実習報告会」を行うほか、個別に事前・事後の指導を行います。

■授業の進め方（履修条件等）

教職の意義に関する科目、教育の基礎理論に関する科目、教育課程及び指導法に関する科目、生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目、総合演習など所定の単位を一定以上の成績で取得し、教育課程委員会より教育実習を認められることが条件となります。

■成績評価方法・基準

教育実習校の評価、教育実習録、大学における報告会、事前・事後の指導への参加、レポート等を総合して評価します。

■授業の予習・復習

教育実習校で使用する教科書は各自事前に準備し、十分教材研究をしておきます。

■教科書

特になし

■授業内容

■参考文献

適宜、紹介します。

年 度	11年度入学		担 当 者	武内清 Kiyoshi Takeuchi		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	4 年	単 位	4
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名			教育実習			

■授業のねらいと到達目標

教育実習は、大学で履修し学んだ、教育に関する科目・教職に関する科目・専門に関する科目等すべての集大成として行うものです。学校現場での実習を通して、初等教育全般への理解を深め、自分自身の教師としての資質を確かめる貴重な経験となります。年度の始めに「教職ガイダンス」、実習終了後に「教育実習報告会」を行うほか、4年次ゼミで個別に事前・事後の指導を行います。

■授業の進め方（履修条件等）

- ① 2年次終了までに原則として80単位以上習得していること。
- ② 3年次終了までに、教育原理、発達心理、教育方法・技術論の履修をすすめていること。
- ③ 教育実践研究と一日参観実習を終了していること。
- ④ 教育実習説明会に出席し、所定の手続きを完了していること。

■成績評価方法・基準

教育実習校の評価、実習記録簿、大学における報告会、事前・事後指導への参加、レポート等を総合して評価します。

■授業の予習・復習

予習：実習中は翌日の教材研究や教育活動の準備を確実に行うこと。

復習：実習記録簿は毎日、その日のうちに必ず書き、実習の反省を行うこと。

■教科書

適宜プリントを配布

■参考文献

適宜指示。

年 度	11年度入学		担 当 者	中村圭三 Keizo Nakamura		
区 分	国際学科	こども学科	対 象 学 年	4 年	単 位	4
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

3年次専門研究で進めてきた研究テーマについて、さらに地域に関するデータ解析・地域調査・文献調査等を進め、卒業論文の完成まで指導する。

■授業の進め方（履修条件等）

前期には、データ解析・地域調査・文献調査、論文執筆指導を行い、最後にゼミ論文中間報告をさせる。後期には、論文執筆指導を中心に進め、卒業論文最終報告会を開催する。

■成績評価方法・基準

出席30%、卒業論文70%の比率で成績を評価する。

■授業の予習・復習

予習：日頃から「卒業論文論のテーマ」に関して問題意識を持って生活すること。

復習：執筆をすすめている地域に関連する環境問題に関心を持って生活すること。

■教科書

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.

■参考文献

授業の中で、適宜指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ゼミの進め方についての説明
2 文献調査（1）	地域に関するデータ解析（1）
3 文献調査（2）	地域に関するデータ解析（2）
4 文献調査（3）	地域に関するデータ解析（3）
5 文献調査（4）	地域に関するデータ解析（4）
6 文献調査（5）	地域に関するデータ解析（5）
7 文献調査（6）	地域に関するデータ解析（6）
8 論文執筆指導（1）	地域に関する研究（1）
9 論文執筆指導（2）	地域に関する研究（2）
10 論文執筆指導（3）	地域に関する研究（3）
11 論文執筆指導（4）	地域に関する研究（4）
12 論文執筆指導（5）	地域に関する研究（5）
13 論文執筆指導（6）	地域に関する研究（6）
14 報告会	卒業論文中間報告会
15 前期まとめ	総括
16 論文執筆指導（7）	地域に関する研究（7）
17 論文執筆指導（8）	地域に関する研究（8）
18 論文執筆指導（9）	地域に関する研究（9）
19 論文執筆指導（10）	地域に関する研究（10）
20 論文執筆指導（11）	地域に関する研究（11）
21 論文執筆指導（12）	地域に関する研究（12）
22 論文執筆指導（13）	地域に関する研究（13）
23 論文執筆指導（14）	地域に関する研究（14）
24 論文執筆指導（15）	地域に関する研究（15）
25 報告会	卒業ゼミ論文最終報告会
26 論文執筆指導（16）	地域に関する研究（16）
27 論文執筆指導（17）	地域に関する研究（17）
28 論文執筆指導（18）	地域に関する研究（18）
29 論文執筆指導（19）	地域に関する研究（19）
30 提出	卒業論文提出

年 度	11年度入学		担 当 者	覚正豊和 Toyokazu Kakusho		
区 分	国際学科	こども学科	対 象 学 年	4 年	単 位	4
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

このゼミの目的は法学・刑事法学的諸問題をテーマに掲げています。例えば、わが国および諸外国の犯罪現象をとりあげ、犯罪とはなにか、どのようにすれば犯罪はなくなるのか、また、いかにして犯罪者を再社会化させるかなどについて、人道主義的立場から考察しようとするものです。

ゼミにおいては、講義などで習得した基本事項の理解をもとに、学外学習としての刑務所、少年院、自立支援施設（教護院）等の見学や裁判傍聴のうえにたつて個別テーマの検討を通じて、学生の知的好奇心を啓発し、理解、関心を深め、更にそれらをまとめていくことを目指していきたいと思っています。

■授業の進め方（履修条件等）

特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において指示します。

■教科書

初回の授業において指示します。

■参考文献

授業において指示します。

■授業内容

回数	授業内容
1～30	3年次に修得した基本事項の理解のうえにたち、やや発展した個別テーマの検討を通じて各自の問題意識の発掘、展開をめざし、さらにそれをまとめていくことを指導していきます。

年 度	11年度入学		担 当 者	庄司真理子 <i>Mariko Shoji</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	4 年	単 位	4
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

国連と平和を中心に考える。基本的に卒論の執筆を中心にゼミをすすめる。各自の中間報告をゼミの時間にしてもらう。卒論のテーマは各自、自由に選択して良いが、テーマが決まらない人は、こちらで決めたテーマに沿って、決められた文献を輪読していく。おおむね下記の日程に沿って卒論を進めてもらう。

■授業の進め方（履修条件等）

後述の授業内容を参照のこと。

■成績評価方法・基準

執筆した卒論の内容で評価を進める。試験はしない。

■授業の予習・復習

授業内容に沿って適宜、課題が出され、それを下記の提出予定時に提出してもらう。

■教科書

教科書は、各自の卒論のテーマによって異なる。

■参考文献

参考文献は、各自の卒論のテーマによって異なる。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 卒論の書き方	一年間で、どのように計画を立てて、進めていくか
2 テーマの決定	テーマについて、執筆可能なものかどうか話し合う
3 テーマの絞り込み	絞りきれない人は、こちらで決めたテーマとする
4 資料の選定	資料収集の方法を説明する
5 章立て	卒論の章立てを各自報告する
6 報告	卒論に関係のある論文ひとつを発表する
7 文献目録 I	文献目録を作成してもらう。
8 文献目録 II	完成した文献目録について話し合う。
9 文献収集 I	本学図書館
10 文献収集 II	千葉大学の図書館や、東京都立中央図書館など学外
11 章立て完成	章立てを完成させる
12 文献収集と文献読破	文献収集を続けると共に、集めた文献を読破する
13 卒論経過報告	卒論をどのように展開し、何をどこまで考えるかを報告
14 12月末日に卒論を提出	誤字脱字、文章の不適切、内容の不適切を確認する
15 卒論再提出	卒論の最終締め切りである。
16 定期試験	

年 度	11年度入学		担 当 者	高田洋子 <i>Yoko Takada</i>		
区 分	国際学科	こども学科				
科 目 名			対象学年	4 年	単 位	4
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

3年次専門研究に引き続いて、各自が興味を持ったテーマについて卒業論文を仕上げることを1年間の目標にします。卒業論文を書くための文献史料の集め方、編別構成、文章・注の書き方の他、各自の進路に沿った個別指導を1年を通して行います。

■授業の進め方（履修条件等）

個別指導が主となりますが、毎時間は各自の中間発表を行います。互いに批評し合い、質疑からも十分に学び取ってください。

■成績評価方法・基準

中間発表および提出した卒業論文の完成度で評価をつけます。

■授業の予習・復習

予習：各自の研究テーマに沿っておこなう。

■教科書

指定しない。

■参考文献

卒論のテーマにより個別に指定する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 卒論作成の日程づくり	各自の研究計画、ゼミの発表スケジュールを決める。
2 学外研修・資料の探し方	JETROアジア経済研究所の図書室にて、研究文献、資料の検索、発見の仕方を実習する。
3 収集した文献リストの準備	10以上の文献、資料の一覧を提出する。
4 卒論指導①編別構成の作り方・注	卒業論文の書き方について詳しい説明を聞く。
5 卒論に取り組もう	各自のテーマ、参照する文献リストを口頭発表する。
6～9 中間報告会①～⑧ははじめに	序の内容を発表する（動機・問題意識・方法など）
10～15 中間報告会⑨～⑮第1章	本論の背景、前提などを発表する。
16～19 個別面談 I ①～⑥	就職・進路決定等の進捗状況について、学生ごとの個別指導を研究室で実施する。
20～23 個別面談 II ⑦～⑫	同上
24～28 卒論発表第2章・第3章	学生全員が各自の本論の内容を集中発表する。
29～30 "3年間をふり返って"	アルバム集作成、卒論の感想会などを開催する。

年度	11年度入学		担当者	高橋和子 Kazuko Takahashi		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	4年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			4年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

本ゼミでは卒業論文を書くことが要件です。ゼミでは、3年次に学内で実施した調査データに対してこれまで学んだデータ分析の方法を適用し、得られた分析結果を卒業論文としてまとめるための指導を行います。到達目標は、卒業論文を完成させることです。

■授業の進め方（履修条件等）

卒業論文作成に必要な共通の事項を解説しつつ、各自の作業を進めてもらいます。途中、パワーポイントにより成果を発表してもらいます。後期は、基本的なスケジュールはありますが、各自の進度が違いすぎる場合は個別に指導します。

■成績評価方法・基準

平常点（ゼミへの参加・貢献度）：40% 卒業論文60%

■授業の予習・復習

予習：前回にゼミで指摘された事項を修正して望むこと。必ず、前回からの進捗があること。

復習：指摘された事項について修正すること。

■教科書

特にありません。各自に必要な文献を紹介します。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 前期ガイダンス	卒業論文作成に向けてスケジュール説明 前期の目標
2 卒業論文とは	卒業論文の構成・形式と事例紹介
3 テーマ設定（1）	テーマ検討（全質問項目を単純集計し、検討）
4 テーマ設定（2）	タイトル検討
5 1章はじめに（1）	1章 解説（動機、背景、目的の検討）
6 1章はじめに（2）	1章 執筆と修正
7 プレゼンテーション	発表・質疑応答（1人3分+2分）
8 2章データと分析方法（1）	2章1節データ 解説（注、参考文献の書き方） 検討
9 2章データと分析方法（2）	2章2節データ 執筆と修正
10 2章データと分析方法（3）	2章2節分析方法 解説 検討後、執筆と修正
11 3章分析結果（1）	3章3節単純集計結果 解説
12 3章分析結果（2）	3章1節単純集計結果 検討
13 3章分析結果（3）	3章1節単純集計結果 執筆と修正
14 前期まとめ（1）	1章から3章1節まで完成
15 前期まとめ（2）	できない場合は後期開始までに完成させる
16 後期ガイダンス	後期の目標
17 3章分析結果（4）	3章2節クロス集計結果（属性とクロス） 解説
18 3章分析結果（5）	3章2節クロス集計結果（属性とクロス） 検討
19 3章分析結果（6）	3章2節クロス集計結果（属性とクロス） 執筆と修正
20 3章分析結果（7）	3章2節クロス集計結果（質問同士） 解説
21 3章分析結果（8）	3章2節クロス集計結果（質問同士） 検討
22 3章分析結果（9）	3章2節クロス集計結果（質問同士） 執筆と修正
23 4章考察（1）	4章 解説（考察と結果の違い、文献調査）
24 4章考察（2）	4章 検討
25 4章考察（3）	4章 執筆と修正
26 5章おわりに（1）	5章解説 検討
27 5章おわりに（2）	5章執筆と修正
28 注 参考文献	注 適宜修正 参考文献 執筆と修正
29 全体まとめ（1）	卒業論文として完成
30 全体まとめ（2）	できない場合は提出期日までに完成させる

年度	11年度入学		担当者	水口章 Akira Mizuguchi		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	4年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			4年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

本講義では、社会空間を人間の生活実践の場としてとらえ、そこにおける、他者とともに生きるための社会行為について理解を深める。特に、価値観の違いが大きい人々が暮らす空間において、どのように相互理解と信頼を育み、秩序をつくっていくのかについて、政策形成の観点で考察する。そのことで多文化共生の一助としたい。

■授業の進め方（履修条件等）

発表者や質問者など役割分担をして授業を進めるので、責任を果たすこと。討論は積極的に参加すること。

■成績評価方法・基準

報告内容（レジュメ作成、説明、質疑応答）60%、課題レポート40%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおくこと。

復習：キーワードや理論は図書館を利用し、内容を十分把握すること。

■教科書

大泉英次・山田良治編『空間の社会経済学』日本経済評論社、2003年7月

■参考文献

オットー・フリードリッヒ・ポルノウ『人間と空間』セリカ書房、1978年1月

■授業内容

授業項目	授業内容
1 年間スケジュール・問題意識の確認	学習方針、役割分担の明確化
2 多文化理解と空間：講義	文化変容について
3 多文化理解と空間：自由討論	学生1名の基調報告を踏まえ、ディスカッション
4 社会空間の概念：講義	習慣、規則について
5 社会空間の概念：自由討論	学生1名の基調報告を踏まえ、ディスカッション
6 空間と政治：講義	政治地理学の思考について
7 空間と政治：自由討論	学生1名の基調報告を踏まえ、ディスカッション
8 空間と経済：講義	社会経済学の思考について
9 空間と経済：自由討論	学生1名の基調報告を踏まえ、ディスカッション
10 公共空間の生成とは：講義	公共政策学の思考について
11 公共空間の生成とは：自由討論	学生1名の基調報告を踏まえ、ディスカッション
12 快適な空間：基調報告	学生2名による配布プリントを踏まえての報告
13 快適な空間：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
14 空間監視と自由：基調報告	学生2名による配布プリントを踏まえての報告
15 空間監視と自由：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
16 居住空間のセキュリティ：基調報告	学生2名による配布プリントを踏まえての報告
17 居住空間のセキュリティ：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
18 ネット空間：基調報告	学生2名による配布プリントを踏まえての報告
19 ネット空間：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
20 空間管理：基調報告	学生2名による配布プリントを踏まえての報告
21 空間管理：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
22 空間結合としての交通体系：基調報告	学生2名によるテキストの章ごとの要旨報告
23 空間結合としての交通体系：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
24 居住空間の変動と住宅政策：基調報告	学生2名によるテキストの章ごとの要旨報告
25 居住空間の変動と住宅政策：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
26 都市空間と農村空間の融合と共生：基調報告	学生2名によるテキストの章ごとの要旨報告
27 都市空間と農村空間の融合と共生：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
28 コミュニティ空間と人の生活：基調報告	学生2名によるテキストの章ごとの要旨報告
29 コミュニティ空間と人の生活：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
30 まとめ：空間政策について	レポート発表会

年度	11年度入学		担当者	村川庸子 Yoko Murakawa		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	4年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			4年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

2, 3年での経験を踏まえ、「食」と「アグリ」に関する資料収集、データの集積・分析、文献を輪読、討論を通して、最終的に、ゼミ論（活動報告書）と資料集を作成します。プレゼンの仕方、報告書の書き方など、アカデミックなスキルを身につけることを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には学生各位の資料収集・執筆活動に教員が適宜助言を加える形で進めていきます。共通の課題については文献を輪読しつつ、理解を深めていきましょう。個人・グループ単位の指導も並行して行います。積極的に参加してください。

■成績評価方法・基準

クラスの活動への参加、報告書、資料集作成など総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業時間外の資料収集・執筆活動が中心になります。
復習：面談・討論の結果はできるだけ早く、個人の報告に反映させるようにしましょう。

■教科書

特に使用しない。適宜、資料を配布する。

■参考文献

特に使用しない。個人により、適宜、指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス①	講義の進め方
2 ガイダンス②	2・3年の活動の総括、報告書の分担当決定
3 教員との面談と資料収集①	テーマの設定と資料収集の方向づけを行います。
4 教員との面談と資料収集②	先週の面談を踏まえ、修正案を作成、検討します。
5 教員との面談と資料収集③	アウトラインの提出、講評
6 資料の輪読①	日本の農業の実態
7 資料の輪読②	中国の農業の実態
8 資料の輪読③	日本の「食」
9 資料の輪読④	中国の「食」
10 資料の輪読⑤	日本の発酵食品（味噌）
11 資料の輪読⑥	世界の発酵食品
12 資料の輪読⑦	世界の食糧問題
13 資料の輪読⑧	「アグリビジネス」の可能性と課題
14 プレゼン①	中間報告、議論
15 プレゼン②	中間報告（修正）
16 講評	秋学期に向けて
17 ガイダンス	ゼミの進め方
18 教員との面談①	「はじめに」部分の検討
19 教員との面談②	「はじめに」部分の検討
20 講義	資料の評価について
21 講義	統計資料の利用法
22 中間報告①	報告書本体部分について
23 中間報告②	先週からの修正
24 中間報告③	「まとめ」部分について
25 中間報告④	先週からの修正
26 報告書・資料集の編集①	全体の構成について
27 報告書・資料集の編集②	加筆・修正点について
28 最終報告①	個人報告①
29 最終報告②	個人報告②
30 資料集・報告集作成	印刷、など
31 講評	
32 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	山本健 Takeshi Yamamoto		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	4年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			4年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

昨年度のゼミ論（資本主義経済の現状とその将来）を復習しながら、前期ではこれまで「豊かな」と形容されていたアメリカの現実を理解させ、卒業論文の執筆の際の比較材料として提供し、論文執筆に向けた準備をさせる。

■授業の進め方（履修条件等）

山本ゼミでは卒業論文の執筆を義務としておりますので、10月以降から各自の卒論の中間発表をしてもらいます。また就職活動で欠席する場合は、事前に必ず、連絡してください。

■成績評価方法・基準

中間発表、ゼミ討論への参加度合いなどで評価します。

■授業の予習・復習

予習：テキストの輪読では、必ず自分の問題点を1つ見つけておくこと。
復習：疑問と思つた箇所を再度点検し、発表につなげるようにしておくこと。

■教科書

堤未果「ルポ 貧困大国アメリカ」(岩波新書、2008年)

■参考文献

各自の論文に応じた文献を指示。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方についての説明
2 前年度の復習①	政府主導型経済＝ケインズ主義の特徴
3 同上②	ケインズ主義経済の弱点
4 同上③	市場主義経済＝ハイエクの提唱とその内容
5 同上④	市場主義経済の弱点
6 卒業論文執筆の準備	卒論のタイトル、その内容の概略の口頭報告
7 基本書の輪読①	堤未果「ルポ 貧困大国アメリカ」の輪読とその説明
8 基本書の輪読②	貧困が生み出す肥満国民
9 基本書の輪読③	民営化による国内難民と自由化による経済難民
10 基本書の輪読④	若者の教育費と経済的な徴兵制
11 基本書の輪読⑤	過度の民営化の恐ろしさ
12 卒業論文執筆の準備①	各自の卒論のタイトルと問題点の報告Aグループ
13 卒業論文執筆の準備②	各自の卒論のタイトルと問題点の報告Bグループ
14 卒業論文執筆の準備③	各自の卒論のタイトルと問題点の報告Cグループ
15 前期のまとめ	
16 卒業論文執筆の指導①	「問題提起」（自分の関心事）の役割と構成：A
17 卒業論文執筆の指導②	「問題提起」（自分の関心事）の役割と構成：B
18 卒業論文執筆の指導③	「問題提起」（自分の関心事）の役割と構成：C
19 卒業論文執筆の指導④	第1章以下の指導：A
20 卒業論文執筆の指導⑤	第1章以下の指導：B
21 卒業論文執筆の指導⑥	第1章以下の指導：C
22 卒業論文執筆の指導⑦	おわりに（総括と展望）：A
23 卒業論文執筆の指導⑧	おわりに（総括と展望）：B
24 卒業論文執筆の指導⑨	おわりに（総括と展望）：C
25 報告会①	論文の発表と修正：A
26 報告会②	論文の発表と修正：B
27 報告会③	論文の発表と修正：C
28 個別指導①	論文の仕上げ指導①
29 個別指導②	論文の仕上げ指導②
30 卒業論文の提出	

年度	11年度入学		担当者	織井啓介 Keisuke Orii		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	4年	単位	4
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			4年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

国際経済・金融の専門研究を進めます。テキストの輪読に、DVDによる学習、最新の新聞・雑誌のフォローを加えます。前期は企業ビジネスの実際と学び、後期は外国為替について理解を深めます。なるべくレポートや卒論にまとめることを薦めます。

■授業の進め方（履修条件等）

経済・経営の専門科目を並行して受講しましょう。定期的に英検・TOEICを受験しましょう（在学中に英検2級以上、TOEIC600点以上が目標です）。

■成績評価方法・基準

平常点と日頃の研鑽態度で評価します。

■授業の予習・復習

予習：事前のアサインメントをこなしてゼミに臨みましょう。
復習：ゼミで配布する練習問題を次回授業時まで自宅に演習してください。

■教科書

前期は、前田信弘『知識ゼロからの会社のしくみ』幻冬舎(2010)。
後期は、上野泰也編著『世界一わかりやすい為替の本』かんき出版(2009)。

■参考文献

新聞やテレビの経済ニュースにも目を配りましょう。
なお、卒論執筆希望者は、小浜裕久・木村福成『経済論文執筆の作法（増補版）』日本評論社、1998年。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 今年度専門研究のガイダンス	今年度専門研究の指導方針説明
2 会社のしくみ①	会社とは何か
3 会社のしくみ②	会社の仕事と組織のしくみ
4 会社のしくみ③	機能別組織と事業部制
5 会社のしくみ④	経営資源と経営理念
6 会社のしくみ⑤	経営戦略
7 会社のしくみ⑥	会社と人
8 会社のしくみ⑦	会社の機関
9 会社のしくみ⑧	株式と株主
10 会社のしくみ⑨	資金調達、決算と決算書
11 会社のしくみ⑩	貸借対照表と損益計算書
12 会社のしくみ⑪	キャッシュフロー計算書
13 会社のしくみ⑫	会社の再編と合併・分割
14 会社のしくみ⑬	会社の解散・精算
15 前期専門研究のまとめ	前期中の成果の確認・夏休み中の自己研鑽指導
16 後期専門研究のガイダンス	夏休み中の自己研鑽成果の確認・後期の指導方針説明
17 外国為替①	外国為替の基本
18 外国為替②	円高と円安
19 外国為替③	外国為替市場と為替レート
20 外国為替④	貿易取引と資本取引、固定相場制と変動相場制
21 外国為替⑤	為替相場を動かすしくみ
22 外国為替⑥	フロアアプローチ
23 外国為替⑦	購買力平価と金利平価
24 外国為替⑧	為替相場と株価
25 外国為替⑨	為替予約
26 外国為替⑩	為替相場と機関投資家
27 外国為替⑪	為替取引とヘッジファンド
28 外国為替⑫	ユーロとドル
29 外国為替⑬	実効為替レート
30 今年度専門研究のまとめ	今年度の成果の確認・卒業後の自己研鑽指導
31 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	榎田久代 Hisayo Kushida		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	4年	単位	4
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			4年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

前期は卒業論文に関わる論文や本の講読を行い、卒業論文のテーマを定めます。後期は、卒業論文作成に取り組んでもらいます。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は、テキストの講読が主です。テキストの内容を要約する、問題を提起するというアカデミックスキルを再確認します。後期は、論文作成指導を行います。

■成績評価方法・基準

授業内での課題の提出状況（30%）と卒業論文（70%）。

■授業の予習・復習

予習：授業で出された課題に取り組んできて下さい。
復習：論文指導を論文作成にフィードバックさせて下さい。

■教科書

藻谷浩介『デフレの正体』（角川oneテーマ21）他。

■参考文献

佐藤謙也編『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』（慶應大学出版会）他。

■授業内容（前期）

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 講義	テキストについて背景説明
3 テキストの輪読（1）	学生による内容発表、議論 第1章
4 —（2）	学生による内容発表、議論 第2章
5 —（3）	学生による内容発表、議論 第3章
6 —（4）	学生による内容発表、議論 第4章
7 —（5）	学生による内容発表、議論 第5章
8 —（6）	学生による内容発表、議論 第6章
9 —（7）	学生による内容発表、議論 第7章
10 卒業論文のテーマ選び	
11 卒業論文のテーマ選び	
12 資料収集の方法	
13 論文作成準備（1）	
14 —（2）	
15 —（3）	
16 定期試験	

■授業内容（後期）

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 卒業論文の進捗状況確認	
3 論文作成（1）	第一草稿の提出
4 —（2）	第一草稿の返却
5 —（3）	論文作成と個別指導
6 —（4）	論文作成と個別指導
7 —（5）	論文作成と個別指導
8 —（6）	第2草稿の提出
9 —（7）	第2草稿の返却
10 —（8）	論文作成と個別指導
11 —（9）	論文作成と個別指導
12 —（10）	第3草稿の提出
13 —（11）	第3草稿の返却
14 —（12）	提出書式の確認
15 卒業論文の提出	
16 定期試験	

年度	11年度入学		担当者	増井由紀美 Yukimi Masui		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	4年	単位	4
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			4年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

3年次の研究調査をさらに発展させ、口頭発表により知識を共有する。また受講者は各人の目標にあわせて、論文、レポート、翻訳、教科書作成からいずれか一つを選び、卒業製作として完成させる。

■授業の進め方（履修条件等）

全員が集まるゼミは各回3名の報告及び質疑応答に当てる。報告者は前日までにレジュメを提出する。

■成績評価方法・基準

出席 50%
報告 25%
卒業製作 25%

■授業の予習・復習

予習：報告の準備／レジュメを書く
復習：報告の自己反省及び、出された質問に答えられなかった場合は次週までに答を準備する。

■教科書

配布資料

■参考文献

授業内指示

■授業内容

授業項目	授業内容
1 研究テーマについて	内容の紹介及び意見交換
2 レジュメの作成について	他人の作成したレジュメの評価
3 研究中間報告Ⅰ	「浮世絵とアニメ」「日米学生親善野球」
4 研究中間報告Ⅰ	「日本国憲法」「中学1年生用英語教材」
5 研究中間報告Ⅰ	「1980年代以降の車のデザイン嗜好」「ハリウッド映画が描いた父と息子」
6 研究中間報告Ⅰ	「翻訳の日中比較」「演劇の翻訳」
7 研究中間報告Ⅰ	「アメリカの食卓」「アメリカに向かった中国人留学生」
8 研究中間報告Ⅰ	「第二次世界大戦直後のアメリカの存在」
9 研究中間報告Ⅰ	「オーストラリア語学研修について現地報告」
10 卒論／制作物の構成	意見交換
11 執筆／制作	個人指導
12 執筆／制作	個人指導
13 執筆／制作	個人指導
14 執筆／制作	個人指導
15 合評会Ⅰ	教員の評価及び意見交換
16 後期予定	後期の予定について相談会
17 執筆／制作	個人指導
18 執筆／制作	個人指導
19 執筆／制作	個人指導
20 執筆／制作	個人指導
21 執筆／制作	個人指導
22 執筆／制作	個人指導
23 執筆／制作	個人指導
24 執筆／制作	個人指導
25 執筆／制作	個人指導
26 執筆／制作	個人指導
27 執筆／制作	個人指導
28 執筆／制作	個人指導
29 合評会Ⅱ	教員の評価及び意見交換
30 合評会Ⅲ	教員の評価及び意見交換

年度	11年度入学		担当者	大月隆成 Takashige Otsuki		
区分	国際学科	こども学科	対象学年	4年	単位	4
科目名						
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			4年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

途上国における開発とそれを取り巻く諸問題についての、より深い理解とバランスの取れた「見る眼」を養うことが4年ゼミの目的である。そのため、分野別・地域別に見た開発の様々な側面に光を当てて体系的な整理を試みつつ、具体的な事例研究を通して、開発という非常に複雑な営為に接近することにした。

■授業の進め方（履修条件等）

3年次から引き続き履修していることが条件になる。授業には必ず出席して、積極的に参加すること。

■成績評価方法・基準

評価は平常点（授業への「参加」）および、卒業論文または卒業レポートに基づいて行う。

■授業の予習・復習

予習：事前に教材を熟読しておく。
復習：授業で学んだことを自分の頭でよく考え、必ず文章にまとめることにする。

■教科書

特定の教科書は使用しない。

■参考文献

野田直人『開発フィールドワーカー』築地書館、プロジェクトPLA編『続入門社会開発』国際開発ジャーナル社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 社会開発の諸問題（1）	社会開発総論
2 社会開発の諸問題（2）	教育、人材開発
3 社会開発の諸問題（3）	保健・医療
4 社会開発の諸問題（4）	環境と開発
5 社会開発の諸問題（5）	ジェンダー
6 事例研究（PCM演習）（1）	中部アフリカの狩猟採集民・参加者分析
7 事例研究（PCM演習）（2）	中部アフリカの狩猟採集民・問題分析
8 事例研究（PCM演習）（3）	中部アフリカの狩猟採集民・目的分析
9 事例研究（PCM演習）（4）	中部アフリカの狩猟採集民・プロジェクトの選択
10 事例研究（PCM演習）（5）	中部アフリカの狩猟採集民・PDMの作成
11 経済開発の諸問題（1）	適正技術
12 経済開発の諸問題（2）	自給自足型農業
13 経済開発の諸問題（3）	緑の革命
14 経済開発の諸問題（4）	輸入代替工業化
15 経済開発の諸問題（5）	輸出指向工業化
16 事例研究（PLA演習）（1）	ラテンアメリカの2つの村・プロジェクト型開発
17 事例研究（PLA演習）（2）	ラテンアメリカの2つの村・参加型開発
18 事例研究（PLA演習）（3）	ラテンアメリカの2つの村・エンパワーメント
19 事例研究（PLA演習）（4）	ラテンアメリカの2つの村・PLAの様々なツール
20 事例研究（PLA演習）（5）	ラテンアメリカの2つの村・開発をめぐるパラダイム
21 東アジアの開発と課題（1）	東アジアの経済成長
22 東アジアの開発と課題（2）	東アジアの奇跡
23 東アジアの開発と課題（3）	中国の影響力
24 南アジアの開発と課題（1）	インドの開発戦略
25 南アジアの開発と課題（2）	伝統的社会制度の諸問題
26 アフリカの開発と課題（1）	モノカルチャー・二重経済構造
27 アフリカの開発と課題（2）	アフリカの破綻国家
28 アフリカの開発と課題（3）	人口増加と環境悪化
29 中南米の開発と課題（1）	大土地所有の諸問題
30 中南米の開発と課題（2）	貧富の格差と社会的安定

年度	11年度入学		担当者	矢澤達宏 Tatsuhiro Yazawa		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	4年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			4年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

履修者それぞれの定めたテーマに基づき、卒業論文の作成に取り組めます。大学における学びの集大成とすべく、問題意識の明確化、情報・データの収集、先行研究の整理、自身の分析・議論の展開という各作業に、履修者自身が主体的に取り組むことに最大の意義があります。そのための側面からのサポートは、担当教員として惜しみません。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は、履修者がそれぞれのテーマに関係する文献を読んで発表をおこない、ゼミ全体での討議を通じて論文の骨子を組み立てていきます。後期は担当教員による個別指導が中心となります。

■成績評価方法・基準

年度末に提出してもらう卒業論文の内容、およびその作成の過程における取り組みの姿勢により評価します。

■授業の予習・復習

予習：発表、指導の前に、履修者の皆さんには指示された作業にしっかりと取り組んでもらう必要があります。

復習：担当教員や他の履修者により指摘された点は、次の発表、指導までに必ず検討し、結果を報告すること。

■教科書

特定の教科書は用いません。

■参考文献

各履修者のテーマに応じて、適宜、紹介していきます。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	前期の授業の進め方の確認等
2 テーマの確認	各履修者の希望するテーマの発表とその検討
3 文献・資料の探し方の再確認	テーマに関連する文献・資料の検索方法再確認
4 参考文献のリストアップ	参考文献リストの提出とその検討
5 単立ての検討	暫定的な単立ての提出とその検討
6 関連文献に関する発表（1）	テーマにとって重要な文献を読み、発表（1巡目）
7 関連文献に関する発表（2）	テーマにとって重要な文献を読み、発表（1巡目）
8 関連文献に関する発表（3）	テーマにとって重要な文献を読み、発表（1巡目）
9 単立ての再検討	1巡目の発表を受け、履修者ごとに単立てを再検討
10 追加参考文献のリストアップ	1巡目の発表を受け、履修者ごとに文献を再検討
11 関連文献に関する発表（4）	テーマにとって重要な文献を読み、発表（2巡目）
12 関連文献に関する発表（5）	テーマにとって重要な文献を読み、発表（2巡目）
13 関連文献に関する発表（6）	テーマにとって重要な文献を読み、発表（2巡目）
14 進捗状況に応じた個別指導	履修者個々の状況に合わせた個別指導
15 夏休み中の作業の指示	履修者個々の状況に基づき、夏休み中の課題を指示
16 夏休みを終った進捗状況の確認	夏休み中の進み具合を確認し、以後の計画を検討
17 個別指導（1）	履修者ごとの個別指導（1巡目）
18 個別指導（2）	履修者ごとの個別指導（1巡目）
19 個別指導（3）	履修者ごとの個別指導（1巡目）
20 個別指導（4）	履修者ごとの個別指導（2巡目）
21 個別指導（5）	履修者ごとの個別指導（2巡目）
22 個別指導（6）	履修者ごとの個別指導（2巡目）
23 中間発表	この時点での骨子を発表、それを受け全員で討議
24 個別指導（7）	履修者ごとの個別指導（3巡目）
25 個別指導（8）	履修者ごとの個別指導（3巡目）
26 個別指導（9）	履修者ごとの個別指導（3巡目）
27 卒業論文ドラフトの提出	内容的に議論の全体を網羅したドラフトを提出
28 表記・表現上の修正（1）	おもに表記・表現上の修正の指導
29 表記・表現上の修正（2）	おもに表記・表現上の修正の指導
30 卒業論文の最終提出	完成した卒業論文を提出

年度	11年度入学		担当者	越川浩明 Hiroaki Koshikawa		
区分	国際学科	こども学科				
科目名			対象学年	4年	単位	4
年度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			4年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

前期は教育実習を目指して教育の理論と現実について全般的に学ぶ授業を行います。後期は指定したテキストを中心に算数授業のやり方を研究していきます。このことを通して自ら課題を持ち研究をする態度が得られることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は教育実習が多いため課題を各自レポートにまとめ発表するゼミ形式で進めます。後期は指定の教科書に沿って模擬授業を行ってまいります。

■成績評価方法・基準

出席状況、発表回数、レポート、模擬授業の4点により総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：与えられた課題や模擬授業のテーマについて良く研究をして下さい。

復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。

■教科書

前期はプリントを配布し教科書不使用。
後期は坪田耕三著、坪田式算数授業シリーズ③算数楽しくオープンエンド、2006年5月、教育出版。

■参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』、2008年8月、東洋館出版社。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 前期ガイダンス	ゼミ内容と進め方について
2～10 教育の理論と現実	教育の理論と現実について学ぶ
11 教育実習のまとめ1	教育実習での体験に基づき小学校教育について各自のまとめをする
12 教育実習のまとめ2	同上
13 教育実習のまとめ3	同上
14 教育実習の報告1	4月下旬～5月下旬の実習体験者による報告
15 教育実習の報告2	5月下旬～6月下旬の実習体験者による報告
16 後期ガイダンス	ゼミ内容と進め方、発表担当者の決定
17 オープンエンド・マスとは	算数授業におけるオープンエンド・アプローチについて
18 オープンエンドの問題の作り方	6種類の作り方について
19 逆の問題	数と計算の例、分数の例
20 条件不足の問題	足し算と平均の例
21 構成活動的な問題1	タングラムとコンパスを使った例
22 構成活動的な問題2	立体図形の例
23 関係や法則を見つけた問題1	敷き詰め問題
24 関係や法則を見つけた問題2	体積・整数の見方
25 分類の問題1	式の感覚を磨く例
26 分類の問題2	図形の感覚を磨く例
27 数値化の問題1	ゲームを使った問題例1
28 数値化の問題2	ゲームを使った問題例2
29 まとめ1	レポート発表1
30 まとめ2	レポート発表2

年 度	11年度入学		担 当 者	池谷美佐子 Misako Ikeya		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	4 年	単 位	4
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

「人間・こども・発達」を教育的見地から考察し、初等教育の在り方について理論と現実という視点から理解を深めることができるようになる。現在の小学校教育の現状について自ら課題をもち研究を進めることができる。

■授業の進め方（履修条件等）

- ・地域こども教育専攻の4年生
- ・遅刻をせず出席し、積極的な態度で課題解決に取り組む努力をすることができる。

■成績評価方法・基準

出席状況と平常点（発言、発表、討論参加状況等）（50%）、レポート（50%）

■授業の予習・復習

予習：課題に関する資料の収集、検討。
復習：レポート作成。

■教科書

プリント配付

■参考文献

必要に応じて紹介

■授業内容

授業項目	授業内容
1	オリエンテーション
2～10	教育の理論と現実について
11～15	教育実践研究について
16～19	教育課題研究
20	発表と討論
21～25	各自のテーマ研究
26～28	研究発表と討論
29～30	まとめ

年 度	11年度入学		担 当 者	畑中千晶 Chiaki Hatanaka		
区 分	国際学科	こども学科	対象学年	4 年	単 位	4
科 目 名						
年 度	09・10年度入学		07・08年度入学			
区 分	国際学専攻	地域こども教育専攻	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			

■授業のねらいと到達目標

日本文学を通じて日本の言語・文化を学ぶ活動をさらに深化発展させていきます。また、教育実習を通じて問題意識を明確にするとともに、今後、知識・経験を教育実践の中でいかに展開していくか、自分なりの方法を模索していきます。各人が具体的な研究課題を持ち、卒業論文に結実させていくことが到達目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

論文の書き方については、実際に本物の論文を読み解く中で習得することを目指します。また、基礎力を充実させ、実践力を培うために、書き順・敬語等の特訓、模擬授業と相互批評等の活動も適宜取り入れていきます。

■成績評価方法・基準

平常のクラス内活動への参加度（50%）、卒業論文（50%）

■授業の予習・復習

予習：テキストを読み込む。担当者は配付資料を用意する。
復習：自身の中で、克服すべき問題点を整理し、次の機会に備える。

■教科書

夏目漱石（2009）『坊っちゃん』岩波文庫
このほか適宜配付資料を用います。

■参考文献

授業時に適宜指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	年間スケジュール、目標設定
2 教育実習事前指導	心構え、指導案作成
3 教育実習事前指導	板書練習、指導案作成
4 教育実習事前指導	模擬授業と相互批評
5 教育実習事前指導	模擬授業の反省点を生かした指導案作成
6 教員採用試験に向けて	一般教養（弱点克服）
7 教員採用試験に向けて	教職教養（弱点克服）
8 教員採用試験に向けて	小学校全科（弱点克服）
9 教員採用試験に向けて	模擬授業用の指導案作成
10 教員採用試験に向けて	模擬授業実践と改良
11 教員採用試験に向けて	自己分析と面接練習
12 教員採用試験に向けて	小論文練習
13 教育実習事後指導	実習記録を踏まえ、自己分析
14 教育実習事後指導	実習内容を生かした小論文作成
15 前期まとめ	夏季休暇中の課題、後期に向けての準備
16 後期ガイダンス	反省点、今後の課題について整理、新たな目標の設定
17 テキスト輪読	夏目漱石『坊っちゃん』一～四
18 テキスト輪読	夏目漱石『坊っちゃん』五～八
19 テキスト輪読	夏目漱石『坊っちゃん』九～十一
20 論文の書き方	『坊っちゃん』論読解 問題提起について
21 論文の書き方	『坊っちゃん』論読解 先行研究の整理について
22 論文の書き方	『坊っちゃん』論読解 議論の展開方法について
23 卒業研究	テーマ設定、問題提起
24 卒業研究	章立て（論文の構成）について
25 卒業研究	序論執筆
26 卒業研究	分析と統合
27 卒業研究	各論執筆
28 卒業研究 中間報告	テーマ・方法・問題点を報告し、相互批評を行う
29 卒業研究 初稿提出	推敲・加筆修正
30 卒業研究 完成稿提出	フォーマットの確認、誤字脱字のチェック